AUTO SPORT

オートスポーツ特別編集
［全日本GT選手権1994—2003］
2004年4月11日発行

JAPAN GT CHAMPIONSHIP
OFFICIAL BOOK

JGTC 10 YEARS

SAN'EI MOOK

［完全保存版］

全日本GT選手権 1994—2003

日本で一番激しく、熱い“ハコ”レースの10年間



CONTENTS

Special thanks to GT ASSOCIATION



10th ANNIVERSARY 1994-2003
JAPAN GT CHAMPIONSHIP

AUTO SPORT BOOKS
ASB

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



Photo/I dea

1994 | Here we go!



Photo/I-dea

AUTO SPORT BOOKS
ASB

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



1995 steady progress
確実な成長



Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



Photo/Yukio Yoshimi

1996 jump 更なる飛翔



Photo/i-dea



Photo/i-dea

1997 assurance
ハイレベルでの安定



Photo/i-dea

ASB
AUTO SPORT BOOKS

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS

1998 訪れた転機 turning point



Photo/Masahide Kamio



Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



Photo/I dea

1999 hard work
止まらぬハードワーク



Photo/I dea

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS

2000 first trial

新天地へ



Photo/i-dea



Photo/Masahide Kamio

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



Photo/Izumi Iwata

2001 heat up ワークス勢、譲らず



Photo/i-dea



Photo/ dea

2002 grobal expansion
公式戦、海外へ



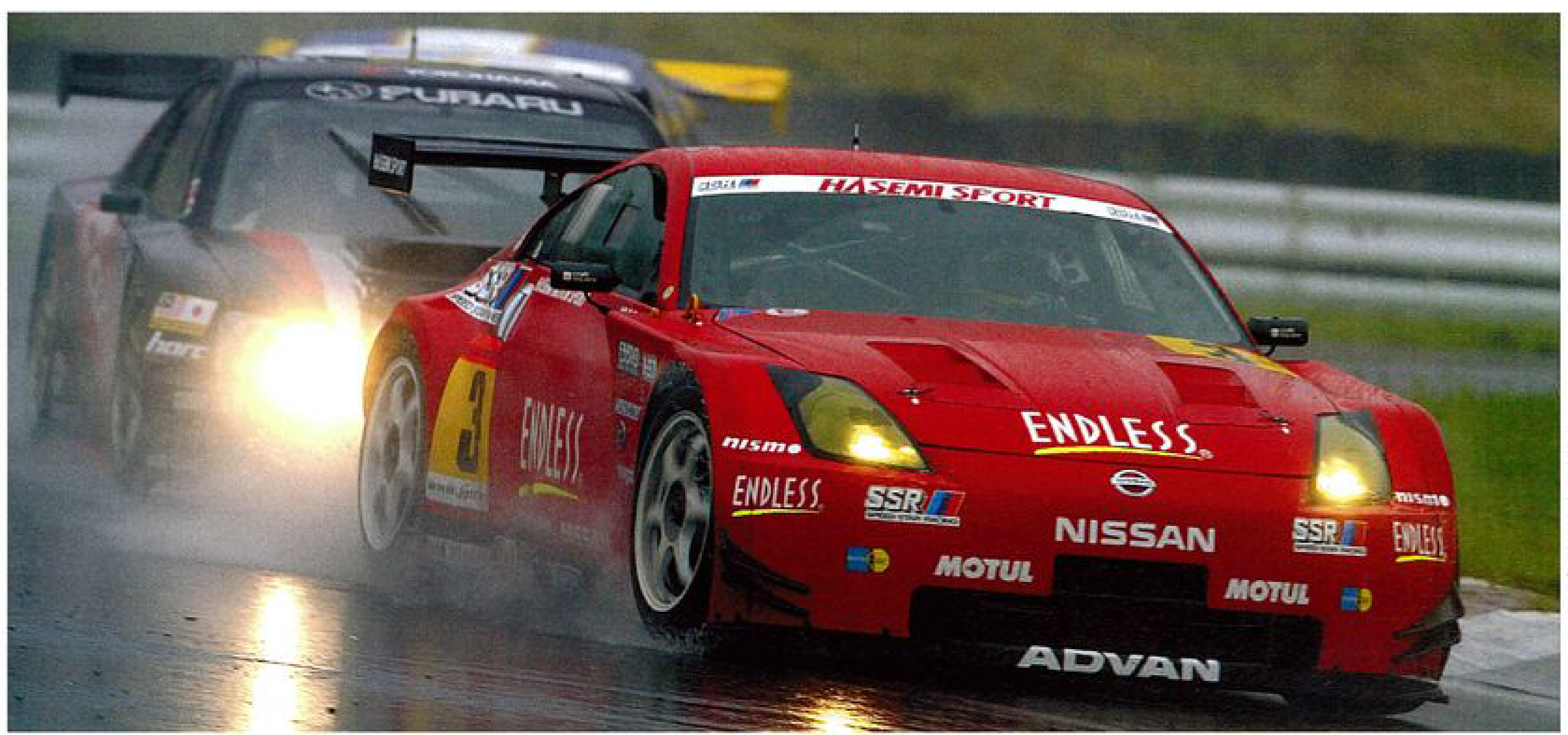
Photo/Masahide Kamio

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS

2003 | To be continued…



Photo/Naoki Kobayashi



Photo/Naoki Kobayashi

AUTO SPORT BOOKS
ASB

Brought to you by
AUTO SPORT BOOKS



Punting against the worlds current, the traditional GT racing of Japan, JGTC has walked along its own way and achieved a tremendous success. This issue overviews its checkered gait.

世界の時流に流されることなく
独自の路を歩み、大成功を収めた
ニッポンのGTレース、JGTC
そのすべてが今、ここで明らかに

Text/ Kazuya Minakoshi, Tomoyuki Furuya, Yumiko Kajima
Photos/ I-dea

JGTC GRAFFITI

世界最強GTレースの、濃密なる10年

INDEX



GT1クラスドライバーズチャンピオン
影山 正美

GT1クラスチームチャンピオン
HOSHINO RACING

GT2クラスドライバーズチャンピオン
小幡 栄

GT2クラスチームチャンピオン
KEGANI RACING

1994

スカイライン、Cカー、スーパーカーの激戦 GT2クラスでもポルシェが強さを発揮!

インターサーキットリーグ（ICL）構想の崩壊もあり、グループA終了とともにステージから消える運命にあったスカイラインGT-Rを他のカテゴリーで走らせたいというNISMOの努力もあり、GT主管団体GT-A（GTアソシエイション）が設立された。GT-Aは、GT1、GT2というふたつのクラス区分、そしてトップ3の車両にウエイトハンデを課すという新しい規定を盛り込み、ここに現行のスタイルが出来上がった。

開幕戦にはグループA車両を改造したGT-Rが4台登場。さらにノーマルに近いフェラーリF40、ランボルギーニ・カウンタックといったエキゾチックカーも登場し、かつてのスーパーカー世代を狂喜させた。しかし関係者が最も驚いたのは、レースウイークに突如持ち込まれたポルシェ962Cだろう。ヨーロッパでロードゴーイングカーとして登録されていることから参戦が認められたのだが、GT規定に合わせるために350kgものウエイトを搭載。それでも見事にポールポジションを獲得した。当時のGTは、イベントごとにスタート方式が選べるようになっていて、すべてスタンディングスタートが採用された。スタート用の1速ギヤを持たないポルシェ962Cは、毎回スタートで遅れたが、猛烈なスピードはグループCそのものだった。そして第3戦富士ではアンソニー・レイドと近藤真彦のコンビで初優勝を飾ってみせた。しかしシーズンを通して選手権をリードしたのはGT-R勢で、結果的には影山正彦がGT-1クラス初代チャンピオンを獲得した。

シーズン半ばのSUGOに姿を現したのは、TRDが本腰を入れて製作したスープラ。TS010のサスペンション、WRCやIMSAで活躍した3S-GTエンジンを搭載した本格的な車両は、デビュー2戦目でPPを奪うなどトヨタファンを喜ばせた。しかし初期にありがちなマシントラブルも多く、本格的な活躍は翌年まで待たねばならなかった。

GT2クラスの主流はポルシェ911のカレラカップカーや、前年にGTと混走していたJSSで活躍していたRX-7やスカイラインを規定に合わせたもの。新車を投入するチームもあったが、ほとんどは他カテゴリーからの流用で、まさにプライベーターのための全日本選手権という雰囲気だった。そのなかで開幕2連勝してリズムをつかんだKORGポルシェの小幡栄が、初のGT2チャンピオンに輝いた。

Round 1
FUJI
全日本富士GT

4月30日～5月1日　4.470km×68周＝303.960km
路面（予選：ドライ/ウエット 決勝：ドライ）



フェラーリ、ポルシェ対国産GTマシンという戦いの構図となったJGTOの記念すべき初戦は、カルソニックブルーのマシンに支配された。ライバルがトラブルでリタイアすると、カルソニックスカイラインはひとり旅。そのまま影山正彦がトップでチェッカーを受けた。GT2クラスは、安定した走りを見せたKORG KEGANIポルシェが優勝している。







4輪駆動のカルソニックに対し、純JGTC仕様として2輪駆動で仕立てられたGT-Rが、早くもその速さを見せつけた。長谷見の操るユニシアジェックス スカイラインはスタートで出遅れるも、その後は気迫勝ち。見事にGT初優勝を飾った。なお、GT2クラスは、KORG KEGANIポルシェが、後続に4周という大差をつけ連勝している。

Round 2
SENDAI
ハイランドGT&F3選手権

6月11～12日　4.02960km×75周＝302.220km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

1994 — 1996

黎明期
incunabula

GT-R、スープラが本格参戦 96年のマクラーレン襲来で 戦いは一気にヒートアップ



93年に開催された全日本GT選手権は、成立わずか3戦、参加GT車両は2台という悲惨な状況だった。そこで主管団体としてGT・A（GTアソシエイション）が設立され、再度GT規定を煮詰め直すことにした。

まずヨーロッパのGTに倣いGT1、GT2とクラス区分を行ない、プライベーターが参加しやすい環境を構築。さらに当時人気を誇ったDTM（ドイツ・ツーリングカー選手権）を手本にウエイトハンデ制を導入することで、新生GTが誕生した。

当初GT・RがメインであったGT1クラスにも、94年シーズン途中からトヨタがスープラで参戦。また当時はプライベーターがポルシェ、フェラーリなどでGT1クラスに参戦し、勝利を手にしていた。さらにポルシェ911 GT2が市販されると、選手権は一層にぎやかなものになっていった。

一方ホンダは、95年のル・マン24時間でGT2クラス優勝を果たし、96年からNSXを投入。国内メーカー3社が出揃うことで、人気はますます高まっていった。この年は、同じ95年のル・マン24時間で総合優勝したマクラーレンが上陸。GTは国内モータースポーツの頂点として定着していったのだった。



1995

JGTC GRAFFITI 1994—1996

スープラがいよいよ 本格的にチャレンジ開始 参加台数も一気に増加へ

GT1クラスドライバーズチャンピオン	影山 正彦
GT1クラスチームチャンピオン	TEAM TAISAN
GT2クラスドライバーズチャンピオン	石橋 義三/星野 薫
GT2クラスチームチャンピオン	石橋 義三

JGTCの94年シリーズが『全日本選手権』として成功を収めると、95年には参加台数も増加、イベントによっては30台以上のエントリーを集めるようになった。GT-Rはニスモが R33を順次ではあるが計4台、TRDもスープラを4台投入。そしてここへポルシェ911 GT2が加わった。

ニスモのGT-Rは、それまでのFR、4WDの2タイプをFRに一本化。ミッションもXトラックのシーケンシャルミッションを搭載し、サスペンションもCカー譲りのダブルウィッシュボーンになり、本格的なレーシングカーに生まれ変わった。他にも4WDのR33(WISE)やSR20エンジンを搭載したR32(JUN)などプライベーターのGT-Rも出場したが、大きな成果は残すことはできなかった。

スープラは2年目のシーズンに安定感を持つようになった。興味深いのは、この2車種が細かい仕様は異なるものの、いずれもル・マン24時間に出場することになったことだ。

ポルシェGT2は、この年のデイトナ24時間でデビュー。3・6ℓツインターボで500馬力以上を発生するなど、アメリカやル・マンなど世界のGT2クラスで十分に戦えるようなスペックを持っていた。そして第2戦では松田秀士が全世界におけるGT2の初優

Round 1
SUZUKA
SUZUKA GT300

4月1~2日　5.86403km×67周=299.06553km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)





新シーズンに入って好調が伝えられていたスープラ、そしてポルシェGT2の恐るべき潜在能力。これに立ちはだかるのが前年度王者・影山正彦を筆頭としたGT-R勢だった。予選ではGT-Rが意地を見せ上位を独占。この中から抜け出したのはやはり影山で、JOMO R33を従えて2年連続開幕戦勝利を飾った。GT2クラスはHR31を駆る石橋義三/星野薫組が優勝している。

Round 2
FUJI
全日本富士GT

5月3~4日　4.470km×67周=299.490km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)





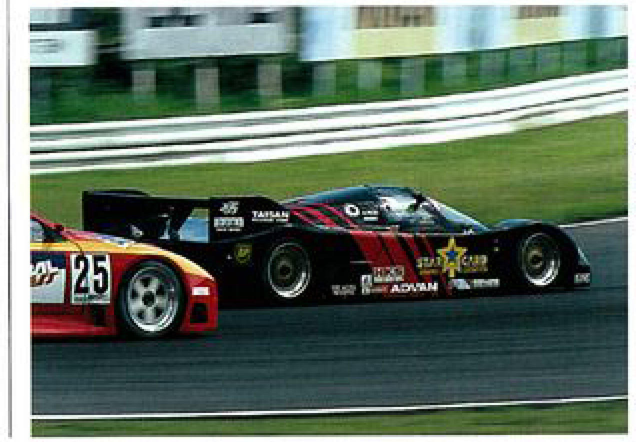
予選で上位を独占したのはスープラ勢。その牙城を崩すべく、ポルシェGT2が早くも吠えた。レースで次々に好スタートを切っていくGT2。しかしスープラも反撃に転じ、序盤から彼らの対決を中心にレースが展開された。しかし後半に差しかかりスープラ勢は息切れ。我慢のレースを続けた松田秀士は、見事にGT2を優勝へと導いた。2クラスは石橋義三/星野薫組が連勝。

Round 3
FUJI
JAPAN SPECIAL GT-CUP

8月13~14日　4.470km×56周=250.320km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)

開幕戦でもその速さを見せていたCカー改のポルシェ962に、タイサンがさらに磨きをかけて再投入。レイドと近藤のドライブで後続を全く寄せ付けず初優勝。KORG KEGANIポルシェの3連勝に注目が集まったGT2クラスは、やはり60kgのウエイトが効いたか、今回はライバルの欧州車販売の外国屋スカイラインにしてやられてしまった。





Round 4
SUGO
SUGO GT&F3選手権

9月10~11日　3.704256km×81周=300.04473km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)

高橋/土屋組の操るADVAN PORSCHEと、鈴木の駆るZEXELスカイラインの息詰まる大接戦は、思わぬ形での幕切れとなった。ZEXELスカイラインがピットアウト時にパーコレーションによりスタートできず、結局ADVAN PORSCHEが初優勝を飾っている。GT2も、これまで速さを見せてきたFKマッシモERCRX-7が、同じく初優勝となった。





CHAMPION ROAD

GT1 Masahiko Kageyama



栄えある全日本GT選手権のGT1クラス初代チャンピオンはカルソニック スカイラインの影山正彦。影山は93年の開幕戦も勝っており、優勝者第1号でもある。この年の影山は優勝1回ながらも全戦で完走し4位以下のリザルトがなく、抜群の安定感で駆け抜けた。

GT2 Sakae Obata



GT2クラスの初代チャンピオンにはKORG KEGANIポルシェの小幡栄が輝いた。チームメイトの上原は第3戦の富士でエントリーはしたもののレースでの出走がなかったために、ポイント上で小幡が単独王者に。優勝2回、2位2回。文句なしの戴冠だった。

Round 5
MINE
三洋信販カップグランドツーリングカー耐久

10月22~23日　3.23898km×92周=297.98616km
路面(予選:ウエット 決勝:ドライ)

前戦でデビューを飾ったスープラがライバルを圧倒する速さを見せたものの、ミッションにトラブルを抱えリタイア。代わって、ララウリを招聘したタイサン・スターカードF40がその努力を実らせ、ついに勝利を得ることとなった。なお、GT2クラスの勝利は、BMWらしい安定した戦いを見せたIPF WAKO'S M3がさらっている。





REGULATION TRANSITION 1994—1996

レギュレーションの変遷

スタート当初はひとりで参戦もOK! 現クラス名は96年から運用

1994、95年はGT1とGT2という名称のクラス分けだった。

決勝はスタンディングスタートで、距離は300㎞が上限。燃料給油は義務付けられていたが、ひとりのドライバーで走り切ってもよかった。決勝スタート時のタイヤの指定抽選も初年度から行なわれている。

ウエイトハンデも初年度からあり、両クラスとも決勝1位30kg、2位20kg、3位10kgで、4位以下はウエイトを積んでいる場合、次のレースで-10kg。最大はともに100kgだった。

96年にはクラスの内容が分かりにくいということから、想定馬力を示したGT500、GT300という名称に変わった。この年からドライバーも2名を登録、2人走行が義務付けられている。

決勝のスタートはローリングスタートとなる。







GT500クラスドライバーズチャンピオン
D.ブラバム/J.ニールセン
GT500クラスチームチャンピオン
チーム ラーク・マクラーレン
GT300クラスドライバーズチャンピオン
鈴木 恵一/新田 守男
GT300クラスチームチャンピオン
TEAM TAISAN Jr.

1996

怪鳥、マクラーレンが来襲 GT300の戦いもますます本格化!



Round 1
SUZUKA
鈴鹿GT300km

3月30〜31日　5.80463km×51周=299.06553km
路面(予選:ウエット 決勝:ドライ)





さらに競争が激化した96年、開幕戦の地、鈴鹿では、前年ル・マン24時間やBPR GTを制したマクラーレンF1 GTRが、ラーク・カラーをまとい2台体制で登場。そのマクラーレンは速さを発揮し、スープラなどの追撃を退けいきなりの1-2デビューを飾る! 同じくGT初登場のNSXはリタイアとなった。GT300クラスではタイサン・ポルシェRSRが優勝した。



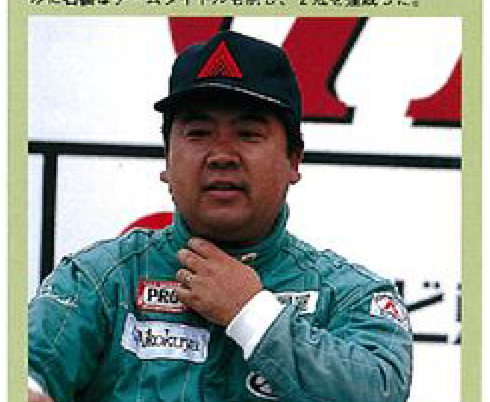
影山正彦がまたしてもカルソニック スカイラインを駆りタイトル獲得。優勝は開幕戦での1勝のみではあったが、全6戦で表彰台獲得は4度。シーズン2勝を挙げたSTPタイサンポルシェGT-2の松田秀士らを安定感で上回った。

GT1
Masahiko Kageyama

CHAMPION ROAD

GT2
Yoshimi Ishibashi

石橋義三&星野薫ペアがドライブする外車販売の外国屋アドバンR31が開幕2連勝で弾みをつけ、その後も第5戦まで連続表彰台という快走で、シリーズを一気に制した。ちなみに石橋はチームタイトルも制し、2冠を達成した。



JGTC GRAFFITI 1994—1996

Round 3
SENDAI
ハイランドGT選手権

6月24〜25日　4.0296km×62周=249.8352km
路面(予選:ウエット/ドライ 決勝:ドライ)





ここまで未勝利のスープラ勢はフロントロウに並んだE.コマスを筆頭に初優勝を目指す。前戦で優勝したポルシェは勢いに乗り、綜合警備PORSCHEがポールポジションを奪う。レースは彼らにGT-Rを交えた激しいものとなるが、最後には関谷正徳/M.クルム組のトヨタカストロールスープラが逃げ切り、念願の初優勝。2クラスは竹内浩典/松本晴彦のRX-7が優勝した。

Round 4
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月12〜13日　4.470km×56周=250.320km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)





ペナルティが数多く出されたレースで底力を見せたのは、やはりベテランの長谷見昌弘。ユニシアジェックススカイラインは上位の動向をうかがいながら、後半にラストスパート。そのままトップに立つと、後続に付け入る隙を与えなかった。「耐久向きではない」と言いつつBMW M3でGT2クラスを制したのは牧口規雄/木下隆之組。これで牧口はGT2勝目となった。

勝を飾っている。
　シーズンはポルシエが3勝、GT-Rが2勝、そしてスープラが1勝。結果的には途中から星野一義をパートナーに迎えた影山正彦が4回の表彰台(R32で1勝)を獲得して3年連続のチャンピオンに輝いた。
　GT2クラスは、ポルシェカップ、グループA、DTM、JSS、N2からのモディファイモデルなど車種は多彩で、スカイライン、シルビア、RX-7(FC)、BMW M3など各車両を眺めていても苦労・苦心ぶりが分かった。そんな中で注目は牧口エンジニアリングのM3とRE雨宮のRX-7(FD)だ。M3はDTMのプライベーターから購入したモデルで、そのDTMらしいスタイリングは独特の雰囲気を作り出したばかりか、第4戦では初優勝も遂げシリーズ2位となる。一方、ロータリーチューナーの雄であるRE雨宮はオリジナルチューンのRX-7を投入し2勝を挙げ、チューニングカーファンの足をサーキットに向けさせる。チャンピオンを獲得したのは2勝を挙げた石橋義三/星野薫組のHR31スカイラインだった。

Round 5
SUGO
SUGO GT選手権

9月9〜10日　3.704256km×81周=300.044736km
路面(予選:ドライ 決勝:ハーフウエット)





A.レイドと近藤真彦が駆るタイサンスターカードGT-2が、予選3番手から鮮やかなレース運びで初優勝。しかも前年度王者の影山正彦組を抑えてのものだけに、その価値は計り知れない。マッチは全日本選手権初優勝で、サーキット内外のファンを沸かせてくれた。GT2クラスではナインテン ゲータレード ポルシェの池谷勝則/袖山誠一組が見事優勝を飾った。





チャンピオン奪取のためにはライバルの成績次第という厳しい条件となったものの、最終戦の松田の走りは第2戦をほうふつとさせる素晴らしいものだった。タイサン・ポルシェは9周目にトップを奪うとそのまま激走。唯一の今季2勝目を獲得することとなった。GT2クラスはRE雨宮のRX7が勝利。こちらも第3戦に続いて今季2勝目となった。

Round 6
MINE
三洋信販カップグランドツーリングカー耐久

9月30日〜10月1日　3.23893km×78周=252.64044km　路面(予選:ドライ 決勝:ハーフウエット)

JGTC GRAFFITI 1994—1996

華やかさの裏の着実なる進歩 スタートからの3年で JGTCの成功は確約された

96年シーズン最大の〝事件〟は、〝黒船〟ことマクラーレンF1 GTRの襲来だった。前年のル・マン24時間で総合優勝を飾ったフルカーボンモノコックに、BMWの6064ccV12エンジンを搭載したレーシングマシンを日本に持ち込んだのはチームゴウで、メンテナンスはルマンが担当した。

本来BPR GTシリーズやル・マン用に開発された車両だけに、車重は1000kgしかない。ところがJGTC規定ではこれに200kgのウエイトを積まねばならず、しかもカーボンブレーキは使用できず、不安視される部分もあった。マクラーレンは全戦でポールポジションを獲得したが、決勝では予想どおりブレーキトラブルに何度も見舞われた。

開幕から2連勝したマクラーレンは、シーズン途中には最低車重を変更させられるなどさまざまなハンデが課せられるが、それでも終盤さらに2勝。1勝を挙げたデイビッド・ブラバム/ジョン・ニールセン組がチャンピオン、優勝（3勝）かリタイアという極端な結果だった服部尚貴/ラルフ・シューマッハー組がシリーズ2位となった。後年ニールセンに96年の話をすると「クルマの基本性能の差が違いすぎて、あれでもマクラーレンはまだ有利だった」と苦笑していた。

この年はマクラーレンに席巻されたシーズンだっただけに、国産車が活躍するとサーキットは大いに沸いた。とくに空力を改善したスープラの活躍が目立ち、エリック・コマス/竹内浩典組が第3戦仙台で優勝。残る1勝は星野一義/影山正彦のGT-Rで、連続チャンピオンの意地を見せた格好となった。またホンダNSXもデビューしている。

なお、この年からクラス名称がGT500、GT300とおおよそのエンジン出力（馬力）を表示するものに変更されたほか、ドライバー2名の乗車も義務付けられた。

GT300クラスはNAのポルシェ911RSRが大活躍を見せ、タイサンとナインテンのポルシェが6戦中5勝を挙げた。プライベーターにとってポルシェは、初期費用は掛かるもののランニングコストに優れ、大きな戦力となった。鈴木恵一/新田守男組が、最終戦で3勝目を挙げてチャンピオンを獲得。2位にもベテラン袖山誠一が入った。

また、この年はトヨタとニッサンのGT300が動き出した年でもある。トヨタはMR2（SW20）、そしてニッサンはシルビア（S14）を投入している。

Round 2
FUJI
全日本富士GT

5月3～4日　4.470km×67周＝299.490km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



開幕戦で驚異的な速さを見せたマクラーレンは、予選で1、3番手を獲得。2番手にはセルモ・スープラが食い込んだ。決勝では3周目に服部尚貴のマクラーレンがスピン、リタイアを喫するもD.ブラバム／J.ニールセン組がきっちり優勝、スープラ勢が2～4位を占めた。GT300ではナインテンがタイサンを退け優勝を飾った。ポルシェ2連勝！





服部尚貴／R.シューマッハー組のマクラーレンがポールポジションを獲得するも、スープラ勢やポルシェが予選上位に食い込む。決勝でもFETスープラやセルモスープラがマクラーレン勢を追い回し、2台ともトラブルに見舞われE.コマス／竹内浩典組スープラが優勝を飾った。GT300では木下隆之／牧口規雄のWAKO'S BMW M3がポルシェを退け優勝している。

Round 3
SENDAI
ハイランドGT選手権

6月29～30日　4.029800km×63周＝253.8643km　路面
（予選：ドライ 決勝：ドライ）







第4戦の前に発表された車両規則改正に異議を唱え、マクラーレンがGT-Aを脱会する事件があった。改正の恩恵とル・マン後のニスモによる開発で速さを取り戻した星野一義／影山正彦のカルソニックスカイラインがこのレースを制する。GT300はS14シルビアがデビューするも、ポルシェ勢同士の戦いとなりナインテンがこの年2勝目を挙げた。

Round 4
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

9月10～11日　4.470km×56周＝250.320km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

Round 6
MINE
美祢GT

10月26～27日　3.23895km×78周＝252.64km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





テクニカルなMINEでマクラーレンが速さを発揮し、ポールポジションを獲得。決勝でもJ.ニールセン／D.ブラバム組マクラーレン60号車が安定した走りで優勝し、96年チャンピオンを獲得した。王座にもっとも近かったカルソニックスカイラインはリタイアに終わる。GT300もチャンピオン候補のナインテンがリタイアを喫し、タイサンが王座を自らの優勝で飾っている。

Round 5
SUGO
SUGO GT選手権

10月5～6日　3.704256km×81周＝300.045km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





予選ではR.シューマッハーのマクラーレンがポールポジション。決勝では荒れた展開のなか、服部尚貴／R.シューマッハー組マクラーレンが混戦を制し優勝を飾るが、カルソニックスカイラインが2位に入ったため王座決定は持ち越された。GT300はS14シルビアが速さを見せるも、タイサンが優勝。ポルシェが1～3位を独占し、強さを見せつける結果になった。

1994-1996 TOPICS

祝、JGTC開幕 96年には 早くもオールスターが!

JGTCを待ち焦がれていたのは、5万4300人もの観客だった。みんながGTカー、スーパーカーによる戦いを期待していたのだ。朝9時には公式プログラムも完売。初戦の勢いは全く衰えることなく、いまだに続いている。





その人気ゆえ、開催3年目にはオールスター戦を開催することに。新設されたセントラル・サーキットを舞台に、14台のマシンを操る28人のドライバーと、2万1500人の観客が宴を多いに楽しんだ。

CHAMPION'S VOICE



「昨年のBPRに続きビッグタイトルを獲得できてウレシイ。GTの盛り上がりにはビックリした」（J.ニールセン）
「チームは素晴らしく、タフに仕事をこなし、ほんの少しのラッキーと良いパートナーにも恵まれた」（D.ブラバム）

GT500
David Brabham / Jhon Nielsen

GT300
Keiichi Suzuki / Morio Nitta

「予定以上の最終戦（優勝）で締めくくれた。ハンデが90kgなので、まさか勝てるとは思わなかった」（鈴木恵一）
「ハンデを載せた状態でもこれだけのポテンシャルがあるのだから、来年はまだまだイケルはずです」（新田守男）



成長期

growing up years

1997—1999

NSXの参戦でバトルはさらに激化
98年の第2戦では
JGTC史上最悪のアクシデントも



マクラーレン旋風が去った97年からは、国内メーカー、特にトヨタとホンダがJGTCに力を入れて、ニッサンを加えた国内3メーカーによるバトルという図式ができてきた。これはホンダがJTCC（全日本ツーリングカー選手権）から撤退して方向転換したことも大きく、実際JTCCが98年限りで終焉を迎えると、〝ワークス対決〟はJTCCからJGTCに移ることになった。

しかしGT・Aは、当時人気の出だしたFIA GT選手権など海外のGTレースとは別に独自の道を選ぶことを選択。さらに98年からは所定の基準に満たない車両に対し、救済措置を行なうという「性能調整」を開始した。これで、シーズン前半に好成績を収められない車両でも、後半戦には上位に食い込むことができるようになった。そのような調整が行なわれると、もはや純粋な〝スポーツ〟ではないような状態なのだが、どんな車両にも活躍するチャンスが増えることで、シリーズは年々盛んになっていくのだった。

ただし、GT300クラスでも国内メーカーがプライベーター用に車両を開発したため、ポルシェの活躍する場を徐々に狭める結果を招いてしまっている。



1997

スープラ勢が無類の強さを発揮
GT300はポルシェに代わり
国産マシンが台頭

GT500クラスドライバーズチャンピオン
M.クルム/P.デ・ラ・ロサ
GT500クラスチームチャンピオン
TOYOTA Castrol TEAM
GT300クラスドライバーズチャンピオン
織戸 学/福山 英朗
GT300クラスチームチャンピオン
RS-Rレーシングチーム with BANDOH

マクラーレンが去り、再び国産メーカーの戦いの場となったJGTC。この年はとくにスープラの躍進が目立ったシーズンとなった。97年に投入されたスープラはトムス、セルモが各2台（うち3台がカストロールカラーになった）、サード、5ZIGEN、FETと全部で7台。97モデルは、ボディ剛性をアップし、エンジンには4連スロットルを採用。また、サスペンションも改良してトラクションのかかりをよくした。96年にはHパターンを採用したミッションも再びシーケンシャル化され、全体的にポテンシャルアップしたのだった。

しかし開幕戦を制したのはスープラではなく、ニスモのZEXELスカイライン。鈴木亜久里、トヨタから移籍してきたエリック・コマスと、ふたりの元F1ドライバーコンビが96年モデル改で幸先よいスタートを切ったかにみえた。しかし第2戦富士以降はスープラのシーズンとなった。その富士ではサードの影山正美と谷川達也のコンビが初優勝。第3戦仙台はトムス36号車のペドロ・デ・ラ・ロサ/ミハエル・クルムのスープラと、ZEXELスカイラインの息詰まるバトルが展開され、トムスが逆転でGT初優勝を飾る。第

Round 1
SUZUKA
鈴鹿GT300km

3月29～30日　5.86403km×51周＝299.06553km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





NSXの開発が遅れ、スープラvs GT-Rという構図でスタートした97年開幕戦。予選はカストロールスープラがポールポジションを獲得した。逃げるZEXELスカイライン、追うスープラ2台という展開でレースは進行。そのままZEXELスカイラインが逃げ切り、鈴木亜久里/E.コマスというふたりの元F1ドライバーが制した。GT300ではRS☆Rシルビアが独走で快勝した。

Round 2
FUJI
全日本富士GT

5月3～4日　4.470km×66周＝295.020km
路面（予選：ドライ/ウエット 決勝：ウエット/ドライ）



NSXが参戦を開始したが、開発の進んでいるスープラ優位は揺るがない。予選では5番手までスープラが独占した。レースは濃い霧のため3度もローリングスタートを繰り返す。結果はこの日30回目の誕生日を迎えた影山正美が駆るデンソーサードスープラが勝利を収める。GT300はタイサンRSRが巧みなレース運びで今季初勝利を挙げた。







フルウエットから、ドライへと変わる予選コンディションをうまく乗りきったトムススープラ36号車はPPを獲得。決勝ではトムス36号車とZEXELスカイラインがピットイン毎に順位を入れ替える接戦となり、激しい攻防をみせる。結局、一瞬のチャンスを生かしたトムス36号車が勝利する。GT300はつちやMR2が危なげなく独走で初勝利を収めた。

Round 3
SENDAI
ハイランドGT選手権

6月28～29日　4.02960km×63周＝253.8648km
路面（予選：ウエット 決勝：ドライ）



1998

熟成の進むNSXが驚速ぶりを披露 コース上以外での戦いもさらに激化！

GT500クラスドライバーズチャンピオン	E.コマス/影山 正美
GT500クラスチームチャンピオン	NISMO
GT300クラスドライバーズチャンピオン	鈴木 惠一/舘 信吾
GT300クラスチームチャンピオン	TEAM TAISAN Jr. with TSUCHIYA

黄色と黒のアメリカナイズされたカラーリングが、サーキットを席巻したのが98年シーズン。エリック・コマス／影山正美組は、開幕戦から新型のペンズオイル・ニスモGT-Rを駆り、優勝した。この年、GT-Rのライバルとなったのは NSX。いよいよ本格的な参戦を開始したホンダ勢は、ミッドシップマシンの素性の良さを生かし、予選では常に上位を独占。だが、レースでは、度々トラブルに泣かされ、コンスタントにポイントを獲ることができなかった。これに対して、ペンズオイルはレースでの強さを発揮する。

第2戦の富士では、GT史上最大のアクシデントが発生。雨中のフォーメーションラップ中にメインストレートで接触事故があり、太田哲也が火災に巻き込まれて大ケガを負った。その後も天候の回復が見込まれず、レースは中止。続く第3戦は仙台ハイランドで行なわれ、ここでも一発の速さに勝るNSX勢はトラブルに泣き、ペンズオイルはチームの総合力で2連勝をもぎとった。その後も、ウエイトを積みながらペンズオイルはコンスタントにポイントを重ねる。シリーズ中盤からこれに迫ったのは、トム・コロネル／山西康司組のMobil 1 NSX。第4戦富士で初

Round 1
SUZUKA
鈴鹿GT300km

3月21～22日　5.86403km×51周=299.06553km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





開幕前から圧倒的優位を謳われたNSX勢だが、その前評判どおり予選でトップ3を独占。ポールポジションは高橋国光／飯田章組のRAYBRIG NSXだった。しかし、レースになるとNSX勢は揃って後退してしまった。アクセルワイヤー、駆動系、そしてコースアウト……。その間隙を縫ったペンズオイル・ニスモGTRが勝利した。GT300はつちやMR2が優勝。

Round 2
FUJI
全日本富士GT

5月2～3日　4.470km　路面（予選：ウエット）





予選ではNSX勢の中から山西康司／T.コロネルのMobil 1 NSXが抜け出しポールを獲得した。2番手にもTAKATA童夢無限NSXが続き、NSX勢は必勝体制を築く。GT300では星野薫／城内政樹のシグマテック911が2番手に1秒以上の差を付けてクラスポールを獲得した。ところが、レースは濃霧による多重クラッシュと、視界不良により途中で中止となった。

Round 4
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月9～10日　4.470km×56周=250.320km
路面（予選：ドライ/ウエット 決勝：ドライ）



圧倒的な速さをみせるスープラ勢が予選トップ4まで独占。決勝は3度のセーフティカー導入や、10台に対するペナルティ発令など荒れ模様で、この戦いに勝ち残ったのは、一時15番手まで後退したサードスープラだった。GT300はトップがチェッカー後に1分加算のペナルティを受け、2位だったタイサンスターカードRSRが優勝となった。



Round 5
MINE
CP MINE GT

10月4～5日　3.23936km×78周=252.64044km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





NSXの攻勢により、スープラ優位から、スープラ vs NSXという勢力図に変化してきた。予選ではavex童夢無限NSXが今季初のポール獲得。決勝でも高橋国光駆るRAYBRIG NSXがファステストラップを刻むなど速さをアピールするも、優勝のトムススープラ36号車には届かった。GT300は波乱をくぐり抜けたRS☆Rシルビアが会心の勝利。

4戦富士でセーフティカーランを巧みに味方につけたサードが2勝目を挙げると、第5戦MINEではトムス36号車が2勝目を挙げた。

迎えた最終戦は5ZIGENスープラが初優勝。チャンピオン争いを繰り広げていたトムス36号車とサードが接触し、マシンにダメージを負ったトムスは大幅にポジションダウンし、ノーポイントに終わる。一方のサードは6位、これで2台は同点で並んだが、3位入賞が効いたデ・ラ・ロサ組がチャンピオンを獲得した。参戦2年目のホンダはチーム国光と童夢十無限Project1の2台が参戦。終盤の2戦ではチーム国光が2位表彰台を獲得し、翌年の活躍を予感させた。

GT300では、前年デビューしたシルビアが安定感を増し、織戸学／福山英朗が開幕戦で初優勝を遂げると5戦連続表彰台（2勝）に。ディフェンディングチャンピオンの鈴木恵一／新田守男のポルシェも2勝を挙げて、織戸組を8点差で追う。雨が降ったりやんだりと不安定なコンディションで行なわれた最終戦では、鈴木組のポルシェが2位表彰台を獲得するが、織戸／福山組のシルビアも5位でチェッカー。わずかに1点の差で織戸／福山組がチャンピオンを獲得した。



「ボクはFニッポンに続くタイトル。でもクルムは初めて。彼のためにも獲れてよかった」（P.デ・ラ・ロサ）
「最後に接触はあったけど、最終的にはボクたちの方に幸運が転がり込んだということだよね」（M.クルム）

GT500
Michael Krumm / Pedro de la Rosa

CHAMPION'S VOICE

GT300
Manabu Orido / Hideo Fukuyama

「いいレースができればと思っていたけど、まさかこんなにドラマチックな終わり方になるとは」（福山英朗）
「この結果は本当にウレシイ。これで僕も峠のチャンピオンから、日本のチャンピオンになれたね！」（織戸学）



Round 6
SUGO
SUGO GT選手権

10月25～26日　3.704256km×81周=300.04473km
路面（予選：ドライ 決勝：ウエット）





タイトル争いは実質、トムススープラ36号車とデンソーサードスープラGTに絞られた。2台は90kg、60kgとかなりのウエイトを積むため予選は奮わず。さらに決勝は降ったりやんだりの雨に翻弄され、サードスープラは無得点。これによりトムススープラ36号車がチャンピオンとなった。GT300クラスのタイトルはわずか1ポイント差でRS☆Rシルビアの手に。



ポールポジションはRAYBRIG NSX。開幕連勝のペンズオイルはまさかの18番手スタートだ。レースではNSXとスープラが上位争いを展開したが、デンソーサードスープラ、そしてトップを走っていたCastrol無限NSXまでもが黒旗を提示されて後退する。ここでMobil 1 NSXが首位へ浮上、そのまま逃げ切った。GT300ではつちやMR2が、開幕3連勝と他を寄せ付けず。

Round 3
SENDAI
ハイランドGT選手権

6月27～28日　4.02960km×63周=253.8648km
路面（予選:ウエット/ドライ 決勝:ドライ）





今回もNSX勢はクラッチトラブルやクラッシュなどで、4台すべてリタイアという最悪の結果に終わってしまう。一方でライバルの脱落を尻目に快調なペースで飛ばしたのが、開幕戦優勝のペンズオイルGT-Rだ。空力の大幅改善で戦闘力を増した23号車は、見事に開幕2連勝を飾った。GT300も鈴木恵一／舘信吾のつちやMR2が予選2番手から逆転で連勝している。

Round 4
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月8～9日　4.470km×55周=245.850km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）



優勝を果たしたこのチームもしぶとい戦いをみせた。最終戦では、ペンズオイルが予選で後方に沈み、Mobil 1がタイトルに望みをつなぐ。ところがMobil 1は、フォーメーションラップで駆動系トラブルに見舞われ、まさかのリタイア。ペンズオイルはスタート前にタイトルを決定させた。

一方、GT300クラスは、つちやMR-2が圧倒的な強さを発揮する。アペックス・モモコルセMR-Sやクスコ・スバル・インプレッサら、並み居るライバルたちを尻目に、今は亡き舘信吾が、ベテラン・鈴木恵一とともに勝利街道をばく進。まず開幕戦では、予選7番手から信吾がポジションアップ。後半は足を骨折していた鈴木恵一の奮闘と、タイヤ無交換作戦が奏効してコンビ初優勝を果たした。その後も第3戦まで3連勝を果たし、タイトル争いを優位に進める。

結局年間で5勝を挙げるという驚異的な結果を残し、最終戦を待たずにタイトルを決定。信吾はこの時、史上最年少の全日本王者となっている。80kgのフルウエイトを積みながらトップを快走するその力強さと、マシンを下りたときのあどけなさが、今でも映像として浮かんでくる。

REGULATION TRANSITION
1997―1999

レギュレーションの変遷

98年からレース距離は最大500kmに 救済措置、ウエイトハンデの再考も!

98年から決勝レースの距離が、最大500kmまで延長された。近年、スプリントレース化が進むJGTCだが、耐久性の向上や、ピット戦略などが重要なカギとなってくる。そしてタイヤウォーマーに関してはこれまで明文化されていなかったが、使用禁止が正式に明記された。

同じ98年、ウエイトハンデはGT500クラスが上位から50kg、30kg、20kg、-20kgに変更され（GT300クラスは変わらず）、最大はGT500クラスが120kg、GT300クラスは80kgとなった。

また、所定の成績に達しないクルマへのリストリクター軽減などの救済措置、トラクションコントロールなどドライバーのエンジンコントロールをアシストする電子制御が禁止になったのも98年からのことだ。なおこの時点でABSは、ベース車両に標準装備されていれば使用することは認められていた。

99年にはウエイトハンデに関するレギュレーションが追加され、予選と決勝ベストラップ上位3台にも、ウエイトハンデ10kgがつくようになった。

また、リヤのウイングが1枚翼に規制されたのも、99年のことだった。



JGTC GRAFFITI 1997―1999



「本当に楽しいシーズンだった。すべてのレースで完走し、ポイントも獲得できたんだから」（E.コマス）
「エリックは最高のパートナーでした。彼からは本当にいろんなことを学ばせてもらいましたね」（影山正美）

GT500
Erik Comas / Masami Kageyama

CHAMPION'S VOICE

GT300
Keiichi Suzuki / Shingo Tachi

「速すぎる？　たしかに"このままでいいのかな"と思うけど、来年はまわりも速くなってくるよ」（鈴木恵一）
「とにかくウレシイですね。6戦5勝という記録については、自分でも正直ビックリしていますよ」（舘信吾）





Round 5
MOTEGI
もてぎGTチャンピオン

8月12～13日　4.801379km×63周=302.48687km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）



"NSXはポールポジションを獲得すると優勝できない"という、ありがたくないジンクスを打破したのがCastrol無限。RAYBRIG NSXとの死闘を制し、前戦、富士でのペナルティ後退の憂さを晴らした。一方、破竹の勢いで連勝街道を突っ走るGT300のつちやMR2がついに敗れた。優勝はクスコスバルインプレッサ。鮮やかなポール・トゥ・ウインだった。

Round 6
MINE
CP MINE GT

10月10～11日　3.23898km×78周=252.64044km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）



"予選最速のマシン"は間違いなくRAYBRIG。ところが、レースになると勝ち運に見放される。しかし、彼らはようやくシーズン初勝利を達成した。若きエース飯田章と百戦錬磨の高橋国光。このポール・トゥ・ウインで、国サンは全日本通算70勝目を達成したのだった。GT300はつちやMR2が4勝目。1戦を残して早くもタイトルを手にした。







序盤戦で勢いに乗り、シリーズのトップに立っていたのがペンズオイル。そのライバルMobil 1は、なんと最終戦スタート直前のローリング中にストップ。GT500のタイトルはペンズオイルが獲得した。レースはTAKATA童夢無限のリストリクター違反による降格を受けて、Castrol無限が繰り上げ優勝。GT300はつちやMR2が6戦5勝を達成。

Round 7
SUGO
SUGO GT選手権

10月24～25日　3.704265km×78周=288.93196km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）

1999

GT-R、スープラ、NSXの強さは横一線 GT300にも“ワークス”の足音が……



GT500クラスドライバーズチャンピオン	E.コマス
GT500クラスチームチャンピオン	TOYOTA Castrol TEAM TOM'S
GT300クラスドライバーズチャンピオン	新田 守男
GT300クラスチームチャンピオン	MOMO CORSE Racing Team with Tsuchiya

Round 1 SUZUKA

鈴鹿GT300km

3月20～21日　5.86403km×51周=299.06553km
路面（予選：ウエット 決勝：ウエット）

雨の決勝レース。カルソニックスカイラインの星野が8番手からオープニングラップで4番手に浮上すると、2周目にはなんとトップへ！　しかし、カルソニックはトラブルで脱落。これで2番手に浮上したTAKATA童夢NSXがペンズオイル・ニスモGTRをかわし首位浮上。そのまま逃げ切った。GT300は抜群の安定感でウェッズセリカが初優勝。





Round 2 FUJI

全日本富士GT

5月1～2日　4.400km×67周=294.800km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

速さのNSXに対して、スープラは果敢にも速さで対抗する。予選上位を占めたスープラがそのまま週末を制するかと思われたが、レースになるとRAYBRIG NSXが強さを発揮。唯一スープラ勢の中に斬り込んでいき、トップを奪うと他を寄せつけない。結局、そのまま逃げ切った。一方のGT300では本命視されていたモモコルセMR2が圧勝。





JGTC GRAFFITI 1997—1999

Round 3 SUGO

SUGO GT選手権

5月29～30日　3.704256km×81周=300.04473km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





年をまたぎ6連勝中のNSXに、ついに土がついた。“殊勲の星”を挙げたのは台頭著しいスープラ勢の支柱ともいうべきカストロール・トムス・スープラ。ドライバーは関谷正徳、黒澤琢弥のベテランコンビで、予選4番手からの逆転Vだった。また、前年までとは一変して群雄割拠の時代を迎えたGT300は、ザナヴィARTAシルビアが初優勝を飾っている。

Round 4 MINE

CP MINE GT

7月10～11日　3.330839km×76周=253.14376km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





NSXとスープラによるマッチレースの様相を呈してきた99年のJGTCだったが、ディフェンディング王者のGTRも健在だった。ペンズオイルは抜群の信頼性と巧みな戦略で予選8番手からポジションを挽回。ニスモGTRの“勝利の方程式”とも言うべき勝ちパターンに乗り、堂々の復活優勝を遂げた。GT300は土屋武士、井出有治のザナヴィが2連勝を果たした。

99年のGTは、悲しいニュースから始まった。前年度、圧倒的な強さを発揮してGT300クラスチャンピオンとなり、GT500への昇格が決まっていた館信吾が、TIサーキット英田でのプライベートテストに参加中、あまりにも不運な事故で他界。開幕戦では、サーキットにいた全員がその死を悼んだ。

さて、その開幕戦で速さだけでなく、強さを発揮したのがTAKATA童夢NSX。前年の終盤からコンビを組んだ金石勝智／脇阪寿一が初のポール・トゥ・ウインを決めた。彼らは98年、最終戦もトップでゴールしたものの、レース後の車検で失格の裁定を受けており、その雪辱を果たした格好だ。2位にはペンズオイル。このチームは、エリック・コマスのチームメイトが、影山正美から本山哲に変更となったが、相変わらずレースで強さをみせ、シリーズ序盤からコンスタントに上位入賞を重ねる。中盤戦からはMINEでの優勝を含め、3回の表彰台を獲得している。最大のライバルは、関谷正徳／黒澤琢弥組のカストロール・トムス・スープラ。第3戦菅生と最終戦もてぎ、2勝を挙げただけでなく、他もしぶとくポイントを稼いだ。しかし、第2戦富士での2ポイント、第4戦MINEでの1ポイントが最後まで影響し、わずか4ポイント差でタイトルを逃した。結局2年連続で、チャンピオンに輝いたのはコマス。関谷／黒澤は2位。5月の第2戦をル・マン24時間レースのPQのために欠場した本山は、ランキング4位に終わった。

GT300クラスでは、現在500のトップコンテンダーとして活躍する土屋武士／井出有治組のザナヴィARTAシルビアが、シリーズを通して目を見張るような速さを見せ、年間3勝。だが、優勝以外のレースではノーポイントに終わることも多かった。これに対して、モモコルセ・アペックスMR-2withつちやをドライブした新田守男は、優勝を含め、2位2回、6位1回、8位1回と、コンスタントにポイントを稼いでいく。最終戦を前にしたTIではノーポイントに終わり、1ポイント差でザナヴィにランクトップの座を奪われたが、最終戦では後半ザナヴィのブレーキにトラブルが発生。彼らがポジションダウンしたのを見て、モモコルセは無理な争いを避け3位をキープ。最後はタイヤにバイブレーションが出る状態だったというもののなんとか走り切り、新田が1ポイント差でチャンピオンに輝いた。

1997–1999 TOPICS

未来の大物も参戦？ 初オーバル戦は2ヒート制で実施

JGTCといえば、参加ドライバーが豪華であるのもウリのひとつ。国内トップドライバーはもちろんのこと、海外からも有力選手が続々参戦している。その中でも注目は、ペドロ・デ・ラ・ロサとラルフ・ファーマン。後にF1でも活躍するようなドライバーを、JGTCでは見ることができるのだ。





JGTCは、2年目のオールスター戦でまたもや新たなチャレンジを行なった。オーバルコースでのレース開催。基本的にGTマシンはオーバルを走るように作られていないため、事前にテストを行ないシケインも設けるなど安全性を充分確保。結局、お祭りイベントはお祭り男、鈴木亜久里／E.コマス組が制した。

98年第2戦は、マシンが炎上するという大アクシデントもあり、その後の天候も回復しなかったため中止となった。なお、JGTCのイベントが開催中止となったのは、10年の歴史のなかでこの1度のみ。



Round 5
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月7～8日　4.400km×57周=250.800km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）



もはやスープラの速さはホンモノである。予選でトムスがトップ3を独占。さらにESSO Tiger Supraまで含めるとトップ4独占だ。優勝したのはそのESSO Tigerで、11周目に首位に浮上すると他車の脱落もあり独走状態に。まさに“虎のみちのくひとり旅”で、ぶっちぎり優勝。GT300はSTPアドバンタイサンGT3Rが初陣勝利を飾った。







シーズン途中のABS投入、ワイドトレッド化、エアインテークの改良でさらなるスピードを得たNSXが第2戦以来の勝利だ。Mobil 1 NSXのトム・コロネル／光貞秀俊組は予選でPPを奪うと、抜けないコースレイアウトを利しレース中盤から1度もトップを譲らずチェッカー。GT300はザナヴィが3勝目を挙げ、タイトルに大きく前進した。

Round 6
TI AIDA
晴れの国・岡山 GT選手権in TI

9月25～26日　3.703km×82周=303.646km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）



「ボクたちのマシンはレースの最後に一番になっているマシンなんだよ。厳しいシーズンだったけど、チームも本当に素晴らしい仕事をしてくれた。だからボクはなんの不安も持っていなかったんだ。来年もチャンピオンね！」

GT500
Erik Comas

CHAMPION'S VOICE

GT300
Morio Nitta

「チャンピオンを獲ることを目的にずっとやってきたので、最高にうれしいです。かなり苦しい状態だったんで、本当にチームのスタッフに感謝します。正直、最後の最終コーナー立ち上がってくるまで、ずっと不安だったんですよ」



Round 7
MOTEGI
もてぎGTチャンピオン

10月23～24日　4.801379km×63周=302.48687km
路面（予選:ドライ 決勝:ドライ）

優勝は関谷正徳＆黒澤琢弥のトムス・スープラ。シーズン2勝目をポール・トゥ・ウインで飾った。注目のタイトル争いは、4位以内に入れば2連覇が決まるエリック・コマスがあっさりと3位を獲得し三座防衛。シーズン1勝ながら、その安定感は群を抜いていた。GT300は優勝がタイサンポルシェ、タイトルはモモコルセMR2が手にした。





JGTC GRAFFITI
1997—1999

ますます増加する参加マシン
徐々に整えられていくシステム
JGTCは着実に自らの地位を築いた

成熟期
maturation period

2000—2003

JGTC GRAFFITI

さらにワークス色を強めるGT-R、スープラ、NSX勢
全日本戦としては初の海外開催も



2000年、参戦5年目にしてようやくホンダNSXの道上龍がチャンピオンを獲得。しかし、年間0勝のチャンピオンが生まれたことはひとつの事件だった。「毎回4位に入賞していればウエイトハンデも増えず、7戦70点でタイトルが獲れる」という、真面目なジョークが飛び交ったのもこのころだった。

実際、JGTCでは確実に走り切って10位以内に入り、コンスタントにポイントを重ねるという戦い方が必要になってきた。2001年は竹内浩典／立川祐路組のスープラ、2003年は本山哲／ミハエル・クルム組のGT・Rがそれぞれ0勝でチャンピオンを獲得。一方、02年に3勝したNSX、2003年に2勝を挙げたスープラは速さは見せたがタイトルは獲れなかった。また、複雑なポイントシステムはときに滑稽な〝ポジション譲り〟という現象をも生み出すようになっている。

車両的には03年に大きな規定変更が行なわれ、コクピット前後のパイプフレーム化やトランスアクスル化がOKとなった。結果、ミッドシップのメリットがなくなったNSXが苦戦。GT300は特認車両を合わせマシンバラエティが豊かになり、時にはGT500以上に非常に見ごたえのバトルを展開する。



2000

NSXがついにタイトル奪取に成功 GT300では ポルシェが再び桧舞台に

GT500クラスドライバーズチャンピオン	道上 龍
GT500クラスチームチャンピオン	MUGEN DOME PROJECT
GT300クラスドライバーズチャンピオン	福山 英朗
GT300クラスチームチャンピオン	TEAM TAISAN Jr.

JGTC GRAFFITI 2000—2003

98、99年とスカイラインGT-Rのエリック・コマスが連覇を果たしたが、決してスカイラインは速さを誇示するマシンではない。速さだけならホンダNSXがひとつ抜けているのは誰の目にも明らかだった。この年も強さのスカイラインに対し、速さのNSXという図式が成り立っていた。

コマス／影山正美組のロックタイトゼクセルGT-Rは前年から正常進化した安定したマシンだった。この利を活かし、開幕戦もてぎを制した。このレース、表彰台はCastrol無限NSXの道上龍／中子修組とMobil 1 NSXの伊藤大輔／ドミニク・シュワガー組。そして第2戦富士で勝利したのはTAKATA童夢NSXの脇阪寿一／金石勝智組。この中でモービルはシーズン最多の2勝という速さを見せるが、それ以外に表彰台に挙がったのが1度だけで、結局タイトルを逃した。これに対し、コマス組は3回のふた桁得点を挙げて最後までタイトルを争った。そして無限NSXはシーズン途中から道上とドライビングスタイルの似た光貞秀俊にドライバーを代え、未勝利ながらも全戦でポイントを挙げて、ランキングトップで最終戦鈴鹿を迎える。そしてここもしぶとい走りで2位に入賞。なんと7戦中2位3回という高い入賞率でチャンピオンを獲得した。速さを追求するNSXにとって初のJGTC王者が未勝利とは、レースの女神はなかなか意地悪だ。

Round 1 MOTEGI もてぎGTチャンピオン

4月1～2日　4.801379km×63周=302.48687km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





注目の開幕戦、PPを獲得したのはTAKATA童夢NSXを駆る脇阪寿一。決勝でも序盤からトップを快走していたが、40周目にトランスミッションが壊れて突如スローダウン。そこで2番手につけていたロックタイトゼクセルGT-Rがそのままレースを制した。GT300クラスは松田秀士／福山英朗組のシェルタイサンアドバンGT3Rがポール・トゥ・ウインを飾った。

Round 2 FUJI 全日本富士GT

5月3～4日　4.440km×67周=294.800km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



開幕戦に引き続きTAKATA童夢NSXがPPを獲得。ピットイン時以外は他車にトップを譲らないという圧倒的な速さを見せつけてポール・トゥ・ウインを果たした。GT300は走行中にシートベルトが緩むというアクシデントに見舞われながらも、ピット作業を巧みにこなし、シェルタイサンアドバンGT3Rが2戦連続ポール・トゥ・ウイン。







レース序盤から予選PPのTAKATA童夢NSXと2番手のMobil 1NSXがトップ争いを展開。しかし65周目にTAKATA童夢が痛恨のスピン、Mobil1が貴重な勝利を挙げた。GT300はクラスポールを獲得したRE雨宮マツモトキヨシRX-7が序盤からレースをリードしたがリタイア。ウェッズスポーツセリカが99年の開幕戦以来の勝利を挙げた。

Round 3 SUGO SUGO GT選手権

5月26～27日　3.704255km×81周=300.04473km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

この年のスープラはFK／マッシモセルモスープラ（竹内浩典／立川祐路組）の1勝のみ。そして、長谷見昌弘と関谷正徳というベテランがこの年を最後に引退した。また非公式戦ではあったが日本のレースとして初の海外戦となるマレーシア（セパン）が開催された。

GT300は、前年途中から参戦したポルシェGT3Rが速さを堅持。シェルタイサンアドバンGT3Rの福山英朗／松田秀士組が開幕から連勝を果たす。ウエイトを積んだ中盤戦こそ苦しんだが、確実にポイントを重ね、第6戦MINEを勝利し3勝。さらに最終戦も2位として福山が王者となった（松田はル・マン予備予選のため第2戦を欠場）。そして前年のチャンピオンカーとなったMR-2は、この年からMR-Sにバトンタッチ。そのシヨートホイールベースからくるピーキーな操縦性でなかなか成績を残せなかったが、最終戦に99年チャンピオンの新田守男（スーパーオートバックスアペックスMR-S）が勝利を挙げて、翌年に期待を持たせた。

Round 4 FUJI JAPAN SPECIAL GT CUP

8月5～6日　4.400km×57周=250.800km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





真夏の富士。ポールシッターのFK/マッシモセルモスープラは17周目にエンジントラブルで早くも姿を消し、26周目にセーフティカーが導入されるなどレースは大混戦に。最後は鈴木亜久里／土屋圭市のARTA NSXがデンソーサードスープラGTを振り切って優勝。GT300はタイミング良くピットインを果たしたイクリプスRDタイサンGT3Rが逃げ切って優勝を果たした。

Round 5 TI AIDA GT CHAMPIONSHIP in TI

9月9～10日　3.703km×82周=303.646km
路面（予選：ドライ/ウエット 決勝：ドライ）





ポールポジションからスタートのFK/マッシモセルモスープラは予選2番手のロックタイト・ゼクセルGT-Rに1周目でかわされるが、GT-Rはピットストップでエンジンがかからず後退。カストロール無限NSXをかわして再びトップに立ったFK/マッシモが結局ポール・トゥ・ウインを飾った。GT300はナインテン・ウエディング・ポルシェが逆転勝利を挙げた。

CHAMPION'S VOICE

GT500 Ryo Michigami



「実は緊張していましたね。昨日の夜は眠れなかった（笑）。自分とNSXの初タイトルがかかっていたわけですから。ゴールの瞬間は喜びよりもホッとしました。ここまで自分が来れたのはチーム、童夢、中子さん、光貞さんのおかげだと思います」（道上龍）

GT300 Hideo Fukuyama



「レースはナインテン同様に難しいコンディションで、薄氷を踏む思いだった。本当に逃げ切れてよかったです。ボクは地元が鈴鹿なので、世界中の誰より一番うまく走れると思っていたし、守り神もいっぱいいてくれたのかな、と思います」（福山英朗）

Round 6 MINE CP MINE GT

9月30日～10月1日　3.330839km×76周=253.14376km
路面（予選：ウエット 決勝：ドライ）



予選は雨に助けられ、ハンデ60kgのTAKATA童夢NSXが今季4度目のPP。しかしスタート直後に予選2番手のMobil 1 NSXと接触。多重クラッシュとなり、一瞬にして5台が大破した。混乱のレースを制したのはカルソニックスカイラインの星野一義・本山哲組。GT300はシェルタイサンアドバンGT3Rがタイトルへ価値ある1勝を挙げた。







5チームがタイトル争いに臨んだ最終戦。レースはウエイトの軽いNSX3台で争われ、Mobil 1が意地の今季2勝目をマーク。8号車と100号車の失格で2位になった道上龍が悲願の全日本初タイトルを獲得した。GT300はスーパーオートバックス・アペックスMR-Sが初優勝。最強軍団タイサンが2位に入り、タイトルを手中にした。

Round 7 SUZUKA SUZUKA GT 300km

10月21～22日　5.86403km×51周=293.06553km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

2001
ウエイトとポイントのせめぎ合い スープラ最強時代の到来か？



GT500クラスドライバーズチャンピオン
竹内 浩典/立川 祐路
GT500クラスチームチャンピオン
NISMO
GT300クラスドライバーズチャンピオン
大八木信行/青木 孝行
GT300クラスチームチャンピオン
TEAM TAISAN ADVAN

Round 1
TI AIDA
GT選手権 in TI

4月14~15日　3.703km×82周=303.646km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

新世紀JGTC。開幕戦のPPを獲得したのは道上龍の駆るロックタイト無限NSXだった。決勝はNSX勢とGT-R勢の戦いとなったが、無限NSXがポール・トゥ・ウイン。続いてARTA NSX、Mobil 1 NSXとNSX勢が表彰台を独占した。一方のGT300ではARTA with A'PEX MR-Sが勝利。またポルシェGT3Rという強力なニューカマーが登場した。





REGULATION TRANSITION
2000—2003

レギュレーションの変遷

00年からはハイテクデバイスが禁止に 安全を重視し、03年から車両規則も大幅変更

2000年には決勝レース距離が最大1000kmとなる（※）。リヤウイングの翼断面のサイズやリヤディフューザーのサイズも決められ、ABSも禁止となった。02年からは予選と決勝ベストラップ上位3台に選手権ポイントも付くように。またウエイトハンデの軽減は5位以下となった。

03年は車両規定の大幅変更があり、ベース車のモノコックは車室部分のみで前後をパイプフレーム化する事やトランスアクスル化、サスペンション形式の自由化、エンジン搭載方向の自由化（エンジンルーム内において）などが認められた。また、ホイールベース間のフラットボトム化、ディフューザーの小型化など空力面は厳しくなった。競技規定では、給油中はタイヤ交換が禁止、ペナルティにピットロードスルーが追加された。GT300の決勝順位のウエイトハンデ軽減が-10kgから-15kgとなった。高地のサーキットで自然吸気エンジン車や、ベース車の前面投影面積が大きいものはウエイトの軽減などが行なわれた。

※03年現在まで500kmを超えるレースは行なわれていない。





Round 2
FUJI
カッチャオ全日本富士GT

5月3~4日　4.400km×114周=501.600km
路面（予選：ウエット/ドライ 決勝：ドライ）



JGTC初の500kmレース。今回の主役は2台のスープラだった。PPスタートのエッソスープラは一時2番手のauスープラに20秒ものリードを築く余裕の展開。ところが残り8周のところでペースカー導入、一気に6秒差まで縮まる。auは前を行くエッソを猛追するが及ばず、軍配はエッソに。GT300はダイシンシルビアが参戦5年目で初勝利を飾った。







順位が激しく入れ変わる予選を制したのは、コースレコードをたたき出したRAYBRIG NSXの飯田章だった。決勝は、後方予選5番手からスタートしたマツキヨスープラがじわじわとポジションアップし、手堅いレース運びで初優勝。一方のGT300でも雨宮マツモトキヨシRX7が激しいバトルを制し、マツキヨ号が両クラス制覇を果たした。

Round 3
SUGO
SUGO GT選手権

5月26~27日　3.704256km×81周=300.04473km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

この年は、大ベテラン星野一義の運転免許停止による前半3戦の欠場というショッキングなニュースから始まった。またNSXの中心ドライバーだった脇阪寿一がチーム・ルマンに移籍しスープラを駆ることになった。

開幕戦TIは、前年未勝利でチャンピオンとなった道上龍/光貞秀俊組のロックタイト無限NSXが勝利し、連覇への勢いを感じさせた。しかし第2戦富士は移籍した脇阪と野田英樹のエッソウルトラフロースープラが優勝、第3戦SUGOはマツキヨZENTトムススープラの山路慎一/W・ガードナー組が制し、第4戦富士はスカイラインGT-Rの1-2フィニッシュと、この年はレース毎に中心となる車種が分かれた。この第4戦でニスモはチーム内で順位を調整し、この時点でランキング上位のザナヴィニスモGT-RのM・クルム/田中哲也組を優勝させた。だが、この判断がのちに後悔につながる。この年は上位陣の取りこぼしが多くタイトル争いは混沌となる。その中で、第2戦から第6戦まで2位2回、3位1回、4位1回という上位入賞を続けたセルモスープラが最終戦をランキングトップで迎える。しかしレース序盤に追突されスピンし、さらにはマシントラブルで結局ノーポイント。このレース、綜警McLarenの岡田秀樹/A・コート組がポールからトップを逃げる。2番手に付けたのはE・コマス/影山正美組のペンズオイルゼクセルGT-R。彼らがトップでゴールすれば逆転チャンピオンだったが、マクラーレンは見事に逃げ切って96年以来の外国車の優勝となった。もし第4戦で先行していたコマス組を勝たせていれば、2位でもチャンピオンだった。そして、チャンピオンの可能性があった無限NSXとARTA NSX（土屋圭市/金石勝智組）は接触し結果的には無得点。これでセルモスープラの竹内浩典/立川祐路組がこの年も未勝利でチャンピオンとなった。

GT300では前年速かったポルシェGT3Rに規制が掛かり、混沌とした情勢に。その中で2回ある富士で高速性能を活かして2勝したダイシンADVANシルビアの青木孝行/大八木信行組とユニシアジェックスシルビア（井出有治/柳田真孝組）と雨宮マツモトキヨシアスパラRX7（松本晴彦/山野哲也組）の3台が最終戦でチャンピオンを争った。しかしダイシンは出遅れ、ユニシアと雨宮が接触してコースアウト。しぶとく6位で走りきったダイシンがチャンピオンとなった。



Round 4
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月4~5日　4.400km×57周=250.800km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



Team UKYOがJGTC初ポールを獲得した予選。しかし、スタートに失敗してしまい、ペンズオイルGT-Rにトップを奪われてしまう。終盤、ザナヴィGT-Rの田中哲也が気迫の追い上げを見せ、51周目についにペンズオイルGT-Rの影山正美をパス！そのまま勝利をもぎ取った。GT300はダイシンシルビアが勝利し、第2戦富士の勝利に続き、富士2連勝を飾った。

JGTC GRAFFITI
2000—2003



2002

両クラス、僅差のチャンピオン争い
マレーシアで初の
全日本公式戦、海外開催

GT500クラスチームチャンピオン
脇阪寿一/飯田章

GT500クラスチームチャンピオン
無限×童夢プロジェクト

GT300クラスドライバーズチャンピオン
新田守男/高木真一

GT300クラスチームチャンピオン
TEAM TAISAN ADVAN



Round 2
FUJI
全日本富士GT

5月3～4日 4.400km×114周=501.600km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)



恒例となったGWの富士GT。多くの観客が見守るなか、PPを獲得したのは脇阪寿一／飯田章のエッソスープラ。だがそのエッソは、レース序盤でauスープラにトップを譲る。結局、6回ものセーフティカーが入る大混乱のレースは、マシンコンディションに勝るauが見事に勝ち残った。GT300はVemac R&Dダンロップ320Rがデビューウインを飾っている。



JGTCの2003年シーズンは、NSXの予選1-2-3で始まった。決勝はポールからスタートしたMobil 1 NSXのひとり旅。木曜日のテストデーも含め、全セッションでトップタイムをマークする完璧な勝利となった。ヨコハマユーザーひしめくGT300では、BFグッドリッチを履くARTA アペックスMR-Sが前評判どおりの強さで勝利をものにした。500 300とも圧勝劇だった。

Round 1
TI AIDA
GT選手権in TI

4月13～14日 3.703km×82周=303.646km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)



Round 6
SUZUKA
SUZUKA GT 300k

10月27～28日 5.85913km×49周=287.09737km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)





予選はコースレコードでARTA NSXの金石がポールポジションを獲得。朝に降った雨により、ドライながら不安定なコンディションで始まった決勝は、スピン、接触、トラブルと荒れた展開に。レースを制したのはARTA NSXで、2位に38秒差をつけての勝利となった。GT300はエスペリアMR-Sが波乱のレースを制し、ピットの松田晃司の目には涙が浮かんでいた。

Round 5
MOTEGI
もてぎGTチャンピオン

9月15～16日 4.801379km×63周=302.48687km
路面(予選:ドライ/ウエット 決勝:ドライ)





グリッドどおりの隊列でレースはスタート。しかしトップのMobil 1 NSXは6周目、スローパンクチャーのために大きく順位を落とす。ところが勝利を諦めないMobil 1 NSXの松田次生は激しく追い上げ、伴せて前を走るクルマが次々とポジションを落とす展開となり、気が付けばトップチェッカー。GT300はウェッズMR-Sが見事なポール・トゥ・ウインを飾った。



「実感が湧かないし、とにかく信じられない。序盤で得点を重ねることもできていなかったし……」(竹内浩典)
「今年は思うように勝てなかった。それでも最後はチームみんなの諦めない"気持ち"ですよ」(立川祐路)

GT500
Hironori Takeuchi / Yuji Tachikawa

CHAMPION'S VOICE

GT300
Nobuyuki Oyagi / Takayuki Aoki

「いつもどおり、普通にやった結果です。チーム全員が積み重ねたことが結果に結びついたんです」(大八木信行)
「本当にウレシイ。チームのみんなの努力の結果です。それに応えようと、僕も精一杯やりました」(青木孝行)





Round 7
MINE
CP MINE GT

11月10～11日 3.330839km×76周=253.14376km
路面(予選:ドライ 決勝:ドライ)

チャンピオン決定の場となった最終戦MINE。決勝スタートではランキングトップのauスープラが、後続のマシンに追突されスピン、最下位まで落ちる波乱の幕開けとなった。ポイント獲得が絶望的なauスープラは万事休す。ところがライバル勢の不調により、辛くもチャンピオンを手にした。GT300では6位入賞したダイシンシルビアがタイトルを獲得した。



JGTC GRAFFITI 2000—2003



開幕前、スカイラインGT－Rがシーズン途中から伝統の直6エンジンをV6のVQ30に換装することを発表。速さの面でNSX、スープラに差を付けられたための決断だったが、このエンジンの二面作戦が結果的には裏目となって、この年はなんと未勝利。JGTCスタート以来毎年挙げていた勝ち星がついに途切れてしまった。

また、第5戦富士後にカルソニックスカイラインの星野一義が引退を発表。スカイラインファンにとっては苦い年となった。また、昨年、一昨年とオールスター戦形式の非公式戦で行なわれたマレーシアラウンドが、この年ついに公式戦として開催された。

開幕戦TIを制したのは、Mobil 1 NSXのR・ファーマン／松田次生組。Mobil 1 NSXはこの後、第4戦セパン、そして最終戦鈴鹿とシリーズ3勝を挙げる。1996年のラークマクラーレンGTR以来の年間3勝だったが、ノーポイントも3回と獲りこぼしも多く、惜しくもチャンピオンは逃してしまう。富士で2勝したauセルモスープラの竹内浩典／立川祐路組も2ポイント以下のレースが4回もあり、同様だった。

これに対し、この年から飯田章と脇阪寿一というコンビになったエッソウルトラフロースープラは第3戦SUGOでの1勝だけだったが、ふた桁ポイントが5回というコンスタントな成績を記録。しかも、レース中のファステストラップによるウエイトハンデをもらわないよう、巧みにペースコントロールを行なうという緻密なレースを展開。これが功を奏して見事にチャンピオンを獲得した。この年は年間8戦が行なわれ、NSXがそのうち5勝を挙げている。

GT300クラスでは、第2戦からVemac R&Dダンロップ320R（柴原眞介／密山祥吾組）が登場。デビュー戦で勝利を挙げ、最終的には3勝を挙げる。チャンピオン争いは、このVemacとARTAアペックスMR-S（新田守男／高木真一組）、ユニシアジェックスシルビア（柳田真孝／山野哲也組）が最終戦まで争った。

最終戦のレース序盤までトップを走ったユニシアがチャンピオンになるかと思われたが、エンジントラブルでリタイア。Vemacはウエイトハンデの影響かペースが上がらず。ARTA MR-Sもトラブルを抱えながらの走行だったが、なんとか4位に滑り込んでチャンピオンとなった。

Round 3
SUGO
SUGO GT選手権

5月25～26日　3.704256km×81周＝300.04473km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



ウエイトハンデの影響が大きいSUGOでポールポジションを獲得したのは、ハンデなしのARTA NSX。決勝もレースをリードしたが、クラッシュ後の破片を踏み後方へと沈んだ。終盤、2番手を走るエッソスープラは、残り9周で前のクルマに黒旗提示。これで楽々とトップに立ちチェッカーとなった。GT300はユニシアジェックスシルビアが勝利した。

Round 4
SEPANG
TM TOUCH JAPAN GT CHAMPIONSHIP MALAYSIA

6月22～23日　5.543km×54周＝299.322km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



灼熱のマレーシア戦はこの年、初めて公式戦に組み込まれた。決勝は気温35℃、路面温度48℃という過酷な条件でスタート。PPから飛び出したMobil 1 NSXが快調に飛ばし、最後まで逃げ切った。一方のGT300はポールのVemac R&Dダンロップ320Rの独走かと思われたが、まさかのリタイア。残る国産車同士の争いは雨宮RX7が制した。







第2戦に続き富士連勝をもくろむスープラ勢は予選1-2。決勝レース19周目、セーフティカー導入と同時に行なわれたピットインは大混乱で、ポールのauスープラは4番手まで後退。しかし31周目にはトップに返り咲き、そのまま富士2連勝となった。GT300はエンドレスGT3Rが勝利、ポルシェとしては実に1年半ぶりの優勝となった。

Round 5
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

7月27～28日　4.400km×57周＝250.800km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

Round 6
MOTEGI
もてぎGTチャンピオン

9月14～15日　4.801379km×63周＝302.48687km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





イエローコーンマクラーレンGT-Rがポールポジションを獲得。ダンロップにとっては7年ぶりのPPとなった。しかしレースでは、燃費で劣るイエローコーンが徐々に後退。変わって逃げるTAKATA童夢NSX、追うRAYBRIG NSXとNSX同士のバトルとなり、結局この戦いを制したのはTAKATAだった。GT300はVemac R&Dダンロップ320Rが今季2勝目を挙げた。

Round 7
MINE
CP MINE GT

10月26～27日　3.330839km×76周＝253.14376km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





ウエイトハンデを感じさせない走りでMobil 1 NSXが予選トップ。決勝日は気温13℃、路面温度16℃と肌寒く、トクホントムススープラ、Mobil 1 NSX、無限NSXの三つ巴の戦いとなった。タイヤをうまく温めることに成功し、ここから抜け出したのは無限NSXで、この年初勝利を挙げた。GT300ではVemac R&Dダンロップ320Rが2連勝でシーズン3勝目をマーク。

CHAMPION'S VOICE

GT500
Jyuichi Wakisaka / Akira Iida



「僕がガンガン攻めていけるのはアキラがセーブしてくれるおかげ。その結果のチャンピオンは本当に嬉しい」（脇阪寿一）
「是が非でも全日本のタイトルが欲しかった。チームに移籍1年目だったし、チームのためにも獲りたかった」（飯田章）

GT300
Morio Nitta / Shinichi Takagi



「今週末のレースでは、トラブルが続いてとても獲れるとは思ってもいなかっただけに、獲れたことは本当に嬉しいです」（新田守男）
「ゴールした時に、新田さんがコースに飛び出していたのを見て、もしかして獲れたかな……と思った」（高木真一）

Round 8
SUZUKA
SUZUKA GT 300km

11月16～17日　5.821km×52周＝302.692km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

シリーズ最終戦でPPを獲得したのはランキングトップのエッソスープラ。好天に恵まれた決勝ではタイトルの可能性が残る各車が必死の攻防を見せる。結局、Mobil 1 NSXが今季3勝目を挙げたものの、タイトルは1点差でエッソスープラの手に。一方のGT300は、こちらも2点という僅差でアペックスMR-Sの頭上に輝いた。





2000-2003 TOPICS

スペシャルステージ そして初の海外公式戦 そのどちらも大成功!

2000年、2001年と開催されたスペシャルステージの大成功によって、2002年、ついに全日本選手権が初めて海外で実施されることとなった。イベント名はTM TOUCH JAPAN GT CHAMPIONSHIP MALAYSIA。シリーズの第4戦として開催され、国内戦に限りなく近い全39台が参加している。



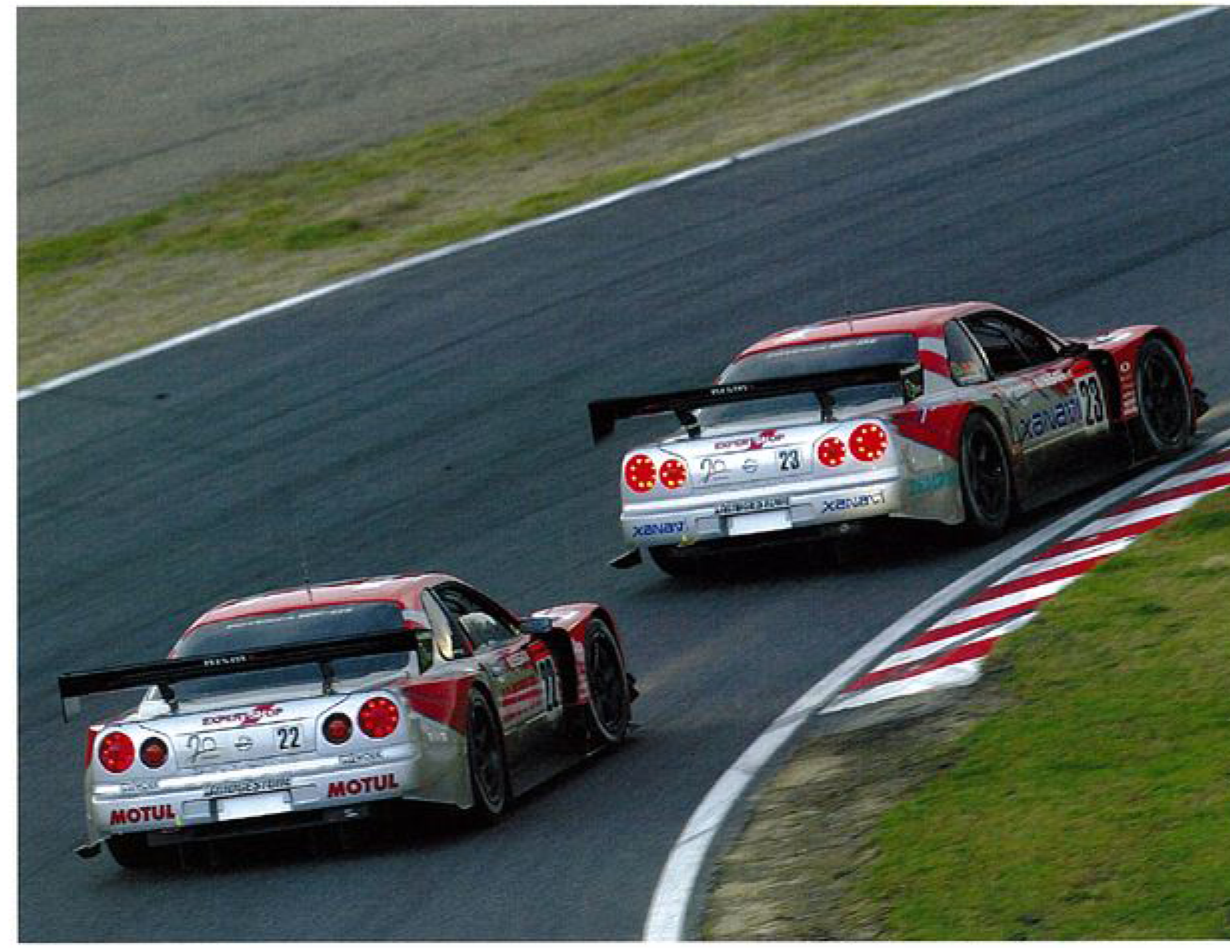
2000年6月に行なわれたJGTC初の海外戦、JAPAN GT FESTIVAL in MALAYSIAは大盛況のうちに幕を閉じた。その観客の熱狂ぶりはすさまじく、マシンを操るドライバーからは「メインストレートでは、確実に観客の声援が聞こえた」というほど！　オールスター戦に変わって行なわれたこのイベントは翌年も実施され、さらに翌々年、全日本選手権として公式戦も開催されている。



JGTC GRAFFITI
2000—2003

2003

安全性を重視し車両規定が大幅改定
ふたつの海外戦はSARSの影響で中止に



GT500クラスドライバーズチャンピオン	本山哲/M.クルム
GT500クラスチームチャンピオン	NISMO
GT300クラスドライバーズチャンピオン	木下みつひろ/柳田真孝
GT300クラスチームチャンピオン	TEAM TAISAN ADVAN

Round 1
TI AIDA
GT選手権レース in TI

3月29～30日　3.703km×82周=303.646km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

2003年の幕開けは8年ぶりのGT-RのPP獲得で始まった。そのポールを獲得したザナヴィニスモGT-Rは、決勝でスープラ勢と激しいバトルを展開。ところがザナヴィGT-RはADVANスープラとの接触でダメージを負いペースが上がらず、そこをエッソスープラがパスし勝利を手にした。GT300はエンドレスポルシェがまず1勝を挙げた。





Round 2
FUJI
ALL-JAPAN GT FUJI-500

5月3～4日　4.400km×114周=501.600km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





予選はスープラ勢の独壇場となった。3番手にかろうじてモチュールピットワークGT-Rが入ったが、7番手までスープラの名が連なる。しかし決勝では、スープラ勢がことごとく脱落し、結局、モチュール、カルソニックとGT-Rが1-2フィニッシュを飾った。Z、ガライヤ、フェラーリなど多彩な車種がひしめくGT300では、PLUS タイサンGT3Rが勝利を飾っている。

Round 3
SUGO
SUGO GT CHAMPIONSHIP

5月24～25日　3.704256km×81周=300.044736km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）





好調スープラはここでもエッソがポールを獲得。レースはこのエッソを中心に緊迫の攻防をみせる。ファイナルラップ、最終コーナーをWOODONEスープラ、エッソの順で迎えた。そこで一瞬のスキをついたエッソの脇阪が前に出てフィニッシュ。チェッカー目前の劇的な逆転劇に観客は釘付けとなった。GT300はRECKLESS MR-Sが初勝利を挙げた。

この年は車両規定が大幅に変更され、国産3車種はそれぞれ大幅な変更を行なった。NSXはエンジンを縦置きに、スープラは2ℓの4気筒ターボを5ℓのV8の自然吸気に変更するとともにトランスアクスル化した。スカイラインGT-Rもトランスアクスル化を行なってきた。これによりスープラは加速重視型に、スカイラインはコーナリング重視型と、クルマの性格がこれまでとかなり変わった。また東アジアで蔓延した新型肺炎SARSの影響でマレーシア戦が中止となり、代替戦は富士で開催された。

開幕戦TIでは昨年のチャンピオン、エッソウルトラフロースープラの脇阪寿一/飯田章組が優勝。続く第2戦富士はモチュールピットワークGT-Rの影山正美/ライアン紐が優勝し、スカイラインが1-2フィニッシュする。このようにシーズン序盤はスープラとスカイラインの対決になった。クルマの完成度としてやや出遅れた感のあるNSXだったが、第5戦富士では幸運にも助けられTAKATA童夢NSXの道上龍/S・フィリップ組が優勝し、第6戦もてぎもG'ZOX無限NSXの伊藤大輔/D・シュワガー組が勝つなどなんとか盛り返した。最終戦鈴鹿を前にチャンピオン争いは2勝を挙げたエッソスープラと未勝利ながら7戦中6戦で8ポイント以上を挙げているザナヴィGT-Rに絞られた。そして、この最終戦で思わぬ不振にあえいだエッソスープラが下位に甘んじたのに引き替え、ザナヴィGT-Rは3位でフィニッシュ。スカイラインに1999年以来のチャンピオンをもたらした。また、スカイラインGT-Rはこの年をもって参戦を休止、翌04年からニッサン系チームはフェアレディZで参戦することになった。この年の最終戦をもってJGTCドライバーで一番の人気者だった土屋圭市が引退した。

GT300ではニューマシンが多く登場し、活躍した年だった。昨年の王者、新田守男/高木真一組はARTA Garaiyaにマシンをチェンジ。勝つには至らなかったが、第6戦でPP獲得。また第3戦から登場したセリカは、ウェッズスポーツCELICA（青木孝行/田中実組）とシグマDUNLOPセリカ（澤圭太/片岡龍也組）の2台で4勝を挙げる活躍を見せた。しかしチャンピオンとなったのは未勝利ながら8戦中4回の表彰台を獲得したハセミスポーツ・エンドレス・Zの木下みつひろ/柳田真孝組だった。

Round 4
FUJI
Malaysian JGTC in FUJI SPEEDWAY

7月12～13日　4.400km×20周=88.000km+4.400km×30周=132.000km
路面（予選：ドライ 決勝：セミウエット/ウエット）



SARSの影響で中止となったマレーシア戦の代替として開催された富士は、GT史上初の2ヒート制で行なわれた。予選はGT-Rがトップ5を独占、第1レースはカルソニックGT-Rの井出有治が制した。雨の第2レースも相棒のB.トレルイエが制し完全優勝を成し遂げる。GT300はECLIPSEバイパーが新型デビュー2戦目にして初勝利を飾った。







改修を控える富士の現行コースでのレースはこれが最後。富士を得意とするスープラはauがポールを獲得。苦手とするNSXに苦戦が予想された。auスープラは最終ラップまでトップをキープするが、まさかの失速。ここで2番手に着けていたTAKATA NSXに勝利が転がり込んだ。GT300は連続PPを獲得したウェッズセリカが今季初勝利。

Round 5
FUJI
JAPAN SPECIAL GT CUP

8月2～3日　4.400km×68周=299.200km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）

Round 6
MOTEGI
もてぎGTチャンピオン

9月13～14日　4.801379km×63周=302.48687km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



シリーズ終盤となり、ウエイト＆ポイント戦略の思惑が入り乱れる。ポールはWOODONEスープラ。レースは念入りにピット戦略を計画してきたG'ZOX-NSXが勝利する。そしてこれ以上ウエイトを積みたくないエッソスープラは、終盤わざと後方のクルマを前に行かせ狙いどおりの４位に。GT300はシグマセリカが６組目のウイナーとなった。







70kgという重いハンデを積みながら今季４度目のPPを獲得したauスープラ。レースはMobil 1 NSXとサードスープラが飛び出し、鮮やかに逃げ切ったサードが97年第８戦以来の勝利を手にした。そしてまたしてもエッソスープラは、ゴール手前で順位を操作し、最終戦に向け万全の体制を採る。GT300ではシグマセリカが連勝を飾った。

Round 7
AUTO POLIS
JAPAN GT in KYUSHU 300km

10月25～26日　4.374km×65周=303.810km
路面（予選：ドライ 決勝：ドライ）



「今年はどうしても獲りたかったこのタイトル。とにかく応援してくれたみなさんに感謝したい」（本山哲）
「スカイラインが素晴らしかったし最後までいいレースができた。ニスモやファンにお礼を言います」（M.クルム）

GT500
Satoshi Motoyama / Michael Krumm

CHAMPION'S VOICE

GT300
Mitsuhiro Kinoshita / Masataka Yanagida

「最後はクルマをいたわりながらゴールしました。それが僕の一番の仕事だと思っていましたから」（柳田真孝）
「自分もチームも全力を出しきった結果ですから、納得もしているし満足もしています。最高です」（木下みつひろ）



Round 8
SUZUKA
SUZUKA GT 300km

11月15～16日　5.807km×52周=301.964km
路面（予選：ドライ/ウエット 決勝：ドライ）





盤石の体制で臨んだエッソスープラだったが、PPはADVANスープラ。さらにスタートではニッサン陣営包囲網にしてやられ、１年がかりの作戦は実らなかった。タイトルは３位のカルソニックスカイラインの本山哲／M.クルム組が獲得。GT300は２位のエンドレスＺの木下みつひろ／柳田真孝組が獲得し、ニッサンが両クラスを制覇した。

JGTC GRAFFITI 2000―2003

予選で1秒以内に10台が並び
決勝では毎戦ウイナーが異なる
究極のGT戦は、更なる進化を見せる



FAIRLADY Z

SUPRA



また
新たな10年が
始まる……



NSX



GT300



technological breakthrough

JGTC TECHNICAL REPORT

JGTCテクニカルレポート

世界最速の"ハコマシン"を徹底解剖

カーボンを多用し、純レーシングマシンとして開発されたグループCカー
一方、市販自動車の鉄製ボディを使用し、レーシングマシンに仕立てられたGTカー
姿形は当然のこと、パワーも異なる両カテゴリーのマシンだが
近年、JGTCマシンはグループCカーの速さに迫ってきているという
あるエンジニアは「パワー差を考えれば、コーナーはGTカーの方が速い」とさえ言う
そこまでJGTCマシンがレベルアップした裏には
いったいどのような技術的進化があったのだろうか
"ボディ""エンジン""空力"の3要素から、その秘密を探ってみた

Text/Makoto Ogushi
Photos/Masaru Hirata, Masahide Kamio, Naoki Kobayashi, Shimpei Suzuki, i-dea
Illustration/Hiroya Kato



ボディ編
ニッサン・スカイラインGT-R
NISSAN SKYLINE GT-R

空力編
ホンダNSX
HONDA NSX

エンジン編
トヨタ3S-G(スープラ)
TOYOTA 3S-G (SUPRA)

Steel-bodied GT machines, derived from production cars, are now giving thoroughbred Group C cars a good scare. Some engineers even argue JGTC cars are quicker at some corners if power-handicap is not considered. What has made GT cars gain such speed? Three fundamental racing technologies, "chassis," "engines" and "aerodynamics" are the important factors.

JGTC TECHNICAL REPORT

ボディ編

STUDY CASE

ニッサン・スカイラインGT-R

NISSAN SKYLINE GT-R

より強く、より低く、より中心へ

JGTC仕様のGT-Rの戦いは グループAレース用に仕立てられた RB26DETTエンジンとの戦いでもあった

全日本ＧＴ選手権は１９９３年に始まっているが、初年度のＧＴクラスに出場したのはＲ32ＧＴ－Ｒとシルビアが各１台のみだった。このＧＴ－Ｒは、基本はグループＡそのもの、すなわち市販モデルに最小限の改造を加えただけの車両。ただし、ＧＴレースではＪＡＦが定めるＮ３規格内での改造が許されていたので、グループＡでは許されなかった大型のリヤウイングを取り付け、ワイドタイヤを装着し、さらにそれを覆うオーバーフェンダーが追加されていた。

グループAからGTへ

翌94年、ＪＧＴＣは本格的に動き出し参加車両も増えた。車両規則も、独自のＮ－ＧＴ規定が定められ、改造幅が新たに決められた。エンジンは同一メーカーが生産したものならば換装が認められ、リストリクターによる吸気制限が最低重量に応じて行なわれた。また空力付加物にかかわる改造の自由度が広げられたほか、駆動系はミッション、デフともに自由な改造が許された。サスペンションは当初の基本形式を守る限り改造、変更は自由とされた。

これを受けたニスモは、グループＡ車両をベースに前年のＮ３車両を発展させたＪＧＴＣ車両を製作。このときＧＴ－Ｒに加えられた最も大きな改良は駆動系にある。元々ＧＴ－Ｒは四輪駆動である。グループＡレースでは、空力付加物とタイヤ幅に厳しい規制が加えられていたため、大パワーを受け止めるには四輪を使う必要があったのだ。しかしＧＴでは吸気制限でエンジンパワーが絞られたうえワイドタイヤが使用でき、さらに大きなダウンフォースを生み出す空力付加物も取り付けられたので、二輪でも十分にトラクションを得られ、四輪駆動の必要はなくなった。むしろ四輪を駆動するためのトランスファー、ディファレンシャル、ドライブシャフト、プロペラシャフト等を取り払って軽量化し、前後重量配分を改善した方が総合的な走行性能は向上する。

そこでニスモは、二輪駆動用のギヤボックスを製作し、Ｘトラックの６速シーケンシャルトランスミッションを収めてＧＴ－ＲをＦＲ化した。ＧＴ規定ではギヤボックスケーシングの後端はホイールベース中点より前に位置しなければならないと定められていたので、重量配分を考慮してギヤボックスはギリギリまで後退させて取り付けられた。こうして、初期のＧＴ車両の基本形がここにでき上がった。しかしＧＴ－Ｒの場合は、あくまでもグループＡの発展形の域を出なかった。

レーシングカーとしての進化

95年、ベース車両がひと回り大柄なＲ33型に変わったのを機に、ＧＴ－Ｒも本格的なＪ



GT-Rの室内は広く、設計自由度は高そうだ。剛性面では多少不利になろうだろうが、夏場のレースなどでは、「多少涼しい」という二次的効果も

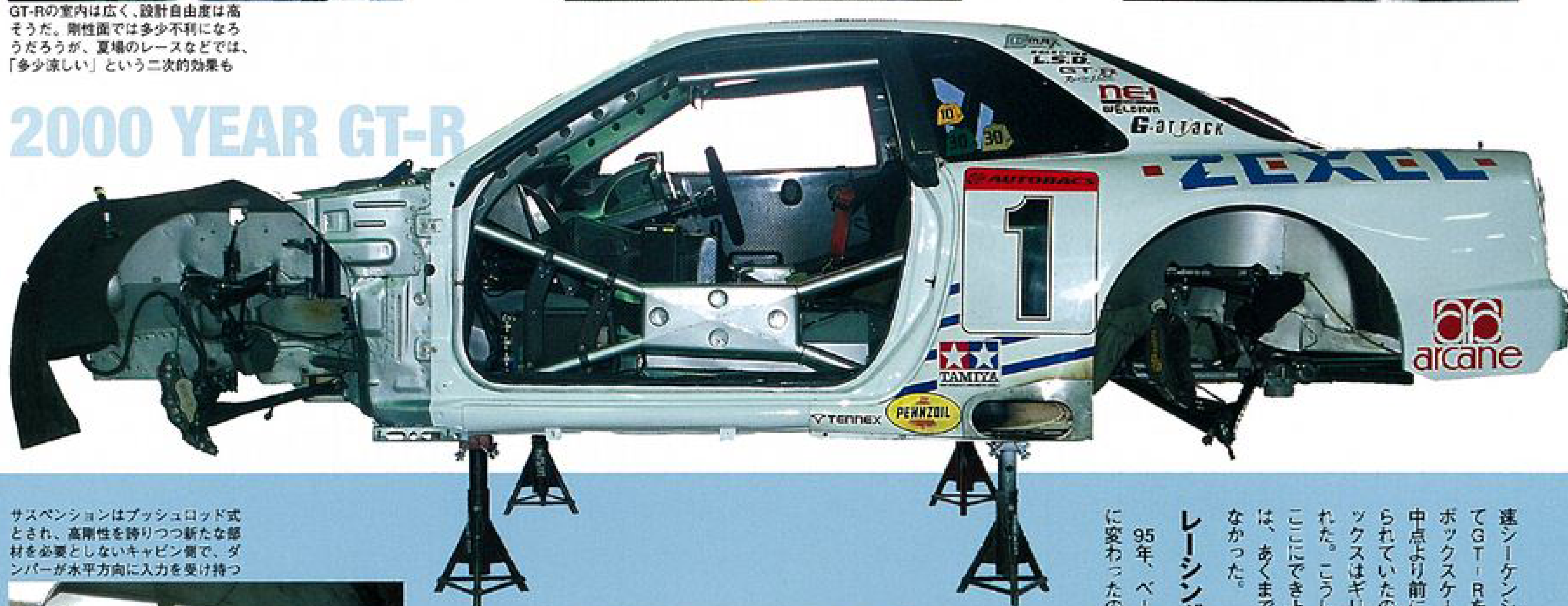
サイドメンバーが、いかにエンジンやその補機類の位置を制限していたかが分かるカット。内側のパイプフレームからマウントを介しエンジンは搭載され、当然、入力の一端も引き受ける



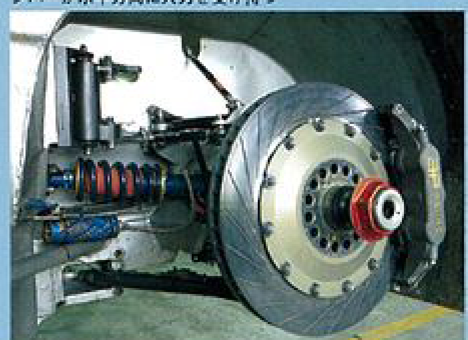
リヤの足回りもフロントと同様プッシュロッド化。ダンパーも水平マウントされる。余談だが、リヤ側のエアジャッキは軽量化のためひとつ減らされ、4点支持が3点支持に変更されている



2000 YEAR GT-R



サスペンションはプッシュロッド式とされ、高剛性を誇りつつ新たな部材を必要としないキャビン側で、ダンパーが水平方向に入力を受け持つ



ミッションは前年型同様Xトラック製の6速シーケンシャル。R34型GT-Rの市販車はアクティブデフを採用するが、GTでは規則で禁止されるため、機械的に作動制限するものに変更



GT-Rとしては、究極の形に進化した2003年型。9年間の試行錯誤の結果が、このフォルムを作り出したと言えるだろう。例年、重量配分に苦労していたGT-Rにとって、昨年の搭載エンジン、トランスアクスル化はとてつもなく強力な武器になった

過去の試行錯誤があったからこそ 究極のGT-Rは生まれることになった

2003 YEAR GT-R



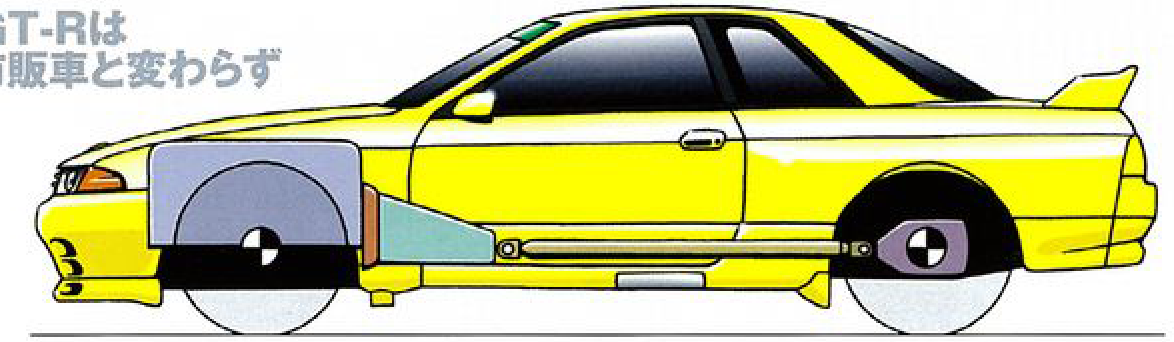
graphic representation of GT-R's bodywork

ILLUSTRATION Part1

GT-Rそのボディワークの変遷

重量物をいかに効率良くレイアウトするか

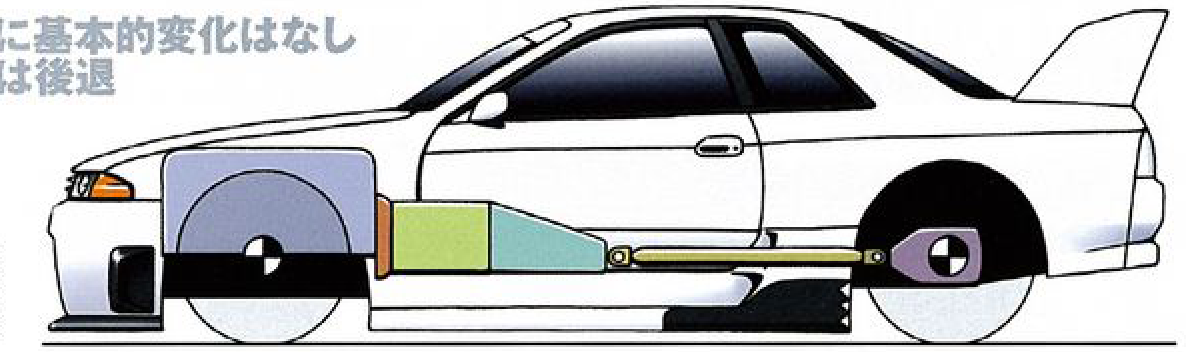
グループA仕様のGT-Rは 基本レイアウトは市販車と変わらず



1992

四輪駆動であるためフロントにデフを持つグループAのGT-Rは、基本的に市販GT-Rと全く同様のエンジン搭載位置となる。もちろん、ミッション、プロペラシャフト、リヤデフの位置も変わることのないレイアウトとなる

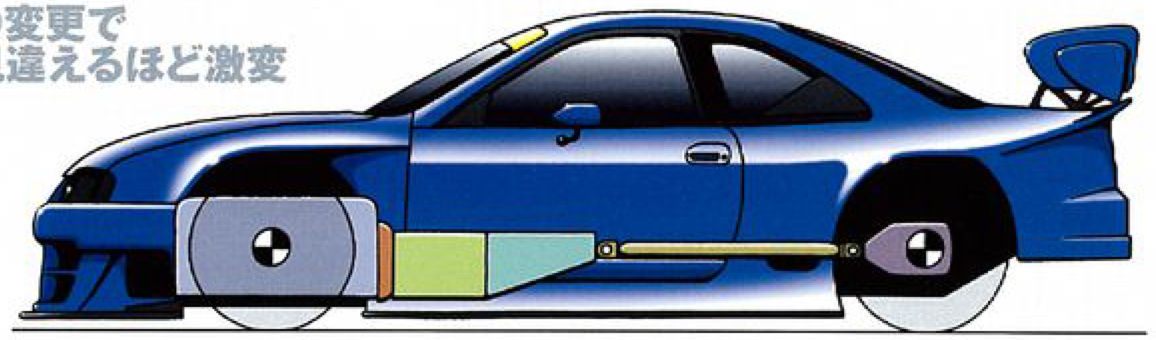
エンジン搭載位置に基本的変化はなし ただし、ミッションは後退



1994

JGTC参戦初期のGT-RはグループAマシンを流用する形で作られたため、エンジン搭載位置に変更はなし。ただし、ミッション後端をホイールベース中点まで後退させることが可能なため、スペース稼ぎのベルハウジングが

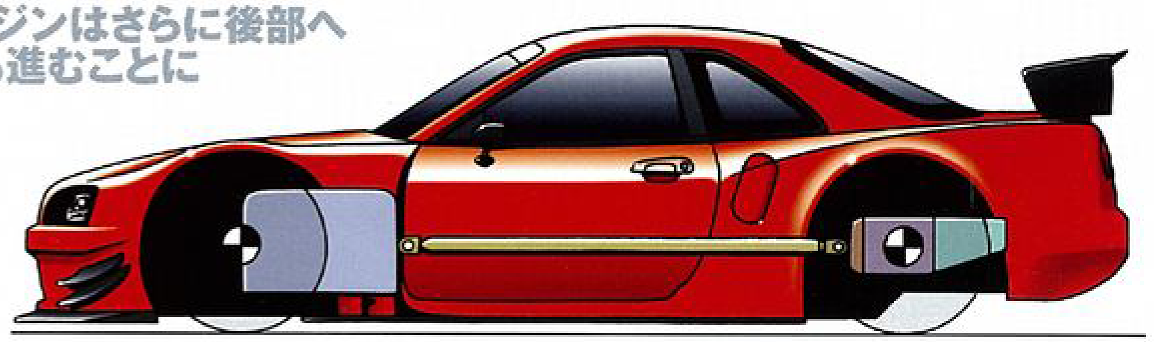
エンジン搭載位置の変更で マシンの操縦性は見違えるほど激変



1998

98年型GT-Rは、ステアリング機構に大改修を受けた。エンジン下にあったステアリングラックに代え、カムとベルクランクを使いエンジン上でステアリングを切る新しい構造に。これによりエンジン位置の大幅低減に成功

小型化とともにエンジンはさらに後部へ 重量物の二極分化も進むことに



2003

2002年に直6から変更した小型V6エンジンの前端は、前輪車軸まで後退。第2の重量物であるミッションは後部に移され、トランスアクスル化(=ミッション+デフ)。歴代GT-Rのフロントヘビー兆候は、一切影を潜めた

GTC車両に生まれ変わった。サスペンションはマルチリンク形式から、よりレーシングカーに近いダブルウィッシュボーン形式に変更された。サスペンションの取り付け位置も市販モデルとは異なる位置となり、ジオメトリも理想に近づいた。

低重心化とマスの集中

シリーズにはライバル車も参加を開始する一方、GTに関するレギュレーションは徐々に改造の自由度を増す方向で改正されていったため、それに対応して性能向上を図る必要があった。ここで設計のポイントになったのは「低重心化とマスの集中化」だが、この考え方はJGTC車両設計の基本として現在まで引き継がれている。

注目すべきは、ロールバー/ロールケージの扱いだ。本来ロールケージは、事故時にドライバーの身体を保護するために設けられる構造である。しかし事故時の安全確保ためだけでなく、通常走行時の車体剛性を上げるためにも利用しようという考え方が生まれ、試行錯誤が始まったのである。こうした設計思想は当時JGTCと並行して開催されていた全日本ツーリングカー選手権(JTCC)の車両開発と連動しながら進んでいった。

開発関係者によると、当時の技術でロールケージ構成の最適化を行なうのはきわめて難しい作業だったようだ。というのも、まだFEM(有限要素法)による構造解析シミュレーションに有効なソフトウェアが少なく、解析には多大な時間と資金がかかったからだ。無駄を省くため、開発時には模型を製作して実際にねじりを入れ、どの部分が有効で、どの部分が無効かを目で見て見当をつけるなどといった方法も採られたという。

GT-Rの場合、依然としてグループA車両から流用したコンポーネントも少なくはなかった。例えばエンジンの潤滑形式だ。RB26はグループA用エンジンのままウエットサンプで、厚いオイルパンがエンジン底にあった。ただ、厚いオイルパンは、エンジンのマウント位置を変更して重心を下げる妨げになっていた。

しかし96年シーズン途中でエンジンのドライサンプ化が行なわれ、オイルパンが薄くなった。もっとも、エンジンのマウント位置の大幅な変更は98年まで見送られた。実はGT-Rではステアリングラックがエンジンの下を横切る構造になっており、これが邪魔をしてエンジン位置がそれ以上下げられなかったのだ。

重心、重量バランス、空力

98年、開発陣はエンジン下にあったステアリングラックに換えて、カムとベルクランクを使ってステアリングを切る新しい構造を作った。それまでエンジンはフロントクロスメンバーに設けたブラケットにマウントされていたが、マウント位置を下げるために、サイドメンバーに直接ブラケットを設けてマウントする形に改められた。この結果、エンジンのマウント位置を大幅に低下させることが可能となり、車体の重心高も下がった。ステアリングラックは安全性に直接かかわる個所とあって、いつにも増して慎重に設計が行なわれたという。

また、マウント位置を下げるだけではなく、わずかながら後退させることによって重量バランスの改善も行なわれた。ライバルのスープラは同じFRレイアウトでありながら、直列6気筒エンジンを直列4気筒エンジンに換装したうえ、エンジン搭載位置をバルクヘッドぎりぎりまで後退させ、その結果フロントミッドシップ化に成功していた。直列6気筒エンジンにこだわったGT-Rではフロントミッドシップ化までは無理ではあったが、これに追従した形だ。これらの改良の効果は絶大で、操縦安定性は大幅に向上した。

一方、98年の車両規則改定で、フロントサイドメンバー先端をつなぐパネル、いわゆるラジコアサポートを取り払ってもよいことになった。シャシー先端部を横切るパネルは、GT-Rの空力デザインの大きな制約となっていた。エンジンルームには前後長のある直列6気筒エンジンがあり、ラジコアマウントがあるとラジエターとエンジンの間に空間を確保しにくく空気の抜けが悪かったのだ。

ラジコアマウントを取り払った98年型のGT-Rには、ラジエター及びインタークーラーを効率よく冷却するとともに、冷却気を外部へ排出するためのダクトが設けられた。エンジンが後退することで空間的な余裕ができ、効率よい空気の流れを作るために、大きな働きをしたのである。

エンジンルーム内の空気の流れは、冷却ばかりではなく、空力特性にも影響を及ぼした。車体下面に流れ込んだ空気をうまく引き抜けば、ダウンフォースが得られるからだ。GT-Rは、この点でもスープラに遅れをとって

NISSAN SKYLINE HISTORY



1995

JGTC仕様にもR33型GT-Rが登場。ただし、エンジンルームを見ても分かるように、この時点ではその改良は市販車の域を大きく超えることはなかった



1994

94年はグループAベースの四輪駆動GT-Rと、JGTC用に新規開発された二輪駆動GT-Rが参戦。ともにすぐれた点を見せたが、タイトルは四駆マシンの手に





1996

スープラのみならず、海外から強敵マクラーレンが来襲。苦戦を強いられたものの第4戦と、この年初開催のオールスター戦で一矢報いることに成功

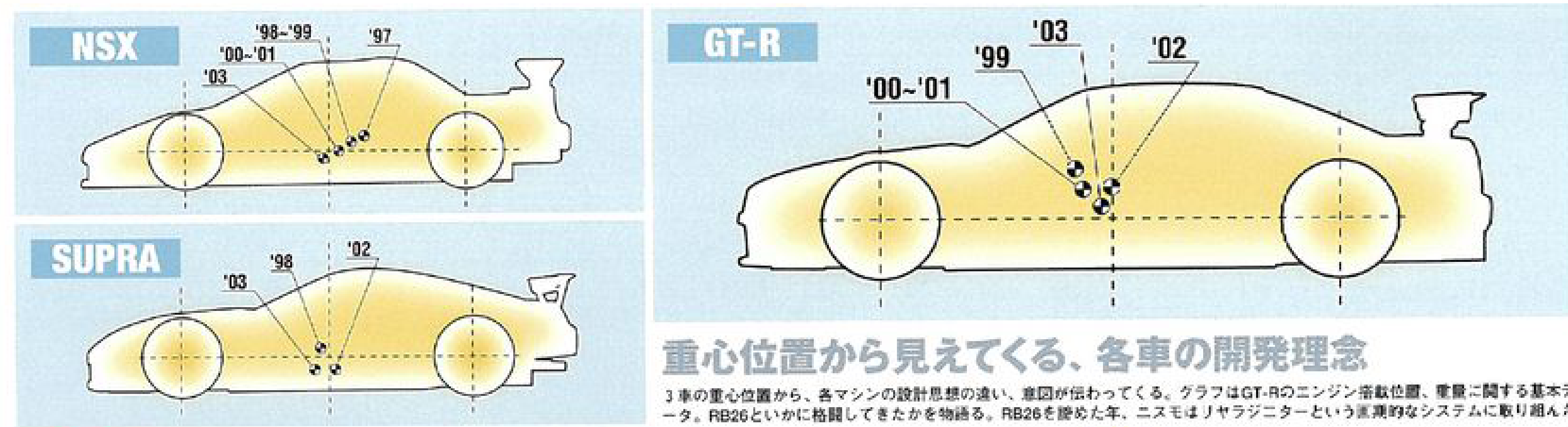
1997

ライバルの躍進に押されぎみのGT-R勢だったが、鈴木亜久里、エリック・コマスの元F1コンビが面目躍如の活躍。開幕戦とオールスター戦を制した



1998

開幕戦、そして中止の第2戦を挟み第3戦でもペンズオイルGT-Rが勝利。この年はドライバーズタイトルのみならずNISMOがチームタイトルも奪取した

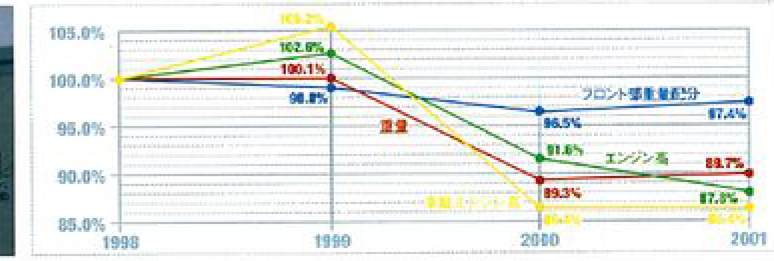


重心位置から見えてくる、各車の開発理念

3車の重心位置から、各マシンの設計思想の違い、意図が伝わってくる。グラフはGT-Rのエンジン搭載位置、重量に関する基本データ。RB26といかに格闘してきたかを物語る。RB26を諦めた年、ニスモはリヤラジエターという画期的なシステムに取り組んだ







いたが、ようやくフロント周りの空力にも手を加えることが可能になった。重心を下げ、重量物を車体中央部に寄せてバランスを取る一方、空力も大きく進歩した。ＪＧＴＣ車両は新しい時代を迎えたのである。

エンジンの換装

元々グループＡの改良型で始まったＪＧＴＣ用ＧＴ－Ｒのシャシーは、95年に一段階進化し、さらに98年には大幅な設計変更が加えられるとともに、シーズン途中にベース車両がＲ34へと切り替わって二度目の大幅進化を果たした。言い換えると、生産モデルにきわめて近い状態で戦い始めたＧＴ－Ｒは、98年には本格的なレーシングカーへと変身したのである。だが依然として直列6気筒エンジン、ＲＢ26をエンジンルームに抱え込んでいることに変わりはなかった。

ＲＢ26には大きくて重いというデメリットがあったが、ツインターボ過給により絶対的なパワーがあり、同時に低回転からトルクを発揮して非常に扱いやすいというメリットもあった。設計されてからすでに15年が経過したエンジンでありながら、初期のＪＧＴＣでＧＴ－Ｒが有利に戦った理由がここにある。

しかし、ＪＧＴＣ車両の進化が進むにつれてエンジンパワー以外の性能が重要になり、ＧＴ－Ｒの利点は徐々に切り崩された。

98年時点ですでに開発陣の中ではＲＢ26でＪＧＴＣを戦うのはもう限界だという声があがっていたという。だがＧＴ－Ｒの象徴でもある直列6気筒エンジンをたやすく下ろすわけにはいかなかった。開発陣はいくつかのエンジンの可能性をシミュレーションで探りながら、ＲＢ26を搭載したＧＴ－Ｒの改良を進めた。エンジンをＶＱ30へ換装するという結論が出たのは、２０００年末ごろのことだ。

２００２年、開発陣は市販ＧＴ－Ｒの生産中止を待って、ついにＲＢ26をＶ型6気筒ＶＱ30へ換装した。シリーズ第3戦に試験的に現れ、7月に富士スピードウェイで開催されたシリーズ第5戦に本格デビューしたＶＱ仕様Ｒ34は、エンジンを換装しただけに終わらず、これまでフロントに置かれていたラジエターをリヤのトランク内に移設して、これまで足枷になっていたフロントヘビーの重量バランスを一気に改善するなど、思い切ったアイデアが盛り込まれた車両だった。コンパクトなＶ型6気筒エンジンは前後長も短く、エンジンルーム内に空間的余裕を生み出すと同時に重量バランス改善にも貢献した。しかし開発陣はそれだけでは足りないと考え、ラジエター位置を変更する大改造を行なったのである。この時点ですでに03年型開発が始まっており、02年型ＶＱ仕様はある意味で実戦テスト車両であった。

最後の変身

03年、ＪＧＴＣの車両規定が大幅に改定された。車体面では、それまで車室前後に残さなければならなかったベース車両のフレームを取り払い、独自に設計したパイプフレームに置き換えることが可能になった。また、トランスミッションの搭載位置が自由になり、後輪車軸上にデフと共に配置するトランスアクスル形式が許された。当然ＧＴ－Ｒも、この車両規定に基づいて作り替えられた。

前後をパイプフレーム化したとはいえ、以前から車体の一部として発達していたロールケージは室内にとどまらず前後へ飛び出して伸び、前後サイドフレームを補強しながら前後サスペンションを支える形になっていた。つまり、前後パイプフレームはすでに基本フレームの内部に構成されており、形式的に車室前後の基本フレームが残されていたに過ぎなかったのだ。開発陣にとっては、車両規定を充たすためだけのために残されたサイドフレームは邪魔な物だった。サスペンションレイアウトに制約を加えるばかりか、エンジンルーム内の補機類、特にターボチャージャーの配置を難しくしていたのだ。

新規定によりサイドフレームは取り払われ設計の自由度が得られたため、エンジンルーム内の整理は一気に進んだ。同時に、ボディ前端部からフラットボトムに至るエンジンルーム下面は、下面流を車体側面へ導くよう巧妙に成形されたパネルで覆われた。

一方、重いトランスミッションをクラッチとともに後輪車軸上に移動しトランスアクスル化したことで、理想的な重量配分が実現。これを受けて02年型でトランク内へ移設されたラジエターはフロントのノーマルな位置へ戻された。

トランスアクスル化による重量バランスの改善は、マスを集中してヨー慣性を縮小するという設計思想には反するという考え方はある。しかし最新のタイヤ性能を充分に引き出すためには、前後重量バランスが重要な意味を持つ。こうしたメリットデメリットを差し引きした結果選択されたレイアウトであった。

1999

市販車のフルモデルチェンジに伴いR34型が登場。速さではライバルの後塵を拝したが、チームワークと戦術でまたもコマスがチャンピオンに輝いた



2000

2000年のGT-Rは公式戦2勝、海外初開催のスペシャルステージ1勝という成績。第6戦でのカルソニックの勝利は、星野にとっての最後の優勝となった





2001

500kmという、JGTC戦では長丁場となった第4戦で1-2フィニッシュ。チームは決勝直前にブレーキローターを交換するという離れ業もやってのけた

ワークスバトルは テスト車両を 必要とするほど 先鋭化 ボディの進化も まだまだ続く





2002

シーズン途中からV型エンジンを搭載したニューマシンを投入。リヤラジエターの意欲作は速さは見せたものの、勝利を得ることはできなかった

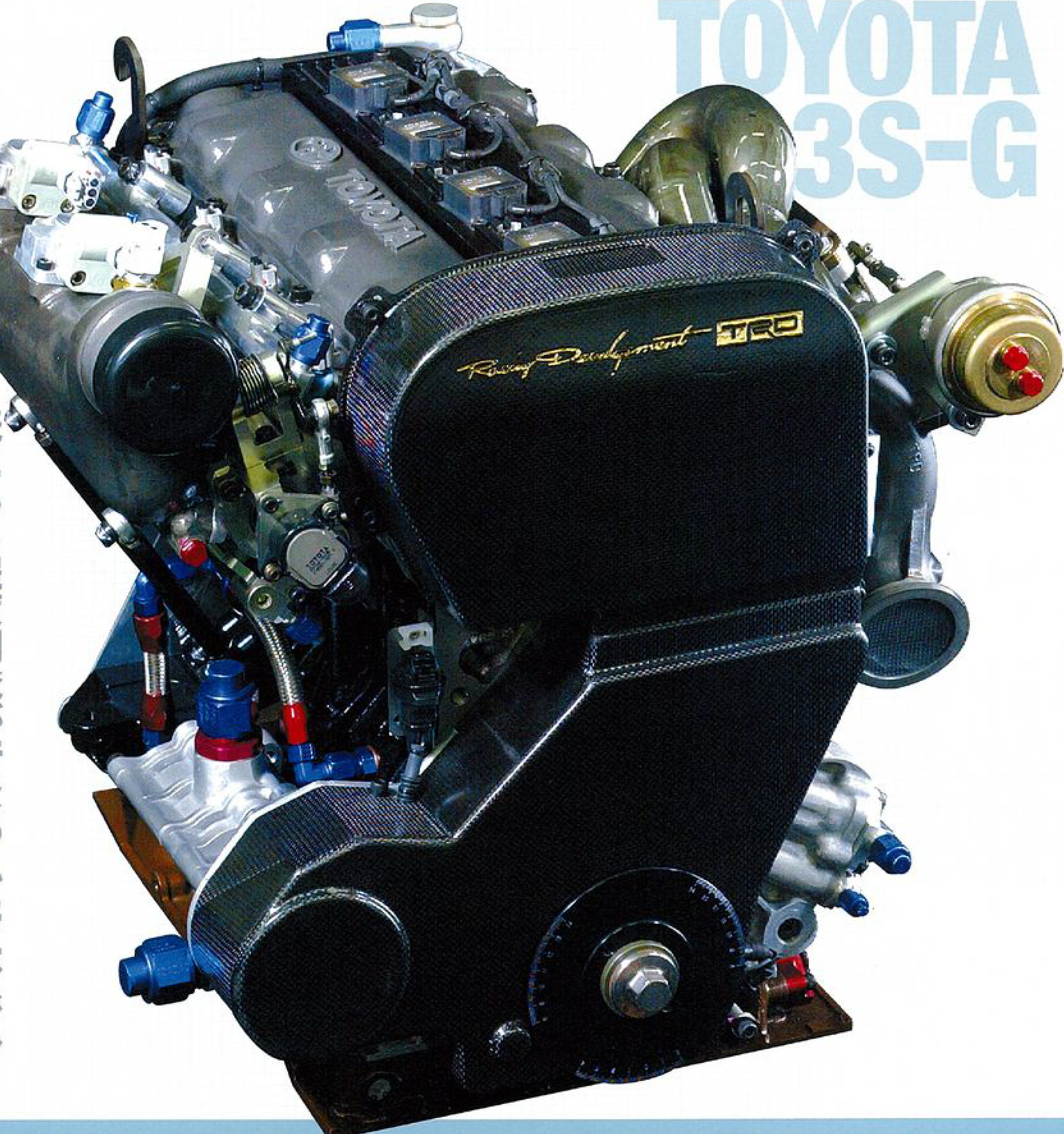


2003

熟成なったVQエンジンとトランスアクスル化によって、これまでのGT-Rとは全く異なる挙動を示した2003年型。ダブルタイトル獲得に大いに貢献した

TOYOTA 3S-G

既にある程度開発が行なわれたエンジン
この改良に地道&大胆な手が加えられた



JGTC TECHNICAL REPORT

エンジン編

ENGINE

STUDY CASE

トヨタ3S-G(スープラ)

TOYOTA 3S-G (SUPRA)

耐久性を確保し より パワー&トルクを、より使いやすさを!

コンパクトな利点と小排気量ゆえの難点
TRDは、地道な開発と新技術の投入で
3S-GをJGTC最強のエンジンに仕立て上げた



全日本GT選手権は、グループAによるツーリングカーレースが終わった後、使い道のなくなったグループA車両を再利用するとともに、シルエットフォーミュラの流れをくむジャパンスーパースポーツカーレースを吸収するカテゴリーとして始まった。その理念は、コストを抑制し参加者の負担を軽減してレースを繁栄させることにあった。したがって、初期のJGTCでは既存の車両やコンポーネントが再利用されるのが普通だった。例えば、ニスモが最初に送り込んだGT-RはグループA車両そのもので、それにフェンダーやエアロパーツなどを取り付けただけのものだった。

スープラの場合、ブリッツが独自に製作した車両は、市販モデルと同じ2JZ型直列6気筒エンジンを搭載。TRDはこの車両には直接関与しなかったが、94年に本格参戦するに当たって、市販モデルには設定のない3S-GTE型直列4気筒の搭載を決めた。

直列6気筒エンジンに比べ直列4気筒エンジンは軽量コンパクトで、車体の重量バランスを考えるうえで有利ではあったが、そもそもの決断の理由は既存のコンポーネントを流用して安価に競技車両を仕立てる点にあった。TRDはちょうど、TRD・USAがアメリカのIMSAレースで用いていた3Sを持っていた。このエンジンは、87年までのグループCレースで使われていたエンジンをベースに開発されたものである。これと、グループCレースで使っていたトヨタTS010の足回り、特にアップライトを流用することで、JGTC用スープラを作り上げた。このとき取り付けたエアロパーツは、TRDが一般に市販しているものだという。

3Sは、グループC及びIMSAでの戦いを通して熟成が進んでいたが、リストリクターで吸気制限が行なわれるJGTCでは特殊な条件にさらされる。しかし、当時の開発資金や人的資源には限りがあり、当初はIMSA用エンジンそのものを用い、吸排気系のみ作り直してレースに出場、徐々に改良を行なうことにした。GT-R陣営もまたグループAで用いていたRB26をそのままJGTCに投入し、年ごとに改良を加えていったのと同じ事情である。

たとえば、低回転時には吸気量が少ないので、リストリクター領域、つまりこれ以上は空気が入らないというところまで一気に過給圧を上げてエンジンを回す。しかし高回転になって吸気量が増えると、リストリクターのためにそれ以上空気が入らなくなるのでブースト圧を下げていく。もしそのまま過回転にすると、タービンの羽根が折れるなどのトラブルを引き起こすからだ。そこでリストリクターに合わせてタービンハウジングと回転数、羽根の形状などを考えるとともに、ECUによりターボ回転数に応じた制御を行なう。リストリクター付きのターボエンジンにはこうした特別な工夫が必要であった。

IMSA用3Sは非常に燃費が悪く、JGTCの300kmレースではレースのちょうど中間で給油を行なわなければ燃料を使い果たしてしまう状況だった。当時を知る技術者は「戦闘も何もなくて、レースを走り切るのが精一杯だった」と振り返る。また、エンジンのレスポンスも悪く、ある回転数まではパワーが出ず、ターボ過給の効き出す回転数を超えた途端に強大な出力が発生する、いわゆる『ドッカンパワー』的特性を持っていた。当時の車体も、開発初期にあって剛性が不足しており、これにドッカンパワーのエンジンを組み合わせたJGTC用スープラは、ドライバー泣かせのクルマであった。

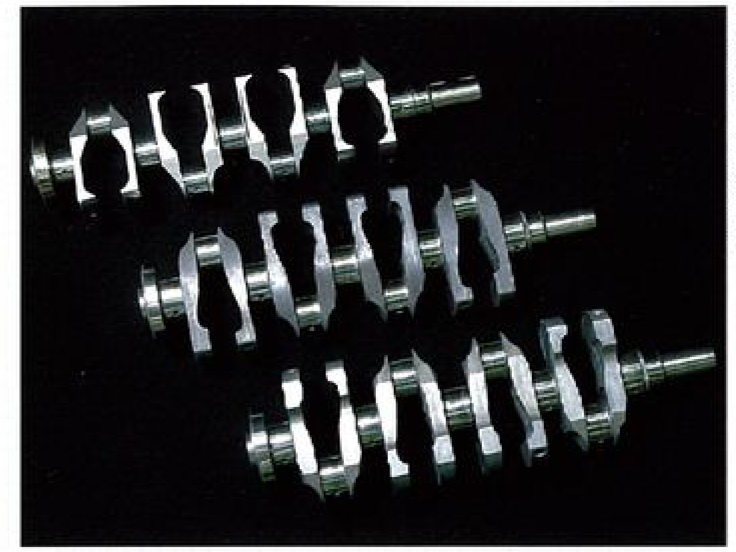
WRCの技術

TRDは、少しずつ調整を加えながらもこのIMSA用3Sを95年いっぱいまで使い続けた。だが手持ちのエンジンは徐々に消耗していった。そこで96年、エンジンの切り替えを敢行。と言っても切り替えたのは同じ3Sで、今度はWRCのセリカST205が搭載していたものの流用であった。これに伴い、排気量はそれまでの2100ccから2000ccへと縮小された。この排気量縮小は、排気量で最低重量が変わるJGTCの車両規則を考慮し、車体重量を1100kgまで落とすためでもあった。言い換えれば、車体側の開発によって軽量化が進み最低重量が視野に入ってきたということでもある。また、オイルパンを作り替えてエンジン高を縮小、マウント位置を下げて車体の重心を低下させるなどの改良も行なわれている。

エンジンとともに、WRCで用いられていたフレッシュエアシステムも導入された。これは、外から空気を入れて未燃ガスと混ぜ、排気の熱で再び燃焼させ、ターボチャージャーのタービンに勢いをつける仕組みで、アクセルオフ時にタービンの回転が落ちないので、アクセルオンでエンジン回転が上がりやすく



3S-GはGT300クラスで現役であるため、最新のピストンの撮影はNGに。写真のものは96年ごろ使用されていたものだが、リストリクター径、出力等が全く異なるため、WRC用のモノとは作りは違ってくるという



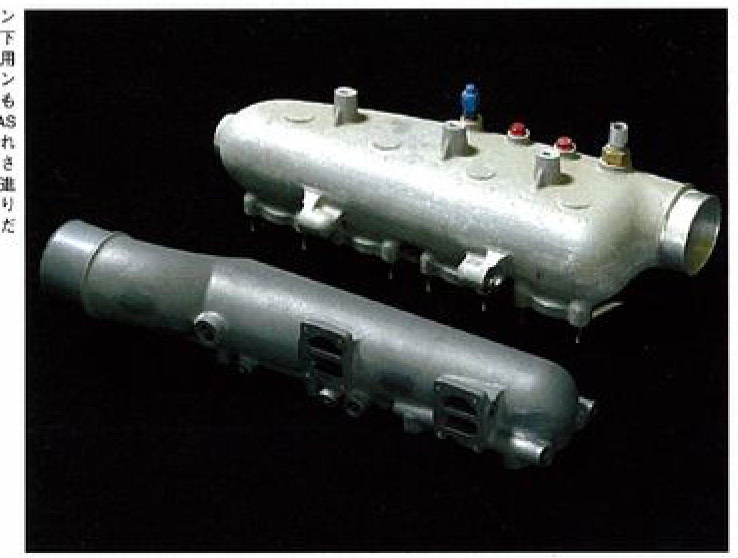
下から96年、98年、00年に使用されたクランクシャフト。フリクション低減のため、ピンもジャーナルも年々細くなっていく。重量差は驚くことに96〜98年の差が15%、98〜00年の差はなんと25%にまで達するという



オイルパンも各メーカーが日進月歩で開発するものであるため、最新のモノは登場せず。一般的に薄く強くといった性能が求められるが、もちろん軽さも重要で、この98年まで使用されていたものはマグネシウム製



コンロッドは上のクランクと対応する形で左から96、98、00年製。96年ものは高価なチタン製だが、設計上の工夫と限界値の見極めによって同等の重さにできるため、00年のコンロッドはスチール製となっている



上部のサージタンクは96年もの、下は99年以降に使用されたサージタンク。99年以降のものに関しては、FAS用の空気取り入れ口がふたつ用意される。FASも年々進化し、以前は取り入れ口はひとつだったという



同じ年のインテークとエキゾーストのカムシャフト。カムの基本形状にそれほど大きく変化はさせないということだが、カム山のプロフィールなどは様々なものが試され、1年で20本程製作することもあるという

なり、結果的にレスポンスが向上するという効果がある。従来、ターボ過給エンジンのレスポンスを上げるためには、故意に点火時期を遅らせて未燃ガスを発生させ、それをエキゾースト内で燃やすという工夫が試されていたが、その発展形だといえる。後にGT－Rも同様のシステムを採用している。ただし、フレッシュエアを外部からどれだけ取り入れるかの調整が必要で、送りすぎるとタービン回転が上がりすぎ、アクセルを戻してもパワーが落ちず、エンジンブレーキが効かなくなるという弊害もある。サーキット毎、ドライバーの好み毎にセッティングが行なわれたが、用いられないことも少なくはなかった。

2000年には、やはりラリーフィールドで培われた技術であるウォーターインジェクションシステムが3Sに取り付けられた。小排気量直列4気筒エンジンでターボのブーストを上げるためには、ノッキング対策として圧縮比を下げざるを得ない。その結果、燃費が悪くなる。そこで、インテークマニホールド内に水を噴射して吸気温度を下げ燃焼温度を下げると、ノッキングが起きにくくなる。その分、圧縮比が上げられるようになり、燃焼効率が良くなって燃費が良くなるとともに性能向上も実現する。

こうした工夫の積み重ねにより、当初はドライバーを悩ませた極端なレスポンスも丸められ、しかも燃費と性能を両立させながら3Sの改良は進んだ。エンジン本体の性能だけではなく、重心位置を低下させるなど車体全体の走行性能を考えた改良も加えられていった。エンジンの仕様はほぼ毎レースのように変わったという。だが、「JGTCに参戦した時点で3Sはレーシングエンジンとしてほぼ完成の域に達しており、その後の開発は数馬力を求めて調味料を加える程度の改良の積み重ねだった」と開発関係者は語る。

新世代エンジンへ

しかし重箱の隅をつつくような開発は、得られる成果に比べて多くの開発費用がかかる。最終的に、3Sは性能向上の限界に達した。こうなると、さらに性能を引き出すためには、引き替えに耐久性を削り落とすしか道はない。一般にエンジンの性能を磨き上げる最終段階で行なわれるのが、摩擦抵抗、いわゆるフリクションを低下させるという作業である。たとえばピストンリングを3本から2本に減らしたり、クランクのピン径を縮小するなどの

AIR&WATER

リストリクターとの戦い

吸気制限の対策として注目された2大システムとは?

2000年、その存在が明らかになったフレッシュエアシステム(FAS)。「燃焼室に水を噴霧することによって、燃費の改善を行なう」とTRDでは発表しているが、ライバルチームの技術者はエンジン出力にも何らかの影響を与えるはずだと語っている。なお、下部イラストはホモロゲーション獲得のためにトヨタからJAF経由でFISA（現FIA）に提出された、ST205セリカ用のウォーターインジェクションシステムの概略図。当時、水はポンプを使用し注水された

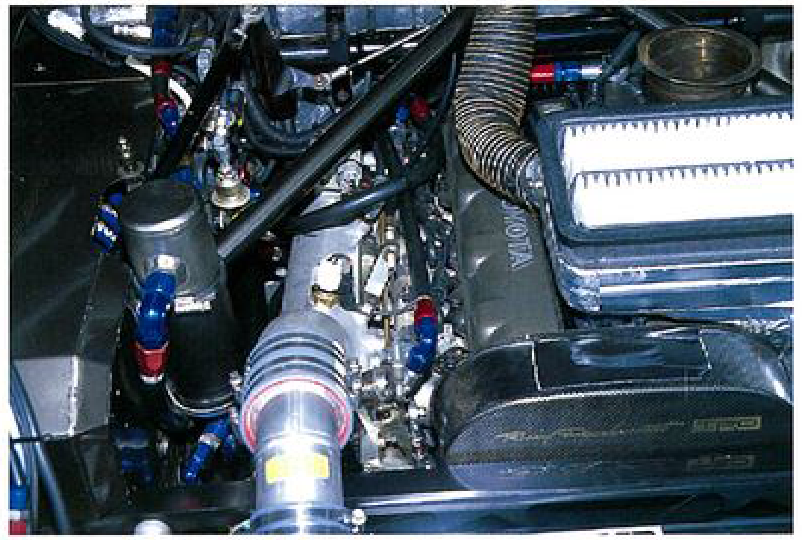


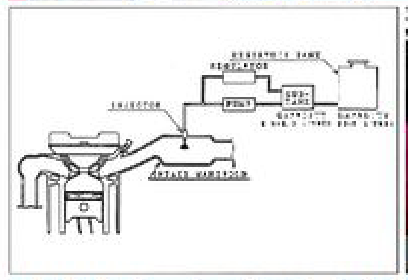




FAS

コーナー手前での"バリバリバリ！"という音が、FASの作動音。ターボラグ低減を目的に使用されるが、エンジンブレーキがききにくく、熱害によるターボトラブル誘発といったデメリットもある。とくに安価なタービンを使用するGT300クラスは、この対処に多くの時間を費やさなければならなかった。なお、2003年の第2戦からはGT-Rも同様の装置を使用。ニスモではアンチラグシステム（ALS）という名称を使う







WATER INJECTION

手法が考えられるが、この種の改良を加えるとエンジンの耐久性が落ちていく。

コストを抑制するというカテゴリーの基本理念を守るため、JGTCに参加する自動車メーカーの間には、お互いに激しい技術競争を繰り広げながら一方では競争の行きすぎを自制するという暗黙の了解があった。そこではおおむね、1回のオーバーホールにつき1回のレースと1回のテストを走り切れる程度の耐久性を守るという目に見えない線引きがあった。TRDもこの自主規制線、つまりは1回のオーバーホールで約3000㎞を走り切るという目安の中で開発を行なってきた。この目安は「シーズン終盤、チャンピオンが取れそうだというときには限界線を少々踏み越えることもあったかもしれない」という程度には守られたまま02年シーズンは終わった。

だがさすがに3Sに限界がきていた。スープラ陣営は、エンジンの寿命を延ばすとともにランニングコストを下げるため、新エンジンの開発に着手した。いくつかの素材が検討された後、現行セルシオやソアラが搭載している排気量4300㏄のV型8気筒エンジン、3UZ－FEの排気量を自然吸気のまま5200㏄にまで拡大して用いる決断が下された。狙いは、パワーとアクセルレスポンスと燃費という性能用件を充たしつつ、コストを抑制する点にあった。軽量コンパクトな3Sに対し、重量が増加する一方、ピストンやバルブが倍増するためコスト削減は従来の半分以下にしなければならないという課題もあった。参戦初年度となった03年シーズンには必ずしも狙いどおりのコスト減が実現したわけでは



レギュレーションの盲点を突き、ハイスペックでありライフの長いエンジンに仕立て上げられた3UZ-FE。しかし、2004年にはキツイ締めつけが！

リストリクターにより差が出にくい規則しかし、だからこそ開発の手は細部に及ぶ

ないが、今後の開発の余地は広がった。

JGTCの車両規則では、主にアメリカ製の大排気量エンジンを招き入れるため、排気量3500㏄以上の自然吸気エンジンは吸気制限が緩められていた。3UZは結果的にこの優遇領域に入ってしまったため、その性能はデビュー時から非常に高いレベルに達した。これを受けて04年度の新規定で吸気制限が見直されたため、TRDは3UZの排気量を縮小するなど新たな改良を加えて対応するとともに、引き続きコスト削減につながる開発を進めることになる。

すでにRB26もVQへ置き換わり、NSX陣営はターボ過給を導入することになった。元々は流用で始まったJGTCのエンジン開発競争は、新しい時代に突入したのである。



コクピット内のスイッチが一番多いとされるスープラ。エンジン制御系のスイッチが所せましと並び、その詳細は明かされることはない

空力編

AERODYNAMICS

STUDY CASE

ホンダNSX

HONDA NSX

より抵抗を減らし よりダウンフォースを!

2003年は思わぬ苦戦を強いられた空力の申し子、NSX
少ないパワーを最も効率良く使用する術が
2004年、ターボ化によって再び覚醒する

全日本GT選手権出場車の空力処理を振り返ると、まさにレーシングカーの空力の歴史をたどることになる。路面を走行する自動車が空力特性を追究し始めたのはそれほど昔のことではない。比較的単純な飛行機の空力に比べ、興味深いことに自動車、特に高い走行性能を発揮するレーシングカーが求められる空力特性の意味は、その短い歴史の中で大きく変わってきた。

当初は、空気抵抗を減らしてエンジンの出力を効率よく走行性能に結びつけることが考えられた。こうして登場したのが流線型のボディである。その後60年代後半になって、空気抵抗を減らすばかりでなく、空気を積極的に使って走行性能を向上させる手法、言い換えれば空気抵抗を増やしてでも車体を路面に押しつける手法が考案された。ウイングやスポイラーなどといった空力付加物が生まれた理由がここにある。

その後70年代後半、空気抵抗を減らしながらダウンフォースを得る技術が編み出された。グラウンドエフェクトを利用したベンチュリーカーあるいはウイングカーと言われるものがこれにあたる。

自動車レースの車両規則は、競技の安全性を確保するため、行き過ぎた性能向上を抑制する傾向がある。当然空力処理は規制の対象になる。技術者は規制が加わるたび、新たな技術を生み出してはこれに対応し、車両規則の中で走行性能を限界まで高める工夫を重ねてきた。JGTC車両も同じである。

そもそもJGTC車をはじめとする生産車ベースのいわゆるハコ車は、空力的な改良が加えにくいクルマである。本来のボディ形状があるため、理想的な空気の流れを作り出すことが難しく、また生産モデルのイメージを崩すような空力付加物の追加も厳しく制限されるからだ。その結果、ハコ車にとって空力はあくまでも補助的な存在と位置づけられ、走行性能はあくまでもサスペンションを中心としたいわゆるメカニカルグリップを基盤に成り立っていた。



ベンチュリーカーの登場

ハコ車の空力といえば、大径タイヤを収めるために整形されたオーバーフェンダー及びフロントスカートで空気抵抗を減らすとともに、フロントはノーズ下縁に取り付けられるエアダムあるいはスポイラー、リヤはトランクリッド上に取り付けられる大型のウイングでダウンフォースを稼ぐ手法が一般的であった。フロントのエアダムは車体下面に空気が潜り込んで車体を浮き上がらせ操縦安定性を悪化させないよう、文字どおりダムのように空気流をせき止め、エンジンフード上及び車体左右側方へかき分ける役割を持ったパネルであり、スポイラーは空気を仰角のついた面に当てて下向きの力を発生させる装置である。

1993年にJGTCが始まった当初、サーキットに現れた車両は、こうした初期的な空力処理で走行性能を上げようとしていた。その後、年を追う毎に空力性能は磨き上げられた。リヤウイングは巨大化し、エレメントが増え、翼端板に小型のウイング、いわゆるウイングレットが追加されるケースも増えた。だが、あくまでも車体上面に取り付けた空力付加物でダウンフォースを得るという初期的発想の域を出るものではなかった。

ところが、97年にNSXがJGTCに本格参戦してその様相は急激に変化し始めた。レーシングカーコンストラクターとして数々の車種で空力性能を研究してきた童夢が開発したNSXは、それまでのハコ車と異なり、車体下面を利用し、グラウンドエフェクトを引き出すというベンチュリーカーであった。

前方から車体底面と路面の間に空気を流し吸着力を生み出す手法、いわゆるグラウンドエフェクトを応用したベンチュリーカーは、空気抵抗を増やさずダウンフォースを生み出す手段で、元々は設計の自由度が大きいフォーミュラカーの世界で生まれ進化した大発明である。しかしグラウンドエフェクトを引き出すためのベンチュリーは、生産車ベースのハコ車には組み込みにくかった。というのも、FRのハコ車はフロントにエンジンがあり、オイルパンやクロスメンバーなど、空気にとっては障害物となる様々な部品が車体底面に露出して、前方から底面へ空気を流し込む邪魔をするからだ。JGTCでも、車体底面後端部に跳ね上げた整流板、いわゆるディフューザーを取り付けて車体底面の空気を引き抜いたり、ボンネットの排気用のスリットやフロントフェンダーとドアの隙間に設けられたアウトレットを拡大したりしてエンジンルームを通して車体下面の空気を抜き、ダウンフォースを少しでも稼ぎ出す程度の対応は行なわれていたが、これらの課題があったため、前方から積極的に空気を車体下面へ流し込む本格的なベンチュリーカーは生まれずにいた。

これに対しミッドシップレイアウトのNSXは有利だった。とはいえ、JGTCの車両規定では、前輪車軸と後輪車軸の間にある車体底面形状は空力性能を目的に改変したり空力付加物を取り付けることはできず、フォーミュラカーのように理想的なベンチュリー形状を車体底面に構成するのは難しかった。



デビュー当時、大注目を集めたフロント部のつり下げ式ウイング。よく見ると翼端板の付いた湾曲ウイングがF1のようにノーズからつり下げられる格好に!



NSXのボディは、オリジナルのアルミモノコックにカーボンコンポジットの補強を施したハイブリッドフレーム。空力に注目が集まるが安全性も極めて高い

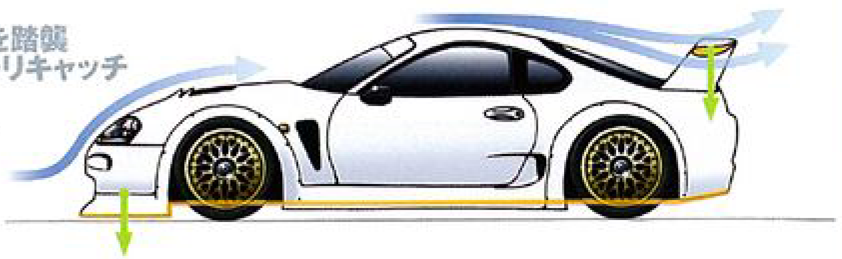
ILLUSTRATION Part2

JGTCマシンその空力の変遷

より多く、より安定したダウンフォースの獲得を!

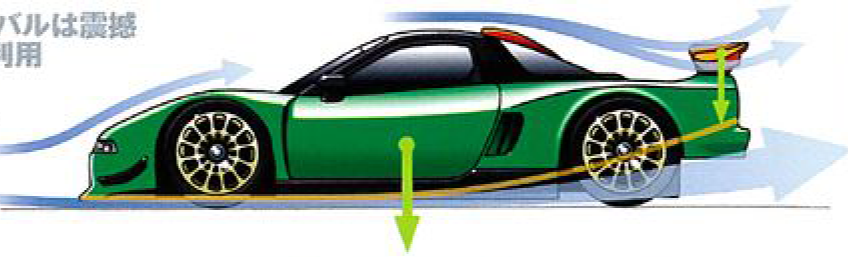
当初はハコの基本路線を踏襲 ウイングで空気をガッチリキャッチ

JGTC幕開け当初のGTマシンは、それまでのハコマシンの空力セオリーどおり、フロア下には空気を入れず、フロントスポイラーとリヤウイングでダウンフォースを獲得。ただし、当然のことながらドラッグには悩まされることに



童夢設計のNSXにライバルは震撼 車体下面の空気を積極利用

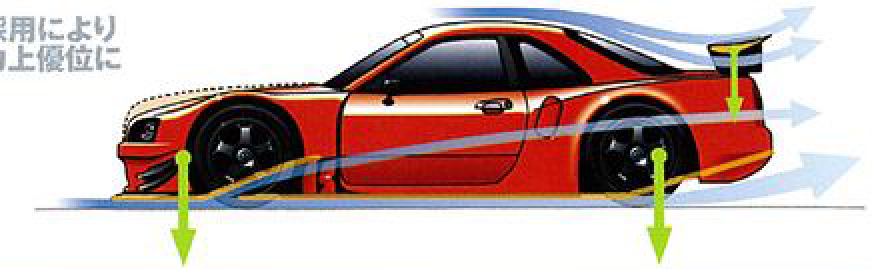
これまでのハコマシンの常識を覆す空力を採用したのは、97年に登場したNSX。補強の名目で整形したベンチュリーフロアを備え、車体下面に積極的に空気を入れて、ベンチュリー効果により巨大なダウンフォースを獲得



graphic representation of JGTC MACHINE's aerodynamics

フラットボトム規定の採用により 一転、FRマシンが空力上優位に

前輪軸と後輪軸間は平面にしなければならないというフラットボトム規定により、車体下面に入った空気の一部は前輪内側から車体外側面へ流し、ここで一種のベンチュリー効果を獲得。残りの空気もマシン後部で有効利用







AERO POWER

空力［風流舎］で勝つ！

NSXの洗練されたフォルムはここから導き出された

NSXの速さの秘密はここに。滋賀県・米原にある童夢の「風流舎」は、今やレーシングカーの開発に欠かすことのできないエアロダイナミクス実験を、供試モデル50％スケールで行なえる国内最大規模の自動車用風洞実験施設だ。当然、レーシングカー開発に不可欠なムービングベルト装置、斜め方向からの空気の流れを再現する偏ヨー角装置も完備。



今や、空力の差が勝敗を分ける時代に

しかし、ひとつの抜け道があった。車両規則では、ベース車両の底面パネルに補強を加えることが許されていたのだ。童夢はここに着目し、車体底面の補強材を巧妙に積層、結果的にわずかではあるが後方へ向けてせり上がるベンチュリーカー的底面を作り上げることに成功したのだ。これにディフューザーを組み合わせた結果、NSXは空気抵抗を増大させることなく強大なダウンフォースを得て、ライバル車を圧倒する操縦性能を発揮、「空力マシン」と呼ばれることになった。

NSXの手法が明らかになって、GT－Rやスープラ等ライバル車もこれに追従しようとしたが、エンジンがフロントエンジンルームにある限り、前方から車体底面へ向けて空気を流し込む効率には限界があった。しかも車体の重心を下げるためにエンジンのマウント位置が年々低下するという皮肉な事態も起きていた。この結果、FR車はFR車独特の工夫、すなわちエンジンルーム内からフェンダー側面やボンネット上面へ空気を抜くなどの空力デザインを強いられることになった。

それでも、グラウンドエフェクトによるダウンフォース増強は徐々に進み、JGTC車両の走行性能は飛躍的に向上していった。シリーズ初期はエンジン性能に勝るGT－Rが圧倒的な強さを発揮したが、徐々に相対的な戦力を落としていったのは、総合的な走行性能に与える空力特性の割合が増大したからに他ならない。02年には、JGTC車両のコーナリング速度は、怪物レーシングカーと言われたグループCカーをはるかに超えるまでになった。NSXの場合、02年にはL／D比が2以上、つまりダウンフォースが空気抵抗の2倍以上に達したと言われている。



徹底的に追及されたNSXの空力は、例えば超扁平化されたミラーなどにも見て取れる。この装着のため、NSXはリヤビュー用のカメラを内蔵

フラットボトムへの対応

こうした事態を受けてJGTCを運営するGT－Aは、空力にかかわる車両規則の改正を行なうことになった。あまりにもコーナリング速度が上がると競技の安全性が確保できなくなるうえ、空力性能の追究には風洞実験をはじめとして膨大な開発費用がかかり、参加チームに大きな負担をかけるからである。

03年度に新たに導入されたフラットボトム規制は、前輪車軸と後輪車軸の間に位置する車体底面はひとつの平面でなければならないとする規則であり、これまで行なわれてきた補強名目での車体底面整形を無意味にする目的を持っていた。F1でもベンチュリーカーが発達した80年代はじめ、あまりにも走行性能が向上したことを危惧したFIAが同様のフラットボトム規制を導入したことがある。

フラットボトム規制には効果があり、年々向上していた空力性能は一気に大幅低下することになった。一説には、空力性能だけを見た場合、2年から3年分、レベルが逆戻りしたという。だが技術者たちは、新しい規制の下で可能な限り空力性能を絞り出すべく、異なる方向から空力性能追究に取り組んだ。ノーズ下に流れ込んだ空気の多くをフラットボトムが始まる前、前輪の後方側面から外へ抜く傾向が強まったのは、車体前方からノーズ下に導き入れた空気を従来通りそのままフラットボトム下へ流し込むと、逆に空気が車体を押し上げて逆に操縦安定性が失われるからだ。これは従来、主にFR車が採用していた手法だが、フラットボトム規制下ではNSXも同様の方向へ進まざるを得なくなった。ただし、03年フラットボトム規制と同時に導入されたキャビン前後のパイプフレーム化を許す規定によって、FR車のエンジンルーム内の整理が進み空気を効率よく流せるようになったのに対し、ミッドシップゆえにコックピットが前進しているNSXでは、フェンダー側面に空間的余裕がとれず、むしろ空力的にハンデを負ったのは興味深いところだ。

また、03年は前面投影面積ハンデが導入され、幅が狭く車高の低いNSXに重量ハンデが課せられた点も、NSX陣営には厳しい重荷となった。もはや前面投影面積が小さい自動車が高性能、と言われる時代ではなく、車体形状の工夫によって空気抵抗の倍以上もダウンフォースを稼ぎ出して走る現代のJGTC車両の場合、前面投影面積が大きい方が空力的な処理がしやすいという面もあるからだ。

結果的に03年のフラットボトム規制によって、FR車とミッドシップ車の間にあった空力的な有利不利はなくなったと言える。依然としてグラウンドエフェクトはJGTC車両の空力性能を支える重要な要因だが、これまでJGTCの空力チューニングをリードしてきたNSXは、FR車と同じ視点から空力を見直す必要に迫られているのである。



風洞実験用に製作される50％のスケールモデルには精密さ、剛性、軽量化が求められるため、その製作費もケタ違いの1千万円以上！

ALL MACHINE CATALOGUE 1994—2003

Photos/Toshikazu Moriyama, Hiroyuki Orihara, Naoki Kobayashi
Masahide Kamio, MPS, GT-A, i-dea

1994 GT1


1 CALSONIC SKYLINE (BNR32)


2 ZEXEL SKYLINE (BNR32)


3 UNISIA JECS SKYLINE (BNR32)


5 BLITZ SUPRA (JZA80)


9 acom PORSCHE RSR (964A)


10 JOHNSON SKYLINE (BNR32)


11 PROVA PORSCHE TURBO (964T)


14 CCI AMENBOU SILVIA (PS13)


24 COCKPIT TATEBAYASHI GT-R (BNR32)


25 FEDEX 300ZX-LM (Z32)


27 ROSSO LANCIA 037-MYZ


32 ORT LANTEC SKYLINE (BNR32)


34 TAISAN STARCARD F40


35 TAISAN STARCARD 962C


37 GRECO RACING SUPRA (JZA80)


39 TOYOTA SUPRA (JZA80)


40 TAISAN STARCARD F40


50 TAISAN ADVAN 962C


77 RR RACING BELLDEER GT-R (BNR32)


88 RAIN X ART COUNTACH (ZA9C)


100 ADVAN PORSCHE (964RSR)

GT2


11 HUNTER RACING TEAM (964A)


12 FK MASSIMO ERC RX7 (FC3S)


22 HASHIMOTOSHATAI DANDELION GTS (R32)


26 NAC WEST SKYLINE (DR30)


29 KORG KEGANI PORSCHE (964A)


33 μ'S OIL RX-7 (FC3S)


52 INTERGET OSUKA PORSCHE (964)


55 HAYASHI DENTAL 648 CARRERA (964A)


70 OHSHUSHAHANBAINO GAIKOKUYA SKYLINE (HR31)


72 IPF WAKO'S M3 (E30)

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003



32 LANTEC SKYLINE (BNR32)

54 Gatorade PORSCHE (964A)

70 OHSHUSHAHANBAINO GAIKOKUYA SKYLINE (HR31)

71 SOUND STREAM M3 (E30)

72 WAKO'S M3 (E30)

72 WAKO'S BMW M3 (E36)



23 TKC SUZUKI KAIKEI PORSCHE (964A)

23 TKC SUZUKI KAIKEI PORSCHE (993)

26 TAISAN BMW M3 (E30)

27 NAC WEST SKYLINE (DR30)

28 TAISAN BMW M3 (E30)

31 COBRA PORSCHE RS (964A)

31 NINETEN GATORADE PORSCHE (993RSR)



11 MURAUCHI ISHIMORI SEKIYU GTS-R (HR31)

12 EIMEI AUTO MIRAGE (C53A)

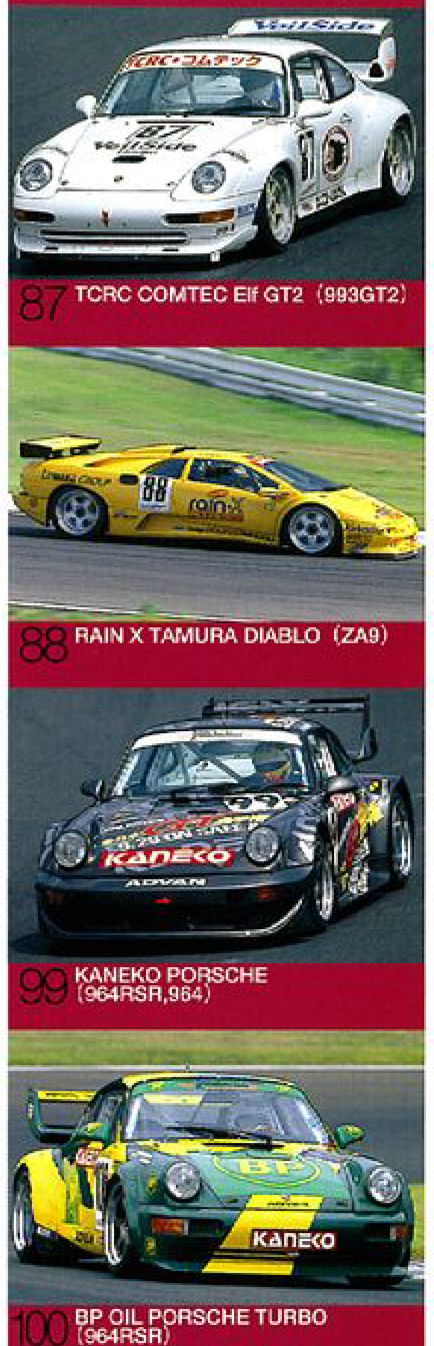
13 MICROLON μ'S DL RX7 (FC3S)

17 TOKYO KAGAKU GEIJUTSU SENMON GAKKO:RX-7 (FC3S)

18 ATS-BM·ERC·RX-7 (FC3S)

21 TEAM AB HIRO KYOSEISHIKA M3 (E30)

22 HASHIMOTOSHATAI INTEC SKYLINE (BNR32)



87 TCRC COMTEC Elf GT2 (993GT2)

88 RAIN X TAMURA DIABLO (ZA9)

99 KANEKO PORSCHE (964RSR,964)

100 BP OIL PORSCHE TURBO (964RSR)

GT2



6 SCHLOSS PORSCHE (964A)

7 RE AMEMIYA SuperG RX7 (FD3S)



38 TOYOTA SUPRA (JZA80)

39 SARD SUPRA GT (JZA80)

40 TAISAN STARCARD F40

41 KYOTO KINTETSU APR SILVIA (PS13)

55 JOMO R33 (BCNR33)

66 RAZO TRAMPIO GTR (BCNR33)

81 ENDLESS ADVAN GTR (BCNR33)



25 FEDEX 300ZX-LM (Z32)

30 SOGOKEIBI PORSCHE (993GT2)

33 TAISAN PORSCHE GT-2 (993GT2)

34 TAISAN STARCARD F40

34 STP TAISAN PORSCHE GT-2 (993GT2)

35 TAISAN STARCARD GT-2 (993GT2)

36 TOYOTA CASTROL SUPRA (JZA80)



4 NAKAHARU SKYLINE GTR (BNR32)

5 MATSUDA COLLECTION IDEMITSU PORSCHE (993GT2)

8 FET SPORTS SUPRA (JZA80)

10 JOHNSON SKYLINE (BCNR33)

15 PROVA PORSCHE TURBO (964T)

19 JUN SKYLINE GT-R (BNR32)

22 HASHIMOTOSHATAI INTEC SKYLINE (BNR32)

1995 GT1



1 CALSONIC SKYLINE (BNR32)

1 CALSONIC SKYLINE (BCNR33)

2 ZEXEL WISE SKYLINE (BNR32)

2 ZEXEL WISE SKYLINE (BCNR33)

3 UNISIA JECS SKYLINE (BNR32)

3 UNISIA JECS SKYLINE (BCNR33)

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003

1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003



91 BUDDY CLUB MR-2（SW20）

95 DAISHIN SILVIA（PS13）

910 NINETEN PORSCHE（993RSR）



31 CALTEX PORSCHE（993RS,993RSR）

38 TAISAN FUSPEED PORSCHE（993RS）

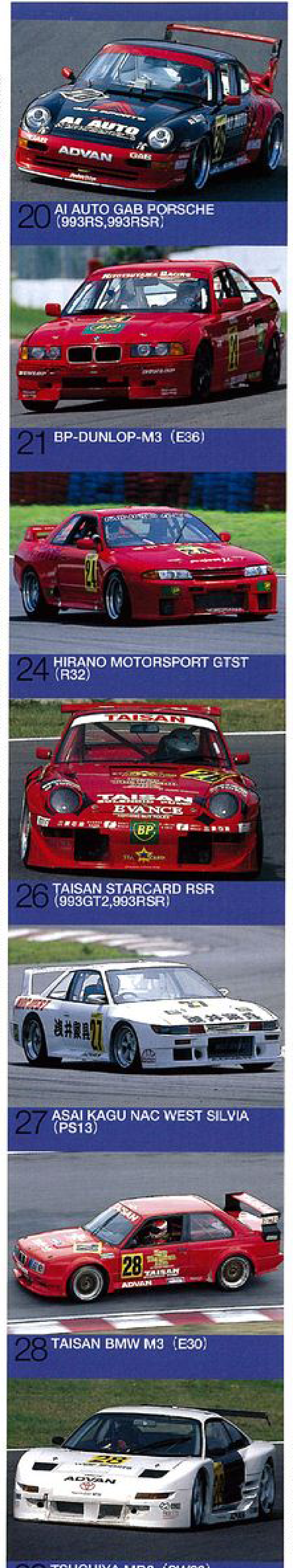
51 COBRA PORSCHE（993RSR）

57 CASTROL SF efini RX7（FD3S）

70 GAIKOKUYA ADVAN DOLIVE PORSCHE（993RS）

72 WAKO'S BMW M3（E30）

72 WAKO'S BMW M3（E36）



20 AI AUTO GAB PORSCHE（993RS,993RSR）

21 BP-DUNLOP-M3（E36）

24 HIRANO MOTORSPORT GTST（R32）

26 TAISAN STARCARD RSR（993GT2,993RSR）

27 ASAI KAGU NAC WEST SILVIA（PS13）

28 TAISAN BMW M3（E30）

28 TSUCHIYA MR2（SW20）



9 SCHLOSS PORSCHE（993RS）

11 MURAUCHI KAMEI GTS-R（HR31）

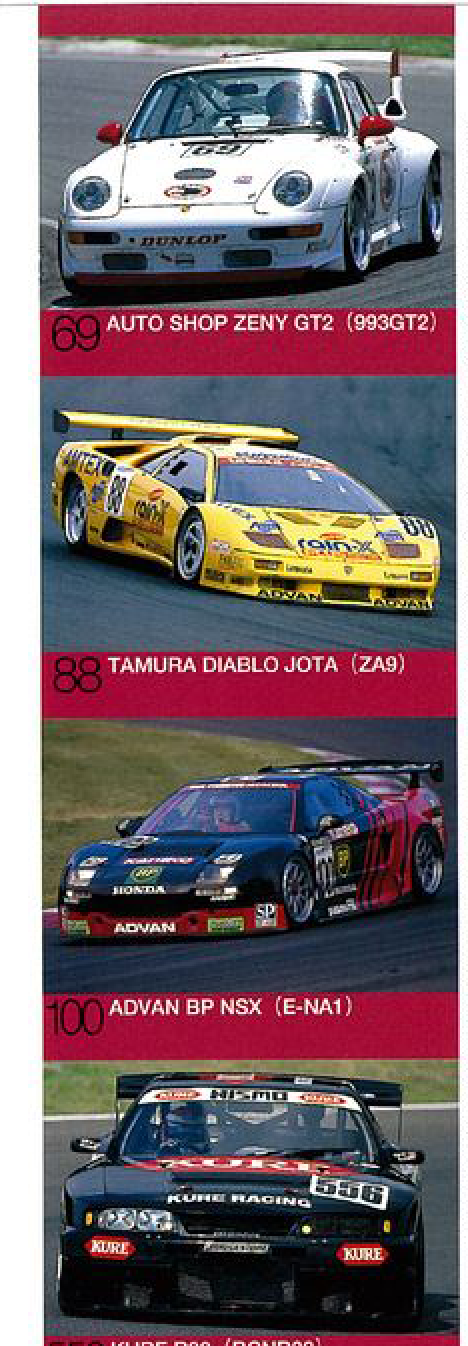
12 PERSON'S SILVIA（S14）

14 PAULRICARD EIMEI MIRAGE（C53A）

17 TOKYO KAGAKU GEIJUTSU SENMON GAKKO:RX-7（FC3S）

18 GOLDEN BEAR PORSCHE（993RSR,993RS）

1996 GT500



69 AUTO SHOP ZENY GT2（993GT2）

88 TAMURA DIABLO JOTA（ZA9）

100 ADVAN BP NSX（E-NA1）

556 KURE R33（BCNR33）



36 CASTROL TOM'S SUPRA（JZA80）

37 CASTROL CERUMO SUPRA（JZA80）

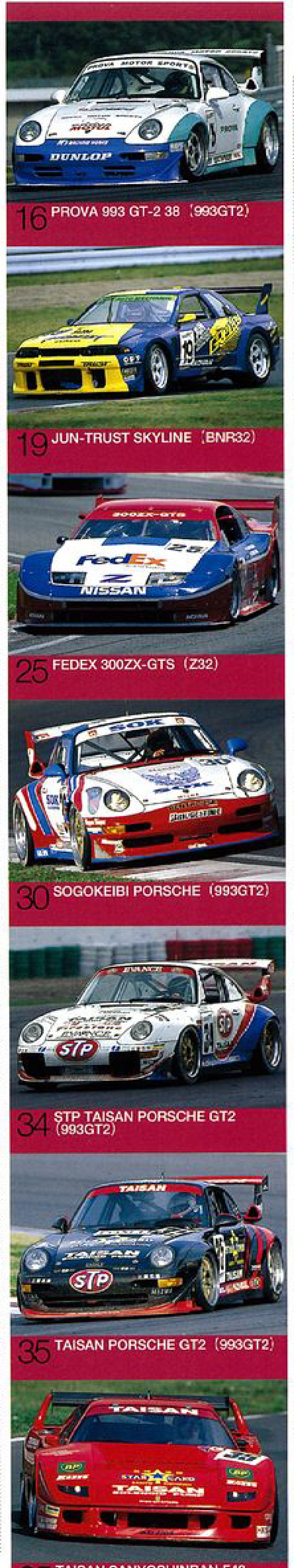
39 SARD SUPRA GT（JZA80）

43 BMB MINI JUKE PORSCHE（964RSR）

55 WISE SKYLINE GTR（BCNR33）

60 LARK McLAREN F1 GTR

61 LARK McLAREN F1 GTR



16 PROVA 993 GT-2 38（993GT2）

19 JUN-TRUST SKYLINE（BNR32）

25 FEDEX 300ZX-GTS（Z32）

30 SOGOKEIBI PORSCHE（993GT2）

34 STP TAISAN PORSCHE GT2（993GT2）

35 TAISAN PORSCHE GT2（993GT2）

35 TAISAN SANYOSHINPAN F40



1 CALSONIC SKYLINE（BCNR33）

2 ZEXEL SKYLINE（BCNR33）

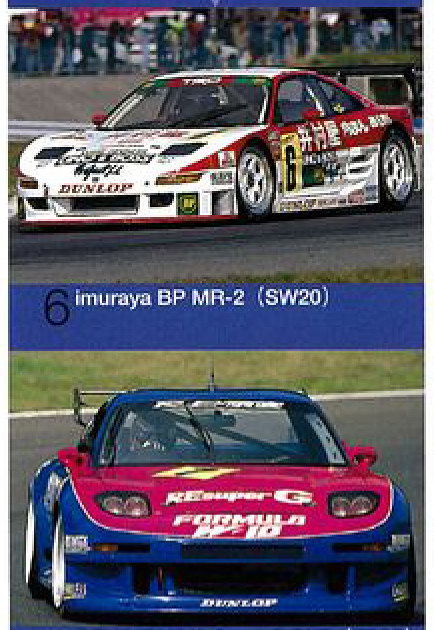
3 UNISIA JECS SKYLINE（BCNR33）

5 CHATERAISE PORCHE GT2（993GT2）

8 FET SPORTS SUPRA（JZA80）

15 PROVA 964 TWIN TURBO（964T）

GT300



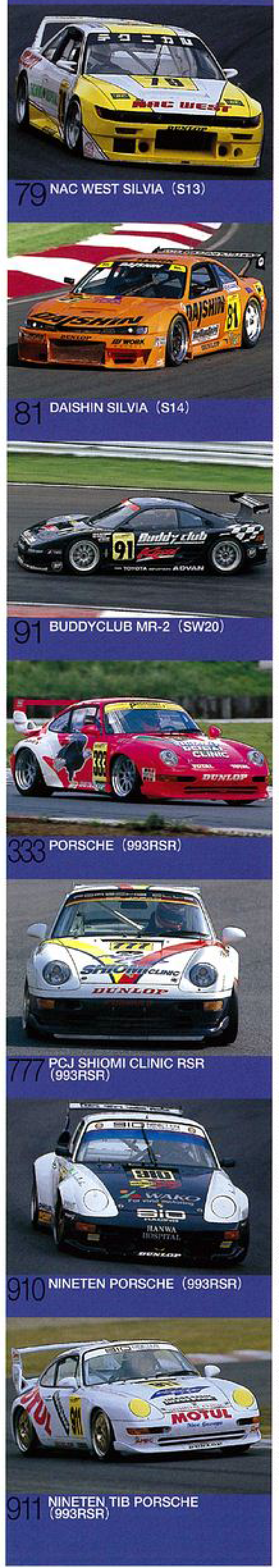
6 imuraya BP MR-2（SW20）

7 RE AMEMIYA SuperG RX7（FD3S）

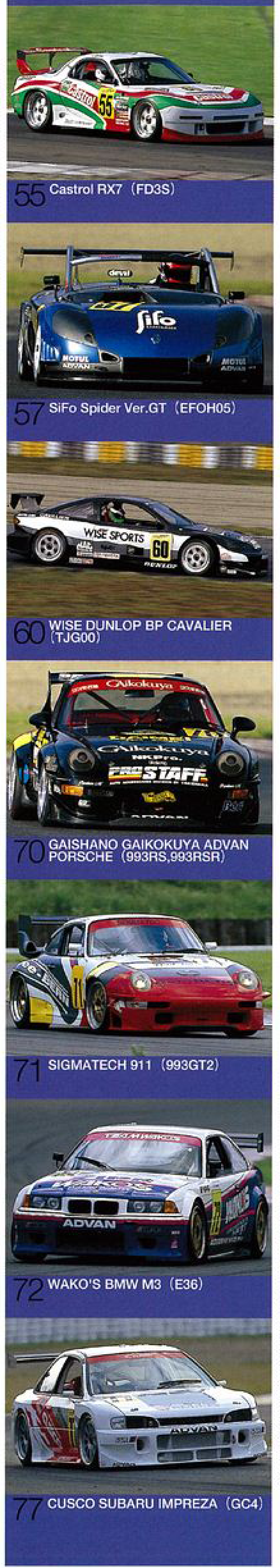
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003

1997 GT500

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003



79 NAC WEST SILVIA (S13)
81 DAISHIN SILVIA (S14)
91 BUDDYCLUB MR-2 (SW20)
333 PORSCHE (993RSR)
777 PCJ SHIOMI CLINIC RSR (993RSR)
910 NINETEN PORSCHE (993RSR)
911 NINETEN TIB PORSCHE (993RSR)



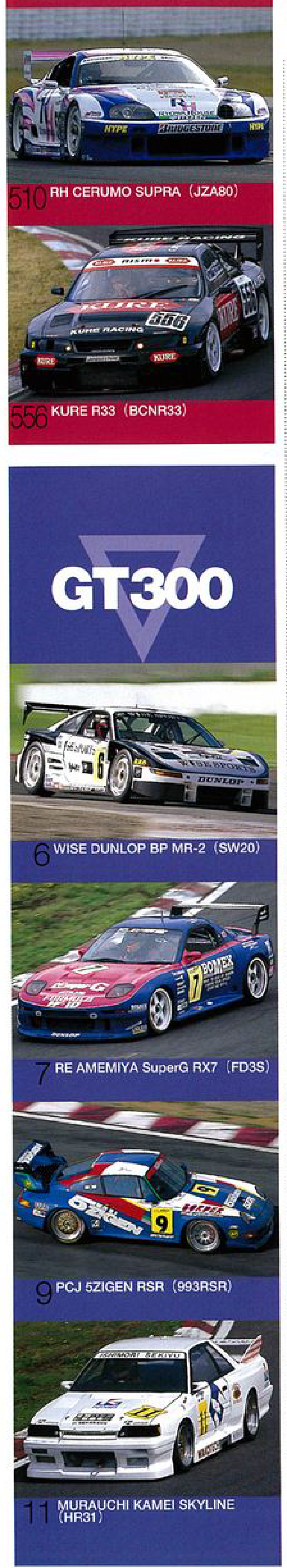
55 Castrol RX7 (FD3S)
57 SiFo Spider Ver.GT (EFOH05)
60 WISE DUNLOP BP CAVALIER (TJG00)
70 GAISHANO GAIKOKUYA ADVAN PORSCHE (993RS,993RSR)
71 SIGMATECH 911 (993GT2)
72 WAKO'S BMW M3 (E36)
77 CUSCO SUBARU IMPREZA (GC4)



25 TSUCHIYA MR2 (SW20)
26 TAISAN STARCARD RSR (993GT2,993RSR)
27 TEAM FCJ FERRARI (F355)
28 TEAM FCJ FERRARI (F355)
45 FRIEND NITTO SEASIDE SILVIA (S13)
51 COBRA PORSCHE (993RSR)
54 SCHNELL PORSCHE SDR (993RSR)



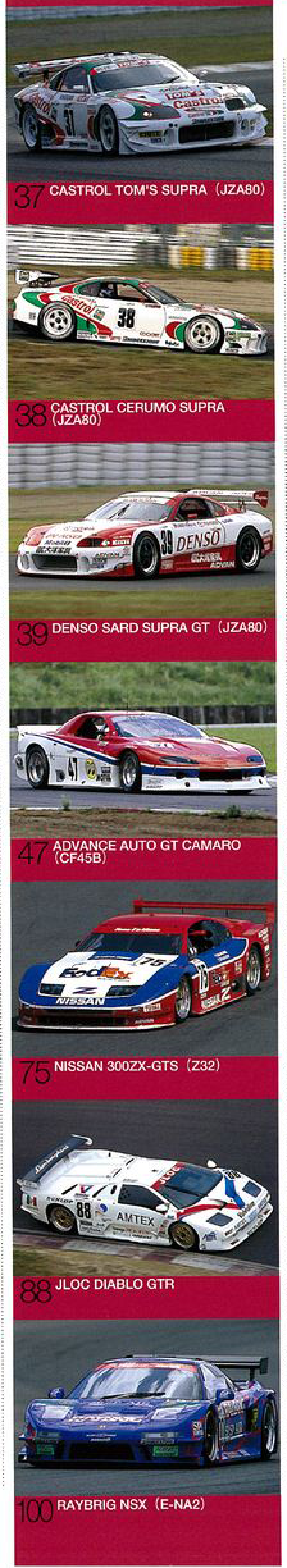
15 KAMCO WORKSTATION GTR (BNR32)
16 YB BMW 325i COUPE (E36)
17 TOKYO KAGEISEN:RX7 (FC3S)
17 TOKYO KAGEISEN:RE ROADSTER (NA6CE)
19 RS☆R SILVIA (S14)
20 AI AUTO GAB PORSCHE (993RSR)
21 DUNLOP-BP-BMW (E36)



510 RH CERUMO SUPRA (JZA80)
556 KURE R33 (BCNR33)

GT300

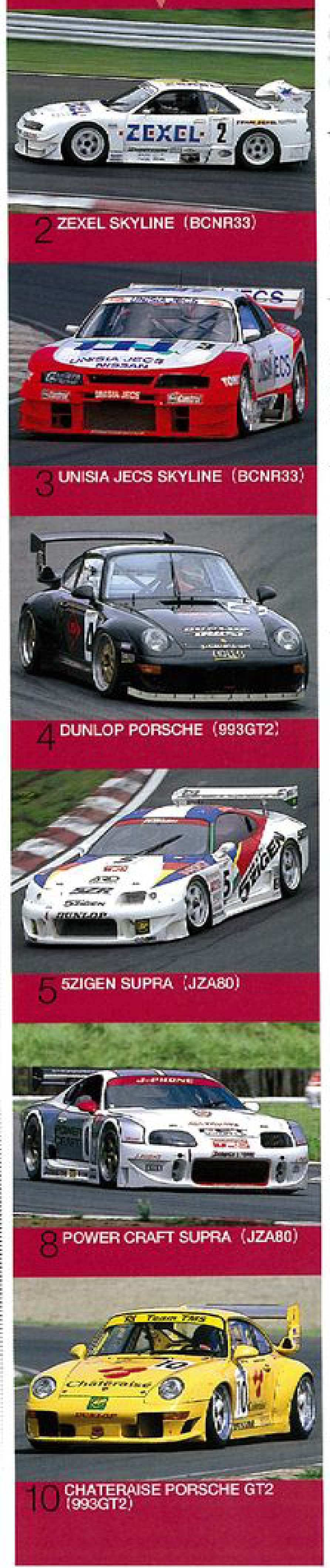
6 WISE DUNLOP BP MR-2 (SW20)
7 RE AMEMIYA SuperG RX7 (FD3S)
9 PCJ 5ZIGEN RSR (993RSR)
11 MURAUCHI KAMEI SKYLINE (HR31)



37 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)
38 CASTROL CERUMO SUPRA (JZA80)
39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)
47 ADVANCE AUTO GT CAMARO (CF45B)
75 NISSAN 300ZX-GTS (Z32)
88 JLOC DIABLO GTR
100 RAYBRIG NSX (E-NA2)



12 CALSONIC SKYLINE (BCNR33)
13 ENDLESS ADVAN GTR (BCNR33)
18 avex DOME MUGEN NSX (E-NA2)
30 SOGOKEIBI PORSCHE (993GT2)
34 STP TAISAN ADVAN GT-2 (993GT2)
34 STP TAISAN ADVAN VIPER
36 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)



2 ZEXEL SKYLINE (BCNR33)
3 UNISIA JECS SKYLINE (BCNR33)
4 DUNLOP PORSCHE (993GT2)
5 5ZIGEN SUPRA (JZA80)
8 POWER CRAFT SUPRA (JZA80)
10 CHATERAISE PORSCHE GT2 (993GT2)

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003



117 WHEEL SHOP ALTA RX7 (FD3S)

280 ADVAN TARGA SPORT NSX (NA1)

355 YELLOW MAGIC F355GT

910 NINETEN PORSCHE (993RSR)

911 NINETEN PCJ PORSCHE (993RSR)

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003



72 OKURA RX7 (FD3S)

77 CUSCO SUBARU IMPREZA (GC4)

79 NAC WEST SILVIA (S13)

81 DAISHIN DUNLOP SILVIA (S14)

91 KOSEI & BUDDYCLUB MR2 (SW20)

91 KOSEI & BUDDYCLUB CELICA (ST205)

99 PCJ DAIKOKUYA PORSCHE (993RSR)



28 TFCJ FERRARI F355GT

44 APEX DL MOMOCORSE MR2 (SW20)

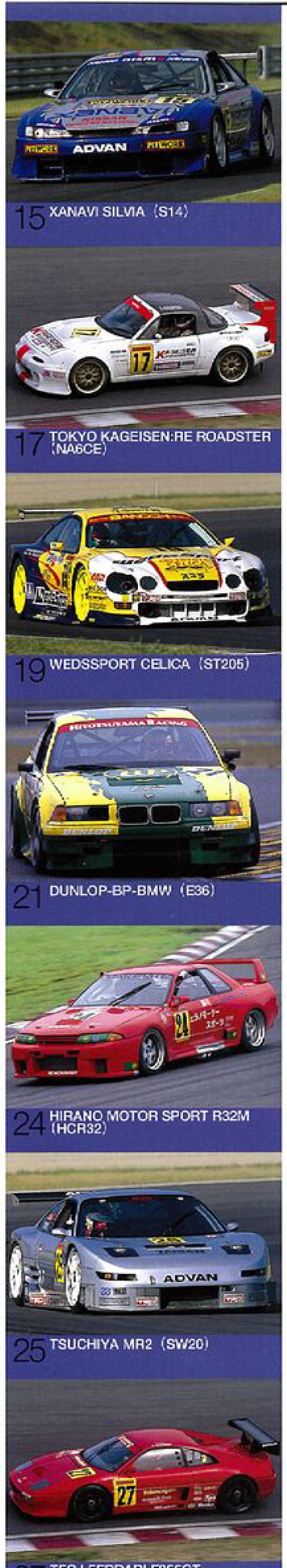
51 COBRA PORSCHE (993RSR)

60 TOYOTA CAVALIER (TJG00)

61 TAEIVON TRAMPIO FTO (DE3A)

70 GAISHANO GAIKOKUYA DUNLOP PORSCHE (993GT2)

71 SIGMATECH 911 (993GT2)



15 XANAVI SILVIA (S14)

17 TOKYO KAGEISEN:RE ROADSTER (NA6CE)

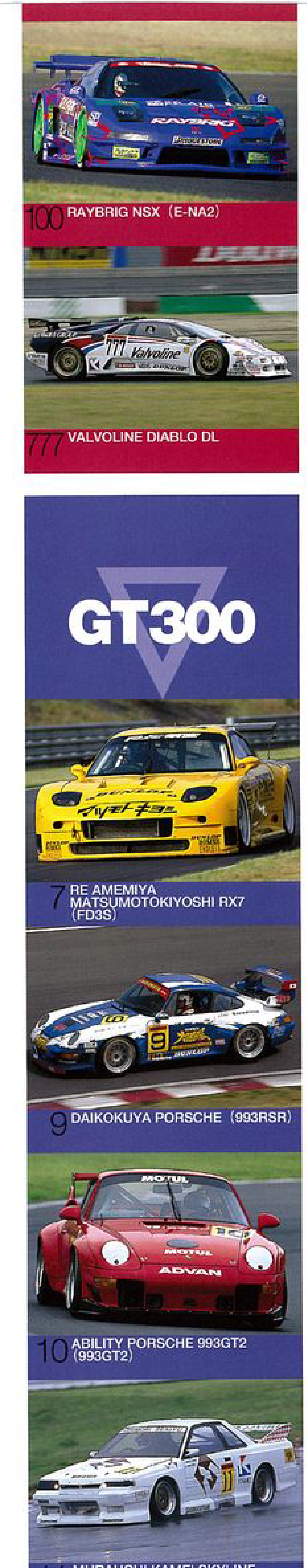
19 WEDSSPORT CELICA (ST205)

21 DUNLOP-BP-BMW (E36)

24 HIRANO MOTOR SPORT R32M (HCR32)

25 TSUCHIYA MR2 (SW20)

27 TFCJ FERRARI F355GT



100 RAYBRIG NSX (E-NA2)

777 VALVOLINE DIABLO DL

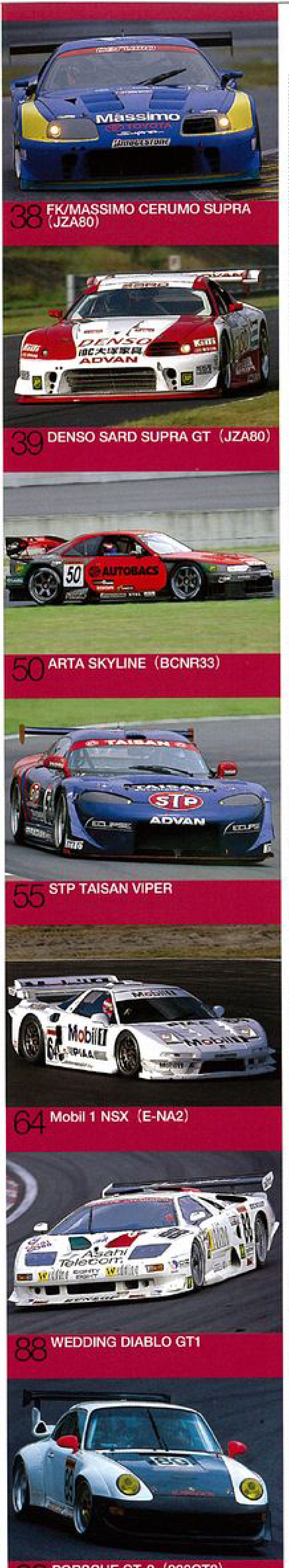
GT300

7 RE AMEMIYA MATSUMOTOKIYOSHI RX7 (FD3S)

9 DAIKOKUYA PORSCHE (993RSR)

10 ABILITY PORSCHE 993GT2 (993GT2)

11 MURAUCHI KAMEI SKYLINE (HR31)



38 FK/MASSIMO CERUMO SUPRA (JZA80)

39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)

50 ARTA SKYLINE (BCNR33)

55 STP TAISAN VIPER

64 Mobil 1 NSX (E-NA2)

88 WEDDING DIABLO GT1

89 PORSCHE GT-2 (993GT2)



13 ENDLESS ADVAN GTR (BCNR33)

16 Castrol MUGEN NSX (E-NA2)

18 TAKATA DOME MUGEN NSX (E-NA2)

23 PENNZOIL NISMO GTR (BCNR33)

30 SOK PORSCHE (993GT2)

36 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)

37 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)

1998 GT500



2 ZEXEL SKYLINE (BCNR33)

3 UNISIA JECS SKYLINE (BCNR33)

5 5ZIGEN SUPRA (JZA80)

6 ESSO Tiger Supra (JZA80)

8 FET SPORTS SUPRA (JZA80)

12 CALSONIC SKYLINE (BCNR33)

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003


99 DAIKOKUYA ARC PORSCHE (993RSR)


111 JIM GAINER F355


355 YELLOW MAGIC F355


910 NINETEN ADVAN PORSCHE (993RSR)


911 DIAMOND PORSCHE (993RSR)

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003


71 SIGMATEC 911 (993GT2)


72 OKURA RX7 (FD3S)

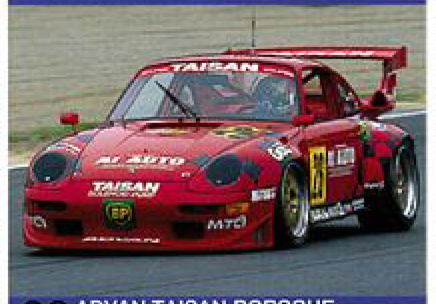

77 CUSCO SUBARU IMPREZA (GC4)


81 DAISHIN SILVIA (S15)


84 I.A.TEC SILVIA (S14)


86 BP APEX KRAFT TRUENO (AE86)


25 MOMOCORSE A'PEX MR2 (SW20)


26 ADVAN TAISAN PORSCHE (993GT2,993RSR)


26 STP ADVAN TAISAN GT3R (996GT3R)


55 ADVAN TAISAN PORSCHE RSR (993RSR,993GT2)


61 TAEIVON TRAMPIO FTO (DE3A)


70 GAISHANO GAIKOKUYA ADVAN PORSCHE (993RSR,993GT2)

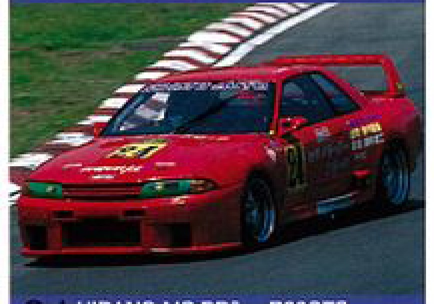

14 WHEEL SHOP ALTA RX7 (S14)


15 XANAVI ARTA SILVIA (S15)


19 WEDSSPORT CELICA (ST205)


20 AUTOLET CELICA (ST205)


21 BP-TRAMPIO-BMW (E36)


24 HIRANO MS BP&μ R32GTS (HCR32)

1999 GT500


88 NOMAD DIABLO GT-1 (ZA9ODE068)


100 RAYBRIG NSX (E-NA2)

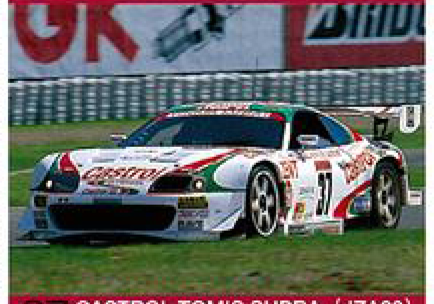
GT300


7 RE AMEMIYA MATSUMOTOKIYOSHI RX7 (FD3S)


9 DAIKOKUYA PROKIDAI PORSCHE (993RSR)


10 ABILITY MARIO PORSCHE (993GT2)


36 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)


37 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)


38 FK/MASSIMO CERUMO SUPRA (JZA80)


39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)


55 STP ADVAN TAISAN VIPER


64 Mobil 1 NSX (E-NA2)


12 CALSONIC SKYLINE (BNR34)

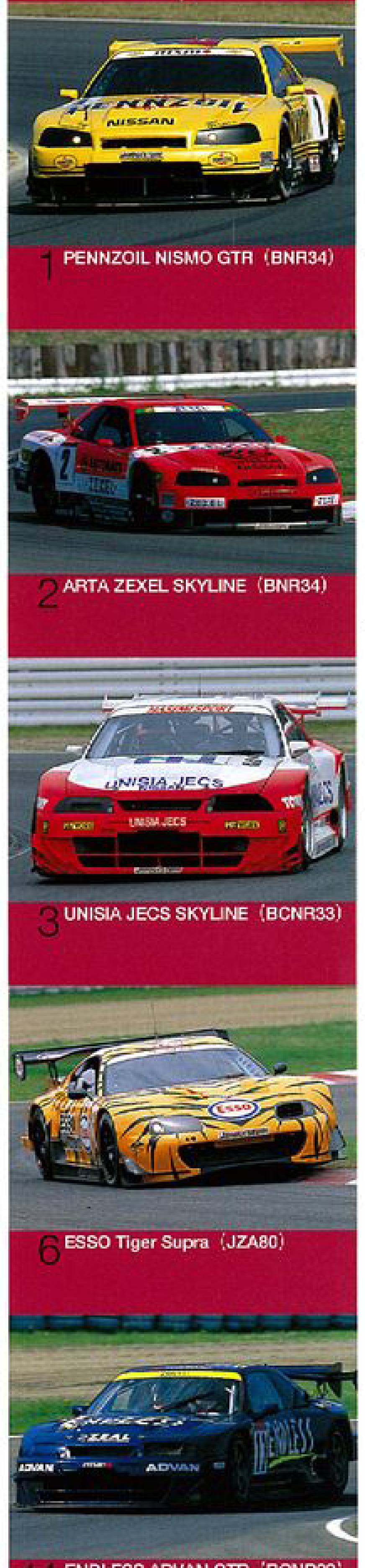

16 Castrol MUGEN NSX (E-NA2,GH-NA2)


18 TAKATA DOME NSX (E-NA2)


30 SOK McLaren GTR (19R GTR)


32 cdma One CERUMO SUPRA (JZA80)

35 MATSUMOTOKIYOSHI TOM'S SUPRA (JZA80)


1 PENNZOIL NISMO GTR (BNR34)

2 ARTA ZEXEL SKYLINE (BNR34)

3 UNISIA JECS SKYLINE (BCNR33)

6 ESSO Tiger Supra (JZA80)

11 ENDLESS ADVAN GTR (BCNR33)

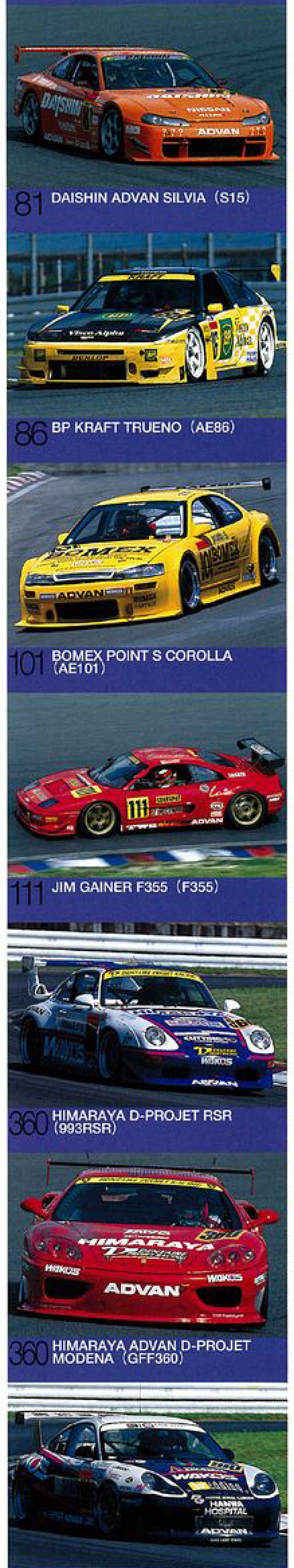
2000 GT500

ALL MACHINE CATALOGUE 1994—2003

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003



911 DIAMOND ADVAN PORSCHE (996GT3R)



81 DAISHIN ADVAN SILVIA (S15)

86 BP KRAFT TRUENO (AE86)

101 BOMEX POINT S COROLLA (AE101)

111 JIM GAINER F355 (F355)

360 HIMARAYA D-PROJET RSR (993RSR)

360 HIMARAYA ADVAN D-PROJET MODENA (GFF360)

910 NINETEN WEDDING ADVAN PORSCHE (996GT3R)



28 ECLIPSE RD TAISAN GT3R (GT3R)

31 SUPER AUTOBACS A'PEX MR-S (ZZW30)

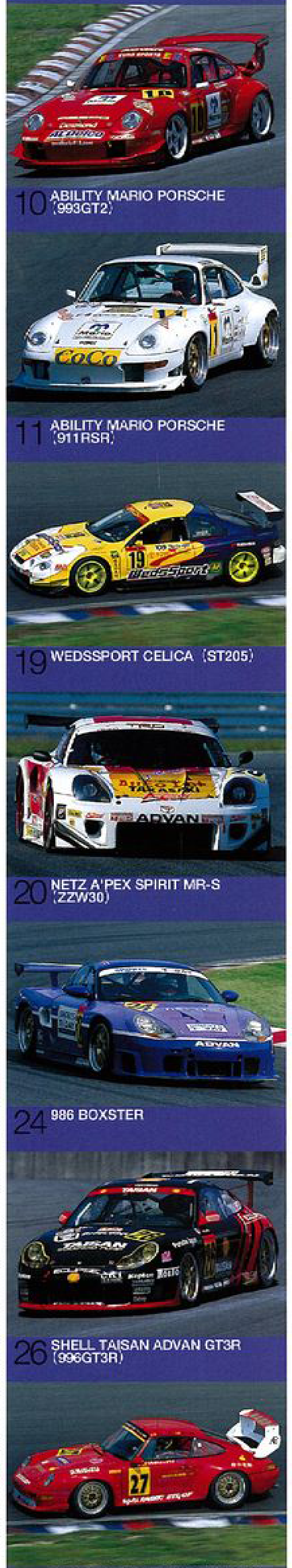
51 C-WEST AUTO STAFF ADVAN SILVIA (S14)

55 DUPLEX TAISAN AD VIPER

70 GAISHANO GAIKOKUYA ADVAN PORSCHE (993GT2)

71 SIGMATEC 911 (993GT2)

77 CUSCO SUBARU IMPREZA (GC8)



10 ABILITY MARIO PORSCHE (993GT2)

11 ABILITY MARIO PORSCHE (911RSR)

19 WEDSSPORT CELICA (ST205)

20 NETZ A'PEX SPIRIT MR-S (ZZW30)

24 986 BOXSTER

26 SHELL TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)

27 PCJ SHIOMISEKKEI & SENNARI PORSCHE (993RSR)



69 RGS-MIRAGE (GT1)

88 NOMAD DIABLO GT-1 (ZA90DE068)

100 RAYBRIG NSX (E-NA2,GH-NA2)

GT300



5 PORSCHE CARRERA RS (996GT3R)

7 RE AMEMIYA MATSUMOTOKIYOSHI RX7 (FD3S)

9 DAIKOKUYA ARC PORSCHE (993RSR)



35 MATSUMOTOKIYOSHI TOM'S SUPRA (JZA80)

36 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)

37 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)

38 FK/MASSIMO CERUMO SUPRA (JZA80)

39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)

55 ECLIPSE RD TAISAN VIPER

64 Mobil 1 NSX (E-NA2,GH-NA2)



15 RGS-MIRAGE (GT1)

16 Castrol MUGEN NSX (E-NA2,GH-NA2)

18 TAKATA DOME NSX (E-NA2,GH-NA2)

21 ZERO McLAREN GTR (19R GTR)

25 ENDLESS ADVAN SUPRA (JZA80)

30 SOK McLAREN GTR (19R GTR)

32 cdma One CERUMO SUPRA (JZA80)



1 LOCTITE ZEXEL GT-R (BNR34)

2 CASTROL NISMO GT-R (BNR34)

3 UNISIA XANAVI SKYLINE (BNR34)

6 ESSO ULTRON TIGER SUPRA (JZA80)

8 ARTA NSX (E-NA2,GH-NA2)

12 CALSONIC SKYLINE (BNR34)

1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003



86 Project μ ESPELIR MR-S (ZZW30)

360 DENTAIR FERRARI 360 WEDDING (GF-F360)

900 MT900R (MT900R)

901 K-STADIUM MT900R (MT900R)

910 910 RODEO DRIVE ADVAN PORSCHE (996GT3R)

911 DIAMOND ADVAN PORSCHE (996GT3R)



65 AMPREX elf RX-7 (FD3S)

70 GAISHANO GAIKOKUYA ADVAN PORSCHE (996GT3R)

71 SIGMA MR-S (ZZW30)

77 CUSCO SUBARU IMPREZA (GC8)

81 DAISHIN ADVAN SILVIA (S15)

86 Project μ ESPELIR TRUENO (AE86)



26 SHELL TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)

31 ARTA A'PEX MR-S (ZZW30)

51 C-WEST RAZO ADVAN SILVIA (S15)

55 ECLIPSE OMEGA TAISAN VIPER (C8)

62 R&D SPORTS DUNLOP GT3R (996GT3R)

63 LEYJUN R&D DUNLOP GT3R (996GT3R)



7 AMEMIYA MATSUMOTOKIYOSHI ASPARA RX7 (FD3S)

9 ARC DAIKOKUYA PORSCHE (996GT3R)

10 ABILITY RESPO PORSCHE (993)

11 JIM MEDICOM GT3R (996GT3R)

19 WEDSSPORT MR-S (ZZW30)

24 JCM TAISAN GT3R (996GT3R)

GT300



100 RAYBRIG NSX (GH-NA2)

0 Netz BP Kosei MR-S (ZZW30)

2 VERNO TOKAI AR DREAM 28 NSX (NA2)

3 UNISIA JECS SILVIA (S15)

5 BSA PORSCHE TEAM COMPETIZIONE (993RS)

2001 GT500



36 CASTROL TOM'S SUPRA (JZA80)

37 MATSUKIYO ZENT TOM'S SUPRA (JZA80)

38 au CERUMO SUPRA (JZA80)

39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)

64 Mobil 1 NSX (GH-NA2)

88 NOMAD DIABLO JGT1 (ZA90DE068)



21 YELLOW CORN McLAREN GTR (19R GTR)

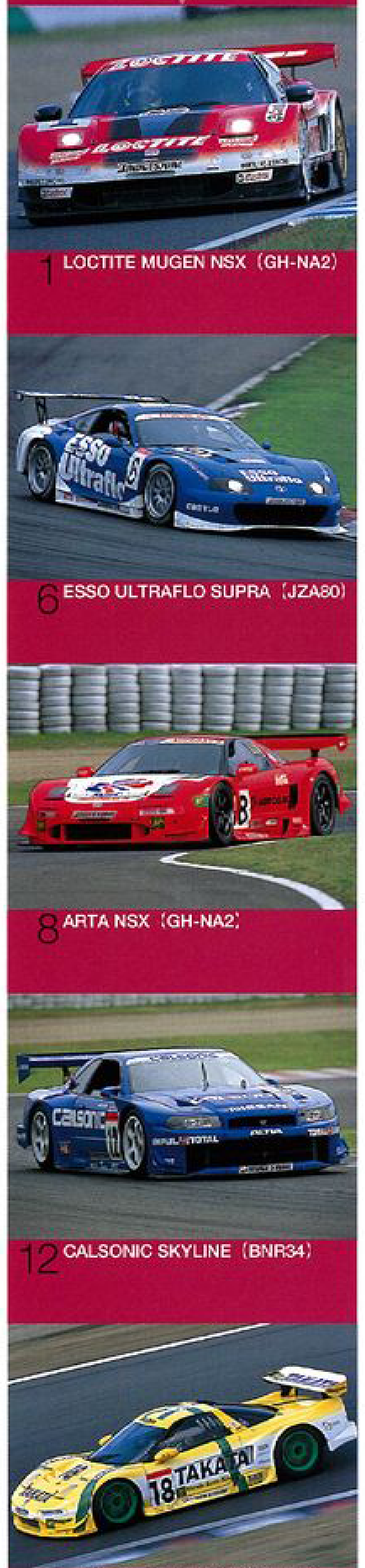
22 XANAVI HIROTO GT-R (BNR34)

23 PENNZOIL ZEXEL GT-R (BNR34)

25 FK/MASSIMO ADVAN SUPRA (JZA80)

30 SOK McLaren GTR (19R GTR)

33 TEAM UKYO SUPRA (JZA80)



1 LOCTITE MUGEN NSX (GH-NA2)

6 ESSO ULTRAFLO SUPRA (JZA80)

8 ARTA NSX (GH-NA2)

12 CALSONIC SKYLINE (BNR34)

18 TAKATA DOME NSX (GH-NA2)

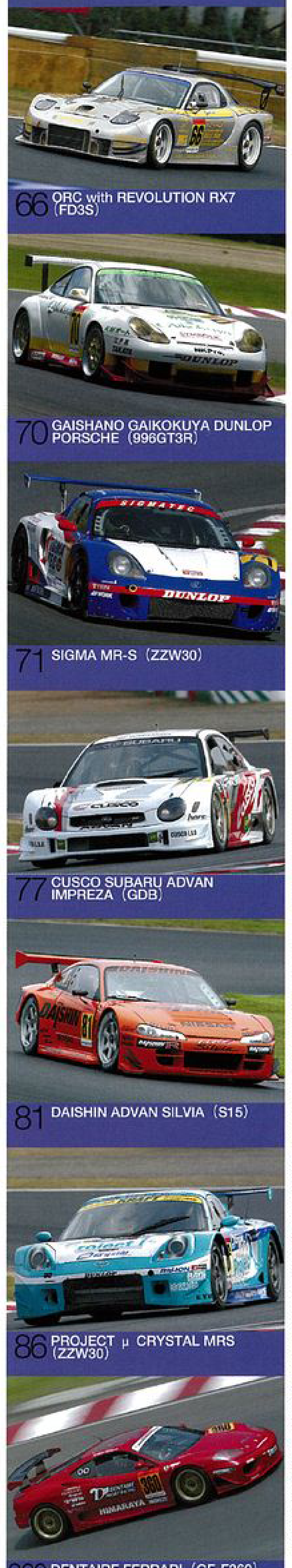
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003



910 910 RODEO DRIVE ADVAN GT3R (996GT3R)

910 BORO SENNARI 910 PORSCHE (996GT3R)



66 ORC with REVOLUTION RX7 (FD3S)

70 GAISHANO GAIKOKUYA DUNLOP PORSCHE (996GT3R)

71 SIGMA MR-S (ZZW30)

77 CUSCO SUBARU ADVAN IMPREZA (GDB)

81 DAISHIN ADVAN SILVIA (S15)

86 PROJECT μ CRYSTAL MRS (ZZW30)

360 DENTAIRE FERRARI (GF-F360)



31 ARTA A'PEX MR-S (ZZW30)

51 C-WEST AUTOSTAFF ADVAN SILVIA (S15)

55 ECLIPSE TAISAN AD VIPER (C8)

61 ASports R&D DUNLOP GT3R (996GT3R)

62 R&D SPORT DUNLOP GT3R (996GT3R)

62 Vemac R&D DUNLOP 320R (RD320R)

63 LEYJUN R&D DUNLOP GT3R (996GT3R)



15 AMPREX BMW M3GT (E46)

17 Kosei SPIRIT MR-S (ZZW30)

19 WEDSSPORT MR-S (ZZW30)

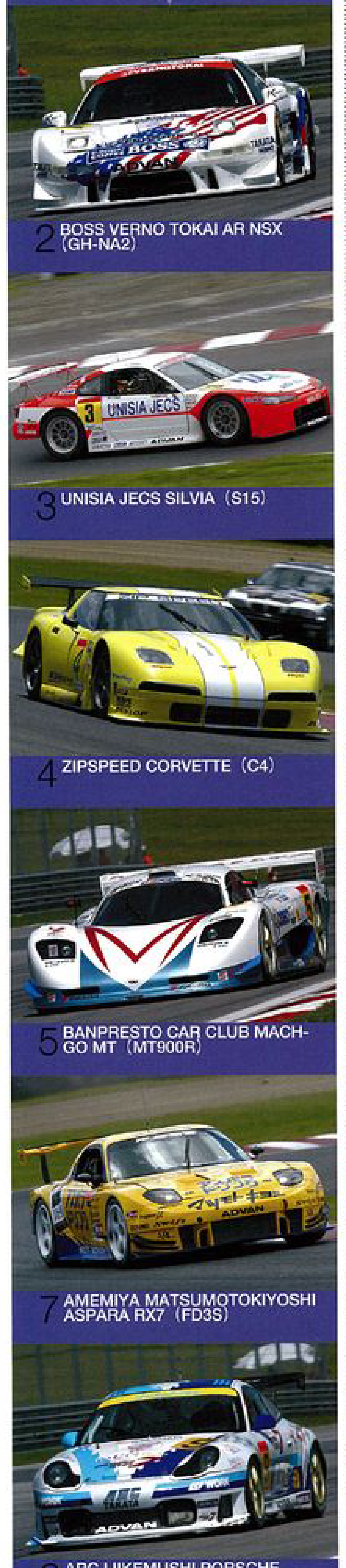
21 DUNLOP BMW M3 (E46)

24 Endless TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)

26 PLUS e TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)

28 DIRECTION TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)

GT300



2 BOSS VERNO TOKAI AR NSX (GH-NA2)

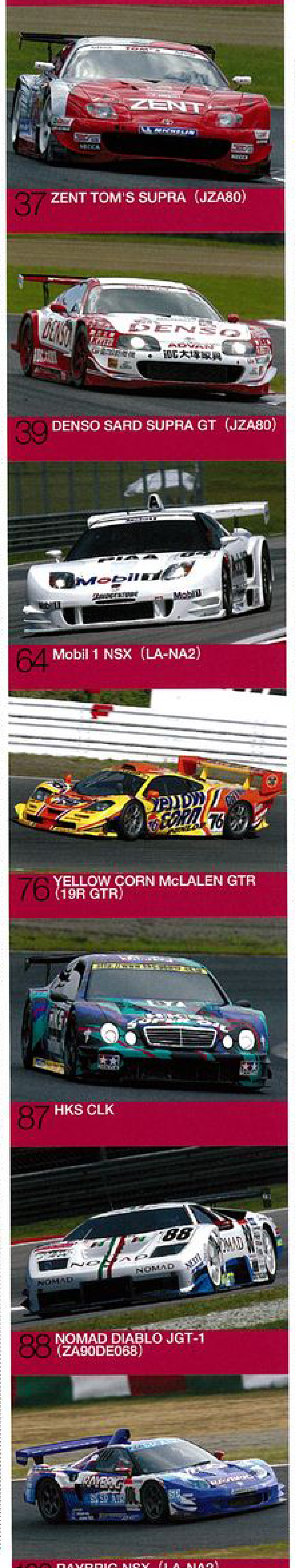
3 UNISIA JECS SILVIA (S15)

4 ZIPSPEED CORVETTE (C4)

5 BANPRESTO CAR CLUB MACH-GO MT (MT900R)

7 AMEMIYA MATSUMOTOKIYOSHI ASPARA RX7 (FD3S)

9 ARC IJIKEMUSHI PORSCHE (996GT3R)



37 ZENT TOM'S SUPRA (JZA80)

39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)

64 Mobil 1 NSX (LA-NA2)

76 YELLOW CORN McLALEN GTR (19R GTR)

87 HKS CLK

88 NOMAD DIABLO JGT-1 (ZA90DE068)

100 RAYBRIG NSX (LA-NA2)



22 XANAVI NISMO GT-R (BNR34)

23 CASTROL PITWORK GT-R (BNR34)

25 FK/MASSIMO ADVAN SUPRA (JZA80)

30 SOK McLaren (19R GTR)

33 United UKYO SUPRA (JZA80)

35 PROJECT μ ESPELIR SUPRA (JZA80)

36 TOKUHON TOM'S SUPRA (JZA80)

2002 GT500



1 au CERUMO SUPRA (JZA80)

6 ESSO ULTRAFLO SUPRA (JZA80)

8 ARTA NSX (LA-NA2)

12 CALSONIC SKYLINE (BNR34)

16 MUGEN NSX (LA-NA2)

18 TAKATA DOME NSX (LA-NA2)

1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003

ALL MACHINE CATALOGUE 1994–2003

2003 GT500

GT300

1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003



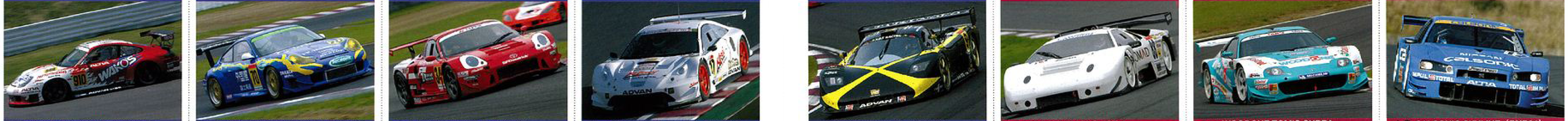
61 R&D SPORT DUNLOP GT3R (996GT3R)
24 Endless TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)
14 CASTLE IDEAL RX7 (FD3S)
3 HASEMISPORT ENDLESS Z (Z33)
62 Vemac R&D DUNLOP 350R (RD350R)
23 XANAVI NISMO GT-R (BNR34)



81 DAISHIN ADVAN SILVIA (S15)
63 LEYJUN DUNLOP 320R
26 PLUS e TAISAN ADVAN GT3R (996GT3R)
15 AMPREX BMW M3GT (E46)
5 BANPRESTO B-1 MACH-GO GT 320R (RD320R)
64 Mobil 1 NSX (LA-NA2)
25 ADVAN SUPRA (JZA80)
1 ESSO ULTRAFLO SUPRA (JZA80)



111 ARKTECH ADVAN GT3 (996GT3R)
69 FK/MASSIMO GAIKOKUYA ADVAN GT3R (996GT3R)
31 RECKLESS MR-S (ZZW30)
17 Kosei SPIRIT MR-S (ZZW30)
7 AMEMIYA MATSUMOTO-KIYOSHI ASPARA RX7 (FD3S)
76 YELLOW CORN McLAREN GTR (19R GTR)
35 PROJECT μ ESPELIR SUPRA (JZA80)
8 ARTA NSX (LA-NA2)



910 910 BORO ADVAN PORSCHE (996GT3R)
70 GAISHANO GAIKOKUYA DUNLOP PORSCHE (996GT3R)
34 DENTAIRE MR-S (ZZW30)
17 Kosei SPIRIT CELICA (ZZT231)
9 MACHINE X MT (MT900R)
88 NOMAD DIABLO JGT-1 (ZA90DW068)
36 WOODONE TOM'S SUPRA (JZA80)
12 CALSONIC SKYLINE (BNR34)



911 TAKAMIZAWA VITAL POINT GT3R (996GT3R)
71 SIGMA MR-S (ZZW30)
43 ARTA Garaiya (SA9VGR)
19 WEDSSPORT MR-S (ZZW30)
10 LEYJUN DUNLOP GT-1 (GT1)
100 RAYBRIG NSX (LA-NA2)
37 ZENT TOM'S SUPRA (JZA80)
16 G'ZOX MUGEN NSX (LA-NA2)



71 SIGMA DUNLOP CELICA (ZZT231)
51 C-WEST AUTOSTAFF ADVAN SILVIA (S15)
19 WEDSSPORT CELICA (ZZT231)
10 LEYJUN DUNLOP GT3R (996GT3R)
38 au CERUMO SUPRA (JZA80)
18 TAKATA DOME NSX (LA-NA2)



77 CUSCO SUBARU ADVAN IMPREZA (GDB)
55 ECLIPSE TAISAN ADVAN VIPER (C8)
21 DUNLOP BMW M3GT (E46)
11 JIM RodeoDrive ADVAN F360 (GF-F360)
2 RENEWCAR VERNO TOKAI NSX (GH-NA2)
39 DENSO SARD SUPRA GT (JZA80)
22 MOTUL PITWORK GT-R (BNR34)

●1994年から2003年までに全日本GT選手権に出場したマシンを、カーナンバーに基づいて各年度ごとに掲載。単年度の間にベース車両が変更された場合はそれぞれを載せている。なお、車名はエントリーリストを参考に制作している。

1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003

THE

VOICE

JGTC KEY PERSON SHORT INTERVIEW

GTに魅了された男たちの声



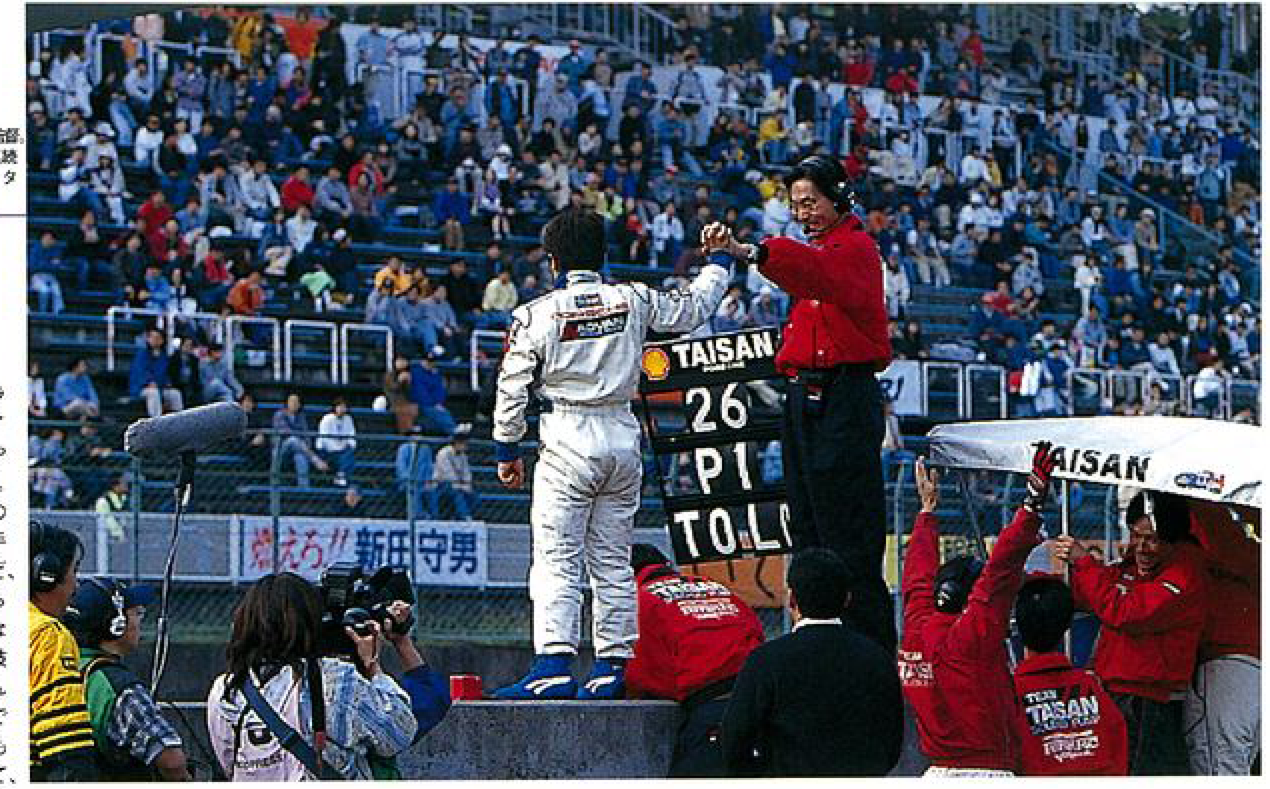
JGTC10年の歴史の中で数々のドラマを生んできた
ドライバー、そしてチーム関係者たち
喜びも、悲しみも、悔しさも、楽しみも
すべてを知る彼らに最高の思い出を語ってもらった

1972年7月29日生まれ、奈良県出身。98～03年、GT500クラス出場。02年のGT500クラスチャンピオン。同選手権において最多ポールポジション記録を持つ

脇阪寿一
Juichi Wakisaka

僕がGTに出たのは98年の途中からですが、お客さんが多くて、とてもやりがいを感じましたね。出場のきっかけは、童夢の林社長から突然かかってきた電話。「NSXの中でウチだけ表彰台に乗ってないし、ウエイトも積んでないから、1回勝ってくれ」とMINEのレースの直前に言われて、週末には走っていました。その次のSUGOでは、レース後、失格にはなりましたが、トップチェッカーを受けることができ、林さんからも「公約を達成したな」と誉めてもらいましたよ。翌年からは2年間、NSXでフル参戦させてもらいましたが、その間に一番嬉しかったレースは00年のSUGOですね。90kg積んでPPを獲り、トップを守ってバトンタッチできましたが、それが林社長からの次の課題だったんです。01年には、トヨタに移籍しましたが、初めてスープラに乗ったときは、リヤのグリップがなくて、何じゃコリャと思ったのが正直な感想。でも1年目から開発をやらせてもらって、徐々に良くなってきたと思います。その分、責任感も大きいですし、今もせっぱ詰まってやっていますよ。03年の最終戦には今までで一番悔しい思いをしたし、04年は絶対タイトルを奪還したいと思っています。

GTに出場したのは98年の途中から観客が多く、やりがいを感じました



千葉 泰常
Yasutsune Chiba

TEAM TAISAN ADVAN監督。2000～2003年まで４年連続でGT300クラスでチームタイトルを獲得している

素敵なファミリーを探して GTを続けていきたい

GTには10年間で18台のクルマを出して、32名のドライバーを起用して、65戦で25勝。６回もチームタイトルを獲れました。グループA、グループCとレースをやってきましたが、GTが私に一番合ってると思うんですよ。やるにつけ、勝たねばいけないとね。ネバーギブアップの精神、新人が入って巣立っていく、ワークスを離れた選手がうちのチームでやり直しながら若手を育ててくれるなど、GTにはドラマがあり、人生の縮図だと思うんです。だから熱くなれるんでしょうね。負けず嫌いだし（笑）。度胸はないからドライバーになろうとは思わないけれど、僕も競技者のひとり。監督としてチームに気合を入れたり、いろんな経験がレース中にも、１回のピットインにも活きるんですよ。そしてときには失敗もある。レースって人生そのものなんですよ。04年はスポンサーを持っていかれたりして、本当にレースができないと思いました。長年付き合ってきたスポンサーさんなんだし、きちんと秩序を守ってほしい。でもレースは、７回目のチャンピオンを獲るためにも何とかやっていきたい。たかだかポンプ屋のオヤジですけど、まだ新しい素敵なファミリーを探していきたいと思います。

高木 真一
Shinichi Takagi

1974年５月６日生まれ、山口県出身。98年、GT500クラス出場。99～03年、GT300クラス出場。02年のGT300クラスチャンピオン

自分のときより緊張した 新田さんのタイトル決定

正直言ってチャンピオンを獲った02年より、その前年の最終戦の方が印象深いです。僕は２戦目からの参戦なのでチャンピオンの権利はなかったんですが、パートナーの新田（守男）さんに権利があって。最終戦は唯一の敵のシルビア（土屋武士／井出有治組）と、先にゴールした方に決まりだったんです。それがねぇ、目に見えて真後ろ！　何とか逃げ切れましたが、あんな厳しいレースはなかったですね。





THE VOICE

ミハエル クルム
Michael Krumm

1970年３月19日生まれ、ドイツ出身。95年、GT1クラス出場。97、99～03年、GT500クラス出場。97、03年のGT500クラスチャンピオン

チャンピオンの価値も レースのレベルもすごく高い

初のGTは最初95年に関谷さんと組んで、トムス・スープラで出ました。そのときは、他のカテゴリーとは違い、GTはクルマが重くて、乗りこなすのが難しかった。そういう意味でチャレンジングでしたし、楽しかったですね。97年にはペドロと初めてチャンピオンになりました。あのときは、今ほど勝たなければ、というプレッシャーもなく、楽しくレースをしてタイトルが獲れましたよ。あの年は、ハイランドの優勝がベストレースでした。ニッサンに移ってから苦しいときもありましたが、チーム全員が前向きにがんばっていましたし、その分、03年のタイトルは本当に嬉しかった。レースのレベルもチャンピオンの価値も今はすごく高いですからね。

雨宮 勇美
Isami Amemiya

1946年３月３日生まれ、山梨県出身　RE雨宮レーシング監督。95年GT300クラス出場、00年にはセパンオールスター戦で優勝を果たした



01年の最終戦…… あのときは悔しかった

2001年は残念でした。最後の最後までチャンピオンの可能性を残していたんですが、山野哲也君が２番手を走っているときに、シルビアにぶつけられちゃったんです。そのままのポジションでゴールすればタイトルを獲れたのに。あんなのはサイド・バイ・サイドのバトルじゃない。あれほどミーティングではクリアな戦いをしようと言っていたんですけどね。後から長谷見（昌弘）さんが謝りに来ましたけど……。あのときは悔しかったですね。



1972年10月26日生まれ、滋賀県出身。98、00～03年、GT300クラス出場。01年のGT300クラスチャンピオン

青木 孝行
Takayuki Aoki

MR-Sは特殊な セッティングで手こずった

これまでで一番手こずったクルマはMR-S。かなり特殊なセッティングなので、慣れるのに時間がかかりましたね。セットは間違っていないけど、それは僕の引き出しにはなかった（笑）。具体的に言うと、サスペンションが伸びるところで縮んでいるというのかな。これ普通じゃないよねって感じでした。その点、セリカは理想どおりっていうのか、オーソドックスですんなり安定してますね。04年のGT300はライバルも増えて激戦ですけど頑張ります。

エリック コマス
Erik Comas

1963年９月28日生まれ、フランス出身。95～03年、GT500クラス出場。98、99年のGT500クラスチャンピオン

さまざまな要素が絡んで 2年連続タイトルが獲れました

JGTCも96～97年ぐらいから本格的なレースになってきました。当時、各マシンの信頼性はまだ高くなく、リタイアも多かったですね。スカイラインも今ほどの信頼性、パフォーマンスはありませんでした。98年はポールポジションこそありませんでしたが、２勝してチャンピオンになりました。99年は１勝だけでしたが２年連続でタイトルを獲れました。エンジンもタイヤも耐久性があって、ライバルより優れていて逆転優勝できる可能性がある時代でした。そのころのNISMOの体制は、今と変わらず素晴らしい組織でした。スタッフの人数は多いのですが、そのコーディネーションがよくまさにプロの集団。２年連続でタイトルを獲りましたが、それにはいくつかの要因があると思います。まず、マシンの信頼性の高さ、燃費のハンデをカバーしてくれるピットワークの良さ。次に２人のドライバーもIN&OUTラップの速さを徹底的に意識したこと。そしてタイヤ。加えてABSの開発に合わせ、自分のドライビングスタイルを変え、信頼しきったマシンで思いっきりベストな走りができたことです。ともかく、ペンズカラーで楽しんだ２シーズンでしたね。



1969年12月18日生まれ、神奈川県出身。94～95、GT1クラス出場。97～03年にGT500クラス出場。02年のGT500クラスチャンピオン



飯田 章
Akira Iida

JGTCが日本を代表するレース!

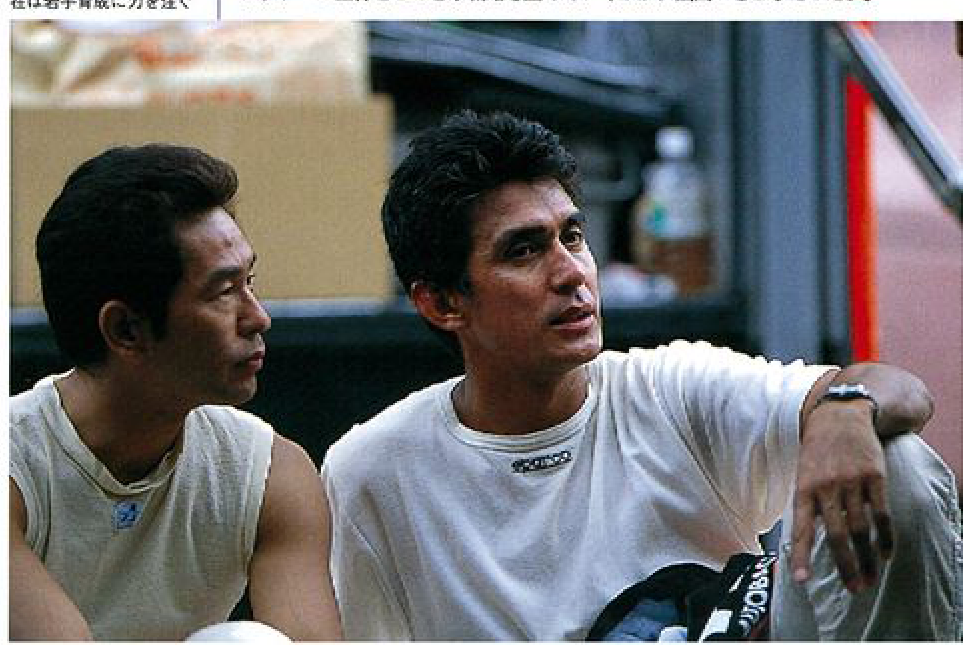
僕は94年に、GT-Rで出たのが最初ですが、最初はGTも細々とやっていましたし、ルールもあってないようなレースで、本当に盛り上がるんだろうかと思っていました（笑）。でも今は、日本で明るい話題のあるモータースポーツは、GTしかないと思います。お客さんが多くて、盛り上がっていて、やりがいもありますね。その年代、年代で、メインになるレースはあると思いますけど、今はJGTCが日本を代表するレース。僕はその中で、まだまだトップでやっていきたいと思っていますし、今は、自分の速さを保ち、さらに腕を磨ける環境を作れています。だから、自分にとってもすごく大事なレースですね。

鈴木 亜久里
Aguri Suzuki

1960年９月８日生まれ、東京都出身。ARTA Project プロデューサー。F1、ル・マンで３位表彰台を経験。現在は若手育成に力を注ぐ

独自のレギュレーションゆえの 面白さ、難しさがあった

日本のレース活動は、基本的にヨーロッパのコピーでやってきたけど、GTは日本が独自に考えたレース。モスバーガーみたいに、日本人の好みに合うようにアレンジされている貴重なカテゴリーだと思う。だからこそ、あまりテクノロジーの部分でエキサイトしすぎず、誰もが出やすくて面白いレースとして、今後も長く続いていってほしいと思っている。監督を務めていたときにも、独自のレギュレーションだからこその面白さ、難しさがあったね。ひとつのレースだけを考えるんじゃなくて、チームとしての骨組みを考え、どのレースを拾ってどのレースでウエイトを下ろすか。チーム全体としてどう戦略を立てていくかが、面白いところだったよ。





柳田 真孝

Masataka Yanagida

1979年6月4日生まれ、東京都出身。01～03年、GT300クラス出場。03年には同クラスのシリーズチャンピオンを獲得

GT300の流れってうまくできてるんです

これまで3回チャンピオン争いをして、03年に3度目の正直で獲れました。でも前の2年の方がチャンピオンに近くて、3年目は逆に遠かったのに獲れちゃいました(笑)。GT300はとにかく何が起きるか分からないし、レースを終えてみないと分からない。レースの流れがなんだかうまくできているんで面白いですよね。タイトルを獲るためには、とにかくコンスタントにポイントを獲ること。04年もZで連覇を目指します。



舘 信秀

Nobuhide Tachi

1947年3月23日生まれ。三重県出身。トヨタ・チーム・トムス代表。74年に株式会社トムスを設立、代表取締役会長。ASEA理事長となる

年間5勝もした息子は誇らしかったですね

GTはハンデがあり、色々なチームに勝つ可能性があって面白いですね。毎年それぞれ印象に残っていますが、まず思い出すのは、ペドロとクルムでチャンピオンを獲った97年。それに関谷が引退したときも。アイツの泣いているのを見て、僕ももらい泣きしました。どこかに生きて終われた安堵感もあったんでしょう。そういう意味で、僕はGTのマシンで息子・信吾を亡くしましたし、複雑な気持ちもありますね。信吾のレースはなかなかまともに見られませんでした。僕はGT500で監督、信吾はGT300で、序盤はモニターの同じ画面にいないでしょ。でも段々順位が上がって、同じ画面で見られるようになるとそっちが気になって……。自分たちの作戦を立てつつ、25番ばかり見ていました。年間5勝もしたのは、誇らしかったですね。



影山 正彦

Masahiko Kageyama

1963年8月8日生まれ、神奈川県出身。93～02年に全日本GT選手権出場。93～95年の全日本GT選手権シリーズチャンピオン

連覇していくほどに難しさを感じました

93年も含めると、僕は3年連続でチャンピオンを獲ったわけですが、年々レースも盛り上がって、台数も増えてレベルも上がっていったので、連覇していくほどに難しさを感じましたね。だから、年を追うごとにプレッシャーは強くなっていったんですが、その分、喜びも大きくなっていきました。一番印象に残るレースと言われても、これが案外、思い浮かばないものですねぇ。これひとつとは絞りきれない。その時々にいろんな思い出がありますから。逆にクルマとなると、毎年レギュレーションが変わって、クルマも進化してラップタイムも上がるから、新しいクルマに乗ると、そのつど感銘を覚えました。今年もすごい戦いになるぞ、ってね。

木下 みつひろ

Mitsuhiro Kinoshita

金曜日に見た夢が現実になった!

印象に残るクルマ、レースということであれば、それは間違いなく03年のフェアレディZと最終戦の鈴鹿ですね。予選もトップだったし、チャンピオンも獲れたし。実はね、金曜日に夢を見たんですよ。ポールを獲って、チャンピオンも獲るという。そういうストーリーがあって、本当に実現しちゃったんで、決定した瞬間すごく嬉しかったですね。今までS耐なんかでは、後から実感が湧いたんですけどね。



1965年1月31日生まれ、長野県出身。96～01年、GT500クラス出場。03年はGT300クラスチャンピオンに輝く

1953年2月23日生まれ、愛知県出身。87～91年にF1世界選手権に出場(最高位4位)。現在はMobil 1 NAKAJIMA RACING総監督を務める



中嶋 悟

Satoru Nakajima

GTはチーム戦というところに気を遣っています

GTは、僕にとっては、全日本選手権のひとつという位置付けですが、違った車両を同じ能力に合わせるというのが、このレースのいい部分だと思います。そうすることで、拮抗した戦いが生まれるはずですから。今後もより内容の濃いレースになることを期待しています。監督としては、シングルシーターの場合には、個々のドライバーの戦いですが、GTの場合はチーム戦だというところに気を遣います。今まで6年間参戦していますが、一番嬉しかったのは初優勝できたということで、96年第4戦の富士。逆に悔しかったのは、年間チャンピオンを逃した02年の最終戦ですね。これからもまた強いNSXをお見せできればと思っています。

松田 秀士

Hideshi Matsuda

1954年12月22日生まれ、高知県出身。95年、GT2クラス出場。96～99年、GT500クラス(99年は第4戦まで)、99年後半～03年、GT300クラス出場

ポルシェGT2の優勝って世界初だったんだ

GTではいろんなクルマに乗ったけど、一番印象深いのは95年第2戦富士で優勝したポルシェ911 GT2。GT2が世界で初めて勝ったレースだったし、自分でも初めて乗ったレーシングポルシェだったしね。デリバリーされて短期間でセットアップしたから、なおさらかも。GT2って当時のGT1クラスだったし、ターボ車で600馬力近くあったんじゃない？　だからじゃじゃ馬。当時はタイヤも良くなかったからコントロールするのも大変だったよ。



鈴木 恵一

Keiichi Suzuki

1949年3月21日生まれ、神奈川県出身。98年のGT300クラスチャンピオンで、同クラスの最多勝利ドライバーでもある



印象深いのは、98年に信吾と一緒にチャンピオンを獲ったこと

やっぱり印象深いのは、98年に(舘)信吾と一緒にチャンピオンを獲ったことだね。彼との思い出もあるし。あの年は5勝も挙げられたんだけど、それは僕だけの力ではなくて、むしろ信吾の力がすごかった。それと土屋エンジニアリングの考え方だね。あのMR-2って誰でも乗りこなせるクルマじゃなかった。それを信吾と一緒に、どうやって速く走らせようかって、必死になっていたのがよかったんだろうね。でも、あんなに勝てるとは思ってなかったよ(笑)。それとね、実はこの年の開幕戦、鈴鹿だったんだけど、金曜日の練習で僕が事故って、右足を骨折しちゃって。それでも勝てたっていうのも、すごく印象にも残っているよ。

GT500に本格参戦したのは99年このころからプロ意識が芽生えてきた

JGTCに最初に出たのは、Zに乗ったときです。あのときは僕が乗る前にトラブルが出てしまうことが多くて、出たというよりも、その場にいたという感じでしたけどね(笑)。そのころは、GTはお祭りみたいな華やかさがあるレースだなという印象を持っていました。スープラで本格的にGT500に参戦を開始したのは99年。ワークスとして戦えるクルマにいきなり乗りましたが、プレッシャーもありましたし、このころから自分の中にプロ意識が芽生えてきたと思います。この年は、チームメイトの竹内さんが中心になっていて、僕にとっては勉強の年でした。その翌年、TIで初優勝したときは嬉しかった。GTに出場し始めて、昔からTVや雑誌で見ていた星野さんたちと、自分が一緒に走っているのが不思議でしたけど、その中で勝つことができたので。01年は、チームもドライバーも3年目ということでコミュニケーションに有利な面がありましたし、前の年に優勝したことで自信も出てきました。そこでタイトルを狙いにいこうと。中には我慢をしたレースもありましたよ。でも、そこまでしないとタイトルが獲れないレースになってきていましたから、最終的にチャンピオンを獲れて良かったと思います。

THE VOICE



立川 祐路

Yuji Tachikawa

1975年7月5日生まれ、神奈川県出身。96～03年にGT500クラス出場。01年のGT500クラスチャンピオン

土屋 春雄

Haruo Tsuchiya

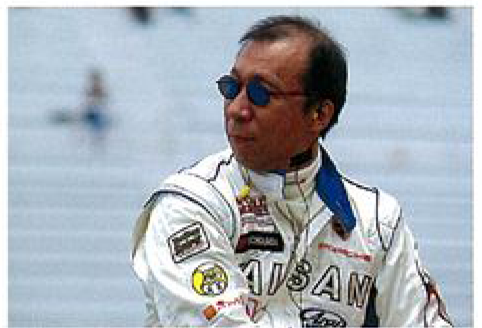


TEAM ADVAN TSUCHIYA監督。98、99年にGT300クラスチームタイトルを獲得。00～03年にはGT500クラスに出場

意外と自由に作れるところがGTはいい

オレにとってレースは何でも楽しいよ。だけど昔のレースと違って、最近ワンメイクが多くなった中で、意外と自由に何でも作れるところがGTはいいね。ただ、最近はクルマが高くなりすぎてる。過去の例を見ても、あまりにもクルマが高くなるとレース自体がなくなってしまうから、かなりのところに来てるっていう感じはする。そこは心配だね。今までやってきた中で印象に残っているのは、GT300のMR-Sで、信吾が乗っていたときかな。80kgのフルウエイトを積んでいても勝っちゃうんだから。あれは信吾の力に負うところが大きかったよ。逆に、金曜日にトップだったのにレースに出られなかった02年の富士は悔しかったから印象に残ってるな。

福山英朗 Hideo Fukuyama



1955年８月13日生まれ、三重県出身。78年にFL500でレースデビュー。日本人初のNASCARドライバーで、00年のGT300クラスチャンピオン

チャンピオンを獲った97年 かなりドラマチックだった

チャンピオンを獲得した97年は、MINEでの最終戦を前にして僕らのウエイトハンデが100kgで、争い合ったタイサンも80kgってお互い厳しい状態でね。でも、それをチームのみんなが跳ね返す意気込みで挑んでつかめたタイトルだと思う。「いいレースができれば、どちらに転がってもいい」とは思っていたんだけど、途中雨が降ったりして、それが僕らにとってレースを有利に運べたりもしたし。かなりドラマチックな終わり方だったよね。



竹内浩典 Hironori Takeuchi

1964年12月22日生まれ、神奈川県出身。96～03年、GT500クラス出場。01年のGT500クラスチャンピオン

「立川とは乗れない」って自分から言ったんです

02年にスープラが大きく変わって、セットアップのごまかしがきかなくなって、相棒の立川のセットでは乗れなくなったんですよ。自分のセッティングで走ってみるとタイムは悪くないのにね。立川は速くなってて、スピードではトヨタでも一番だと思うんです。でも彼の良さを活かしてやれなくなった。だから夏にチームと話をして「（立川のセッティングでは）無理だよ」って言ったんです。もちろん、自分がスープラに乗れなくなるかもしれないとも考えましたよ。でも仕方ないって。スープラで一番印象に残っているのは、初めて乗った仙台（96年第３戦）で優勝したことかな。レース前も雨が残っていて、決勝直前のウォームアップ走行ではコースアウトしたのにね（笑）。

大八木信行 Nobuyuki Oyagi

TEAM DAISHINのオーナー兼ドライバーとして全日本GT選手権に出場。2001年にGT300クラスチャンピオンに輝く。03年はオーナーに専念



シルビアが市販された最後の年 最終戦の鈴鹿で勝ててよかった

2001年にチャンピオンを獲って、02年はもちろん連覇を目指したんですが、トラブルが重なって思うようなレースができなかったんですよ。だけど、あの年はシルビアが市販された最後の年だったから、どこかで勝ちたかった。不本意なシーズンではあったんだけど、最終戦の鈴鹿で勝てて良かった。チャンピオン争いからは脱落していたけど、その分、思いっきり走れたよ。最後の最後で笑えて、それは印象深いね。

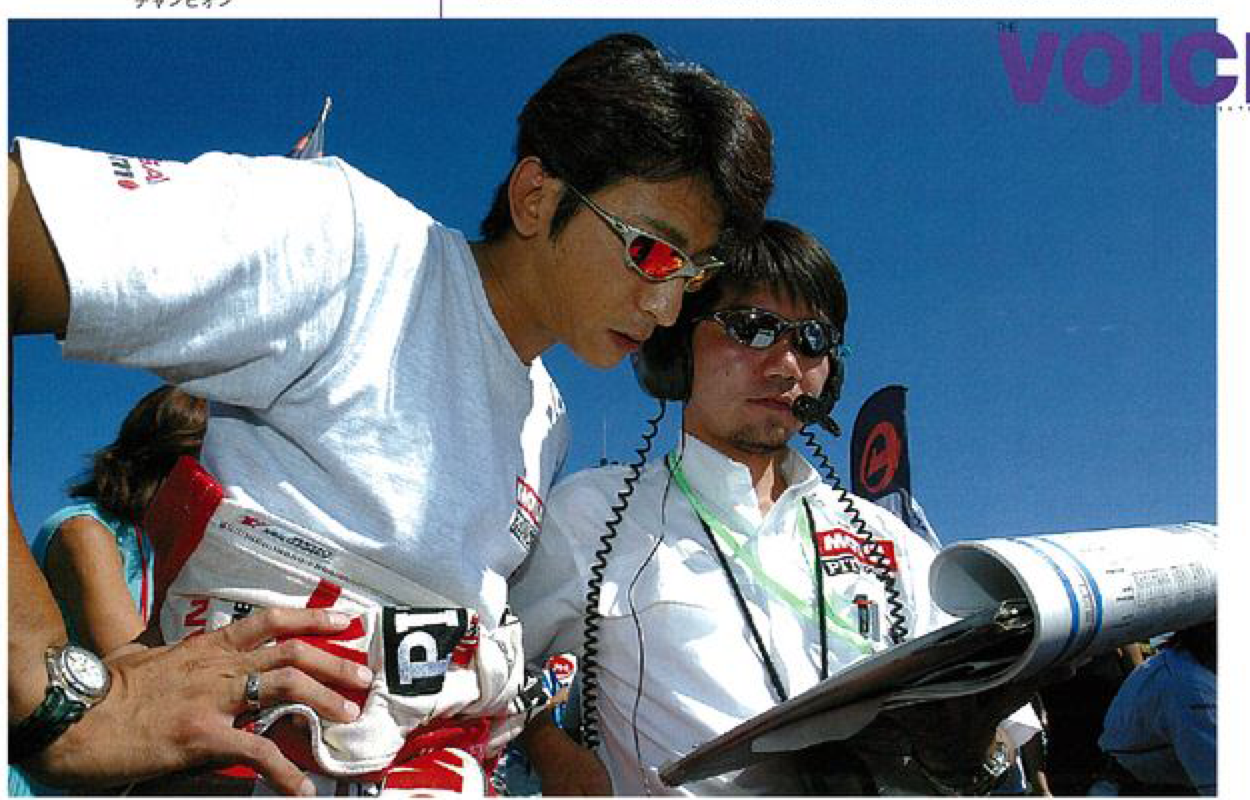
影山正美 Masami Kageyama

“ワークス”のプレッシャーの中に身を置きたかった

NISMOというチームは前線基地みたいに見えて、バチバチのプレッシャーの中で勝ちたいというか、そこに身を置きたかったんです。それでサードから移った。98年の開幕戦は、ロングランを１度もやってないほどGT-Rに乗る機会がありませんでした。タイヤの使い方もつかめてなかったけど、レース中に星野さんに譲って後ろからGT-Rの動きを見ながら運転したんです。レースで裏づけを取って、GT-Rの運転にも自信が持てました。その最初の年にチャンピオンを獲れたんです。僕は今でも与えられた状況の中で目一杯やってるつもり。どんなときも自分に課題を作って走るし、楽しみを見つけられるんです。

1967年５月２日生まれ、神奈川県出身。94～95年にGT1クラス出場。96～03年はGT500クラス出場。98年のGT500クラスチャンピオン

THE VOICE





柿元邦彦 Kunihiko Kakimoto

1945年鹿児島県生まれ。86年のニッサン ル・マン初挑戦から88年まで監督を務める。現在はニスモの監督としてチームの指揮を執る

GT-RからZへ またいい思い出を作る

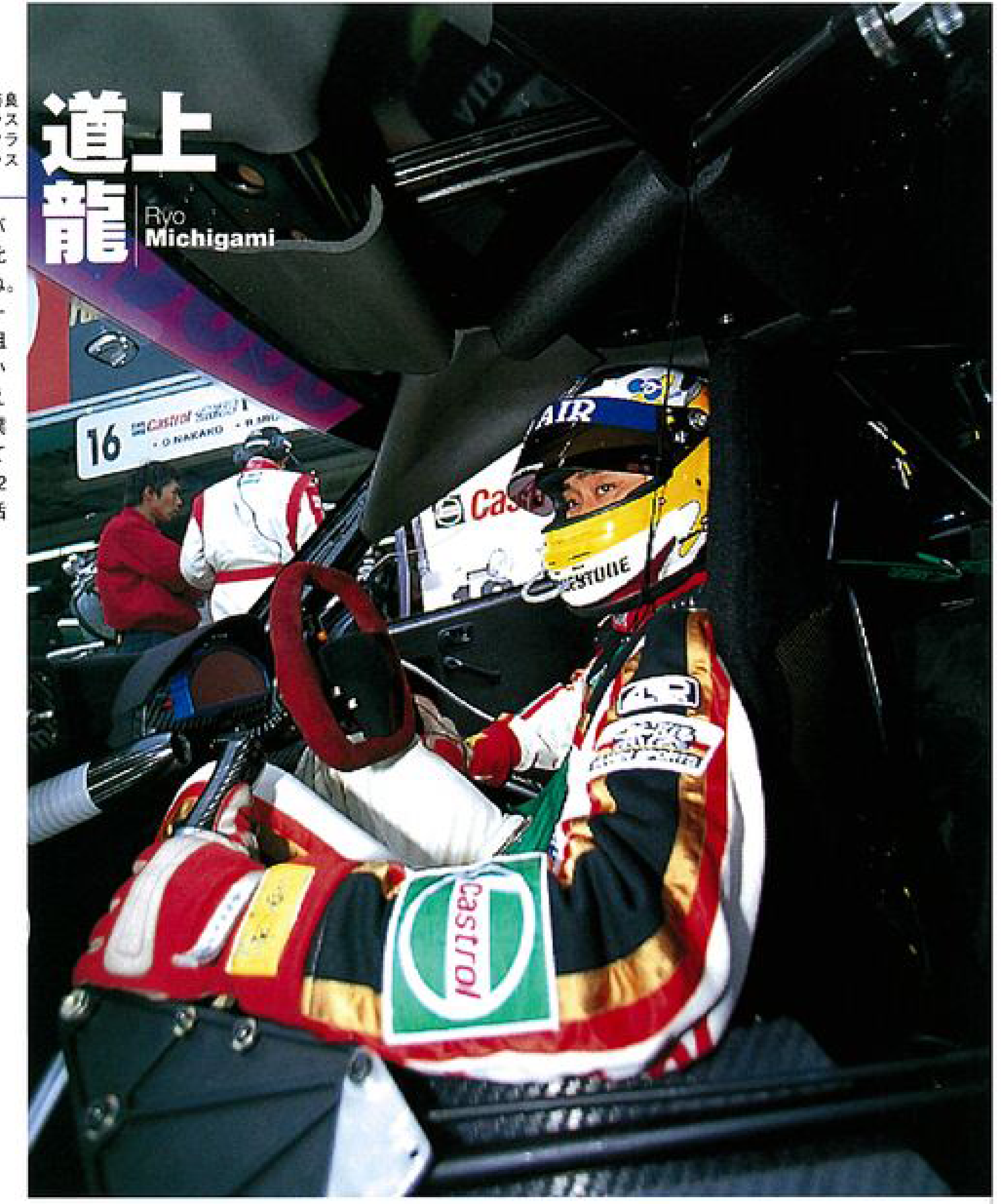
私が直接GTに携わるようになったのは2000年。それまではル・マンが主だったので、GTマシンとの付き合いもR34になってからですね。一番思い入れがあるのは、やはり03年のGT-R。速さもあったしね。03年、GT-Rは新しい車両規定に合わせて大きく変わりましたが、ふたつのタイトルを獲れて、一番いい年になりました。実は、04年にクルマをZに変えるということは、シーズン前に決まっていたんです。GT-Rのスピリットを受け継いだZで、これからもいい思い出を作りたいですね。

道上龍 Ryo Michigami

1973年３月１日生まれ、奈良県出身。95年、GT300クラス出場。98～03年、GT500クラス出場。00年のGT500クラスチャンピオン

タイトルをもらったのは僕だけど みんなで獲ったチャンピオン

最初に僕がGTに出たのは、チーム国光のポルシェに乗ったときです。当時は、ドライバーがひとりでもふたりでも良かったし、クラス分けもハッキリしてなくて、JTCCに比べるとお祭りムードのレースだなと思いました。今はメーカー間の争いになってますけどね。NSXに乗り始めたのは98年から。憧れのチームだった無限でやれるのが嬉しかったし、チームメイトの中子さんからいろいろ学べました。チャンピオンを獲った00年は、優勝ばかり狙ってもダメで、どうすればタイトルを獲れるかをすごく考えた１年。童夢は速さを見せていましたが、僕はレースが終わったときの強さを見せようと思っていました。結果的に、考えどおりのレースができたと思いますし、タイトルは嬉しかった。タイトルをもらったのは僕ひとりでしたけど、中子さんと光貞さんと、チームみんなで獲ったチャンピオンだと思っています。翌年は２年連続は難しいと痛感しましたけどね。今までで一番嬉しかったのは、02年のMINEと03年の富士での優勝。勝ったレースは全部嬉しいけど、02年はケガからの復活を見せられましたし、03年はNSXが前半苦戦していた分、喜びも大きかったです。





石橋義三 Yoshimi Ishibashi

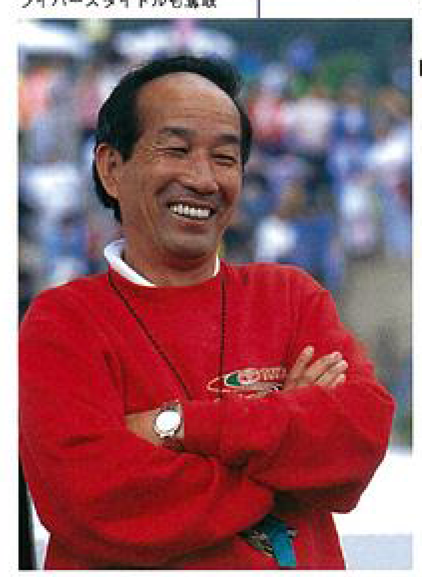
1949年11月13日生まれ、東京都出身。94～95年GT2クラス出場。96～03年、GT300クラス出場。95年のGT2クラスチャンピオン

プライベーターとしての意地でやっています

僕は95年にチャンピオンになったけど、今と比べると、あのころの方がずっと楽しかったよ。あのころは長年のキャリアとドライビングテクニックを駆使すれば通用したけど、今はもうお金と組織の力がすべてだもの。僕らが乗っているポルシェは誰でも買えて、ステッカーを貼るだけでもレースができるけど、そうじゃないクルマが多すぎ。カウルを外したら、元が分からなくなるクルマと一緒に走らされていることが異常事態だよ。本当はGT300って公平であることを前提としてたのに。悔しいよね。「お前もやれば」って言われるけど、やる気もないし。もうプライベーターとしての意地でやっています。

佐藤正幸 Masayuki Sato

1946年４月15日生まれ、東京都出身。チーム セルモ代表。97年にGT500クラスでチームタイトル奪取。01年はGT500クラスドライバーズタイトルも奪取



GTは参加していて背負ってる物が違う

GTは年々その面白さが変わってきたレースだね。始まった当初は、今よりアマチュアリズムがあって和気あいあいと勝負に挑むという感じだったけど、今はメーカーの戦いになっている。同じメーカー内でも真剣勝負で、負けても「仕方がない」では済まされないし、そういうシビアな面白さがあると思う。本当は速さを追求していくのはフォーミュラのはずなんだけど、今はGTの方がそういう雰囲気が感じられるし、メーカーからの暗黙のプレッシャーがあって、自分たちも参加しながら背負ってる物が違うという感じがするね。クルマを速くするために、物を作って改造するという点でも、GTは自由度があって楽しめるよ。



1967年１月30日生まれ、東京都出身。96～03年、GT300クラス出場。96、99、02年の同クラスチャンピオン

新田守男 Morio Nitta

クラスは違っても戦い方は同じ

僕の耳にはあまり入ってこないんだけど、巷ではミスターGT300って呼ばれているみたいだね（笑）。でも、それはある意味、光栄なこと。僕はあまりクラスにに固執していなくて、GT500だろうがGT300だろうが、戦い方は同じ。チャンピオンを獲る難しさはいっしょなんだもの。でも常にチャンピオン獲ることに意識していますよ。実績を残すことによって、まわりが評価してくれて、仕事を与えてくれる。「あいつに任せれば大丈夫」って。だからそう呼ばれるんでしょう。一番印象に残るシーズンは、鈴木恵一さんと別れて初めてチャンピオンを獲った99年かな。あれでやっと恵一さんに恩返しができたように思うんです、唯一のね。

THE VOICE



1955年6月28日生まれ。ESSO TOYOTA TEAM LeMans監督。グラチャン観戦をきっかけにレース界入り。敏腕エンジニアとして名高い

土沼広芳 Hiroyoshi Donuma

今後もGTの発展とともにチームを発展させていきたい

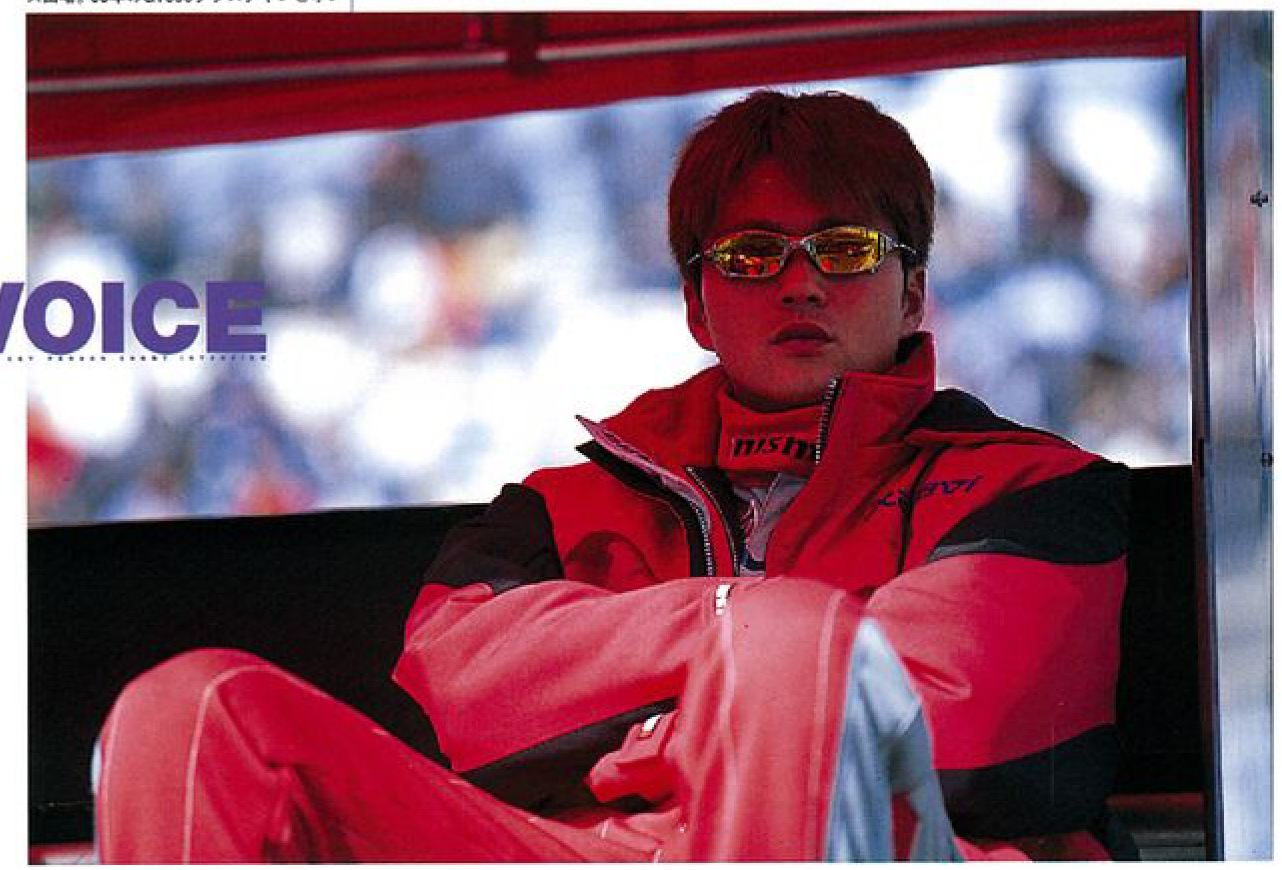
最初は、IMSAのフェアレディZをエンジニアとして走らせましたが、GTに対しては色々な要素が多い複雑なレースだなという印象を持ちましたね。その後、96年はラーク・マクラーレンでエンジニアを務めました。あの年は、勝って当たり前というプレッシャーがある中、チャンピオンが獲れて良かった。そして99年からはトヨタ・スープラの一員となりましたが、また新たにゼロからのスタートだったのでどうなることかと思いました。でも、レースはレースでしたね。スープラでは99年の初優勝も嬉しかったですし、02年の最終戦でチャンピオンを決めたレースも印象的でした。今後もGTの発展とともに、自分たちのチームを発展させていきたいですね。

本山哲 Satoshi Motoyama

1971年3月4日生まれ、東京都出身。96年、GT300クラス出場。97〜03年、GT500クラス出場。03年のGT500クラスチャンピオン

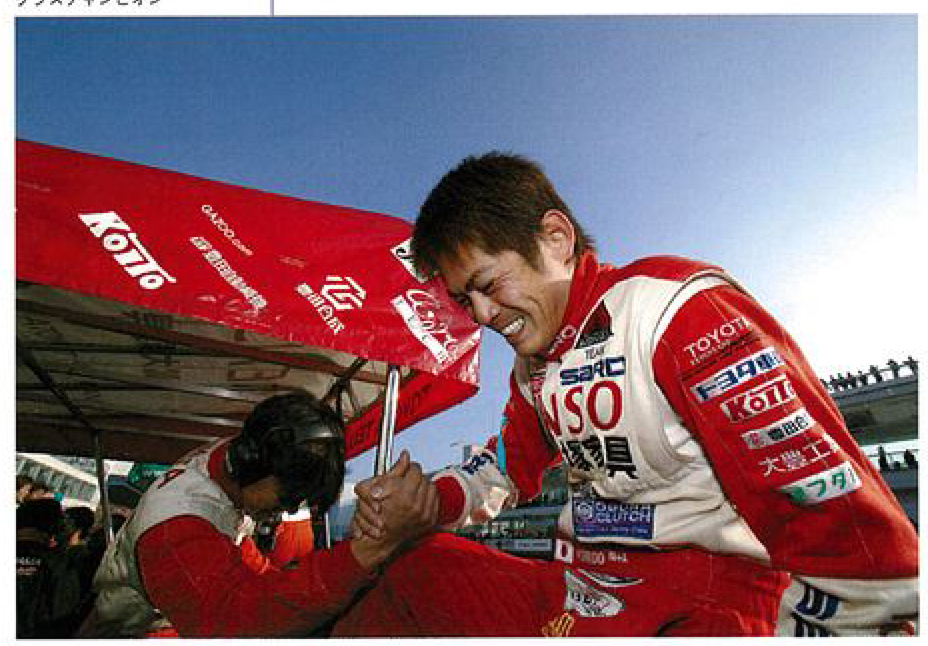
星野さんと組めたことが僕にとっては大きな出来事でした

JGTCには最初、96年の途中からパーソンズ・シルビアで出ましたが、車種が豊富で盛り上がっていて、楽しそうなレースに見えました（笑）。その翌年、カルソニックで初めてGT500に乗ったときは、エンジンパワー、タイヤのグリップ、クルマの大きさまで、すべてにおいて違うと感じました。それ以上に、星野さんと組めたことが、僕にとっては大きな出来事でした。星野さんからは、レースに取り組む姿勢や勝つことに対する執着心など、精神的な部分でたくさん学びました。99年にニスモで走ったときは、ワークスカーに乗るということで、絶対にチャンピオンになるという気持ちでした。エリックもこの時点では最強のパートナーで、心強かったです。ただ、エリックのチャンピオンが決まったときには複雑な気分でした。ル・マンのPQで1戦欠場した結果、僕はシリーズ3位になって、悔やんだことも……。でもニスモとしてル・マンのPQに行くことも僕にとっては素晴らしい経験でした。その後、GT-Rにとっては、厳しい年もありましたが、03年型は最初からポテンシャルが高く、チームが素晴らしいクルマを準備してくれて感謝しました。タイトルを獲れたときに最高に嬉しかったです。



織戸学 Manabu Orido

1968年12月3日生まれ、千葉県出身。96〜99年、GT300クラス出場。96年（第4戦富士）、00〜03年、GT500クラス出場。97年のGT300クラスチャンピオン



すべてがひとつになって勝つ!

GTは、日本ではこれ以上のクルマがない最高峰のハコなんで、ハコに乗ってきた僕にとっては最終目標だったカテゴリーなんです。現状ではスピードも迫力も人気も一番ビッグだしね。03年、GT500ではアドバンで初優勝しましたけど、またアドバンで勝ちたい！　これからもチーム、ドライバー、そしてタイヤが一致団結して"ひとつになって"戦っていきます。勝つのは当たり前。それ以上のことやらなきゃね。

星野薫 Kaoru Hoshino

今はFROとして何かのときに役に立ちたい

僕らがチャンピオンを獲ったころは、まだGT300も台数が少なく、全体的にクルマの良し悪しのみで差がついて、それで勝てたりもしたんですよ。それが今はドライバーも揃って、なおかつクルマもねぇ。僕らがチャンピオンを獲れたのは、ひとえに運です。運が良かった。プライベートで気楽にやってたんですから（笑）。今はFROとしてGTにかかわっています。事故は起こってほしくないですが、何かのときに役に立ちたいですね。

1947年9月21日生まれ、静岡県出身。78年富士GCマイナーツーリングチャンピオン。95年にはGT300クラスチャンピオンに輝く



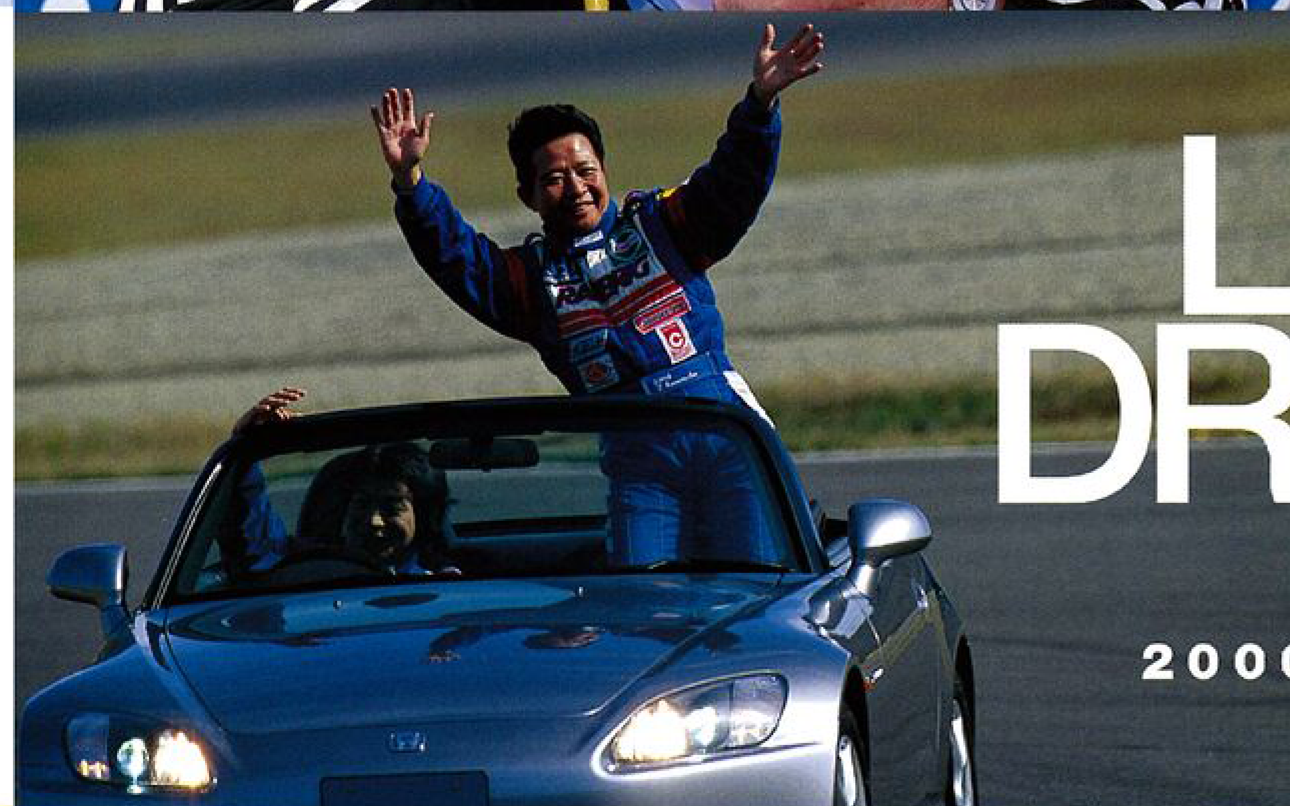
LAST DRIVING

花道はJGTCで

高橋国光、長谷見昌弘、星野一義
関谷正徳、土屋圭市
日本の至宝とも言えるこの名ドライバーたちは
奇しくも、自らの引退レースに
全日本GT選手権を選んだ
それはどういった理由からなのか?
引退当時のコメントを交え
改めて5人のドライバーにとって
JGTCとはどのような意味を持つ
レースであったのかを探る

Text/Yumiko Kajima
Photos/Masahide Kamio, Naoki Kobayashi, i-dea


2002


2000


2000

「ありがとう」の歓声。花束と涙。全日本GT選手権では、この10年の間に、高橋、長谷見、関谷、星野、そして土屋と、多くのベテランドライバーが惜しまれながら引退していった。F1をはじめ、世界中のレースを見渡しても、オープンカーでのパレードやセレモニーなどで、現役を終えるドライバーを温かく送り出しているレースは稀有と言っていい。では、なぜ彼らはこのGTを最後の戦場としたのか。それぞれの引退を振り返った。

それは高橋から始まった

まず99年いっぱいでGTから引退したのは、当時現役最年長だった高橋国光。グループAが終わった後、土屋圭市とともに自らのチームを立ち上げた高橋は、ポルシェでGTへの参戦を開始した。その後、ホンダのNSXプロジェクトが本格的に始まると、97年からは飯田章とコンビを組み、チーム監督兼ドライバーを務める。ル・マン24時間レースでも、高橋/土屋/飯田の3人は、まさにファミリーとも言うべきコンビネーションで、NSXをクラス優勝に導いているが、それを国内でも再現したかたちだ。

当時、まだ若手ドライバーだった飯田は、どのレースでも常に3分の2近い周回を担当。親子ほど年が離れている高橋にできる限り負担をかけないよう、自分のパートは予選並みの走りで周回を重ねた。そして98年のMINEではコンビ初優勝。翌99年の第2戦富士でも優勝を遂げている。このころから、GTマシンは年々ハイスピード化していく。次第にフォーミュラカー並みの体力が要求されていくことになる。そのために、多くのチームが疲れ知らずの若手ドライバーを起用。タイヤ戦争も激化し、ピット作業も大きな戦略的役割を持つようになった。そうした意味で、飯田が長い距離を担当する当時のRAYBRIGの作戦スタイルにも徐々に無理が生じていたに違いない。常々「どんなレースでも楽しい」と公言していた高橋も、どこかでそれを感じていたのではないか。自分とともに表彰台に上がりたいと頑張る飯田を、今度はチャンピオンに導きたいという気持ちもあっただろう。そこで、余力を残しながら、高橋はステアリングを置く決意をした。「現実を見つめると、歳を取ったな。それが引退の理由です」と当時、高橋はコメントしている。

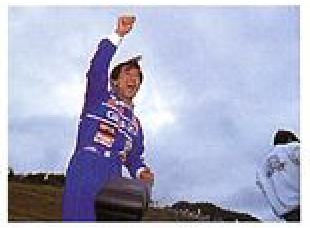
その高橋の功績を称えるために、周りが自然発生的に動き、GT最初の引退セレモニーが99年に行なわれた。そして、これがその後に受け継がれていくことになる。


2000


2003


1994


1994


1995


1996


1994





LAST DRIVING







彼らの引退の場がJGTCレースだったのは偶然かもしれない
しかし、彼らは引き続きJGTCにおいて戦いを続けている

高橋が引退して1年後の2000年。この年限りで引退したのが、長谷見と関谷だった。長谷見は、GT初年度からチャンピオン争いを展開。同時期に行なわれていたJTCCにも出場していたが、「FFでのレースはあまり好きじゃないんだよね」と語っていた。その点、GTはFRのマシンで思い切り走れたのだろう。その後も、自らのチームでドライバーを務め、ニッサン・スカイラインGT-Rを走らせた。だが、ニッサン/ニスモの社内的事情があったのだろうが、2000年は1年古いモデルでの参戦を余儀なくされた。すでにメーカーの戦いへと変貌しつつある中で、これはとてつもなく大きなハンデ。それまでトップ集団で戦ってきた長谷見が、なかなか上位に進出できないレースが続いた。

「僕はレースを辛いと思ったことは一度もないんだよ。だけど、勝てるレースが好きだから、勝てないレースには魅力を感じないんだ」

長谷見はそんな言葉を残して、コクピットを離れた。勝つことにこだわり続けたレース人生。勝てないのであれば走る意味はない。だからこそ"これが引き際"と、長谷見はスパッと決断したのだろう。その姿は、傍目にはスマートでドライに映った。

しかし、スタート前に行なわれたパレードラン。スタンドの観客に大きく手を振る長谷見の瞳からは、きらきら光る涙が尾を引いて流れていた。レース後には「スタートのとき大勢の人が挨拶に来てくれたけど、これからレースをやるのにジーンときて困った。でも、20歳のときから、辞めるときまで五体満足でいようと思っていたので、それができてよかった」とコメント。「最後まで気合いを入れて走れた。今日は相棒が頑張ってくれて、いいレースだった」と開放された笑顔を見せた。

この時、同時に引退したのが、関谷。関谷はこの前年、黒澤琢弥とコンビを組み最終戦までタイトル争いを展開した。だが、翌年はなかなか結果が出なかった1年。それまでも描いていたであろうドライバー後の人生が、このころから明確になってきたのではないか。

「まだやれるという気持ちもあるし、未練もある。でも、これから新しいことにチャレンジするために、早く勉強を始めて、色々なことを経験しなければいけないと思って引退を決断した」と当時、関谷は語っている。

長谷見とは対照的に、最愛の子供たちを同乗させてパレードに臨んだ関谷。その顔は笑顔に満ちていた。そう、ゴールするまでは。だが、レース後、チームのテントで行なわれた記者会見の席上では、その表情が一変する。涙で顔はクシャクシャ。何か喋ろうとしても、コメントは嗚咽で切れ切れとなった。同じチームで戦ってきたドライバーも、ライバルとしてしのぎを削ったドライバーも、多くがテントやドライバー控え室に足を運んでは関谷をねぎらい、ともに涙した。そのシーンは、非常に温かく、関谷の人柄を物語るものだったと言っていいだろう。

シーズン中の突然の発表

この長谷見、関谷の引退を見て、「自分にも当てはめられることだから、動揺しそうだよ」とコメント。「同世代の仲間がいなくなって淋しいな」とポツリともらしたのが、02年シリーズ途中で引退を表明した星野一義だ。

星野は、GT創生期、ドライバーがひとりでもよいという時期こそ愛弟子の影山正彦にGT-Rのステアリングを託していたが、やがてふたりのドライバーが組まなければならないというレギュレーションができると、自らもステアリングを握った。GTとフォーミュラとJTCC。3つのカテゴリーに掛け持ちで出ていた時期もある。

しかし、96年いっぱいでフォーミュラを降り、JTCCが消滅すると、最後はGTにその力を注いだ。ところが、このころにはすでに星野の体はレーシングドライバーとしては限界に達していた。誰でも多かれ少なかれ腰痛を抱えてしまうのがドライバーの宿命だが、ときにはベッドから起き上がれないほどの激痛に星野は苦しめられていたのだ。

それでも人前で、弱音は吐けない。コクピットに乗り込むときに、痛みで「ウッ」と叫び声を上げても、チームスタッフには「いや、ステアリングで足をぶつけただけだよ」とごまかし、その苦しみを隠しとおした。

だが、いよいよそれに耐え切れなくなった星野は、外科的手術を敢行。普段の生活をする分には症状も緩和された。ただし、レーシングマシンを運転するなどもってのほかと医者からも止められている状態。それでも星野はレースを続けた。いつ痛みが出るのか。このころの星野は終始怯えていたという。

そして、いよいよそのときは来た。自分が思い描くような走りをできないと感じた星野は、02年シーズン第6戦もてぎを前に突然引退を発表。ちょうどこのレースに先がけて、お盆期間に行なわれていた合同テストのときには新聞に一報が流れ、サーキットにはやるせなく重苦しい空気が流れた。

迎えたレースウイークには、スタート前、メインストレート上で引退セレモニーが行なわれる。これからマシンに乗り込むドライバーの多くがその場に集まり、鼻をすする音があちらこちらから聞こえた。観客に向けて挨拶に立った星野は、涙を必死でこらえていたが、花束贈呈を行なった星野の相棒・金子豊は号泣。やはり涙を浮かべたドライバーたちが、星野の胴上げを行なった。

それから1年。GTからまたひとり、人気者が去った。それが03年いっぱいで引退した土屋圭市。その引退理由のひとつとしては、星野と同じように腰の持病があったということもある。だが、それ以上に今後後輩の育成に当たってほしいという親友・鈴木亜久里の言葉が決め手となった。以前から「まだトップを走れる力を持っているうちに引退したい」と言っていた土屋。公言していた45歳よりは少し遅かったが、引き際は鮮やかだった。

迎えた鈴鹿の最終戦。レース中には、すべてのドライバーが花道を作ってくれた。130Rで同じNSXをかわしたあとも、前を追い詰める土屋。TVには映らないコース上で、多くのGT300クラスドライバーが、土屋のために進路を開ける。それが他のマシン以上のラップタイムにつながり、ピットインするときまで土屋を全開で走らせた。

レース後には鈴木亜久里、尊敬してやまない高橋国光から花束贈呈。「国さんの顔を見たら、もう我慢できなかった」。スタート前には気丈な振る舞いをしていた土屋が、涙に震え、サーキットが全体がしんみりとした雰囲気に包まれた。そこから一転、パレードランでは、オープンカーに土屋を慕うドライバーが次々乗り込み、お祭騒ぎ。ドリキンらしい楽しく華やかな幕引きとなった。

と、ここまで書いてきたように、引退するその理由は様々。しかし、セレモニーを用意されたドライバーたちに共通しているのは、誰もが自分自身をよく知っているということだ。それがまた一流の証でもある。自ら去ることを決断した場。意識して選んだわけではないだろうが、それがすべてGTだったということなのだろう。それにしても、大勢の観客に見守られながらの引退。ドライバーとして、これほどの幸せはないはずだ。

（文中敬称略）

●1994年
第3戦より土屋圭市をパートナーに、ADVAN PORSCHEでJGTCに初参戦。全3戦に出場。第4戦で優勝しシリーズランキング7位
●1995年
開幕戦より土屋圭市をパートナーに、BPオイル ポルシェ ターボで全6戦に出場。シリーズランキング10位
●1996年
開幕戦より土屋圭市をパートナーに、ADVAN BP NSXで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング17位
●1997年
第2戦より飯田章をパートナーに、RAYBRIG NSXで全5戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング18位
●1998年
開幕戦より飯田章をパートナーに、RAYBRIG NSXで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。第6戦で優勝しシリーズ10位
●1999年
開幕戦より飯田章をパートナーに、RAYBRIG NSXで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。第2戦で優勝しシリーズ10位。最終戦を終え引退



●1994年
開幕戦よりユニシアジェックススカイラインでJGTCに初参戦。全5戦に出場。第2戦で優勝しシリーズランキング2位
●1995年
開幕戦よりユニシアジェックススカイラインで全6戦に出場。第4戦で優勝しシリーズランキング2位
●1996年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、ユニシアジェックススカイラインで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング5位
●1997年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、ユニシアジェックススカイラインで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング7位
●1998年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、ユニシアジェックススカイランで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング5位
●1999年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、ユニシアジェックススカイラインで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング18位
●2000年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、ユニシア・ザナヴィスカイラインで全7戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。シリーズランキング16位。最終戦を終え引退



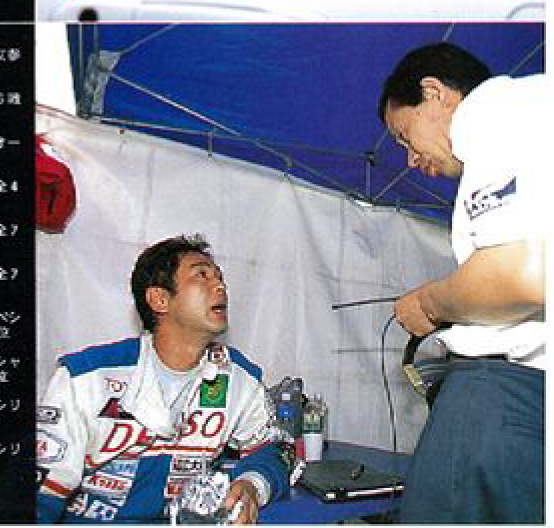
●1995年
第3戦より影山正彦をパートナーに、カルソニックスカイラインでJGTCに初参戦。全4戦に出場。シリーズランキング13位
●1996年
開幕戦より影山正彦をパートナーに、カルソニックスカイラインで全5戦（＋オールスター1戦）に出場。第4戦で優勝しシリーズランキング2位
●1997年
開幕戦より本山哲をパートナーに、カルソニックスカイラインで全5戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング13位
●1998年
開幕戦より黒澤琢弥をパートナーに、カルソニックスカイラインで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング3位
●1999年
開幕戦より影山正美をパートナーに、カルソニックスカイラインで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング7位
●2000年
開幕戦より本山哲をパートナーに、カルソニックスカイラインで全7戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。第5戦で優勝しシリーズランキング3位
●2001年
第4戦より本山哲をパートナーに、カルソニックスカイラインで全4戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。シリーズランキング13位
●2002年
開幕戦より田中哲也をパートナーに、カルソニックスカイラインで全5戦に出場。シリーズランキング22位。第5戦を終え引退



●1995年
開幕戦よりミハエル・クルムをパートナーに、トヨタカストロールスープラでJGTCに初参戦。全6戦に出場。第3戦で優勝しシリーズランキング6位
●1996年
開幕戦よりペドロ・デ・ラ・ロサをパートナーに、カストロール・トムス・スープラで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング8位
●1997年
開幕戦より鈴木利男をパートナーに、カストロール・トムス・スープラで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング3位
●1998年
開幕戦よりノルベルト・フォンタナをパートナーにカストロール・トムス・スープラで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング7位
●1999年
開幕戦より黒澤琢弥をパートナーにカストロール・トムス・スープラで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。第3戦と第7戦で優勝しシリーズランキング2位
●2000年
開幕戦より土屋武士をパートナーにカストロール・トムス・スープラで全7戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。シリーズランキング17位。最終戦を終え引退



●1994年
第3戦より高橋国光をパートナーに、ADVAN PORSCHEでJGTCに初参戦。全3戦に出場。第4戦で優勝しシリーズランキング8位
●1995年
開幕戦より高橋国光をパートナーに、BPオイル ポルシェ ターボで全6戦に出場。シリーズランキング10位
●1996年
開幕戦より高橋国光をパートナーに、ADVAN BP NSXで全6戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング17位
●1997年
第3戦より松田秀士をパートナーに、STPタイサン アドバンGT-2で全4戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング6位
●1998年
開幕戦より谷川達也をパートナーに、デンソーサードスープラGTで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング6位
●1999年
開幕戦より影山正彦をパートナーに、デンソーサードスープラGTで全7戦（＋オールスター1戦）に出場。シリーズランキング21位
●2000年
開幕戦より鈴木亜久里をパートナーに、ARTA NSXで全7戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。第4戦で優勝しシリーズランキング13位
●2001年
開幕戦より金石勝智をパートナーに、ARTA NSXで全7戦（＋スペシャルステージ1戦）に出場。第6戦で優勝し、シリーズランキング2位
●2002年
開幕戦より金石勝智をパートナーに、ARTA NSXで全8戦に出場。シリーズランキング10位
●2003年
開幕戦より金石年弘をパートナーに、ARTA NSXで全8戦に出場。シリーズランキング19位。最終戦を終え引退









JGTC

濃密なる10年をさらに深く知るためのetc.

これさえ読めば、あなたもJGTCを完全マスター!

DEEP ZONE

INDEX





［フレキシブル］

FLEXIBLE

すべては熱戦のために

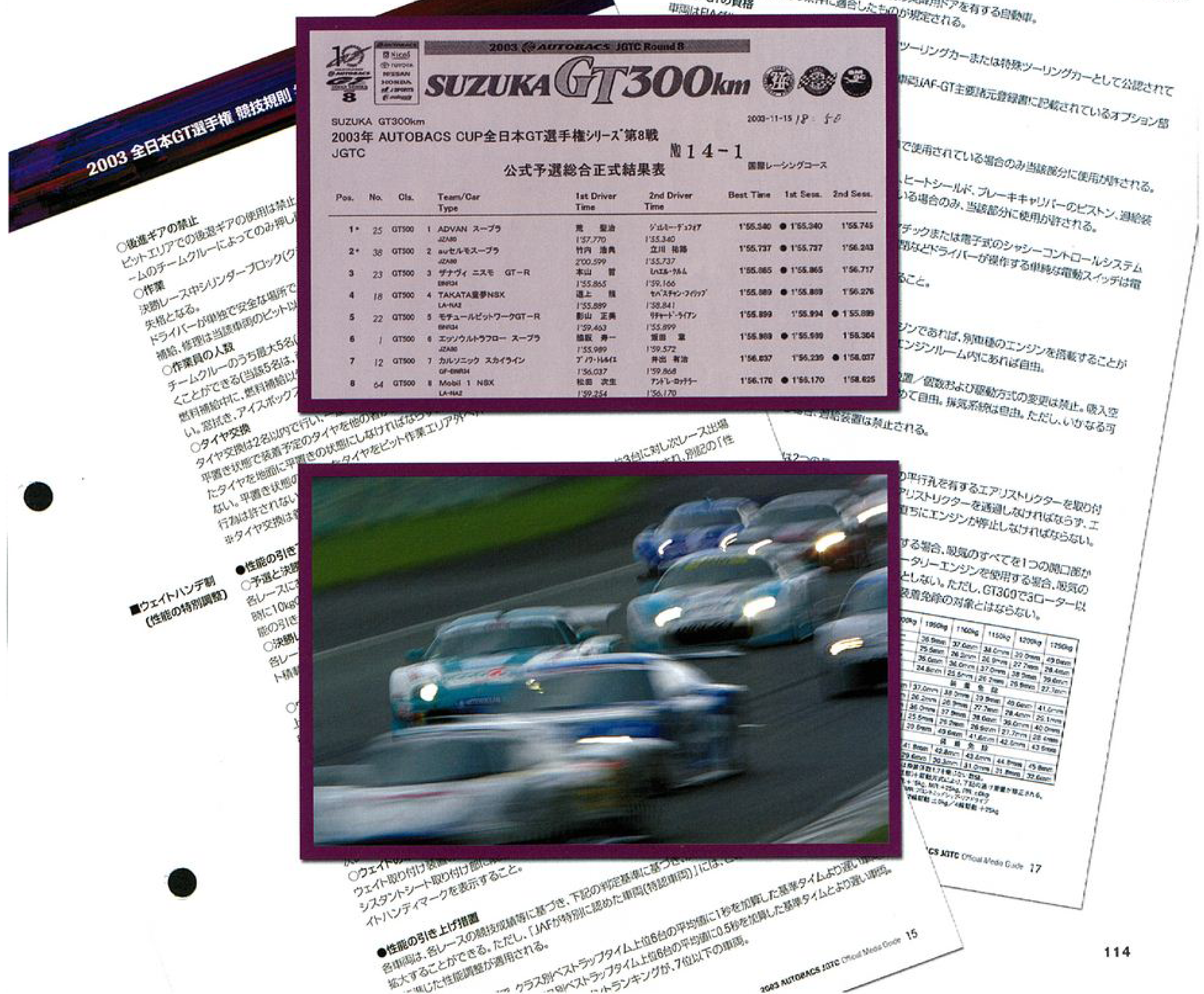
JGTC REGULATION GUIDE

V型6気筒ターボのFRマシン
V型8気筒NAのFRマシン
そしてV型6気筒NAのミッドシップマシン
車両の形状、エンジン排気量のみならず
基本的なコンセプトが全く異なるJGTC参戦マシンが
予選の結果、1秒以内に10台が並んだり
コース上でほぼイコールな戦いを
繰り広げられる理由とは？
そこには、巧妙に作られた
レギュレーションの存在があった

Text/Tomoyuki Furuya
Photos/Masahide Kamio, Naoki Kobayashi, i-dea

In spite of variations in basic concept, chassis configuration and even engine displacement, the JGTC series often see top-10 qualifiers come in one second bracket and makes it a very close fight in the race. Behind these dramas, there are sets of cleverly elaborated regulations.





エアリストリクターと最低重量

GT500

気筒容積	形式	数	1100kg	1150kg	1200kg	1250kg	1300kg
≦2000cc	T/C	1	43.0mm	43.9mm	44.8mm	45.7mm	46.6mm
		2	30.7mm	31.4mm	32.0mm	32.6mm	33.3mm
	RE T/C	1	47.2mm	48.2mm	49.1mm	50.1mm	51.1mm
2000cc< ≦3000cc	T/C	1	42.3mm	43.2mm	44.0mm	44.9mm	45.8mm
		2	30.2mm	30.9mm	31.4mm	32.1mm	32.7mm
3000cc<	T/C	1	41.6mm	42.5mm	43.3mm	44.2mm	45.1mm
		2	29.7mm	30.4mm	30.9mm	31.6mm	32.2mm
≦3500cc	NA	1	43.0mm	43.9mm	44.8mm	45.7mm	46.6mm
		2	30.7mm	31.4mm	32.0mm	32.6mm	33.3mm
3500cc<	NA	1	42.3mm	43.2mm	44.0mm	44.9mm	45.8mm
		2	30.2mm	30.9mm	31.4mm	32.1mm	32.7mm

（車両重量）

GT300

気筒容積	形式	数	1000kg	1050kg	1100kg	1150kg	1200kg	1250kg
≦2000cc	T/C	1	－	36.0mm	37.0mm	38.0mm	39.0mm	40.0mm
		2	－	25.7mm	26.4mm	27.1mm	27.9mm	28.6mm
2000cc<	T/C	1	－	35.0mm	36.0mm	37.0mm	38.0mm	39.0mm
		2	－	25.0mm	25.7mm	26.4mm	27.1mm	27.9mm
≦2000cc	NA		装着免除					
2000cc< ≦3500cc	NA	1	36.0mm	37.0mm	38.0mm	39.0mm	40.0mm	41.0mm
		2	25.7mm	26.4mm	27.1mm	27.9mm	28.6mm	29.3mm
3500cc<	NA	1	35.0mm	36.0mm	37.0mm	38.0mm	39.0mm	40.0mm
		2	25.0mm	25.7mm	26.4mm	27.1mm	27.9mm	28.6mm
RE	T/C	1	－	39.6mm	40.6mm	41.6mm	42.6mm	43.6mm
	2ローター		装着免除					
	3ローター	1	－	41.8mm	42.8mm	43.8mm	44.8mm	45.8mm
		2	－	29.9mm	30.6mm	31.3mm	32.0mm	32.7mm

（車両重量）

T/C＝ターボチャージャー、NA＝自然吸気、RE＝ロータリーエンジン
※上記表中の過給器付きエンジンの排気量は換算係数1.7を乗じない数値
※NAエンジン車両は、標準大気圧との差が60hPaを超えて下回る地域でのみ当該車両重量のまま右隣欄のエアリストリクター径に補正可能

戦いを白熱させる3つのキモ！

**マシン製作者はリストリクターと最低重量に
マシンを走らせるチームはウエイトとポイントに右往左往！**

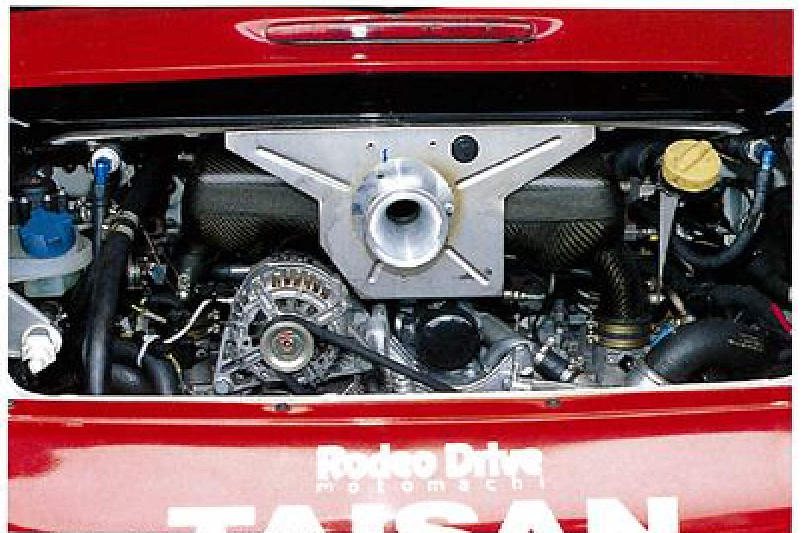
ウエイトハンデ

決勝順位	1位	2位	3位	4位	5位以下
GT500	+50kg	+30kg	+20kg	－	－20kg
GT300	+30kg	+20kg	+10kg	－	－15kg
予選順位	1位	2位	3位		
両クラス	+10kg	+10kg	+10kg		
決勝ベストラップ	1位	2位	3位		
両クラス	+10kg	+10kg	+10kg		

選手権ポイント

決勝順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
ポイント	20	15	12	10	8	6	4	3	2	1

	予選			決勝ベストラップ		
順位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
ポイント	1	1	1	1	1	1



エンジンパワーの抑制、統一化に最も有効だと考えられているエアリストリクター。03年は大排気量NAの規制が緩いという盲点をつき、TRDが新エンジンを投入したが、04年は改定を受けたためその技も通じず



各年の戦況によりハンデウエイトの搭載重量も細かく変化してきている。近年、ウエイト搭載を嫌がりポジションを譲るシーンも見られたため、2004年はウエイトハンデとポイントの見直しが行なわれるという


予選とファステストラップで科せられるウエイトハンデは下ろすことができないため、JGTCの予選では、4番目のグリッドを目指しチームメンバーが一喜一憂するという一種変わったシーンを見ることもできる

イコールコンディション化を実現

ＪＧＴＣの人気を支える最大ポイントは「複数の車種による常に均衡したバトル」だろう。過去においてツーリングカーのレースシリーズが10年も続けば、"勝てる"車種が絞られて参戦するチームの格差が開くという時期が少なからずある。だが、ＪＧＴＣでは１車種が勝利を独占したことはなく、常に複数の車種が勝利を挙げている。もちろん、観客の思い出の中でも、ひいきのチームがライバルの他車種と戦うシーンが数多く焼き付けられているだろう。

なぜ、ＪＧＴＣではこのような均衡したバトルが長い間保たれているのか？　その秘密はレギュレーション（選手権規定）にある。

まず車両規定においては、エアリストリクター（以下、単にリストリクターと表記）による馬力制限と最低車重の制限を組み合わせ、パワーウエイトレシオを均一化して複数の車種をイコールコンディションに置いている。この組み合わせは表（マトリックス）として車両規則書で毎年公開されている。

リストリクターというのは、エンジンの吸気管の直径を制限するリング状のパーツだ。レシプロであろうとターボ、ロータリーであろうとガソリンエンジンである限りは、吸気管を通ってくる空気の量がパワーに直結する。そこで、管の直径を排気量やエンジン形式、過給器の有無の条件に合わせて決めてしまえば、おのずから最高出力は均一化されるわけだ。これがＧＴ５００の５００馬力、ＧＴ３００の３００馬力という最大出力基準の根拠である。なお、リストリクターは吸気管のパイピングの都合に合わせ、１カ所用か２カ所用を選ぶことができる。理論上の吸気量はどちらでも変わらないように計算されているのだが、わずかな差を求めて、ライバルと違う個数を選ぶエンジンチューナー、チームもままある。

このマトリックスは、エンジン搭載位置と駆動輪の関係（ＦＲやＦＦ、ＭＲなど）、車両の駆動方式（２ＷＤ、４ＷＤ）、そして空力条件（前面投影面積の大小）によっても最低車重が補正される。加えて、自然吸気エンジン車は、標高の高い場所でのターボ車に対するパワー格差を是正するため、一定以上の高地にあるサーキットではリストリクターを１ランク（マトリックスで１段階）大きいサイズにすることができるなど、車両の特徴によっ

各チームはさまざまな工夫や技術を用いて、ウエイトハンデを克服しようとしている。まず最初は、ハンデウエイトを搭載する位置を工夫すること。ウエイト増の弊害は加速のダウンやブレーキングの負担となる。これは避けようがないわけだが、クルマの挙動に影響する部分は全体のバランスを調整することである程度は軽減することができるという。規定では50kgまでのウエイトは助手席位置に搭載することになっている。助手席位置といってもそれなりのスペースがある。そこで、レースカーの基本に則ってよりクルマの重心位置に近い場所に、そして低く置く。この際も、低さ優先で平坦にウエイトを並べて搭載するチームもあれば、バランスを考えてあえて重心位置からずらして搭載するチームもある。そして50kgを越えたハンデウエイトはどこに搭載しても許されるので、さらに工夫が凝らされる。多いのは前後バランスを取るためのバラスト代わりに使う方策だ。中には、リヤのデフの裏側に張り付けることもある。また、サスペンションの減衰力との兼ね合いなども重要なポイントだという。シミュレーションやテストを繰り返し、さらに実戦から得たノウハウを投入する。ここにレースエンジニアの腕の見せ所がある。

次にシリーズ全体の戦略を考え、ウエイトを積むとき（勝ちにいく）と降ろすとき（無理せず最低限のポイントを稼ぐ）を明確にすること。JGTCで勝つこと、表彰台に乗ることはイコール、ウエイトを積むこと。ただ闇雲に上位を狙っていると、自らが一番得意とするコースや勝負に出なければいけないラウンドで、重いハンデを持って挑むことになってしまう。それだけにマシンやドライバー、チームの得手不得手を十分に把握しておかなくてはならない。また思わぬアクシデントやトラブルでレースを失うこともある。そのときは速やかに以後のシリーズ戦略を修正しなくてはならない。

さらに2002年から予選と決勝のベストラップ上位３台にもウエイトハンデが搭載されることになり、決勝の走行ペースをラップ単位に管理するチームも現れた。つまり順位に響かないならベストラップを出さないようにするのだ。予選でも『４番手狙い』なる言葉が当然のように出てきた。しかし一方で１秒に10数台がひしめくJGTCの予選では、少し抜いただけで５つも６つも順位を下げてしまうことになる。したがって予選に限っては『結果オーライ』が現実のようだ。

また、近年はこういったウエイトコントロールが高じて順位自体をコントロールするという作戦も現れた。決勝レースで２、３位に入るチャンスがあっても、次戦以降で勝負を賭けたい場合、ポイント獲得よりハンデウエイト増加を嫌って、意図的に順位を下げるというものだ。2002年の第７戦MINEでは、３位になれたはずのエッソウルトラフロースープラとMobil 1 NSXがペースを落とし、お互いに相手を先行させようとする奇妙な光景も現れた。

しかしこういった戦法が本当に有効かと言えば、その後のレースで必ずしも予定どおりの成績を挙げられる確証がないだけに、裏目に出ることも。また一歩間違えばチームのモチベーションを下げたり、慢心を招いたりと精神的な戦力を下げてしまうこともある諸刃の作戦でもある。なお、04年からはウエイトハンデとポイント制度が改正され、３位以上がより有利になるように設定された。このため順位コントロールに関しては、また新たな局面に入っていくかもしれない。



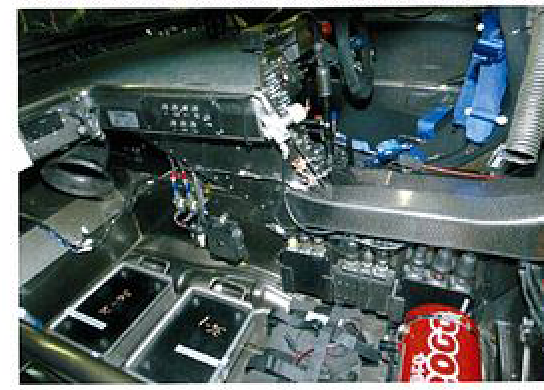


上：2002年のMobil1 NSX、中：2001年のペンズオイルゼクセルGT-R、下：2003年のニッソウルトラフロースープラ。３車とも、自らのポジションを譲ったことにより、最終戦で涙を飲む結果に

戦いはテストにおいても!

ウエイトハンデを甘く見ると あっという間にタイトル争いの圏外へ

ウエイトハンデ用のオモリは、50kgまでは助手席位置の搭載が義務づけられている。それ以外は自由となるため、各車最適の位置に。マシンによっては全く見えない位置に取り付けることもある。テストでは将来的に得るであろうオモリを想定してマシンに搭載し、走行を重ねることも



細部まで煮詰められたレギュレーション 今や戦いの演出には欠かせないものとなった

てさらに細かく補正され、性能を均衡化している。

ＪＧＴＣ用に造られたＮ－ＧＴ車両という区分のレース車は、このマトリックスからリストリクターと最低車重のセットを選ぶことになる。本来は、車種固有の事情に合わせてこのようなマトリックスが必要になるわけだが、最低車重をある程度変えられるレース車両においては、サーキットによって出力重視（リストリクターを大きく）したり、車重重視（軽い車重を選ぶ）にしたりといったセッティングに利用する考え方も存在する。

また、Ｎ－ＧＴ車両でなく、ＦＩＡ－ＧＴやル・マンなど他のＧＴレースへ参戦することを前提にした車両、ＪＡＦ特認車両と定められるレース車に対しては、別途リストリクターと最低車重を定め、Ｎ－ＧＴ車両と性能が均衡するようになされている。

この特認車両という考え方が、ＪＧＴＣの懐を広くしている。加治次郎ＧＴ－Ａ事務局長は「世界のどのＧＴレースに参戦している車両でも、この特認車両という規定で性能均衡でき、ＪＧＴＣに参戦することが可能になる」と言っている。こういった部分も、ＪＧＴＣでの車種の多さを支えているのだ。

このようなリストリクターと最低車重によるパワーウエイトレシオ制限は、ＪＧＴＣに限ったものではなく、ツーリングカーレースでは広く活用されている。

では、ＪＧＴＣがこれほど均衡したレースになる最大のポイントは何であろうか？ それは全日本ＧＴ選手権統一規則（競技規定）にある「性能の特別調整」、いわゆるウエイトハンデ制によるところが大きい。ウエイトハンデとは、性能が突出した車両（車種ではない）に対して、重量増となるオモリ（ウエイト）を搭載させるという仕組みだ。

ＪＧＴＣのウエイトハンデには、ふたつの種類がある。ひとつは決勝レースの結果に対するもので、これは決勝順位の上位特定順位まで、順に大きいウエイトを次レースに搭載し、そして一定順位以下になると次レースで軽減するというものだ。これにより上位入賞を続けると必然的にパワーウエイトレシオが悪くなり、車両的な優位がなくなる。つまり、ひとつの有力車だけが勝ち続けることを規定により制限しているわけだ。

ふたつ目のウエイトハンデは、予選と決勝レース中のベストラップの上位3台に搭載されるというもの。これはひとつ目のウエイトハンデと若干意味合いが違う。このハンデは、車両規則でのパワーウエイトレシオ制限で吸収できなかった車種間格差を補うものだとされている。従って決勝順位につくものより搭載重量は少なく、その後ポジションが下がったとしても、シーズン中は軽減されることがない。

さらに、ＪＧＴＣには性能を下げるハンデとは逆に性能を上げる規定も存在しているのがユニークだ。これは統一規則にズバリ「性能の引き上げ措置」として記載されている。

引き上げを適用される車両を決める判定基準は規則書に細かく定められている。簡単に記せば、予選タイムと決勝ベストラップが上位の平均より著しく遅く、ポイントランキングでも上位にいないなどの条件が揃った場合にリストリクターを1ランク（車両規定の組み合わせ表で1項目）大きいサイズにすることができるということ。これは2ランクアップまで適用され、前記の条件に当てはまらない成績を収めると順次通常に戻されていく。

このような性能調整は、前年のレース内容や状況、今後の車両開発の情勢を考慮して、毎年変更され、車両間の性能格差が開かないよう考えられているのだ。

世界を見れば、決勝順位にウエイトハンデがあるレースはいくつかある。だが車両レベルまで細かくコントロールする性能調整があるのがＪＧＴＣの特徴と言えよう。この性能調整が複数車種によるバトルが常に存在するＪＧＴＣを生み出しているわけだ。

状況に合わせて進化するＪＧＴＣ

とはいえ、常にこの規定がうまくいっているかというと、時には実状とずれることもあった。たとえば、先の説明で「車種」に対する制限と書いたが、実際の規則書上では個々の車種名を記しているわけではなく、エンジン形式と車両のレイアウト、空力条件等が同じ車両をひと括りにしている。

このため、出力やコーナリング性能が毎戦毎に向上する昨今の国産ＧＴカーを基準にこれらの規定が作成されるため、海外から購入したレースカーには厳しすぎ、結局格差を広げているという意見もある。また、こういった厳しい規定を克服しようとさらに開発競争が激化し、レースへの参戦経費を押し上げるという批判もある。

そして、選手権ポイントとのバランスという課題もここ2年ほどで顕著になった。ウエイトハンデが時とともに厳しくなっていくのに対し、ポイント制はＪＧＴＣスタート時から基本的に変わっていない。このため、予選、決勝でより上位に入れるチャンスがあっても、ウエイトハンデを嫌って4位、5位で可とする風潮がチームやドライバーに出てきてしまった。

レースはライバルより少しでも速くゴールすることを是とするはずが、ときには意図的に順位を下げ、ドライバーが下位を容認するのだから、観客にとっては非常に見苦しいものに見えてしまう。もちろん、チームとしては最大の最終目標である「チャンピオン」を獲得するための、シリーズを見通した戦略ではあるのだが。

こういった点を是正するために、２００４年シーズンはウエイトハンデ制だけでなくポイント制にも改定が加えられた。表彰台に上がれる最後の順位3位とそれ以下のポイント差を少し開き、ハンデウエイトも03シーズンより下位にならないと下ろせないようになった。これにより、03年や02年に見られた順位の譲り合いといったシーンは、今後まず見られなくなりそうだ。

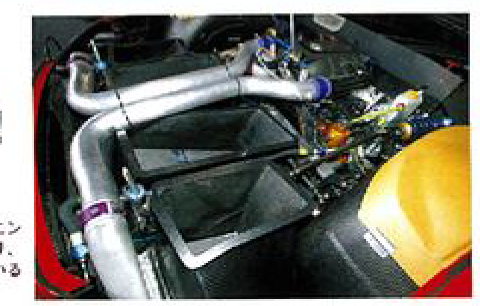
このように、ＪＧＴＣでは単に参加者や参加車両の状況を考慮するというだけでなく、観客がＪＧＴＣに何を求めているかを競技の中に反映していくという視点を大事にしている。それはウエイトハンデやポイント制だけでない。車両規定においても日本の高性能セダンを対象にした4ドア車の特認などにもそういった意図がある。

加治ＧＴ－Ａ事務局長は、ＪＧＴＣの規定に対しこう語った。

「ＪＧＴＣはクルマだけの競争ではなく、ドライバーや監督、メカニックなども含めたチームの競争なんです。そのためには、クルマという道具の格差を減らし、ドライバー個々のテクニックやチームの技術力で差が付く規定を作ることが大事です。一方で、日本のファンが求める高い技術を用いたクルマ、車種をより多く参加させる必要もあります。もちろん、それは参加するチームやメーカーも納得する規定でなければいけません。だから、現在の規定が完璧だということではなく、毎年変化していく状況に合わせ、よりベターな規定をＪＡＦとともに作っていく。そう心がけていこうと思ってます」

『多彩なクルマによる常に激しいバトル』。このキャッチフレーズはＪＧＴＣがＪＧＴＣである限り変わることはなさそうだ。

エンジン搭載位置に よっても これだけのウエイト差が!



エンジン搭載位置による車両重量補正は以下のとおり。03年はエンジン搭載方法の自由化やトランスアクスルが許されたことにより、相対的にGT-Rやスープラといったフロントマシンが高い恩恵を受けているようにも思えるのだが……

エンジン搭載位置と駆動輪位置および駆動方式による車両重量が補正

GT500	
エンジン搭載位置	F:0kg　FM:+25kg　M:+50kg　R:0kg
駆動輪位置	F:−50kg　R:0kg
駆動方式	2輪:0kg　4輪:+50kg　F:フロント　FM:フロントミッドシップ　M:ミッドシップ　R:リヤ
GT300	
エンジン搭載位置	F:0kg　FM:+15kg　M:+25kg　R:0kg
駆動輪位置	F:−25kg　R:0kg
駆動方式	2輪:0kg　4輪:+25kg　F:フロント　FM:フロントミッドシップ　M:ミッドシップ　R:リヤ

レギュレーションのきめ細かな設定が繊細なる戦いを演出 果たして2004年は?

2003年にNSXが苦戦した理由が実はこんなところにも!



前面投影面積のアオリを食ったのは、またしてもNSX。スープラが基準とされたため重くなった上、もう１台のライバル、スカイラインはマイナス補正を受けるという大打撃が

前面投影面積による車両重量補正

GT500	
投影面積S(m2)＝	1.7m2以上～1.9m2未満：+40kg
	1.9m2以上～2.1m2未満：+20kg
	2.1m2以上～2.3m2未満：0kg
	2.3m2以上～2.5m2未満：−20kg
※投影面積S(m2)＝(基本車両の全高−最低地上高)×(基本車両の全幅+0.1m)	
GT300	
投影面積S(m2)＝	1.7m2以上～1.9m2未満：+20kg
	1.9m2以上～2.1m2未満：+10kg
	2.1m2以上～2.3m2未満：0kg
	2.3m2以上～2.5m2未満：−10kg
※投影面積S(m2)＝(基本車両の全高−最低地上高)×(基本車両の全幅+0.1m)	



異国で戦うツワモノたち

FOREIGN FIGHTERS

JGTCで戦う外国製マシンの正体とは

**GT500クラスのみならず、GT300クラスにおいても国産ワークスが台頭するなか
これまでJGTCに参戦するプライベーターを支えてきた外国産マシン
その強さの秘密と変遷、近年の苦闘を、改めて振り返る**

TEXT：Osuke Kawai
PHOTO：Masahide Kamio
Naoki Kobayashi / idea

**As domestic works teams are gaining power not only in the GT500 class, but also in the GT300 class.
Foreign cars, that have long supported JGTC privateers now stand at bay.
Looking back those foreign machines' foregone strength, transitions and recent struggles.**

夢のマシンが次々と上陸

1994年4月30日、新生全日本GT選手権が開幕。予選には全部で18台のマシンが出走したが、そのなかに1台、とりわけ異彩を放つマシンが混じっていた。かつて全日本耐久選手権を戦っていたグループCカー、ポルシェ962Cである。このクルマを走らせたチーム・タイサンの千葉泰常オーナーは、当時をこう回顧する。

「子供のころからのクルマ好きにとってGTは一番の夢。94年に始まる選手権にはぜひとも出場したかったが、手持ちのマシンは962Cしかなかった。ダウアー・ポルシェの例もあるし、なんとかこれで出場できないかと掛け合って、出られることになったんです」

ダウアー・ポルシェとは同年のル・マン24時間レースに出場したダウアー962LMのこと。実質的には962Cそのものだが、ナンバー付きの公道仕様を1台製作し、LMGT1としてのホモロゲーションを取得していた。962Cは8月の第3戦、富士スピードウェイに再登場。アンソニー・リード/近藤真彦のドライブで優勝を飾った。マッチにとっては、これがレース参戦10年目での初優勝。このふたりは最終戦のMINEにも962Cで登場、3位入賞を果たしている。

この年、タイサンからはもう1台、フェラーリF40も参戦していた。

「当時は太田哲也が"フェラーリ遣い"として知られていました。私はF40を持っていなかったので、クルマ屋に『太田を乗せるから売ってくれ』と交渉したんです。太田が運転し、私が横に乗って試乗しながら『これでGTをやりましょう』と話が盛り上がったのが出場のきっかけです」（千葉オーナー）

開幕戦以後、第2戦仙台ハイランド、第3戦富士と3戦連続で3位。最終戦のMINEにはもう1台のF40が加わり、オスカー・ラウリのドライブで初優勝を飾った。この年エントリーしていた外国車はほかに、ポルシェ・カレラRSR、ランボルギーニ・カウンタック、ポルシェ・ターボなど。GT2クラスにも964系のポルシェが参戦、KORG KEGAN-ポルシェの小幡栄がクラスチャンピオンを獲得している。また、第3戦の富士ではグループBマシンのロッソランチア037-MYZという"珍車"も走った。

95年になると962Cは姿を消し、タイサンはフェラーリF40とポルシェ911GT2



という布陣になった。ポルシェGT2はその名のとおりル・マン24時間のLMGT2クラスをターゲットに開発されたマシン。日本ではGT1クラスに、タイサンのほか綜合警備PORSCHEなどがエントリーしていた。

ランボルギーニは前年のカウンタックからディアブロにスイッチ。そのほか、ポルシェ・ターボがチーム国光などから参戦した。GT2クラスではポルシェのほか、BMW M3も登場、外国車の勢力が一気に増大した。この年、GT1クラスでは全6戦のうち911GT2が3勝。タイサンがチームチャンピオンに輝いた。また、GT2クラスでもポルシェとBMW M3が1勝ずつを挙げた。

マクラーレンF1GTRの衝撃

96年開幕前、JGTCはマクラーレンF1GTR参戦の報に揺れた。前年のル・マン・ウイナーがセミワークス体制でやって来る。そのニュースは、いわば「黒船来航」のように受け止められたのである。やってきたマシンは2台。開幕戦では、マシン到着がレースの直前、しかも予選は雨という困難な状況ながらポールを獲得。決勝ではワン・ツー・フィニッシュを飾り、太平の眠りを覚ましてみせた。結局、この年マクラーレンは6戦中4勝。チームタイトルを獲得したのはもちろん、ドライバーランキングでも1位、2位を占めた。しかし、チームはシーズン半ばにレギュレーションの運用をめぐってGTアソシエイションと対立。当初2年の予定だった計画を短縮し、この年限りでJGTCを去ってしまった。

他の外国車勢では、タイサンがF40を引っ込めGT500（GT1から名称変更）にポルシェGT2を2台、GT300にポルシェ・カレラRSRを投入した。GT500にはそのほか綜合警備、プローバなど数台のポルシェとランボルギーニ・ディアブロ。GT300にはポルシェとBMW M3が数台ずつエントリーしていた。GT300ではタイサンのカレラRSRが3勝を挙げドライバーとチームの両タイトルを獲得したほか、ナインテンポルシェが2勝、WAKO'S BMW M3が1勝。全6戦すべてで外国車勢が勝っている。

97年、童夢×無限プロジェクトのNSXが登場して日本車勢の反撃が本格化する。GT500への外国車勢のエントリーは減って、タイサンはマクラーレンの出場を断念したにとどまらず、シーズン途中は同クラスを欠場。その後、ポルシェGT2で戦列復帰するものの、他のポルシェ勢とともに成績は奮わなかった。

この状況を打開すべく、千葉オーナーが打った手がバイパーの投入だった。「一昨年、松田秀士とインディ500に行ったとき、ペースカーにバイパーが使われていました。『優勝したらあれをお土産にするぞ』って言っていたんですが、結果は8位。その後、オレカが製作したバイパーを手に入れて、97年の第5戦から投入しました」

だが、このクルマは日本のサーキットでの実績が皆無。熟成に手間取り思ったような成績は挙げられなかった。その後2年間の苦闘の末、GT300へ移行することにした。

そのGT300クラスにはポルシェ、BMWのほかチームFCJからフェラーリF355が登場。フェラーリF355はシーズン序盤こそ熟成不足に苦しんだが、徐々に戦闘力は向上。第4戦で2位に入ると、シーズン最後のオールスター戦では初優勝を飾った。また、ルノー・スポール・スピダーも登場した。

この年、同クラスの外国車勢はタイサンスター・カードRSRが2勝、シグマテック911が1勝。タイトルは日本車勢に奪われたものの、一方の主役はポルシェだった。

98年、GT500クラスにエントリーした外国車勢は綜警PORSCHE、バイパー、ディアブロの3台。シーズン半ばにはディアブロがもう1台増えたが、日本車勢を前に苦戦を余儀なくされる状況に変わりはなかった。

GT300クラスでも、タイサンが土屋エンジニアリングとのジョイントでトヨタMR-2にスイッチしたこともあって、外国車勢の成績は急降下。JGTC始まって以来はじめて未勝利に終わってしまった。

ポルシェGT3R登場

99年、JGTCにマクラーレンが帰ってき





「外国産マシンといえばタイサン」。もはや代名詞のような存在だが、千葉泰常代表の測りしれない情熱により運営されるチームは、両クラス合わせて7度のタイトルを奪取。プライベーターとしては驚異の成績を残している

た。前年までポルシェを走らせていたチーム・テイクワンが綜警McLaren GTRを投入したのである。マシンは97年ル・マン24時間レース向けに製作されたロングテールバージョン。ただしチーム体制はセミワークスではなく、あくまでカスタマーだった。予選は第3戦SUGOの6番手、決勝では第4戦MINEの9位がベストリザルトとなった。GT500クラスの外国車勢は、ほかにバイパーとディアブロの2台。しかしバイパーはシーズン途中で休場するなど、依然成績は奮わなかった。

GT300は993系ポルシェがタイサン、ナインテン、シグマテックほか数チームから出場したほか、BMW M3も引き続きエントリー。フェラーリ勢では、チームFCJに代わってイエローマジックF355、JIM GAINER F355の2台が登場したが、このクラスでも日本車勢の前に苦戦を強いられた。この状況を打破するマシンが登場したのは第5戦富士。タイサンが996系の新型ポルシェ、GT3Rを投入したのである。

「水曜日にマシンが到着して木曜日に走らせようとしたら冷却系のパイプが飛んじゃった。それを直して、なんとか金曜日から走らせることができて、日曜日には優勝ですからね。全く、ポルシェというのはたいしたメーカーです」(千葉オーナー)。その後、最終戦もてぎでも優勝。翌年からの活躍を予感させた。

2000年になると、GT500クラスにもう1台のマクラーレンが登場。2台は徐々に成績を向上させ、第5戦では綜警McLaren GTRが4位に入賞している。一方、ディアブロとバイパーは苦戦が続き、後者はシーズン半ばにGT300にスイッチした。

そのGT300ではポルシェGT3Rが勢力を拡大。開幕戦と第2戦をタイサン26号車が連勝すると、第4戦ではもう1台のタイサン28号車が優勝。さらに第5戦ではナインテンが優勝を果たす。続く第6戦ではタイサン26号車がシーズン3勝目を挙げ、最終戦でも2位に入ってドライバーとチームのダブルタイトルを獲得。ナインテンもその両方でこれに次ぐ成績を収めるなど、同クラスは完全にポルシェが席巻した。

また、もう1台のポルシェとして986ボクスターも登場。メーカーからの援助が得られず苦戦したが、シーズン後半には戦闘力を上げ、最終戦鈴鹿ではポールポジションを奪うまでにもなった。フェラーリ勢ではF355に加えて、シーズン半ばに360モデナが登場している。

魅力的なマシンの登場は続く

01年、GT500クラスに参戦した外国車はディアブロと2台のマクラーレン。この2車種のうちではマクラーレンが好調で、最終戦MINEでは綜警McLaren GTRがついに初ポール。決勝でもそのままレースをリードし、優勝を飾っている。

GT300クラスはボクスターが撤退した一方、GT3がさらに台数を増やす。前年、フェラーリで戦ったチーム・ゲイナーもGT3にスイッチ。ポルシェ勢の一員に加わった。ところが、レギュレーション上の締め付けが厳しくなり、一方で日本車勢の戦闘力が向上すると形勢は逆転する。前年からは一転してポルシェは未勝利に終わってしまった。タイトル争いではナインテンが最終戦まで権利を残したが、結局ランキング3位に終わった。その他の外国車としてはモスラーMT900Rも参戦している。

02年にはGT500クラスに新たな外国車のコンテンダーが加わった。HKSがメルセデスベンツCLKで参戦してきたのである。しかし、チームはJTCCなどで実績を残してきたとはいえJGTCは初めて。メーカーからの援助もいっさいなしとあって、当初から苦戦は予想されていたが、ほとんどまともにレースができないままシーズンを終えてしまった。一方、2台のマクラーレンは引き続き健闘。特にドライバーに服部尚貴を迎えたイエローコーンマクラーレンGTRは第2戦富士で一時トップを走り、第6戦もてぎではポールポジションを獲得するなど、しばしば日本車勢をしのぐ活躍をみせた。

GT300ではイギリス製日本車とでもいうべきヴィーマックの活躍が光った。デビュー戦となった第2戦富士でいきなりポール・トゥ・ウイン。その後、レギュレーション上の締め付けを受けながらもシーズン3勝を挙げたのである。ポルシェ勢は前年より成績が向上し、タイサン24号車が1勝を挙げるなど、シリーズ上位にも顔を出すようになった。

03年になるとHKSが撤退する一方、ヴィーマックがGT500クラスにも進出。しかし、メーカーからサポートを受ける日本車勢が相手では分が悪かった。マクラーレン勢では綜警が撤退。イエローコーンも服部が離れた影響もあって成績は低下してしまった。

一方、GT300クラスではタイサンの24号車と26号車が開幕2戦を連勝。また、童夢が仕上げたフェラーリ360モデナがデビューから速さをみせるなど、外国車勢は勢いを盛り返した。タイサンはそのままチームタイトルを獲得。ドライバー部門でもタイトルは逃したものの、26号車が最終戦をランキングトップで迎えるなど、大いに活躍した。フェラーリもあと一歩のところで未勝利に終わったが、デビュー年としては賞賛に値する成績を残せたといえるだろう。

これぞGTの本道!? スーパーカー、未だ健在

カウンタック、ディアブロ そしてムルシエラゴも登場か

1994年以来、JLOC（ジャパン・ランボルギーニ・オーナーズクラブ）が走らせるランボルギーニはJGTCのグリッドに欠かせない存在になっている。成績では日本車勢に対して劣勢を強いられているものの、レースにかける夢とクルマに対する情熱では全くひけを取らない。

彼らが最初に登場させたのはカウンタック。ロードカーからエアコンやステレオをはぎ取り、サーキットを走るのに必要最小限の装備を与えただけの、ほとんどノーマルに近いマシンだった。95年にはランボルギーニ本社がJLOCのためにたった1台のレーシングマシン、ディアブロ・イオタを製作。98年には2代目のディアブロGT-1に進化する。このマシンでは2000年の鈴鹿1000kmで3位表彰台という好成績も収めることができた。2001年になると3代目のディアブロ、JGT-1が登場。その名のとおりJGTCにターゲットを絞ったマシンで、レギュレーションをヨーロッパに送り、ゼロから造り直したものだ。その間、ランボルギーニの経営体制は変わり、02年にはディアブロの後継ロードカーとしてムルシエラゴが登場。04年からは、これをベースとしたレーシングマシンがJGTCにも登場しようとしている。



94年、スーパーカーブームの火付け役、カウンタックがJGTCへ！



その挑戦はディアブロへ引き継がれたが、ライバルの急成長に……



JGTC用にモディファイを受けた01年型。直線では驚速ぶりを披露

JGTCを支えてきた外国産マシンだが 戦うための条件はますます厳しくなっている

FOREIGN FIGHTERS



すべては安全のために

all for SAFETY

レース中に命を落としたドライバーはいないものの
過去に大事故に遭遇した全日本GT選手権
こうした教訓をもとに、どのような対策が採られてきたのか
マシン＆コースの安全性、事故が起こった後の対処方法等
JGTCがどのように“セーフティー”と
向き合ってきたかを改めて検証する

TEXT：Tomoyuki Furuya
PHOTO：Masahide Kamio, Naoki Kobayashi, Yukio Yoshimi, i-dea

No one has ever been killed in the All-Japan GT Championship series; however, it has had a fair share of accidents in the past. How have those lessons been accounted? What measures have been taken? Let's see how JGTC has confronted safety issues.



決して終わることのない戦い





1
5 | 3 | 2
4

富士スピードウェイではヘリを使った訓練も実施。チーム側の協力を得て、レース出場車を使い一連の作業を確認した。現場には、もちろんGT-Aメディカルアドバイザーの姿も（1345）。ヘリを使用する前には、地上部隊による救助、消火訓練も行なわれている（2）







ふたつの事故が警鐘を鳴らした

モータースポーツは危険である。これは厳然たる事実だ。だからこそ、限界への挑戦と同じように、常なる安全への挑戦が行なわれている。それはJGTCにおいても例外ではない。

幸いなことに、これまで行なわれてきたJGTC10年の歴史のなかでは、ドライバーの死亡事故はない。しかし、コースオフィシャルの死亡事故とサポートレースでの死亡事故が起きているのは事実だ。

そして、忘れてはならないのは1998年の第2戦富士スピードウェイで行なわれた決勝レース、フォーメーションラップでの多重衝突炎上事故だ。この事故で、炎上する車両に取り残されたドライバーの太田哲也が全身に大やけどを負った。太田は、命こそ取りとめたものの身体に障害を残し、事実上、選手生命を断たれている。

このほかにも、レースではないが99年シーズン前のプライベートテストで起きた事故により舘信吾が死亡。98年の第3戦仙台ハイランドの金曜日テストでオフィシャルの作業車にチーム・スタッフがはねられ、重傷を負うという事故もあった。

98年第2戦での炎上事故はJGTCにかかわる者に大きな衝撃を与えた

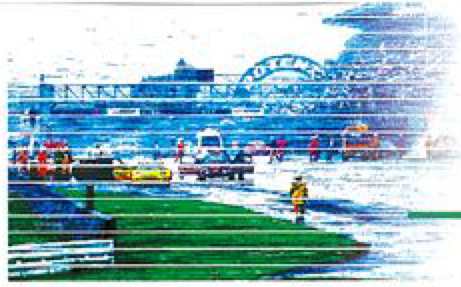
なかでも、98年第2戦の炎上事故は、JGTCにかかわるすべての者に衝撃を与えた。事故の原因は、ペースカーが誘導する速度が常識的ではなかったことなどが取り沙汰されているが、何よりも事故が起きたときの車両火災の問題、そしてケガを負った者をいかに迅速に救助して適切に処置をするかということが大きな課題となった。

またこの事故の衝撃が冷めやらぬ同年第3戦でのテスト日のチームスタッフ負傷事故では、テストなどのレースイベント外の非公式日程でサーキットに医師の不在、医療施設の準備不足といったことも問題とされた。

このふたつの事故を通して、いかにこれまでの競技が安全という面で綱渡りをしてきたかが、浮き彫りになってしまった。

これを重く見たGTアソシエイション（GT－A）では、ドライバー、エントラント（チーム）、オフィシャルなど関係者全般に緊急アンケートを行ない、レースの安全性をどう見直していくかを調査、検討した。

また、救急専門医でもある高橋規一医師からの助言を得ながら、JGTCというレースの中で必要な救急体制とは何かを模索し始めた。この高橋医師は、JGTCにも参戦した経験を持つドライバーでもある。98年も一選手としてエントリーしており、先の炎上事故も間近に居合わせ、第3戦の重傷事故では負傷者に応急措置を施してもいる（あくまでも、



all for SEFTY

偶然居合わせた医師として）。

高橋医師は言う。「あの一連の事故が起こったあと、GT－Aに医師として手伝いましょうと申し出ました。そして、改めてレース現場における救急活動についてを検証してみると多くの課題があることに気が付きました。これはドライバーとの兼務ではできないと99年からは専任となり、GT－Aやサーキットの方々とも連携を図りながら、活動を進めました」。

そして、まずGT－Aメディカルドクターという存在を形作った。これは、GT－Aの公式レースイベントに常に帯同し、ドライバーの警護も含め、レースでの緊急時にもサーキットやオーガナイザーの救急スタッフと共に対処していくというものだった。このとき、高橋医師をはじめとする数人の医師と看護士が参加しているが、ほとんどがボランティアであり、専用のレスキューカーは高橋医師の所有車だった。

このGT－Aドクターでは、単に事故時の対応だけでなく、ドライバーの健康をケアするという活動もなされている。その取り掛かりはモータースポーツでも注視されるようになったドーピングへの正しい対応のレクチャーだった。それを通じてドライバー自身に体調管理の意識を高め、競技の安全につなげてもらうことだった。「僕らがドライバーたちに、いつも見ているよって言えば、彼らも安心して競技に打ち込める。でも、『安全だ』って単に周りから押し付けるだけではダメ。ドライバー自身が安全への意識を高めてもらわないと。体調管理などもそのひとつ。さらにはドライバー間で安全に対する課題を検討していってくれるきっかけにもなればいいなと思っています」と高橋医師はGT－Aドクターの存在意義を話してくれた。

2002年、FROの発足

このGT－Aドクターの発展的活用とCARTなど海外レースのレスキューシステムを参考に、JGTCなどツーリングカー系レースの独自性を加味したFRO（ファースト・レスキュー・オペレーション）というJGTC独自の救急システムを02年に発足させた。

FROの内容とは、救急医療やスポーツ医療に明るい医師と訓練されたレスキュー要員、車両火災に対応できる装備を扱える消火要員とその装備一式を、レース経験を持つドライバーが運転する車両に搭載し、事故や救出の

5 | 2
1 | 3
4

02年第５戦富士で発表されたJGTC独自の救急システムFRO。マシンはニスモチューンのステージア（135）。スタッフは専門知識を持つ４人が専任で活動。ドライバーは元GT300クラスチャンピオンの星野薫氏（2）。消火用インパルス銃の掃射範囲は１〜10m！（4）











必要な現場にいち早く駆けつけるというシステムだ。使用する車両も人員と装備を搭載した上で、サーキット走行に耐えうる強化チューニングが施されている。このチューニングは、JGTCに参加する自動車、タイヤメーカー、チューニングファクトリーの協力を得て行なっている。また、FRO要員全員の耐火服や救急・消火装備も、消防署のレスキューで使用する最新レベルが提供されている。

このFROはJGTCのテストとレースデーに帯同し、競技車や体験走行などが行なわれる際はコースサイドに常に出動できる態勢で待機している。さらにJGTC以外のレースや自動車を活用するイベントにも要請があれば出掛けるなど、レース競技全般の安全意識向上にも努めている。01、02年は1台で運用されたが、03年にはレース時は2台のFROが待機するようになった。

このFROの活動の評価は高いが、一方で既存のサーキットのレスキュー・オフィシャルとの連携に課題を残している。FRO自体はGT-Aの組織であるが、レースでの行動は各オーガナイザー（主催者）の指揮下にゆだねられる。そこで、FROスタッフが活動したい状況とオフィシャルの運用したい状況がずれることもあるわけだ。加治次郎GT-A事務局長は「FROはオフィシャルの能力を否定しているわけじゃありません。コース内での危険な作業や要救護者の処置に対し、専門家を派遣するから活用してくださいということなんです。それでオフィシャルも危険から遠ざけられる。ただ、こういった面はサーキットやオーガナイザーとの協力関係が大事です。今後もお互いに理解を深めて運用していきたいと思います」と、そのあり方を語った。

もちろん、サーキットやオーガナイザー側の安全意識も高まってきている。ここ数年はテストデーやレースの合間にオフィシャルによる大がかりな消火・救急訓練などが実施されるようになった。実際の競技車やダミー車両を用いての救出訓練や廃車を燃やしての消火訓練、ヘリコプターも動員しての搬送訓練など実戦さながらの訓練だ。

車両面では98年の事故以降、消火器やドライバーの脱出に関する項目が改められている。03年には車体前後のパイプフレーム化が認められると同時に、衝突時に車室部への衝撃を和らげるためにクラッシャブルストラクチャ（衝撃吸収構造部品）をパイプフレーム部に取り付けることが義務付けられている。安全に直接かかわる面以外にも、年々上がっていくコーナリングスピードを抑制するために、ウイングやディフューザーのサイズ規制やフラットボトムの強化などの空力（ダウンフォース）の制限が随時行なわれてきた。さらに、規定には明記されていないが、横からの衝突に備えてサイド（インパクト）バーを装備する車両も多くなってきた。

ドライバーの装備に関しても、98年の事故以後に耐火装備の強化が行なわれている。加えて、競技中のラフプレイに関しても統一規則で罰則が明記され、GT-Aでも同時にGT-Aの基準と審査でラフプレイを監視するようになった（合同テスト走行時も含む）。

このようななか、ドライバー個人でも安全に対する意識が高まってきている。衝突時に首の損傷を避ける装具であるHANSデバイスも最初は個人レベルでの着用からテストされ、現在では多くのチームで採用されるようになった。また、ドライバー間の意志疎通の組織として、ドライバーズアソシエーションなどが作られている。とはいえ、まだ限られたグループ内での組織化ではあるが、これは極めて有用なことだと考えられる。今後、こういった組織を通じドライバーからも積極的な提案や要望などが行なわれるようになることがレースの安全性向上に最大のベクトルとなるはずだからだ。

最後に、もう一度繰り返す。モータースポーツは危険である。だからこそ参加するすべての人がその意識を再確認しておかなければならない。

さらに、JGTCがプロのスポーツとしてのポジションを確立していくには、社会通念に適応した観客が安心して見られる環境を作り上げなければならないだろう。つまり、安全面でもプロフェッショナルな対応が存在すべきだということだ。そして、今後も海外での開催を続けるなら、海外からも見本にされるような一歩先をいく安全対策がJGTCには求められるはずである。

今後、JGTC、GT-Aの安全対策がどう発展していくか。その終結なき戦いは、モータースポーツを、自動車を愛する者にとって注目に値するだろう。







4 3 2
5
1

98年第3戦からはGT500クラスとGT300クラスの間隔を大きく広げてスタート（1）。ピットイン時の安全性を高めるため、給油時のタイヤ交換は不可とされた（2）。03年型マシンから義務付けられたクラッシャブルストラクチャーと、コーナリングスピード抑制のためのフラットボトム（3 4）。GT開催サーキットも、コースの改修を行なうなど安全性の確保に努めている（5）





近年、「1100kgの鉄の塊があのコーナリングスピードを出すのは危険だし、運転していても怖い」と語るドライバーも多い（1）。脇阪寿一のオーダーで、スープラにもサイドインパクト用のカーボン製プロテクターが装着されることになったという（2）。NSXは最も早くサイドプロテクターを装着。ロールケージの取り回しについても、安全性をまず第一に考えるという（3）。

1
2
3

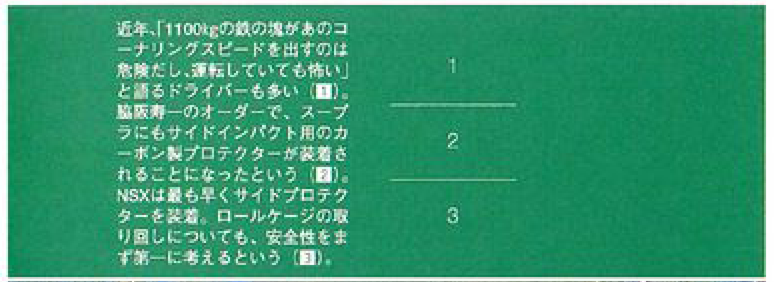






JGTCがプロスポーツなら観客が安心して見られる環境を作り上げなければならない





all for SEFTY

JGTC ROUND TABLE DISCUSSION JGTC 座談会

ライター、編集者によるJGTCなんでも放談

**プロとして、レースを見つめるライターや編集者
業界の内側を探りつつ、外側からも眺める彼らに
JGTCについてさまざま語ってもらいました
お題は特になし。果たしてどのような名(迷)言が?**

Photos/i-dea

メンバー紹介

林 信次 (Shinji Hayashi)
「この人がいなければ歴史物や年鑑は作れない」というほどのレースデータ・スペシャリスト。古き佳き時代のレースを好むが、基本的にレース全般を愛していることが、言葉の端々からも……。

大串 信 (Makoto Ogushi)
メカもの、インタビュー、レースレポート、体験記、コラム等々、なんでもござれの"ひなた屋"代表。社名の由来からも分かるように(愛猫:ひなたチャン)、熱烈な愛猫家。秋葉原出没率はかなり高め。

はた☆なおゆき (Naoyuki☆Hata)
フォーミュラはF3まで、GTも300クラスまでと、かたくななまでにメジャーを拒絶。地方戦までくまなくカバーするため、おそらく年間で一番レースに足を運ぶジャーナリスト。口ぐせは「ばかやろう」。

貝島由美子 (Yumiko "NEISAN" Kaijima)
取材力No.1! 「ねぇねぇねぇねぇ!?」と聞かれたら、リタイア直後のドライバーでさえ重い口がついつい開いてしまうという魔法の持ち主。チーム関係者、メカニックとのつながりも深く、裏情報にも精通。

梅原 康之 (Yasuyuki Umehara)
オートスポーツ、レーシングオンといったモータースポーツ専門誌の編集を行なっている、イデアの偉いヒト。ただしレースファンには、テレビ中継で"よく笑う解説者"と言った方が分かりやすいかも。

大串:一番最初、GTって全然興味なかったんだよね。言葉がすごく悪いけど、結局は改造車レースじゃない。それは好きな人がやって好きな人が見に行けばいいわけで、僕はいいや、と思ってたの。そのときの僕の興味は、完全にJTCCの方にあったんですよ。メーカーがやる、ものすごいものを作ってくるっていう方に興味があった。それに比べてGTの方はなんか、キワモノっぽい感じなのかな。それはそれで興味はあるんだけど、とりあえずやっててよっていう気持ちしかなかったんだよね。

貝島:でも私はJTCCは途中で放棄しましたよ。

大串:そう。僕も結局はそうなんだよね。GTは結局分からないまま遠巻きにして見てる感じだったんだけど、ホンダが揃ってからかな、要するにメーカーの戦いが表に出たころからようやくGTに興味が出てきた。結局はJTCCへの興味がGTに向いただけの話なのかな。メーカーが向いている方に僕の視線も動いてきちゃってるんだけど……。でもあまりメーカーがかかわりすぎるのもおっかない。矛盾した気持ちもあるんだよね。それはいまだにそうなんですよ。「わぁ。すげえ! 面白くなってきた」って思いながら、「エー」ってがっかりしてる部分もあるし、非常に複雑な思いで今のGTを見ている。

林:大串さん的にはどんどん面白くなってきてるんでしょ?

大串:面白くなってるのよ。

林:そうでしょ? 大串さんとしては多分そうだと思うのよ。

大串:よく「これはモータースポーツじゃない」っていう声があるけど、僕はそんなの全然構わない。自動車レースがスポーツである必要は全然ないと思うしね。スポーツっていったい何よっていう話にもなるし……。昔の人がよく言っていた「自動車の運動会なんだ」って視点を変えちゃうと、今のGTってすごく面白く見えちゃうわけですよ。

林:昔のDTM/ITCなんかも、わりとそれに近いノリがあったよね。3メーカーの中でそれなりに話し合いがちゃんとできていて、シーズンが進むにつれてどんどんエスカレートして面白かった。でもやっぱりここまでっていう時期が来ちゃったでしょ。似てるって言えば似てるよね。ていうか、同じ路線を歩むしかないんだよね、競争だから。

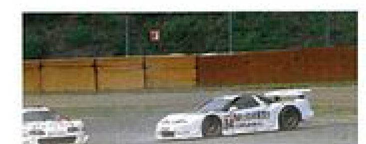
大串:だからそこをよく分かってるのか、なんかコントロールされてるのかなって、半分期待を込めて見てるけど、かなり際どいところまで来てるよね。

林:02年まではNSXがあれだけ強くて、でも03年に規則が変わったことで相対的にNSXに不利になって、他の車種が盛り返すことになった。そこまでちゃんと意図できていたかは分からないけど、とりあえず今年はOKだったと思う。ただその感じを3メーカーがみんなで了承して今後も続いていくならね。「今年はウチが勝ったから来年はいいか」みたいな感じでいられるのなら、まだ数年は続けられるだろうけど、そういう意識じゃない。どこかが失格騒ぎを頻繁に繰り返すようなことになってくると、幻滅してどこかのメーカーがいなくなって、ひとついなくなるとふたついなくなって、JTCCみたいになっちゃうだろうね。

大串:でもね、それぞれのメーカーが最先端のレーシングテクノロジーを持ち寄って戦ってる中、コントロールがうまくいっているのか、結果オーライなのかは分からないけど、3つのメーカーが全然違う仕様のマシンを持ってきて、それとなく3つでちゃんと戦っているのは奇跡、なんだよね。







林:うん、そうだよね。世界的に見てもないよ、こんなレースは。そういう日本の盛り上がってる事情を、ヨーロッパやアメリカのレース関係者は多分知らないと思うんだよね。特にヨーロッパのハコ(のレース)とかは煮詰まってるところもあるから、「日本ではこういうシステムでやってるんですよ、それで盛り上がってるんですよ」って言ったら、向こうの関係者は驚くんじゃないかなっていう部分はある。だから当面はアジア・環太平洋地域、もしかしたらレースの本場、ヨーロッパ・アメリカあたりにも、そういうJGTCの実験をもうちょっとアピールするべきなんじゃないかと思うね。

梅原:やっぱりGTって日本的ですよね。リストリクターとウエイトと駆動方式とか絶妙に、細かく規制されている。今年、FIA-GTでウエイトハンデをやったけれど、結局途中でやめちゃったじゃないですか。フェラーリだったかな? ウエイトハンデをやったけどあんまり効かなかったって。だから向こうもJGTCを横目で見ながら、ちょっとは参考にしてると思うんですよ。テレビでやるようにもなったりしてね。その影響はちょっとは出始めてると思うんですけど、そういうのを聞くとやっぱり今の日本のきめ細かいレギュレーションによるイコールコンディション化は、とてもうまくいってるんじゃないかと思うんです。ただその一方で、レース毎のウエイトハンデやポイントのシステムはどんどん変えていかないといけないと思う。そうじゃないと、最近あったような、順位の入れ換えとかっていう展開になってしまう。そのへんは気をつけないと。

貝島:私は大串さんと正反対で、JTCCには全然興味がなかったんですよ、車種が嫌いで。だって、今どき普通の若い人がクルマを買うときに、サニーを買うか、カローラを買うかって考えたら、絶対買わないって!

大串:若いときからオジサンだね、ずっとサニー買ってたんだけど(笑)。

貝島:エエー! やっぱりサニーって私の中では営業車かレンタカーで、そんなカッコ悪いクルマのレースなんか見たくないっていうのがありましたね。いくら中身がすごくても、だってガワがカッコ悪いんだもんっていう感じで。で、GTはアホみたいなクルマがいっぱい出てくるじゃないですか。だから、どっちかっていうともっと素人だったからだと思うんですけど「イヤ、派手な方がいいよね!」って、そういう感じだった。

梅原:最初から好きだったの?

貝島:GTは最初から好きだった。3台ぐらいしか出てないときじゃなくて、一番最初のGTのレギュレーションの発表があったときに、2ドアで同じメーカーであればエンジン積み替えは自由だとかなんとか。じゃ、あれも出られる、これも出られるって……。

林:だから池沢さとしの世界なんだよ。そういう目で入ってきたお客さんは多かったと思うよ。

大串:その楽しさって確実にあるからね。それはよく分かる。

林:本当は世界的に見ても、GTレースってそうなんだよ。日本が異常なの。GTっていうのは、分かりやすく言うと、スーパーカー時代にああいうのを見て憧れた少年たちがレースをやりたいんだけど、もちろんガキだからレースなんか出られない。それで大人になってお金稼いでクルマを買えるようになって、レースに出たいんだけど今さらプロレーサーにはなれないっていう人たちが、余ってる速いプロレーサーをひとり雇って、出て楽しむっていうのが、国際的に言ってもGTの本来の姿だと思うのね、ここ20~30年は。

はた:日本のGTって最初はその風潮はなかったですよね? むしろもうちょっとたってからじゃないですか? まさしくそれで、僕はその雰囲気を感じたからGTって面白いなって思えたんですよね。特にGT300ですけどね。

林:それがどんどんワークスが本気になってきちゃって、GT500だけならまだしも……。

はた:GT300の方にも飛び火してますからね。

林:うん。そうなってきちゃうと、JTCCとかグループCのときのようにエスカレートしてシリーズがなくなっちゃうんだよね。よく言われるけど。

貝島:そうですよ。だって98年以降は"NSXの足を引っ張る大会"みたいなレースになってると思う。ここ5年くらいは、NSXノジメの歴史みたいになってるじゃないですか。

梅原:まぁそれは、さっき大串さんが言ったように、ベースとなるクルマの素性があって、その上でってことですよね。だってどう考えてもNSXはハイレベルなスポーツカーで、スープラはいわゆるスポーティカーって感じで、GT-Rはハコのクルマの速いヤツって感じで、それぞれベクトルが違うクルマを集めてレースやってるわけだから……。でも、GTで"速ぇー"って思えるのってスカイラインだけなんじゃないですか? レーシングカーのスープラなんて、今じゃカタチもすっかり変わちゃったし、スープラからはだいぶ離れちゃいましたよね。もう売ってないクルマなわけだし、スゴいスープラファンで「スープラを応援したくてたまらない」ってサーキットに来る人はもう少ないんじゃないかなぁ。スカイラインはいると思うんだけど。

貝島:NSXもいるんじゃないの?

梅原:NSXも多少はいると思うけど、比率で言うと、スカイラインを好きな人はスカイラインがものすごく好きで、自分のクルマもスカイライン、ていう人がたくさんいると思う。でもNSXは持ってる人がそんなにいないでしょ。憧れのクルマではあるのかもしれないけど、もう10何年も作ってるクルマだしね、最初のインパクトはもうないじゃない?

貝島:だって、カッコ悪いんだもん、今見ると。

梅原:でしょ? もうちょっと古くさいじゃない。

貝島:そう、そうなの。GTのNSXを見るとなんてカッコイイんだろうって思うもん。

梅原:だから、GTはスカイラインとスカイラインファンが結構支えてるんだなって、オレはそういう気がするんですけど。

大串:そのスカイラインファンは、03年のGT-Rを見て"スカイラインだ、GT-Rだ"って、応援できるものなの?

はた:僕はできないですね。ましてエンジン変わっちゃったし。僕らは内情を知ってしまっているっていうのもあると思いますけどね。

梅原:でも03年の最終戦の鈴鹿を包んでいた空気って、やっぱり特殊だったと思うんですよ。すごく。旗はいつも振っているけれど、空気がもうニッサンだったじゃないですか。

林:そういうときにあえて「来年は出ません、だから最後に見るチャンスです」って盛り上げておいて、そしてしばらく出ないわけでしょ。それでまた復帰するときには盛り上がれる。そういう演出まで、数年間の演出まで考えているのなら立派だよね。

梅原:考えてるでしょ。ゴーンさんがモーターショーで2007年までGT-Rは出ないって言ったから、それをフォローするのにも、そういう風に言っとかなければならないっていうのもあるんじゃないですかね。いったん幕を引くけど、絶対戻ってくるんですよ、GT-Rは。もう次の伝説が始まってるんですよ。オレは別にスカイラインファンじゃないけど、でもGT-Rにはなんか人を引き付けるところがあると思う。

貝島:元々ニッサンのクルマじゃなくてプリンスのクルマなのにね。

梅原:最初、GTはレース界からも斜めな目で見られてましたよね。GT-AもCカーとかツーリングカーの反省からか、「メーカーのレースじゃない」って言ってて、「これはチューニング屋さんのレースだ」っていうのが最初のウリ文句だったんですよ。今までのレースとは違うって。だからそういう意味では、レース屋さんからすると"あんなのレースじゃねぇよ"みたいに思われていただろうし、かなり異端な感じはあったじゃないですか。でも、いきなり変わりましたよね、マクラーレンが出てきたからかもしれませんが。

はた:もう2年目くらいからね。

梅原:95年くらいからでしたっけ。

貝島:JTCCが弾けてなくなっちゃったのも大きいですよね。

はた:そうですね。ホンダがNSXを本気でやるようになっちゃったから。

梅原:あと、他のメーカーも様子を見てましたしね。トヨタなんかもだいぶ引いて見てましたからね。ニッサンはやってたけど、でもニッサン本体は別に出てこなかったし、ニスモも今よりもっとパーツメーカーっていう雰囲気があったし、あんなワークス直系じゃなかったですからね。

林:今もチューニング屋自体はあるわけでしょ、ちゃんと成り立って?

貝島:ええ、でも今そういう人たちがみんなS耐に移行してきちゃってるんですよね。

林:GTが始まったときはS耐だったよね。

はた:そうなんですよね。実際、N1のエンジンだったらリストリクターがいらないっていうのがありましたからね。

大串:ファンも動いてるんでしょ? GTからS耐に。

林:だから本当に今、ギリギリのところだろうね。チューナーも出られる、メーカーも出られる、それぞれ生き延びる道が今まではあったわけだけれど、このままいくと……。

梅原:これからはメーカーの息が掛かるチームじゃないと出られなくなっちゃうんでしょうね。

貝島:メーカーが力を入れたことによって、クルマの差が大きくなりすぎちゃった。GT500とGT300の差って一時は大きくなりすぎましたよね。また少し詰まってきてるけど。

はた:まぁ、GT500とGT300で明確に分かれていればいいんですけど、最近はGT300の方もメーカー色が強くなってきちゃいましたからね。

梅原:そう。本当はGT300こそはメーカーじゃなくて、いわゆるプライベーターが参加できなきゃいけないと思うんですよ。ただプライベーターって言っても幅がありますよね。レース屋さんがやってるプライベーターと、素人がやってるプライベーターの幅が大きすぎますから。ただ本当にGT300もGT500と同じようなメーカーの戦いになっちゃうんであれば、それはつまらないですよね。

貝島:あれはヴィーマック対策だもんね。クルマを造れちゃうプライベーターと、買ってきたポルシェで戦うプライベーターがあるからね。

はた:それが上手くバランスが取れていればいいんですけどね、ポルシェはもう全然勝負にならないし。

林:全然勝負にならないの?

はた:そうですねぇ。しかもセリカなんてものが出てきた暁には……。

林:GTレースの30年、40年の隆盛と衰退の歴史を見ると、常に基準として見られるのはポルシェなんだよね。ポルシェが勝てないということは、他のメーカーが行きすぎてるということなの。

大串:面白い!

貝島:ル・マンなんかもそうですね。

林:ル・マンでも、ポルシェが掟破りをした911GT1も、ポルシェが「ふざけるんじゃねえよ!」って出してきたわけだよ。それで行き着くところまでいって、他のメーカーが撤退する1年前に引き上げてるわけ。やるとこまでやってね。逆に言うと、ポルシェがいなくなったあと1、2年ル・マンが盛り上がったように見えて、日本の自動車メーカーがふたつ出ていったりしたじゃない? あれはもう、引き際を間違えてるわけさ。だからポルシェの方が賢いというか、ちゃんと読めてるわけだよね。で、要するにポルシェが主役になれるのが、要するにポルシェが勝ったり負けたりできるぐらいのレベルが一番、GTにとっては健全な姿なわけ。だからGT300でもはや勝てないのであれば、それは行きすぎてる。









大串:僕がGTをまともに取材しだしたのはNSXが出始めたころだから、97~98年だっけ? それまでは遊びに観客席に見に来たりはしてたんだけど、プレスルームで仕事をしようと思って来た、意識して見たっていうのはそのころで、「いろんなクルマが走ってるなぁ、このレースは」ってつくづく思ったんだよね。

林:それは重要だと思いますよ。

大串:うん。これはねぇ、感動的ですらあったな。しかもその、泡沫候補がウヨウヨいるっていうんじゃなくて、それなりにみんなちゃんとした体制で来て、ちゃんと走るクルマが次から次からいろんなものぞろぞろ出てくるんでビックリした。

梅原:そういう意味では、車種のバラエティってGT300で出してるじゃないですか。GT500は3メーカーで何台ずつ出すかっていう話になっちゃってるからね。でもGT300は今でもまだ、トップ10に8車種あって、差が1秒以内っていうのがあり得るんだから、あれを守ってくれないとJGTCらしくなくなっちゃういますよね。あんなにクルマが出てるんだもん。ロータリーからスバルの水平対向、ポルシェもあってミッドシップのMR-Sもあるんだから。だから本当はトヨタもセリカに一本化しないで、出せるものは全部出してほしいな。ハチロクもよかったと思うんだけど。

貝島:MR-Sは2台残りますよ。

林:ヴィッツも出てほしいな。GT300仕様のヴィッツ。プリウスでもいいよ。そういうのが1台出てきたらみんなファンになるでしょ。

梅原:あのル・マンでモーガンが出てきたような?

林:そうそう。ああいう感じよ。

梅原:中身はレーシングカーなのに、ガワはモーガンなんだから。だから本当に冗談じゃなくて、ヴィッツのGT300なんかがあったら、それはそれですごい人気が出ると思うんだけど。その面白さって、グランツーリスモじゃないですか。

大串:グランツーリスモだよね。本当にそうだ。

林:じゃあやっぱり、ペレットGTなんかも出てほしいな。

梅原:例えばそういうのも出たら面白いですよね。

貝島:カプチーノとか出てほしい。

林:危ないけどね。

大串:でもそういう面白さなんだよね。だから、最近よく聞こえてくる「こんなもんモータースポーツじゃねぇ」っていうのに、僕は外れた意見だと思うんだよね。

林:これでいいって? 大串さんもさっき言ってたけど、スポーツじゃなくていいんでしょ?

大串:うん、スポーツじゃなくていい。

はた:エンターテインメントですか? ていうかショー?

大串:うん、ショーとまでは言い切る気もないけど。

林:いや、モーターレーシングっていうか、アメリカではオートレーシングって言うけど、だからアメリカではスポーツって言わないんだよね。

大串:自動車競争。

梅原:そうか、モータースポーツとは言わないんだ。

貝島:言わない、言わない。

林:逆に最近言うようになってきてるけどね。少し前までは、あれは血を流すショーだったからさ。

大串:オートレーシングでいいんだ。

林:いずれそうなるんじゃないですか? 3メーカーのうち、いずれかが引き上げるようなことになったら。また原点に戻りましょうってことになったときに。

梅原:3メーカーが抜けたら終わっちゃうでしょ。それはもう3メーカーとも分かってて、一応やってるじゃないですか。

貝島:でもいつ引き上げてもおかしくないところにきてますよね。

梅原:あと、GTが海外に行くのはどうですかね。海外でいくらやっても、日本のファンはよほどのことがない限り見に行けないわけで、テレビで見たり雑誌で見たりするぐらいになっちゃう。それって日本のファンからすると「スゲえレースだな」ってグレードが上がっていくだけで、見る機会は減っていくわけでしょ。確かにGT-AがGTの価値を上げたいのは分かるんだけど、そのへんが"日本のレースじゃなくなっちゃう!"ってオレは思うんですよ。

はた:でもその逆で、本当にアジア諸国の人たちが「見たい!」って言うようになったら、それは理想ですよね。

林:今、GTが海外進出しているのは、メーカーがそういう方向だから?

はた:メーカーというよりはむしろパーツメーカーかもしれませんね。

大串:うん、パーツメーカーでしょ。

梅原:自動車メーカーというのはやっぱり縦割りだから、モータースポーツを担当している人はアジアでクルマを売ることは当面の問題としては関係ないんですよね。考えてなくはないんだけど。自動車メーカーとしては、モータースポーツはやはり脇にあるわけで、クルマを造ることがメインだから。そういう意味では、自動車メーカーが積極的に海外に行きたがっているわけではなさそうに感じますね。「行くのならこうするけど」みたいな感じで。メーカー側の強い要望ではないみたい。海外進出はやはりレースの価値を上げたいGT-Aの思惑でしょ。

林:価値は上がるのかねぇ?

梅原:たぶんヨーロッパやアメリカの人たちにJGTCってすごいなって思わせたいんじゃないですか? で、高く売りたいと。

大串:価値は上がるんじゃないの? 国内のレースの数は減らすんでしょ? そうしたら1戦1戦に観客が集中する。効率も上がって、興業的にはとてもいい話になるよね。

貝島:日本にいるレースファンは限られてるから、いくら呼んでもお客さんの数は限られてる。それで海外に持っていって人気を出したいっていうんでしょうね。

梅原:まあ、それは分からないでもないけどね。でも日本のファンだって全国にいるわけで、いまMINEでレースがあれば山口県の人や九州の人が見に行けたりするけど、海外に出ることを優先にして、国内では限られたところでしかレースが見られないっていうのも、ちょっとなぁって思いますけどね。

林:年8戦くらいで?

梅原:年10戦くらいで。まあ、国内と海外で6対4ぐらいかな。だって今、話が出てるだけでもセパンと上海とアメリカと韓国でしょ。

林:でもそんなに転戦するとまたFIAが文句言ってくるんじゃないの?

梅原:最近そうでもないじゃないですか。DTMもいまきて、ETCCができて、あとフォーミュラ・ニッサン、4カ国ぐらいでやってますよね。あと、ユーロF3ができて、フォーミュラ・ルノーV6。なし崩し的にね。時代によって制限もけっこう変わるじゃないですか。今は緩いときなんじゃないですかね、きっと。

林:ハコ(のレース)は今、世界的にゴタゴタしている状況だから、早く成功しちゃったもん勝ちっていうのは確かにあるよね。例えばマレーシアで開催したときは、こっち(日本)から話を持っていったわけ?

貝島:最初はそうだね。

林:それで、面白かったんで、引き続きやりましょうってことになった?

梅原:外国に行くときは、「いくらで買ってくれる?」って話なんですよ。パックで行くから、いくら出せば、こんなレースが行きますよって話。

林:エラクなったもんだねぇ。

梅原:だから、時代は変わったといえば変わりましたよね、そういう意味では。

林:知らないうちにさ、3メーカーのガチガチのワークスマシンがさ、東南アジアですんごいレースをやってるかもしれないよ。向こうの井出と向こうの道上が2コーナーでぶつかってるかもしれない。タイのヴィラ・サーキットでやってるかもしれないよ。そういうの、いつか見てみたいよね。

(2003年12月収録)

RARE MACHINE? REAL MACHINE?
レアマシン? リアルマシン?

RARE MACHINE? REAL MACHINE?

覚えてますか？ あのマシン……

基本的に、どんなマシンでもウエルカムなのが
スタート当初からのJGTCのスタンス
結果、10年の歴史の中でさまざまな形の
さまざまなエンジンを積んだ
さまざまなマシンがサーキットを疾走した
ところが、そのさまざまなマシンの中には
少ないものではたった1戦しか出場しないクルマも
そこで皆さんに思い出してもらいましょう
「あぁ！　こんなマシンも確かに走ってた!!」と

Photos/i-dea



ロッソ ランチア037-MYZ
(ランチア037)イタリア製
●ドライバー：古谷 直広
●戦績：94年 第3戦に参戦
最高位：GT1クラス9位

当時は、コース脇を走ったほうが速いなどという噂も。ローギヤードなため、あっと言う間に当たるリミッターの音も素敵でした……

レア度 99%



SIFo Spider Ver.GT
(ルノー・スピダー)フランス製
●ドライバー：砂子 智彦/吉富 章
●戦績：97年 第3戦に参戦
最高位：GT300クラス18位

フ、フロントウインドウがない　97年に1戦のみ参加したルノー・スピダー。GTとにちょっと違う気もするけど、速ければ○(マル)？

レア度 90%



ヒラノ モータースポーツR32M
ヒラノMS BP&μ R32GTS
(ニッサン・スカイラインGTS-T)日本製
●ドライバー：平野 敏行/鈴木 康之
平野 敏行/染葉 輝彦
●戦績96年 第4戦
98年 第2、4戦
99年 第2戦に参戦
最高位：GT300クラス16位

「なんで普通のGT-Rが69%？」とお思いのあなた、よーくマシン名を見て下さい。なんと、2ℓのGTSなんです！　ね、貴重でしょ〜？

レア度 69%



レインX・アート・カウンタック
(ランボルギーニ・カウンタック)イタリア製
●ドライバー：池沢さとし/和田 孝夫
●戦績：1994年 第1〜5戦に参戦
最高位：GT1クラス8位

珍しいとはいえ、94年にフル出場したためレア度は45%と低め。古さは否めなかったが、足回りの改良などレース用チューニングも施された

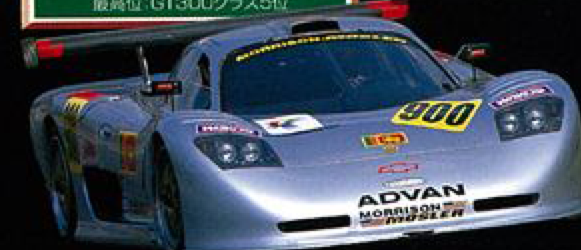
レア度 45%



タイサンADVAN962C
(ポルシェ962C)ドイツ製
●ドライバー：A.レイド/茂木 和男
近藤 真彦
●戦績：1994年 第1戦、第3戦、第5戦に参戦
最高位：GT1クラス優勝1回

やっぱりこれは反則でしょうねぇ。千葉監督自身、「1台だけ背が低すぎるよな」とおっしゃってたぐらいですから。でも、左に似てなくも……

レア度 40%



MT900R
K-STADIUM MT900R
BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT
MACHINE X MT
正義の味方 覆面レーサーX MT
(モスラーMT900R・シヴォレー)アメリカ製
●ドライバー：D.マラガムワ/浅見 武
中島 哲也、浅見 武/桧井 保孝
玉中 哲二/中島 哲也
D.マラガムワ/J.バルボーサ
玉中 哲二/桧井 保孝
三船 剛、菅 一乗/筒井 克彦
石川 朗/筒井 克彦
●戦績：2001年 第1戦〜7戦
2002年 第1〜8戦
2003年 第1〜8戦に参戦
最高位：GT300クラス5位

正義の味方になる前は、至ってシンプルなカラー。実は3年越しで出走しているため、レア度といった面では35%が精いっぱいの数字

レア度 35%



東京科芸専：REロードスター
(マツダ・ロードスター)日本製
●ドライバー：野上 敏彦/細野 智行
野上 敏彦/長島 正明
●戦績97年 第4、6戦
98年 第1、4戦に参戦
最高位：GT300クラス15位

たった2戦にしか出場しなかったこともあるが、専門学校生による手作りナローラリーエンジン搭載ということで、レア度70%を進呈

レア度 70%



RGS-MIRAGE
レイジュン・ダンロップGT1
(RGSミラージュGT1・シボレー)イギリス製
●ドライバー：D.マラガムワ/S.ヤング
玉本秀幸、OSAMU/倉嶋 新一
●戦績：00年 第2〜4戦
03年 第1〜4戦に参戦
最高位：GT300クラス25位

またカウンタック!?　と思いきやこのクルマ、実はイギリス製のミラージュというマシン。昨年ブルーに衣替えし、久方振りに登場

レア度 85%



986ボクスター
(ポルシェ986ボクスター)ドイツ製
●ドライバー／西澤 和之/M.アピチェッラ
●戦績：2000年 第1〜7戦に参戦
最高位：GT300クラス5位

正面からはGT3Rにも見えるが、ポルシェはポルシェでもボクスター。2000年最終戦ではポールも獲得したのに、今はどこへ？

レア度 50%



HKS CLK
(メルセデスベンツCLK)ドイツ&日本製
●ドライバー：山西 康司/五十嵐勇大
●戦績：2002年 第6〜8戦に参戦
最高位：GT500クラス15位

レギュレーションを先取りして製作。翌年型の参考にと、ワークス勢もピットに見学に来たというCLK。美しさは抜群でしたが……

レア度 57%



JUN スカイラインGT-R
JUN-トラスト スカイライン
(ニッサン・スカイラインGT-R)日本製
●ドライバー：小林 且雄
小林 且雄/古谷 直広、梅戸 学、駒 光武
●戦績：95年 第1戦〜5戦
96年 第1〜6戦に参戦
最高位：GT1クラス10位

JUNのロゴを見れば、ピンと来る人はすぐにピンと来るはず。チューニングショップが仕立てたマシンも、昔は出場できたものでした

レア度 30%



テイボン・トランピオ・FTO
(ミツビシFTO)日本製
●ドライバー：中谷 明彦/原 貴彦
中谷 明彦/R.ファーマン
R.ファーマン/R.デルフラー
●戦績：98年 第1〜7戦
99年 第1〜7戦に参戦
最高位：GT300クラス2位

FFでターボ、しかもF1ドライバーまで上り詰めたラルフ・ファーマンも搭乗。今考えると、かなりエポックメイキングなマシンでした

レア度 20%



BP・KRAFT・トレノ
BPアペックスKRAFTトレノ
●ドライバー：田中 実/南宮 栄城
田中 実/松田 晃司、長島 正興/松田 晃司
●戦績：99年 第3〜7戦
2000年 第2〜7戦
2001年 第1〜3戦
最高位：GT300クラス5位

締めは、やはりハチロクでしょう。最新型マシンに伍して戦う姿は迫力十分。それにしても、悲劇的な最期でしたねぇ……

レア度 18%

GT10年の歴史の中には
まだまだレアなマシンの存在も
その紹介は、またの機会に……



JGTC【ア・ラ・カ・ル・ト】

á la carte

レースだけじゃないJGTCの魅力

駆け抜けるGTマシンにファンは目を奪われ熱狂する
しかし、JGTCでの注目点はなにもマシンやドライバーだけではない
サーキットを彩るレースクイーン、バラエティに富んだグッズの数々
これらもまた、JGTCを楽しむうえで欠かせない魅力のひとつなのだ

Photos/Kenichi Yoshida, Naoki Kobayashi, Shimpei Suzuki, i-dea



JGTC【ア・ラ・カ・ル・ト】á la carte

サーキットの10年を彩った女神たち

JGTCを彩るレースクイーンたち
今や絶対に欠かせなくなった美しい華たちは
国民的アイドルすらも生み出しますますパワーアップ!
10年で世界最高・最強のハコレースとなったJGTCは
レースクイーンも世界最多・最強へと発展していった
サーキットでボクらを魅了してやまない
女神たちの10年を今ここに大特集!

ピットで、グリッドでカラフルな女神たちがJGTCを彩る



1995

JGTC発足当時はまだハイレグ、ハイヒールといったコスチュームが主流。カールした前髪やワンレンといった髪型に時代を感じる



1997

この年話題をさらったのが「鷹ギャル」。大胆な和風コスチュームは注目度バツグン！ ロングブーツが登場したのもこの年から





1996

まだシンプルなコスチュームが多いなか、個性的なコスチュームも増えはじめたころ。ブーツの長さも今と比べて控えめ



1999

巷でアニメなどの「コスプレ」が流行しはじめた時代。GTでもアニメキャラ風のコスチュームが登場した







1998

JGTCレースクイーンのコスチュームは一気に多様化へ。同じスポンサーでも異なるパターンのものが登場したり、素材のバリエーションも増加。1チームあたりのレースクイーン数も増えはじめた





カルソニックレディに見る 時代を映す!? コスチューム進化論

十年ひと昔。レースクイーンのコスチュームの進化は、マシンの進化に優るとも劣らない。そこで、JGTC初年度から参戦するカルソニック・チームインパルの女のコたちを参考に、コスチュームの変遷を見てみよう。

ココに紹介した以外にも、限定登場のコスチュームもあって実にバラエティ豊か。普段何気なく見ているコスチュームも、時代とともに大きな変化を遂げている。



98



97



96



95



94



03



02



01



00



99

シンプル・イズ・ベスト! 変わらぬ伝統のMobil1

対してこちらは、コスチュームがあまり変わっていないケースのMobil 1。スカート下部のロゴが変わった程度。



98



03



2001

前年から開催のマレーシアでもレースクイーンは大活躍。現地ファンが熱心に写真を撮る場面も





2000

厚底ブーツ&サンダルはGTでも大流行。サーキットでも茶髪の女の子がかなり目立つように



2003

この年GTに登場したRQはなんと200名以上！ GTはますます華やかに



2002

夏の富士では、浴衣風コスチュームが登場するなどさらにバラエティ豊かに





あの有名人もGTレースクイーン出身!

GTレースクイーンからトップアイドルへ。いまや一般誌のグラビア、テレビやラジオで大活躍のあの人たちも実はGTレースクイーン出身。未来のアイドルを見つけたければGT観戦に行くしかない!?



インリン・オブ・ジョイトイ



森下千里



吉岡美穂

JGTC
【ア・ラ・カ・ル・ト】
á la carte
グッズで振り返る JGTC10年史

ミニカー、ゲーム、ピンバッヂ、トレカ……
発足から10年を終えたシリーズからは
たくさんのグッズが誕生した
そこでマニアも唸るコレクターズアイテムから
ちょっと懐かしいグッズまで
編集部イチオシの公認マーチャンダイズを
集めてみました！



毎年生まれる新アイテム 公認グッズだけでもこれだけ揃う！

ダイキャストカー
1/43スケールダイキャストモデルカー/EBBRO

お馴染み、EBBROの1/43スケールのダイキャストモデルカーは、2000年からGT500クラスを中心にリリースされている。ちなみに2003年のチャンピオンカー、ザナヴィニスモGT-Rはすでに完売したとか



トミカ
トミカ 全日本GT選手権2001限定セット/TOMY

多くの人に愛されているトミカの世界にもGTマシンは登場。かわいらしいサイズとは裏腹に精密な造りは大人のコレクターをも夢中にさせ、GT発足時のモノはオークションでも高値がつく。写真は2001年限定セット



プラモデル
1/24スポーツカーシリーズ レイブリックNSX/タミヤ

精密なディテールで定評のあるタミヤの1/24スポーツカーシリーズには、GTマシンも多数ラインナップ。タミヤは03年にカルソニックスカイラインのスポンサーも務めた。写真のキットは、98年レイブリックNSXの鈴鹿1000km仕様



チョロQ
チョロQ/タカラ

誰もが一度は手にした経験があるであろうチョロQ。バリエーションや車種の豊富さは数あるグッズのなかでもピカイチ。タイトル獲得記念モノや限定モノ、NSXが4台セットになったホンダパックなども発売されていた



ピンバッヂ

95年の全参戦ドライバーのヘルメット型ピンバッヂ。シリーズ立ち上げのころは全ドライバーのバッヂが製作され、ピットウォークでファンに配られた。開幕前に製作されたので、よーく見ると意外なドライバーのバッヂも。見つけられるかな？







組立て済みRCは、その気軽さから人気を博している。シー・シー・ピーのDGマスター（写真：左）と京商のミニッツレーサー（写真：右）。ラジコンとは思えない超精密なディテールなので、スケールカーとしても楽しめる

RC
(左)DGマスター/シー・シー・ピー、(右)ミニッツレーサー/京商



GTを題材、もしくはGTマシンが登場するテレビゲームは多数発売されている。95年、KANEKOが制作した「全日本GT選手権」発売時には、富士スピードウェイのプレスルームにて制作発表会も行なわれた

ゲーム
全日本GT選手権/KANEKO(95年、97年)、シティーツアーグランプリ/イマジニア(98年)、セガGT/セガ(00年)、Rレーシングエヴォリューション/ナムコ(03年)、グランツーリスモ/ソニー・コンピュータエンタテインメント(99年、01年、03年)、JGTC/デジタルフロンティア(98年)

ギャルズ・パラダイス トレカ
ギャルズ・パラダイストレカ/エポック社



97年の発売以来、レースクイーンファンのみならず、トレカファンも毎年発売を待ちわびる"ギャルパラトレカ"。コスチュームの生地を封入した「ジャージーカード」や生フィルム付きといったレアカードは人気沸騰！

これは超レア！ 1996年発売 カード付き GTスナック

プロ野球チップスならぬ「GTスナック」。おにぎりせんべいで有名なマスヤからひと袋50円で発売された。気になる味はサワークリームオニオン味。ひと袋に1枚付いてきたカードは今ではかなりのレアアイテム





etc.
ビデオ/テレテック、DVD/ワイ・オー・アール、GTC SPECIAL HYPER NON-STOP MEGAMIX/エイベックス

毎レースごとの激戦を収めたビデオ＆DVDも好評発売中。車載カメラなどのスペシャル映像も収録。サーキットでガンガン流れるユーロビートを収録したイメージCDは、96年からエイベックスより発売されている



identity of JGTC

JGTCの正体

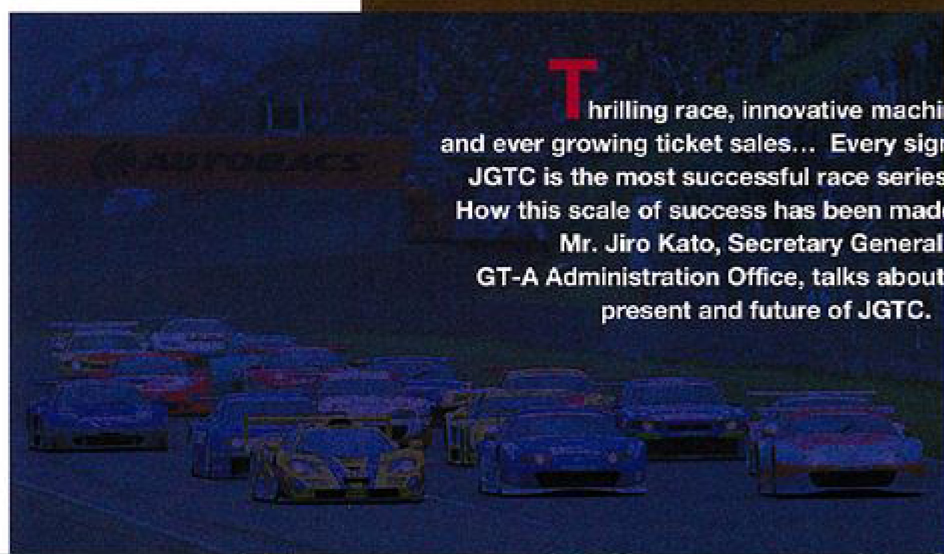
全日本GT選手権のこれまでとこれからの展望







心躍らされるレース展開
驚くべき進化を見せるマシン
増え続ける観客動員数……
あらゆる面を考慮しても
JGTCは現在の日本で最も成功している
レースと言うことができるだろう
では、この成功はどのように生まれたのか
JGTCの成り立ちから成長、そして現在を知る
GT-A事務局長、加治次郎氏に
これまでのJGTCと現在のJGTC
そして、こうした過去と現状を踏まえた上で
未来への展望も語ってもらった



Thrilling race, innovative machines and ever growing ticket sales... Every sign shows that JGTC is the most successful race series in Japan. How this scale of success has been made possible? Mr. Jiro Kato, Secretary General of GT-A Administration Office, talks about the past, present and future of JGTC.

Text/Yasuyuki Umehara(i-dea)
Photos/Toshikazu Moriyama, Naoki Kobayashi, Masahide Kamio, i-dea



Identity of JGTC

JGTCの正体

――まず最初に、この10年間をどんなふうに感じていますか？

加治次郎事務局長（以下加治）：10年間続いたことは成果だと思います。ただ、今までのレースと比べて大きく変革できたのかというと、それは不十分じゃないかと思う。少し注釈を付けていくと、10年間続いたことが評価されるというのは、逆に言えば日本のレースが10年間続けられない構造をしていたということなんだと思うんです。ただ、その構造を変えられたのか？　というと決してそうではない。相変わらず危なっかしい状況の上に乗っているというのが現状です。とにかく、まだまだ課題は多いということです。

――現在のＧＴは観客から大きな支持を受けています。しかし、立ち上げ当初からそうだったわけではなく、徐々に人気が高まっていったわけですが、その要因は何だと思いますか？

加治：このレースを立ち上げたとき、「観客倍増」という共通課題を立てたんです。今でもその課題は下ろしていません。このレースは観客にとってもテレビの視聴者にとってもスポンサーにとっても、魅力のあるものにしようと思っていました。やっている側が楽しいだけではなく、外から見ても楽しいレースですね。もちろん、自分たちが楽しんでいなければ、外の人たちを楽しませることはできないと思いますが、目的としては「とにかくお客さんに楽しんでもらおう」と思って始めたものです。

僕は、プロがやるレースイベントというものは「お祭り」だと思うんです。だから、音も大きくないといけないし、普段は味わえない雰囲気でなくてはならない。それを狙って、育ててきたわけです。

――立ち上げ当初、クルマはＪＳＳやグループＡの流れから始まって、「プライベーターのためのレース」という触れ込みでした。しかし、10年が経って、３つの自動車メーカーが積極的に参加するようになりました。この変化は予想されていましたか？

加治：僕としては、何も変わっていないと思っています。当初もプライベーターのためにというわけではなく、プライベーターを大事にするということ、それからプライベーターがクルマを造れるということを大事にしてきたつもりです。チームが自らクルマを造って出られるレースにしたいと考えていました。その流れの中で、レースの人気が上がってきて、メーカーが力を入れてくるとなると、力の格差は歴然としてきますよね。問題はそこにあるわけです。

ところが、片方では観客のためのレースだと言っている以上、私たちには一流のものを見せる義務がある。そこで自動車メーカーはダメと言っていては、結果として質の低いレースを見せることになってしまう。それでは生き残れないわけです。質の高いレースを創り、その中でプライベーターもやっていけるようにしなければならない。「プライベーター＝質が低い」ということではないわけですからね。

メーカーがかかわってはいけないとは言いませんし、メーカーにはたくさんの資金を投入してほしい。そのお金がみんなに回っていけばいいんです。それによってレベルの高いものができれば、見応えのあるものになるのだから、それでいいと思っています。

この10年間の流れを見ると、海外進出はその中のハイライトだと思います。日本のレースが海外で行なわれるなんて少し前までは考えられなかったことです。海外戦略についてはどうお考えですか？

加治：日本だけのマーケットで終わってしまったら、このシリーズはおそらく没落するしかない。楽しむモータースポーツは健全に生きていけるけれど、商業的にスポンサーがついてやれるレースは存在できない。そのレベルで質の高いものができて、みんなに見ていただけて、世界的に高い評価を受けるようなことはないでしょう。

そこから上に行くためにはどうしたらいいかと言うと、影響できる範囲を広げるしかないんです。あのタイミングではそれがマレーシアだった。マレーシアから話があって、調べてみれば日本との付き合いも長い。政策的にも日本を見てくれている、英語が通じる、中国語も通じる。イギリスの統治下にもあったから、ヨーロッパ型のモータースポーツがすでに根付いていた。そういった面ではあれほどいい環境は他になかったんです。

日本で初めての公式レースの海外開催でしたからね。

加治：大変なリスクを背負っていました。賭けとまではいかないまでも、それなりの努力、苦労は覚悟の上でした。お金ももらえるかどうか分からないし、現にそれは大変苦労しました。だけど、マレーシアへ出た実績を持ったことで、このレースは外国へ来てくれるんだというイメージを持ってもらえた。すると途端にどんどん話がくるようになった。そういった効果も生まれました。

ウエイトハンデとポイントシステムの関係で１回も勝たないクルマがチャンピオンになったり、シーズン終盤のポイント操作が観客には分かりにくいレース展開を引き起こしていると思います。そのあたりについてはどうお考えですか？

加治：それはルールとして未完成だからだと思います。世界中の自動車レースで成功しているものは、何十年もやってきている。我々はまだ10年しかやっていないんです。それもレギュレーションも考え直しながらでの10年です。これを極めていけば、いい形はきっと見つかる。ただ、それは常にイタチごっこで、どうしたらいいかと試行錯誤しているんです。一気に変えてしまう手もあるし、ちょっとずつ変えていくという手もある。ほどよいところをなんとか探り出したいというところです。

――状況は理解していて、常に対処する姿勢は持ち続けると。

加治：勝った人がチャンピオンを獲れるようにしたいとは思っています。基本コンセプトとしては何回も勝つ必要はない。２回くらい勝てば間違いなくチャンピオンという形でいいと思います。ただ、順位調整などはさせたくない。チームプレイにも問題はあるけれど、それについてはちょっと違う見方もあって、むしろ奨励すべきだというところもあるんです。チームとしてみんなが平等な形になれば、それはそれでありかなと思う部分もあります。今は、ＧＴ・Ａとしてはひとつのチームならば多少順位を入れ替えてもいいじゃないかと思うんです。ただ、変にチームを超えたものがあってはいけない。そういったものに対応するオフィシャルな組織が必要かもしれませんね。

――ジャッジの部分を統一するディレクター的な存在の人を置いて、どのサーキットでも平等な審査をすることが必要だと言われています。そのあたりはどうですか？

加治：もともとそうあるべきだと考えていました。ただ、日本のレースの仕組みがそうなってはいないんです。

最初に打ち上げた理念の中にもあるんですが、オフィシャルはもっと格好よくなくてはいけないと思うんです。彼らがレースを仕切っているのだから、もっと権威を持たせていかなければならない。ところがこの課題については全く手がつけられていない。

レスキューに関しては、ある程度は進めてきましたが、サーキットごとの経営体制のようなものもあってか、抵抗もありました。



日本のマーケットだけでは
おそらく埋没するだけです
だから影響できる範囲を広げるしかない

結局、日本のレースは良くも悪くも自動車メーカーが作ってきたものだったんです。JAFそのものも自動車メーカーが作ったものですし。そういった中でレースの成り立ちを大きく分けると、サーキットレースと、シリーズ、エントラントが作ってきたもののふたつに分けられるんです。それで、日本の場合はほとんどがサーキットレースなんですね。フォーミュラニッポンは鈴鹿が作ったものだし、グラチャンは富士が作った。つまり、良くも悪くも自動車メーカーの存在がとても大きいわけです。そういった中に現状があって、サーキットごとに独立した仕組みがある。では、どういったものに対して改善がなされるかと言うと、それがなかなか進まない。そこが日本のレースの一番の問題点です。

海外戦略やレースのあり方、メーカーとのかかわり、ドライバーのあり方、いろいろな要素を含めてひと言で言うと、今後JGTCをどんなレースにしていきたいですか。

加治：ともかく、今のやり方ではダメだと思っています。それと、土俵が日本国内だけでは無理だとすれば、形は変えざるを得ないでしょう。では、どのように変えていくかと言うと、器の形としては、DTMのようなインターシリーズの形を採ることになるでしょう。そうした上で、今のように主催者がバラバラに手を挙げるのではなく、シリーズ戦としての形態をきちんと作り、その中で改善を地道にやっていく。

——以前、パンパシフィックシリーズのような構想もあったかと思いますが。

加治：別にパンパシフィックシリーズと言う必要はないんですが、我々のレースが経済的にも成り立っていくためには、パンパシフィックに影響を持てるレースになりたいと思っているんです。タイトルがついた方がメーカーも出やすくなるでしょうから、ぜひやりたいですね。ただ、タイトルで集めるのではなく、実際のレースのあり方で評価を受けたいです。

——04年に、上海とアメリカが、現状ではできるかどうか分かりませんが、新しい1歩を踏み出していくような印象がありますね。

加治：器の形としてはインターシリーズでしょう。ただ、そうすることが本質的な目的ではなく、新しく楽しんでもらえるモータースポーツを作るためには、そういう形が必要だということです。その中で、楽しんでもらえるようなルール作りもしていかなければならないし、システムも自分たちで持たなければならない。安全も確保しないといけないから、さらなる発展も必要です。ルールを作る中では入ってくる人が全員、発言権を持てること。プライベーターにも同じ発言権がある環境を作ることです。そこでいろいろな意見があって、シリーズを運営していく側が決めていく。そうすべきだと思います。

——何がきっかけになりますか？

加治：一番大きなターニングポイントはインターシリーズができるか否かでしょうね。

——アメリカのレースも重要ですね。

加治：そうですね。大方の意見は上海が大事だとなっていますけれど、アメリカにはまた別の意味での重要さがあります。アジア圏の人たちは常にアメリカを意識している。

日本で苦労してモータースポーツをやっている人はたくさんいます。レベルもそこそこ高いと思います。ドライバーだって相当なレベルでしょう。チームもそうです。それでも仕事がないなんて、かわいそうだし、情けないと思うんです。そういった点では、将来の姿としては、ヨーロッパ大陸の中でいうイギリス。あそこにはたくさんのコンストラクターがあって、モータースポーツ産業もある。そのように、アジアの中の日本になれば、産業は大きくなると思います。

——アメリカでレースができれば、シリーズの価値も上がりますね。

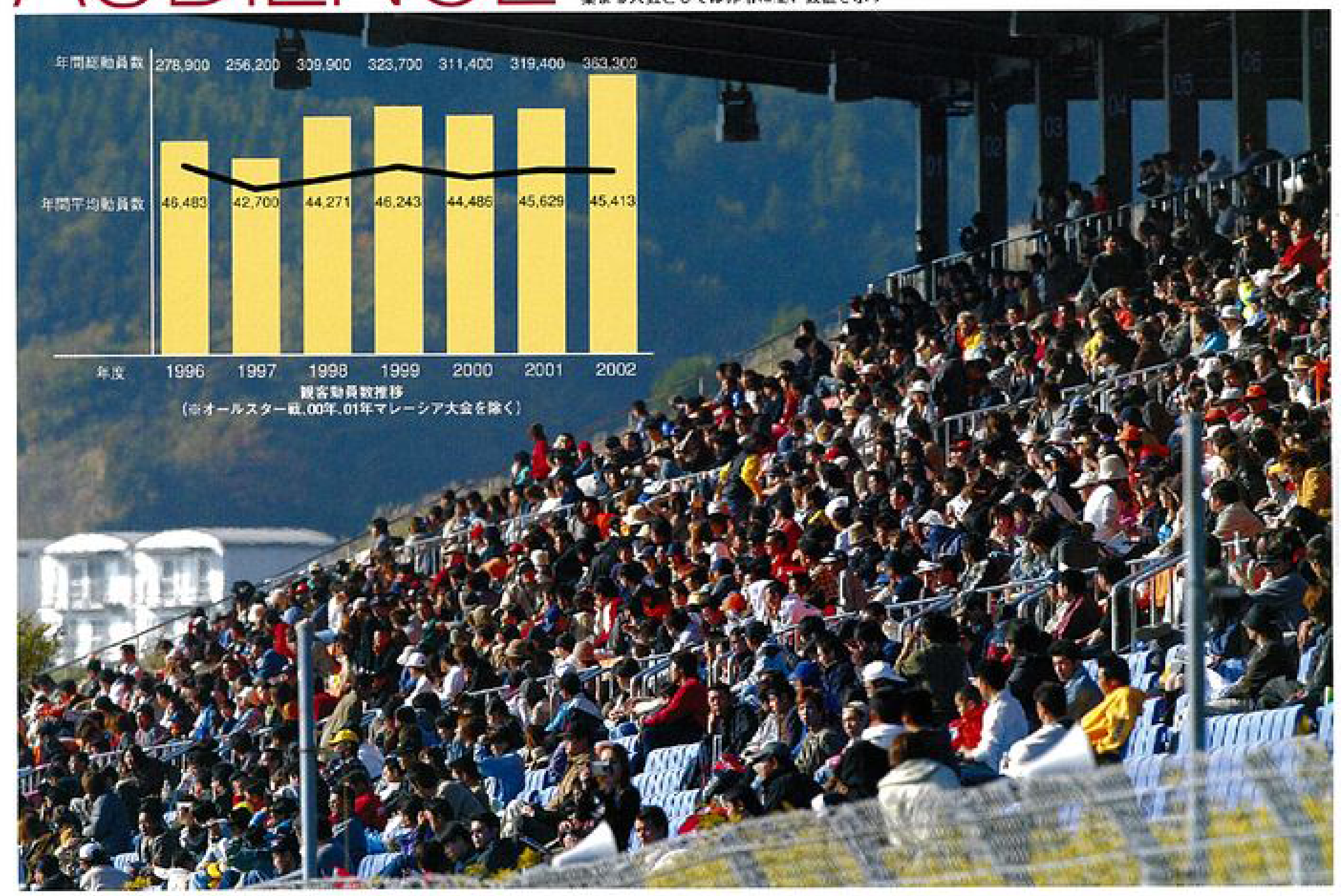
加治：アジアで評価されて、その結果、日本での評価も上げたいと思っているんです。でも、それよりはアメリカで評価を受ける方が大きいし、それはアジアでの評価にもなるわけです。それから、アメリカにはビジネスそのものがある。興行的にも規模を大きくできるし、入ってくるものも大きい。

——特に、アメリカなどではそういった形のイベントが求められているのではないですか？

加治：アメリカでレースをやるというのは、そういったイベントもやるという意味です。中国に対してもそうしたアプローチをしています。我々はレースだけではないと。クルマ関連のビジネスを全部持っていることが我々の魅力なんだと言って売っているんです。実質的な部分で評価を受けてさらに広げていきたいと思っています。（2004年1月収録）

AUDIENCE

確かにレース開催数も増えているが、年間総動員数は確実に増加している。これだけレジャーが多様化する昨今、ひとつのイベントに集まる人数としては非常に高い数値を示す



年度	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
年間総動員数	278,900	256,200	309,900	323,700	311,400	319,400	363,300
年間平均動員数	46,483	42,700	44,271	46,243	44,486	45,629	45,413







TELEVISION

国内でのＪスポーツ、テレビ東京での放送はもちろん、JGTCは現在、これまでのアジア圏、ヨーロッパ、北米といった一部地域だけでなく、全世界で視聴することが可能になった

identity of JGTC

JGTCの正体



OVERSEAS

公式戦も含め、既にマレーシアで３回のレースを開催。2003年は上海でのレースも予定されていたが、SARSの影響で開催は延期となった。2004年はアメリカでのイベントも視野に

レースだけではない クルマ関連のビジネスを 全部持っていることが我々の魅力だと





E.T.C

ファンクラブ組織、GTメンバースの運営。キャンペーンキャラバンや編集タイアップといったPR活動。GT RUN & ATTACKの開催など、JGTCではさらなるファン獲得にも積極的だ

SPONSOR

サポートに見合う露出やサービスの提供を心がけ、オートバックスといったシリーズタイトルスポンサーのみならず、シリーズパートナースポンサー、シリーズスポンサーなどとも契約。JGTCはバックボーンを得てますます安定



JAPAN GT CHAMPIONSHIP

RESULT 1993—2003

1993年、前年までのJSPC（全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権）に取って代るICL＝インター・サーキット・リーグの一部門としてJGTC＝全日本GT選手権は始まった。ICL自体は成功しなかったが、翌94年、新設GT-Aのテコ入れにより、JGTCは発展の道を確実に歩み始める。以来、2003年末までの10年間に繰り広げられた熱戦の数々。それらすべてのドラマを内包した「レース結果」をここに網羅しよう。きっといくつもの名シーンが記憶に甦るのではないだろうか。残念ながら一部データは公式結果や当時の専門誌でも明らかにされていない。引き続きリサーチを継続していけば、JGTC20年史ができるころには、さらに正確なデータを公開できるようになるだろう。

"Compiled by Shinji Hayashi（GIRO）"

【略号説明】
「Pos.」欄のdq＝失格、nc＝完走義務周回数不足により順位なし、ns＝決勝出走せず
「Time」欄のDNQ＝予選不通過
「Machine」欄の（）内はシャシータイプ
「Tyre」欄のBFG＝BFグッドリッチ、BS＝ブリヂストン、DL＝ダンロップ、GY＝グッドイヤー、MI＝ミシュラン、TY＝トーヨー、YO＝ヨコハマ

'94全日本GT選手権第1戦"全日本富士GT"

●決勝日:5月1日/富士 ●主催:VICIC/富士スピードウェイ/FISCOクラブ/TMSC/SCCN/MSCC ●天候:曇 ●観客:5万4300人 ●4.470km×68周=303.960km ●参加:18台/決勝出走:17台/完走:10台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	68	1:52'03.626	1'34.913/2
2	1-2	24	袖山 誠一/山路 慎一	コクピット館林GT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	67	1:52'05.408	1'36.173/5
3	1-3	40	鈴木 恵一/太田 哲也	タイサンADVAN F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	66	1:52'37.903	1'35.191/13
4	1-4	14	服部 尚貴/大井 貴之	CCIあめんぼうシルビア	シルビア(PS13)	SR20DET	BS	--	64	1:52'07.264	1'41.085/7
5	2-1	29	小幡 栄/上原 秀郎	KORG KEGANIポルシェ	ポルシェカレラRS(964A)		BS	--	63	1:52'57.091	1'43.691/14
6	2-2	70	石橋 義三/青柳 裕昴	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	63	1:53'44.612	1'44.683/11
7	2-3	11	吉本 博雪/林 雅弘	ハンターレーシングチーム	ポルシェカレラRS(964A)		BS	--	61	1:53'03.677	1'46.160/12
8	2-4	33	白鳥 哲次/早川 篤	ミューズオイルOW RX-7	マツダRX7(FC3S)	13B	DL	--	59	1:52'12.631	1'44.043/10
9	1-5	9	M.マルティーニ	acom ポルシェRSR	ポルシェカレラRSR3.8(964A)		BS	--	53		1'41.204/8
10	1-6	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	47		1'36.101/4
nc	1	88	池沢 さとし/和田 孝夫	レインX・アート・カウンタック	ランボルギーニカウンタック(ZA9C)		YO	--	30	1:52'10.144	1'45.401/15
nc	1	50	A.レイド/茂木 和男	タイサンADVAN 962C	ポルシェ962C		YO	--	17	1:52'04.466	1'34.173/1
	1	10	飯田 章/山田 英二	Johnson SKYLINE	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	42		1'42.785/9
	1	2	鈴木 利男	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	32		1'35.019/3
	1	37	望月 英弘/石川 朗	グレコレーシングスープラ	スープラGT(JZA80)	2JZ-GTE	TY	--	27		1'46.520/17
	1	5	福山 英朗	BLITZ SUPRA	スープラGT(JZA80)	2JZ-GTE	DL	--	26		1'40.770/6
	1	25	影山 正美	FEDEX NISSAN GT-Z	フェアレディ300ZX(Z32)	VG30DETT	BS	--	1		出走せず/18
ns	1	77	岡本 克彦/深見 慎二郎	RRレーシングベルディアGT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	-		1'45.716/16

●優勝スピード:162.748km/h ●最速ラップ:鈴木 利男(ニッサン)1'35.720 168.115km/h 6周目

'94全日本GT選手権第2戦"ハイランドGT&F3選手権"

●決勝日:6月12日/仙台ハイランド ●主催:VICIC/奥州VICIC ●天候:曇 ●観客:4万7800人 ●4.02960km×75周=302.220km ●参加:14台/決勝出走:14台/完走:13台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	75	2:25'33.517	1'51.269/1
2	1-2	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	30kg	75	2:25'43.686	1'51.270/2
3	1-3	40	太田 哲也/A.レイド	タイサンアドバンF-40	フェラーリF40	F120A	YO	10kg	73	2:26'30.231	1'52.603/4
4	1-4	24	袖山 誠一/山路 慎一	コクピット館林GT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	20kg	72	2:25'42.392	1'53.269/5
5	1-5	10	飯田 章/山田 英二	ジョンソンSKYLINE	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	71	2:25'44.669	1'56.516/10
6	1-6	2	鈴木 利男	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	71	2:27'33.152	1'52.359/3
7	1-7	5	福山 英朗	BLITZ SUPRA	スープラGT(JZA80)	2JZ-GTE	DL	--	69	2:25'45.273	1'59.679/11
8	2-1	29	小幡 栄/上原 秀郎	KORG KEGANIポルシェ	ポルシェカレラRS(964A)		BS	30kg	69	2:27'04.514	2'02.576/14
9	2-2	12	川崎 哲哉	FKマッシモ☆ERC☆RX7	マツダRX7(FC3S)		DL	--	65	2:27'32.638	1'56.453/9
10	1-8	88	池沢 さとし/和田 孝夫	レインX・アート・カウンタック	ランボルギーニカウンタック(ZA9C)		YO	--	64	2:26'00.449	1'59.932/12
11	1-9	25	影山 正美/石川 朗	FEDEX NISSAN GT-Z	フェアレディ300Z(Z32)	VG30DETT	BS	--	63	2:26'15.178	2'00.361/13
12	1-10	14	服部 尚貴/大井 貴之	CCIあめんぼうシルビア	シルビア(PS13)	SR20DET	BS	--	56	2:27'18.744	1'55.291/6
13	2-3	70	石橋 義三/水野 文則	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	51	2:27'22.652	1'56.732/8
	1	9	M.マルティーニ	acom ポルシェRSR	ポルシェカレラRSR3.8(964A)		BS	--	13		1'55.578/7

●優勝スピード:124.577km/h ●最速ラップ:鈴木 利男(ニッサン) 1'53.129 128.230km/h 71周目

'94全日本GT選手権第3戦"JAPAN SPECIAL GT-CUP"

●決勝日:8月14日/富士 ●主催:富士スピードウェイ/FISCOクラブ/VICIC ●天候:晴れ ●観客:4万7500人 ●4.470km×56周=250.320km ●参加:24台/決勝出走:22台/完走:16台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	35	A.レイド/近藤 真彦	タイサンスターカード962C	ポルシェ962C	935-83	YO	--	56	1:32'31.383	1'32.732/1
2	1-2	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	50kg	56	1:32'55.524	1'35.976/4
3	1-3	40	太田 哲也/鈴木 恵一	タイサンスターカードF40	フェラーリF40	F120A	YO	20kg	56	1:33'14.100	1'35.205/2
4	1-4	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	30kg	56	1:33'28.657	1'35.964/3
5	1-5	24	袖山 誠一/山路 慎一	コクピット館林GT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	10kg	55	1:32'31.702	1'36.578/5
6	1-6	2	鈴木 利男	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	55	1:32'56.334	1'36.712/7
7	1-7	9	M.マルティーニ	acom ポルシェRSR	ポルシェカレラRSR3.8(964A)	M64-04	BS	--	55	1:33'44.307	1'38.795/10
8	1-8	10	飯田 章	ジョンソンスカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	DL	--	55	1:33'46.125	1'36.591/6
9	2-1	70	石橋 義三/水野 文則	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	52	1:32'50.125	1'42.476/14
10	2-2	29	小幡 栄/上原 秀郎	KORG KEGANIポルシェ	ポルシェカレラRS(964A)	M64-03	BS	60kg	52	1:33'39.913	1'44.107/17
11	2-3	55	林 雅弘/柏原 浩一	ハヤシスポーツ964	ポルシェカレラ964A(964A)	M64-03	BS	--	51	1:32'42.281	1'43.377/16
12	1-9	27	吉谷 直広	ロッソ ランチア037-MYZ	ランチア037		DL	--	49	1:34'06.841	1'58.324/21
13	1-10	32	大山 茂/前原 信之	ORTランテック スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	YO	--	47	1:33'06.222	1'47.445/20
14	2-4	26	杉山 正典/黒澤 琢弥	ナックウェストスカイライン	スカイラインRSターボ(DR30)	FJ20DET	YO	--	47	1:34'01.780	1'40.544/12
15	2-5	12	福嵩 稔大	FKマッシモERC RX7	マツダRX7(FC3S)	13B	DL	--	46	1:33'08.505	1'41.586/13
16	1-11	25	R.ディーン/石川 朗	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX(Z32)	VG30DETT	BS	--	39		1'40.089/11
	1	100	高橋 国光/土屋 圭市	ADVAN PORSCHE	ポルシェ911RSR(964RSR)	M64-50S	YO	--	20		1'37.755/8
	2	33	白鳥 哲次/早川 篤	ミューズオイル RX-7	マツダRX7(FC3S)	13B	DL	--	19		1'44.858/18
	1	14	服部 尚貴	CCIあめんぼうシルビア	シルビア(PS13)	SR20DET	BS	--	15		1'38.179/9
	2	22	水沼 克夫/須永 剛	橋本車体ダンデライオンGTS	スカイラインGTS(R32)	RB20DET	YO	--	10		1'59.887/22
	1	88	池沢 さとし/和田 孝夫	レインX・アート・カウンタック	ランボルギーニカウンタック(ZA9C)	L507V4	YO	--	8		1'42.807/15
	1	11	吉本 博雪/佐野 宏明	プローバ ポルシェターボ	ポルシェ911ターボ2(964T)	M61	YO	---	-		1'44.761/19

●優勝スピード:162.329km/h ●最速ラップ:A.レイド(ポルシェ) 1'35.242 168.959km/h 30周目

'94全日本GT選手権第4戦"SUGO GT&F3選手権"

●決勝日:9月11日/菅生 ●主催:VICIC/奥州VICIC/SSC ●天候:曇 ●観客:3万1000人 ●3.704256km×81周=300.04473km ●参加:23台/決勝出走:21台/完走:19台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	100	高橋 国光/土屋 圭市	ADVAN PORSCHE	ポルシェ911RSR(964RSR)		YO	--	81	2:03'22.536	1'27.319/3
2	1-2	2	鈴木 利男	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	81	2:03'24.616	1'27.760/5
3	1-3	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	20kg	81	2:03'56.524	1'26.819/9
4	1-4	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	70kg	81	2:04'02.889	1'26.153/6
5	1-5	24	袖山 誠一/山路 慎一	コクピット館林GT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	80	2:04'04.897	1'26.223/7
6	1-6	10	飯田 章	ジョンソン スカイライン	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	DL	--	79	2:03'47.120	1'27.593/4
7	1-7	25	影山 正美/石川 朗	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX(Z32)		BS	--	77	2:03'28.924	1'29.860/10
8	2-1	12	川崎 哲哉/福嵩 稔大	FKマッシモ ERC RX7	マツダRX7(FC3S)	13B	DL	--	77	2:03'55.682	1'31.645/12
9	2-2	72	牧口 規雄/松田 秀士	IPF EAKO'S M3	BMW M3(E30)		YO	--	77	2:04'35.968	1'32.027/13
10	2-3	70	石橋 義三/水野 文則	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	30kg	76	2:03'29.319	1'32.708/14
11	1-8	14	服部 尚貴/大井 貴之	CCIあめんぼうシルビア	シルビア(PS13)	SR20DET	BS	--	75	2:03'36.347	1'30.285/11
12	1-9	11	吉本 博雪/佐野 宏明	プローバポルシェターボ	ポルシェ911ターボ(964T)		YO	--	75	2:03'51.403	計測できず/21
13	2-4	29	小幡 栄/上原 秀郎	KORG KEGANIポルシェ	ポルシェカレラRS(964A)		BS	60kg	75	2:04'13.302	1'35.466/16
14	2-5	52	新田 守男/後藤 次利	インターゲット オオスカポルシェ	ポルシェカレラ964(964)		BS	--	73	2:03'42.274	1'34.719/20
15	1-10	9	M.マルティーニ	acom ポルシェRSR	ポルシェカレラRSR3.8(964A)		BS	--	70		1'28.451/8
16	1-11	88	池沢 さとし/和田 孝夫	レインX・アート・カウンタック	ランボルギーニカウンタック(ZA9C)		YO	--	66	2:03'35.704	1'33.389/15
17	2-6	55	林 雅弘/柏原 浩一	ハヤシスポーツ964	ポルシェカレラ964A(964A)		BS	10kg	66	2:03'52.387	1'36.124/17
18	2-7	22	水沼 克夫/須永 剛	橋本車体ダンデライオン☆GTS	スカイラインGTS(R32)		YO	--	56		1'38.840/18
19	2-8	33	白鳥 哲次/早川 篤	ミューズオイル RX-7	マツダRX7(FC3S)	13B	DL	--	56		1'39.125/19
	1	39	J.クロスノフ	TOYOTA SUPRA	スープラGT(JZA80)	3S-G	MI	--	11		1'27.157/2
	1	40	A.レイド/太田 哲也	タイサンスターカードF40	フェラーリF40	F120A	YO	30kg	10		1'26.369/1

●優勝スピード:145.918km/h ●最速ラップ:A.レイド(フェラーリ) 1'28.178 151.232km/h 10周目

'93全日本GT選手権第1戦"IMSA GTチャレンジ"

●決勝日:3月28日/富士 ●主催:RRC ●天候:雨 ●観客:3万2000人 ●4.470km×30周=134.100km ●参加:25台/決勝出走:25台/完走:16台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	GTS-1	2	影山 正彦	カルソニックGT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	30	1:02'40.369	1'33.923/2
2	JSS-1	22	都平 健二	日産プリンス千葉スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	BS	--	30	1:03'46.046	1'37.149/10
3	GTU-1	19	B.オーバーレン	マツダRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	29	1:02'47.861	1'36.294/5
4	JSS-2	24	袖山 誠一	ワコーRS中春スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	29	1:03'06.338	1'35.983/4
5	JSS-3	55	深沢 寿裕	アンフィニニシトウキョウRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	29	1:03'57.799	1'40.143/17
6	JSS-4	70	石橋 義三	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	29	1:04'43.119	1'39.619/12
7	GTU-2	3	木下 隆之	GTシルビア	シルビア(PS13)	SR20DET	YO	--	28	1:03'39.102	1'37.069/9
8	JSS-5	5	青柳 裕昴	スカイラインRSターボ・中春	スカイラインRSターボ(DR30)	FJ20ET	YO	--	28	1:03'42.003	1'40.043/15
9	JSS-6	13	石森 浩元	ムラウチ☆イナバスカイライン	スカイラインRSターボ(DR30)	FJ20ET	BS	--	27	1:04'16.332	1'56.430/25
10	JSS-7	11	岡崎 武正	ERCサバンナRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	27	1:05'39.698	1'40.103/16
11	GTU-3	95	B.ライツィンガー	ニッサン240SX	ニッサン240SX	VG30	TY	--	26	1:03'10.468	1'37.016/7
12	JSS-8	10	水野 正	RE雨宮・BOMEX RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	25		1'56.177/24
13	GTU-4	97	H.ホンソウェッツ	ニッサン240SX	ニッサン240SX	VG30	TY	--	25	1:02'40.576	1'39.890/13
14	JSS-9	17	望月 克美	REOMサバンナRX7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	25	1:02'59.071	1'44.570/22
15	JSS-10	33	早川 篤	PROTIX AMUZE RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	24	1:05'43.258	1'42.115/19
16	JSS-11	37	こざい てつお	AXIOM スポーツRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	21	1:03'43.729	1'39.971/14
	GTU	73	J.ルイス	ポルシェ911	ポルシェ911		GY	--	5		1'44.503/21
	JSS	1	河合 博之	アドバンエンドレススカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	4		1'36.568/6
	JSS	9	川崎 哲哉	ERCサバンナRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	4		1'41.544/18
	JSS	39	森 俊一	アンフィニ東京墨田立花RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	4		1'43.244/20
	GTS	48	L.リンドレイ	フォードムスタング	フォードマスタング		GY	--	4		1'34.025/3
	GTS	53	T.リギンズ	オールズモビール カトラス	オールズモビルカトラス		GY	--	0		1'33.354/1
	GTS	12	J.ラウゲット	オールズモビール カトラス	オールズモビルカトラス		GY	--	0		1'37.030/8
	JSS	36	木下 光浩	ZEAL アドバンスカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20DET	YO	--	0		1'38.238/11
	JSS	40	伊藤 勝利	アンフィニ東京墨田立花RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	-		1'45.917/23

●優勝スピード:128.381km/h ●最速ラップ:影山 正彦(ニッサン) 1'54.104 141.029km/h 13周目
●ペナルティ:Car No.11…2分加算、Car No.33…2分加算

'93全日本GT選手権第3戦"富士ツーリングカー6時間"

●決勝日:5月30日/富士 ●主催:VICIC/富士スピードウェイ/FISCOクラブ/日刊スポーツ新聞社 ●天候:雨 ●観客:3万5000人 ●4.470km×23周=102.810km ●参加:18台/決勝出走:16台/完走:12台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	GT-1	2	影山 正彦	カルソニックGT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	23	43'13.196	1'34.730/1
2	JSS-1	24	袖山 誠一	ワコー中春スカイライン	スカイラインGTS(HR31)		YO	--	23	43'56.982	1'36.531/2
3	JSS-2	19	河合 博之	アドバン・エンドレススカイライン	スカイラインGTS(HR31)		YO	--	23	44'01.394	1'36.836/3
4	JSS-3	22	都平 健二	日産プリンス千葉スカイライン	スカイラインGTS(HR31)		BS	--	23	44'31.019	1'36.087/4
5	JSS-4	5	青柳 裕昴	スカイラインRSターボ・中春	スカイラインRSターボ(DR30)		YO	--	23	45'00.178	1'40.687/12
6	GT-2	3	木下 隆之	GTシルビア	シルビア(PS13)		YO	--	23	45'24.108	1'36.155/5
7	JSS-5	55	深沢 寿裕	アンフィニニシトウキョウRX7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	22	43'22.853	1'39.567/8
8	JSS-6	11	岡崎 武正	ERCサバンナRX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	22	43'25.882	1'40.511/11
9	JSS-7	13	石森 浩元	ムラウチ☆イナバスカイライン	スカイラインGTS(DR30)		BS	--	22	43'31.395	1'39.338/7
10	JSS-8	25	早乙女 実	酒蔵の石松RS中春シルビア	シルビア(US12)		BS	--	22	43'45.658	1'42.047/13
11	JSS-9	73	小宮 伸介	ウィナーコミヤオートBPμ7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	22	43'55.109	1'43.105/16
12	JSS-10	39	森 俊一	アンフィニ東京墨田立花RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	22	43'58.715	1'42.771/15
	JSS	10	水野 正	BOMEX・RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	9		1'42.709/14
	JSS	37	こざい てつお	AXIOM・オートバートRX-7	サバンナRX7(FC3S)		DL	--	4		1'39.637/9
	JSS	70	石橋 義三	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)		YO	--	4		1'38.668/6
	JSS	17	望月 克美	REOM RX7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	3		1'46.189/17
ns	JSS	12	小林 且雄		サバンナRX7(FC3S)		YO	--	-		1'40.360/10

●優勝スピード:142.451km/h ●最速ラップ:影山 正彦(ニッサン)1'48.998 147.636km/h 8周目

'93全日本GT選手権第8戦"F3000富士ファイナル"

●決勝日:10月17日/富士 ●主催:富士スピードウェイ/FISCOクラブ/VICIC ●天候:曇 ●観客:6万6500人 ●4.470km×23周=102.810km ●参加:22台/決勝:出走21台/完走:13台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	GT1-1	2	影山 正彦	カルソニックGT-R	スカイラインGTR(BNR32)	RB26DETT	BS	--	23	37'08.434	1'53.057/1
2	JSS-1	24	袖山 誠一	ADVAN中春スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20	YO	--	23	38'25.661	1'57.759/3
3	JSS-2	70	石橋 義三	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20	YO	--	23	39'05.041	2'01.156/8
4	JSS-3	12	川崎 哲哉	E・R・C・サバンナ・RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	22	37'09.739	1'56.956/5
5	GT2-1	3	福山 英朗	GTシルビア	シルビア	SR20	YO	--	22	37'15.248	1'59.453/6
6	JSS-4	55	深沢 寿裕	アンフィニニシトウキョウRX7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	22	37'22.725	1'57.990/4
7	JSS-5	13	石森 浩元	ムラウチ・イナバスカイライン	スカイラインRSターボ(DR30)	FJ20	BS	--	22	38'15.527	2'01.676/10
8	JSS-6	22	杉山 正典	ナックウエストスカイライン	スカイラインRSターボ(DR30)	FJ20	BS	--	22	38'15.827	2'02.435/11
9	JSS-7	25	青柳 裕昴	中春シルビアUS12	シルビア(US12)	FJ20	BS	--	22	38'32.378	2'03.326/12
10	JSS-8	39	森 俊一	アンフィニ東京墨田立花RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	BS	--	22	38'37.185	2'00.654/7
11	JSS-9	33	早川 篤	PROTIX AMUZE RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	DL	--	22	38'48.060	2'03.420/13
12	JSS-10	23	平野 敏行	浜松オートメリッサスカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20	YO	--	20	38'37.302	2'35.648/20
13	JSS-11	73	小宮 伸介	ウィナーコミヤオートBP RX7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	19	37'42.361	2'10.257/19
nc	JSS	7	小長井 政行	サスレーシングアドバンサバンナ	サバンナRX7	13B	YO	--	15	37'39.228	2'09.273/16
	JSS	10	水野 正	BOMEX RX-7	サバンナRX7(FC3S)	13B	YO	--	19		2'09.956/17
	JSS	6	小林 且雄	RE雨宮SUPER RX-7	サバンナRX7	RE20B	YO	--	18		2'05.475/14
	JSS	8	山路 慎一	OMIR-BP-RX-7	サバンナRX7	13B	YO	--	15		4'07.293/21
	JSS	48	駒 光武	アドバンエンドレススカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20	YO	--	12		1'56.324/2
	JSS	18	福田 豊	AMRCナムスカイライン	スカイラインGTS(HR31)	RB20	CL	--	11		2'01.622/9
	JSS	37	こざい てつお	AXIOM・オートバートRX-7	サバンナRX7(FC3S)	RE20B	CL	--	10		2'07.485/15
	JSS	40	伊藤 勝利	アンフィニ墨田立花RX-7	サバンナRX7	13B	BS	--	5		2'10.010/18

●優勝スピード:166.088km/h ●最速ラップ:影山 正彦(ニッサン)1'34.026 171.144km/h 4周目

1993シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権/ドライバー部門

Pos.	Driver	第1戦 3/14 富士	第2戦 4/25 富士	第3戦 5/30 富士	第4戦 7/4 十勝	第5戦 8/8 鈴鹿	第6戦 8/22 菅生	第7戦 9/19 富士	第8戦 10/10 富士	第9戦 10/31 美祢	Total
1	影山 正彦	9		9					9		27
2	木下 隆之	6	中止	6	中止	不成立	中止	中止		中止	12
3	福山 英朗								6		6

●全日本GT選手権/チーム部門

Pos.	Team	第1戦 3/14 富士	第2戦 4/25 富士	第3戦 5/30 富士	第4戦 7/4 十勝	第5戦 8/8 鈴鹿	第6戦 8/22 菅生	第7戦 9/19 富士	第8戦 10/10 富士	第9戦 10/31 美祢	Total
1	NISMO	15	中止	15	中止	不成立	中止	中止	15	中止	45

1993 Point System

各クラス1～6位のドライバーに9-6-4-3-2-1の各点。各クラス1～10位のチームに20-15-12-10-8-6-4-3-2-1の各点(台数により制限あり)。

'94全日本GT選手権第5戦"三洋信販カップグランドツーリングカー耐久"

●決勝日：10月23日／美祢　●主催：MINEサーキット／VICIC／AMSC　●天候：晴れ　●観客：3万7600人　●3.23898km×92周＝297.98616km　●参加：20台／決勝出走：20台／完走：15台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	40	太田 哲也／O.ラッラウリ	タイサンスターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO	20kg	92	2:24'52.678	1'30.171/2
2	1-2	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN PORSCHE	ポルシェ911RSR（964RSR）		YO	30kg	92	2:25'13.435	1'30.774/5
3	1-3	35	A.レイド／近藤 真彦	タイサンスターカード962C	ポルシェ962C		YO	30kg	92	2:25'42.402	1'30.696/4
4	1-4	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	50kg	92	2:25'52.923	1'31.360/3
5	1-5	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	30kg	91	2:24'54.666	1'31.590/9
6	1-6	24	袖山 誠一／山路 慎一	コクピット館林GT-R	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	--	91	2:24'58.517	1'31.742/10
7	1-7	25	影山 正美	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX（Z32）		BS	--	89	2:25'08.610	1'33.074/12
8	1-8	34	鈴木 恵一／松田 秀士	タイサンスターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	86	2:25'20.145	1'31.078/6
9	2-1	72	牧口 規雄／岡本 幸夫	IPF WAKO'S M3	BMW M3（E30）		YO	20kg	85	2:25'14.919	1'39.548/16
10	2-2	29	小幡 栄／上原 秀郎	KORG KEGANIポルシェ	ポルシェカレラRS（964A）		BS	70kg	85	2:25'18.270	1'38.493/17
11	2-3	55	柏原 浩一	ハヤシデンタル648カレラ	ポルシェカレラRS（964A）		BS	--	85	2:25'42.850	1'38.434/16
12	1-9	10	飯田 章	ジョンソン スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	DL	--	84	2:25'52.703	1'30.448/3
13	2-4	70	石橋 義三／水野 文則	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS（HR31）	RB20DETT	YO	40kg	75	2:26'48.069	1'37.059/14
14	1-10	39	J.クロスノフ	TOYOTA SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	MI	--	73		1'29.628/1
15	1-11	5	T.クリステンセン	BLITZ SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	65	2:24'59.503	1'38.019/15
	1	9	M.マルティーニ	acom ポルシェRSR	ポルシェカレラRSR（964A）		BS	--	56		1'32.824/11
	2	22	水沼 克夫／秋元 光男	橋本車体ダンデライオン・GTS	スカイラインGTS（R32）		YO	--	34		1'47.135/20
	1	2	鈴木 利男	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	20kg	24		1'31.219/7
	1	14	服部 尚貴／大井 貴之	CCIあめんぼうシルビア	シルビア（PS13）	SR20DET	BS	--	24		1'34.049/13
	1	88	池沢 さとし／和田 孝夫	レインX・アート・カウンタック	ランボルギーニカウンタック（ZA9C）		YO	--	18		1'37.159/19

●優勝スピード：123.406km/h　●最速ラップ：O.ラッラウリ（フェラーリ）　1'30.743　128.498km/h　3周目

1994シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門

Pos.	Driver	第1戦 5/1 富士	第2戦 6/12 仙台	第3戦 8/14 富士	第4戦 9/11 菅生	第5戦 10/23 美祢	Total
1	影山 正彦	20	15	15	10	10	70
2	長谷見 昌弘	6	20	10	12	8	56
3	山路 慎一	15	10	8	8	6	47
4	袖山 誠一	15	10	8	8	6	47
5	A.レイド		12	20		12	44
6	太田 哲也	12	12	12			36
7	高橋 国光				20	15	35
8	土屋 圭市				20	15	35
9	近藤 真彦			20		12	32
10	鈴木 利男		6	6	15		27
11	鈴木 恵一	12		12		3	27
12	O.ラッラウリ					20	20
13	飯田 章		8	3	6	2	19
14	服部 尚貴	10	1		3		14
15	大井 貴之	10	1		3		14
16	M.マルティーニ	8		4	1		13
17	影山 正美		2		4	4	10
18	山田 英二		8				8
19	石川 朗		2	1	4		6
20	福山 英朗		4				4
21	和田 孝夫		3				3
21	池沢 さとし		3				3
21	松田 秀士					3	3
24	古谷 直広			2			2
24	吉本 博雪				2		2
24	佐野 宏明				2		2
27	大山 茂			1			1
27	前原 信文			1			1
27	J.クロスノフ					1	1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門

Pos.	Driver	第1戦 5/1 富士	第2戦 6/12 仙台	第3戦 8/14 富士	第4戦 9/11 菅生	第5戦 10/23 美祢	Total
1	小幡 栄	20	20	15	10	15	80
2	石橋 義三	15	12	20	12	10	69
3	上原 秀郎	20	20		10	15	65
4	水野 文則		12	20	12	10	54
5	川崎 哲哉		15		20		35
6	牧口 規雄				15	20	35
7	林 雅弘	12		12	6		30
8	柏原 浩一			12	6	12	30
9	福嶌 稔大			8	20		28
10	岡本 幸夫					20	20
11	松田 秀士				15		15
11	青柳 裕恩	15					15
13	白鳥 哲次	10			3		13
13	早川 篤	10			3		13
15	吉本 博雪	12					12
16	黒澤 琢弥			10			10
16	杉山 正典			10			10
18	鮪田 守男				8		8
18	後藤 次利				8		8
20	水沼 克夫				4		4
20	須永 剛				4		4

●全日本GT選手権／チーム第1部門

Pos.	Team	第1戦 5/1 富士	第2戦 6/12 仙台	第3戦 8/14 富士	第4戦 9/11 菅生	第5戦 10/23 美祢	Total
1	HOSHINO RACING	20	15	15	10	10	70
2	TEAM TAISAN	12	12	20		20	64
3	ハセミ・モータースポーツ	6	20	10	12	8	56
4	Racing Team 中春	15	10	8	8	6	47
5	チーム国光				20	15	35
6	TEAM ZEXEL		6	6	15		27
7	Johnson NISMO Racing		8	3	6	2	19
8	MOON CRAFT	10	1		3		14
9	ACOM RACING TEAM NOVA	8		4	1		13
10	Team Le Mans		2	1	4	4	11
11	BLITZ RACING TEAM		4				4
12	KEN WOLF with TERAI ENG.		3				3
13	ハンターレーシング				2		2
13	MAX'Y RACING TEAM			2			2
15	トヨタチームサード					1	1

●全日本GT選手権／チーム第2部門

Pos.	Team	第1戦 5/1 富士	第2戦 6/12 仙台	第3戦 8/14 富士	第4戦 9/11 菅生	第5戦 10/23 美祢	Total
1	KEGANI RACING	20	20	15	10	15	80
2	石橋義三	15	12	20	12	10	69
3	株式会社 スクーデリア		15	8	20		43
4	牧口エンジニアリング				15	20	35
5	東名スポーツ			12	6	12	30
6	AMUZE RACING	10			4		14
7	ハンターレーシングチーム	12					12
8	ナックウエスト			10			10
9	オオスカレーシング				8		8
10	ダンデライオンレーシングチーム				4		4

1994 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。同一チームの複数の車両が入賞した場合は上位車のみ対象。チームが車両を変更しても同一クラスの公認車両であれば得点継続。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'95全日本GT選手権第1戦"SUZUKA GT300"

●決勝日：4月2日／鈴鹿　●主催：KSCC/鈴鹿サーキットランド/SMSC　●天候：晴れ　●観客：4万5000人　●5.86403km×51周＝299.06553km　●参加：27台／決勝：出走24台／完走：19台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	--	51	1:55'03.363	2'10.073/3
2	1-2	55	鈴木 利男／飯田 章	JOMO R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:55'13.242	2'09.959/2
3	1-3	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	51	1:56'28.479	2'10.687/5
4	1-4	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	--	51	1:57'03.395	2'09.863/1
5	1-5	38	E.コマス	トヨタスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	51	1:57'05.452	2'11.501/7
6	1-6	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロールスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	51	1:57'06.641	2'12.263/10
7	1-7	5	柏原 浩一／羽根 幸浩	マツダコレクション出光ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	YO	--	49	1:55'57.749	2'16.033/15
8	1-8	8	長坂 尚樹／見崎 清志	TOYOTA SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	49	1:56'10.631	2'11.935/8
9	1-9	2	都平 健二／河合 博之	ZEXEL WISE スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	YO	--	49	1:56'11.618	2'15.875/13
10	1-10	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	49	1:56'26.095	2'12.853/11
11	1-11	34	A.レイド／近藤 真彦	タイサン スターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	47	1:56'01.181	2'10.637/4
12	1-12	25	影山 正美	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX（Z32）	VG30DETT	YO	--	47	1:56'38.633	2'16.494/17
13	1-13	15	古谷 直広	ブローバ ポルシェ ターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	BS	--	47	1:56'56.248	2'18.109/18
14	2-1	70	石橋 義三／星野 薫	欧州車販売の外国屋スカイライン	スカイラインGTS（HR31）	RB20DET	YO	--	47	1:57'15.939	2'22.670/21
15	1-14	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイル ポルシェ・ターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）	M64	YO	--	46	1:56'27.600	2'12.087/9
16	1-15	88	和田 孝夫／池沢 さとし	レインXタムラディアブロ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	45	1:56'36.630	2'16.417/16
17	2-2	32	大山 茂／岡野谷 純	ランティック スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	YO	--	43	1:57'19.135	2'32.913/24
18	2-3	6	日置 恒文／八代 俊二	シュロスポルシェ	ポルシェ911カレラRS（964A）	M64	DL	--	42	1:56'04.682	2'31.894/23
19	2-4	26	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	38		2'26.433/22
	1	19	小林 且雄	JUN スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	28		2'15.963/14
	1	35	鈴木 恵一／松田 秀士	タイサン スターカードGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-60	YO	--	26		2'13.874/12
	1	41	伊達 邦夫／石川 朗	アイワ&ナガタ シルビア	シルビア（PS13）	SR20DET	YO	--	22		2'18.563/19
	2	72	牧口 規雄／福山 英朗	WAKO'S M3	BMW M3（E30）	S14	YO	--	22		2'19.117/20
	1	40	O.ラッラウリ／太田 哲也	タイサン スターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	12		2'11.025/6

●優勝スピード：155.958km/h　●最速ラップ：O.ラッラウリ（フェラーリ）　2'12.212　159.672km/h　3周目

'95全日本GT選手権第2戦"全日本富士GT"

●決勝日：5月4日／富士　●主催：テレビ東京／VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ　●天候：曇　●観客：5万4700人　●4.470km×67周＝299.490km　●参加：34台／決勝出走：31台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	33	松田 秀士／飯田 薫	タイサン ポルシェGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO		67	1:52'22.303	1'33.134/6
2	1-2	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS		67	1:52'53.653	1'33.939/8
3	1-3	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイル ポルシェ・ターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）	M64	YO		67	1:52'54.063	1'38.993/16
4	1-4	55	鈴木 利男／飯田 章	JOMO R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS		67	1:53'16.122	1'34.869/11
5	1-5	8	長坂 尚樹	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS		67	1:53'32.595	1'33.111/4
6	1-6	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロールスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS		66	1:52'22.999	1'32.763/3
7	1-7	35	鈴木 恵一／土屋 武士	タイサン スターカードGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO		66	1:52'47.936	1'34.483/9
8	1-8	5	柏原 浩一／羽根 幸浩	マツダコレクション出光ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO		66	1:52'52.662	1'34.556/10
9	1-9	40	太田 哲也	タイサン スターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO		65	1:52'56.764	1'35.817/14
10	2-1	70	石橋 義三／星野 薫	欧州車販売の外国屋アドバン	スカイラインGTS（HR31）		YO		63	1:52'39.078	1'41.469/24
11	2-2	72	牧口 規雄／堀米 徹	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）		YO		63	1:54'06.675	1'41.959/25
12	1-10	1	影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS		62		1'35.015/13
13	2-3	11	石森 浩元	ムラウチ石森石油GTS-R	スカイラインGTS（HR31）		BS		62	1:52'34.684	1'42.552/26
14	2-4	31	池谷 勝則／石原 将光	コブラポルシェRS	ポルシェカレラ964A（964A）		YO		62	1:54'01.152	1'45.281/32
15	1-11	41	伊達 邦夫／石川 朗	カーハウスアイワナガタシルビア	シルビア（PS13）		YO		61	1:52'58.792	1'39.455/18
16	1-12	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL		60	1:52'44.145	1'33.118/5
17	2-5	71	黒須 俊文／山岸 豪	IPF WAKO'S M3	BMW M3（E30）		YO		59		1'41.306/22
18	2-6	27	林 道明／金森 敏一	ナックウエストスカイライン	スカイラインGTS（DR30）		YO		57	1:53'06.206	1'42.677/27
19	1-13	19	小林 且雄	JUN スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）		YO		57	1:53'23.626	1'36.428/15
20	2-7	32	大山 茂／岡野谷 純	ランティック スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）		YO		56	1:53'02.473	1'46.660/33
21	2-8	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX-7	マツダRX7（FC3S）		YO		51		1'43.617/29
22	2-9	7	松本 晴彦	RE SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO		51	1:53'07.066	1'40.525/21
22	2-9	7	竹内 浩典	RE SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO		51	1:53'07.066	1'40.525/21
23	2-10	13	早川 篤／吉田 信宏	マイクロロンミューズDL RX7	マツダRX7（FC3S）	13B	DL		49		1'43.612/28
24	1-14	38	E.コマス	トヨタスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS		46		1'32.271/1
25	1-15	2	都平 健二／河合 博之	ZEXEL WISE スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	YO		46		1'34.891/12
26	2-11	26	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO		45		1'44.039/31
	1	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS		45		1'33.395/7
	1	34	A.レイド	タイサン スターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO		24		1'32.429/2
	1	66	原 貴彦／和田 久	RAZO・TRAMPIO GTR	スカイラインGTR（BCNR33）		TY		22		1'39.376/17
	2	54	袖山 誠一／中田 雅久	Gatoradeポルシェ	ポルシェカレラ964A（964A）		YO		14		1'43.733/30
	2	18	福嶌 稔大／川崎 哲哉	ATS-BM・ERC・RX-7	マツダRX7（FC3S）		YO		8		1'40.335/20
ns	1	15	古谷 直広	ブローバ ポルシェ ターボ	ポルシェ911ターボ（964T）		BS		-		1'40.150/19
ns	1	25	影山 正美	ニッサン・フェアレディZ	フェアレディ300ZX（Z32）		YO		-		1'41.336/23

●優勝スピード：159.910km/h　●最速ラップ：E.コマス（トヨタ）　1'32.691　173.609km/h　6周目
●ペナルティ：Car No.36…20秒ストップ&1周減算、Car No.41…10秒ストップ

'95全日本GT選手権第3戦"ハイランドGT選手権"

●決勝日：6月25日／仙台ハイランド　●主催：VICIC／奥州VICIC　●天候：曇　●観客：4万8200人　●4.02960km×62周＝249.8352km　●参加：27台／決勝出走：27台／完走：23台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロールスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	62	1:56'15.607	1'48.355/5
2	1-2	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	62	1:56'33.920	1'48.259/4
3	1-3	35	A.レイド／近藤 真彦	タイサンスターカードGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	62	1:56'50.603	1'48.810/6
4	1-4	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイルポルシェ・ターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）		YO	10kg	62	1:57'04.869	1'49.347/8
5	1-5	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	62	1:57'07.767	1'50.652/11
6	1-6	10	飯田 章／鈴木 利男	ジョンソンスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	62	1:57'30.472	1'48.912/7
7	1-7	30	田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	62	1:58'07.520	1'47.999/1
8	1-8	33	松田 秀士／鈴木 恵一	タイサンポルシェGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	30kg	61	1:56'37.114	1'49.777/10
9	1-9	5	柏原 浩一	マツダコレクション出光ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	61	1:57'01.350	1'52.195/14
10	1-10	8	長坂 尚樹	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	61	1:57'20.747	1'49.767/9
11	1-11	2	都平 健二／河合 博之	ZEXELワイズスカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	YO	--	61	1:58'08.286	1'53.748/15
12	1-12	19	小林 且雄	JUN スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）		YO	--	60	1:56'17.681	1'52.145/13
13	1-13	88	和田 孝夫／池沢 さとし	レインXタムラディアブロ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	60	1:56'56.917	1'52.040/12
14	1-14	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	59	1:57'13.546	1'48.226/3
15	2-1	7	竹内 浩典／松本 晴彦	RE SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO	--	59	1:57'16.318	1'55.784/17
16	1-15	38	E.コマス	トヨタスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	58		1'48.105/2
17	2-2	70	石橋 義三／星野 薫	欧州車販売の外国屋アドバン	スカイラインGTS（HR31）		YO	60kg	58	1:57'46.653	1'57.476/19
18	2-3	71	山岸 豪／黒須 俊文	SOUND STREAM M3	BMW M3（E30）		YO	--	57	1:56'24.626	1'57.817/20
19	2-4	11	石森 浩元	ムラウチカメイGTS-R	スカイラインGTS（HR31）		BS	10kg	56	1:57'32.347	2'00.049/22
20	2-5	31	池谷 勝則／石原 将光	コブラポルシェRS	ポルシェ964A（964A）		YO	--	56	1:57'42.672	2'01.792/25
21	2-6	26	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	55		1'58.937/21
22	2-7	23	鈴木 隆司／杉田 直人	TKC鈴木会計ポルシェ	ポルシェ911（933）		YO	--	55	1:57'40.666	2'02.393/26
23	2-8	54	袖山 誠一／中田 雅久	Gatoradeポルシェ	ポルシェ964A（964A）		BS	--	54	1:57'38.282	2'01.368/24
	1	15	古谷 直広	ブローバ ポルシェターボ	ポルシェ911ターボ（964T）		BS	--	31		2'01.312/23
	2	18	福嶌 稔大／川崎 哲哉	ATS-BM・ERC・RX-7	マツダRX7（FC3S）		YO	--	29		1'56.990/18
	2	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校・RX-7	マツダRX7（FC3S）		YO	--	29		2'02.461/27
	2	72	牧口 規雄／木下 隆之	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）		YO	20kg	25		1'55.396/16

●優勝スピード：128.936km/h　●最速ラップ：M.クルム（トヨタ）　1'49.074　132.997km/h
●ペナルティ：Car No.70…10秒ストップ

'95全日本GT選手権第4戦 "JAPAN SPECIAL GT CUP"

●決勝日：8月13日／富士 ●主催：富士スピードウェイ/FISCOクラブ/VICIC ●天候：晴れ ●観客：5万2500人 ●4.470km×56周＝250.320km ●参加：41台／決勝出走：38台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	56	1:36'34.894	1'32.937/4
2	1-2	55	鈴木 利男	JOMO R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:36'39.231	1'33.157/6
3	1-3	10	飯田 章	ジョンソン スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:37'01.588	1'33.276/7
4	1-4	8	長坂 尚樹	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	56	1:37'35.524	1'33.305/8
5	1-5	34	松田 秀士／土屋 武士	STPタイサンポルシェGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	20kg	56	1:37'46.006	1'33.489/12
6	1-6	4	福山 英朗／水野 文則	中春スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	--	56	1:37'47.486	1'34.736/17
7	1-7	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	56	1:38'02.009	1'33.434/11
8	1-8	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイルポルシェターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）	M64	YO	--	56	1:38'06.414	1'33.933/13
9	1-9	35	A.レイド／近藤 真彦	タイサンスターカードGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	10kg	55		1'32.142/3
10	1-10	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	55	1:36'48.566	1'33.400/10
11	1-11	19	小林 且雄	JUNスカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）	SR20	YO	--	55	1:36'55.595	1'34.696/15
12	1-12	5	柏原 浩一／田中 実	マツダコレクション出光ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	55	1:36'57.000	1'34.751/18
13	1-13	88	和田 孝夫／池沢 さとし	レインXタムラディアブロ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	55	1:37'43.292	1'34.011/14
14	1-14	99	道上 龍	KANEKO PORSCHE	ポルシェ911（964RSR）	M64	YO	--	55	1:38'04.012	1'37.545/20
15	1-15	87	山田 英二	TCRCコムテックElf GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	55	1:38'05.761	1'34.714/16
16	2-1	72	牧口 規雄／木下 隆之	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	10kg	54	1:37'22.775	1'39.490/23
17	2-2	7	竹内 浩典／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO	30kg	54	1:37'40.403	1'39.165/22
18	1-16	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	54	1:38'03.453	1'33.060/5
19	1-17	81	木下 みつひろ／菊池 靖	エンドレスアドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	53	1:37'56.200	1'40.594/24
20	2-3	70	石橋 義三／星野 薫	外車の外国屋アドバンHR31	スカイラインGTS（HR31）		YO	--	53	1:37'57.213	1'40.901/26
21	2-4	71	山岸 豪／黒須 俊文	SOUND STREAM M3	BMW M3（E30）	S14	YO	10kg	52	1:36'53.028	1'41.544/28
22	2-5	26	山梨 順一／長島 正興	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）	S14	YO	--	51	1:36'56.274	1'43.298/33
23	2-6	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	49	1:36'41.712	1'48.581/35
24	2-7	23	鈴木 隆司／杉田 直人	TKC鈴木会計ポルシェ	ポルシェカレラ911（993）	M64	YO	--	48	1:36'36.010	1'48.586/37
25	2-8	12	永井 明	EIMEI AUTO ミラージュ	ミラージュ（C53A）	4G63	BS	--	43		1'44.082/34
26	1-18	40	O.ラッラウリ／太田 哲也	タイサン スターカード F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	39		1'31.139/1
	1	33	鈴木 恵一／飯田 薫	タイサンポルシェGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	20kg	36		1'34.827/19
	2	13	早川 篤／吉田 信宏	マイクロロンAPP RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	BS	--	33		1'46.085/35
	2	18	福嶌 稔大	ATS-BM・ERC・RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	32		1'40.896/25
	1	38	E.コマス	トヨタ スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	31		1'31.960/2
	2	27	鈴木 守／林 道明	ナックウエストスカイライン	スカイラインGTS（DR30）	FJ20	YO	--	30		1'43.115/32
	2	31	池谷 勝則／石原 将光	ナインテンポルシェ	ポルシェ911（993）	M64	YO	--	28		1'41.541/27
	1	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロールスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	30kg	27		1'33.357/9
	2	11	石森 浩元	ムラウチ石森石油GTS-R	スカイラインGTS（HR31）	RB20	BS	--	27		1'42.725/30
	1	2	都平 健二／河合 博之	ZEXEL ワイズ スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26	YO	--	15		1'48.272/38
	2	28	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）	S14	YO	--	7		1'43.027/31
	1	25	影山 正美	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX（Z32）	VG30	YO	--	0		1'38.365/21
	1	41	伊達 邦夫／石川 朗	京都近鉄ARPシルビア	シルビア（PS13）	SR20	YO	--	0		1'41.751/29
ns	2	22	水沼 克夫／秋元 光男	橋本車体インテックスカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	RB26	YO	--	-		2'19.377/39

●優勝スピード：155.508km/h ●最速ラップ：A.レイド（ポルシェ） 1'34.072 171.060km/h 2周目
●ペナルティ：Car No.34…10秒ストップ、Car No.1…10秒ストップ、Car No.100…30秒ストップ、Car No.87…10秒ストップ、Car No.39…10秒ストップ、Car No.81…10秒ストップ、Car No.40…10秒ストップ&2周減算

'95全日本GT選手権第5戦 "SUGO GT選手権"

●決勝日：9月10日／菅生 ●主催：VICIC／SSC／奥州VICIC ●天候：雨・曇 ●観客：3万3000人 ●3.704256km×81周＝300.044736km ●参加：36台／決勝出走：32台／完走：20台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	35	A.レイド／近藤 真彦	タイサンスターカード GT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	81	2:05'27.290	1'25.706/3
2	1-2	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	81	2:05'55.653	1'25.650/2
3	1-3	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	81	2:05'56.019	1'25.455/1
4	1-4	3	長谷見 昌弘	ユニシア ジェックス スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	40kg	81	2:06'07.065	1'26.242/9
5	1-5	55	鈴木 利男	JOMO R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	80	2:05'39.755	1'25.927/5
6	1-6	34	松田 秀士／O.ラッラウリ	STPタイサン ポルシェ GT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	10kg	80	2:05'28.870	1'27.659/32
7	1-7	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロール スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	20kg	80	2:05'59.971	1'26.129/7
8	1-8	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイル ポルシェ・ターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）		YO	--	79	2:05'43.815	1'26.486/10
9	1-9	10	飯田 章	ジョンソン スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	79	2:06'21.617	1'26.675/11
10	1-10	5	柏原 浩一／田中 実	マツダコレクション出光ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	77	2:06'23.544	1'27.141/12
11	1-11	38	E.コマス	トヨタスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	76		1'26.133/8
12	1-12	99	道上 龍	KANEKO PORSCHE	ポルシェ911（964）		YO	--	76	2:05'43.347	1'26.192/17
13	2-1	31	池谷 勝則／袖山 誠一	ナインテン ゲータレード ポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）		YO	--	75	2:06'35.482	1'32.124/21
14	2-2	71	山岸 豪／黒須 俊文	SOUND STREAM M3	BMW M3（E30）		YO	--	74	2:07'04.830	1'32.761/23
15	2-3	70	石橋 義三／星野 薫	外車の外国屋 アドバン R31	スカイラインGTS（HR31）		YO	90kg	74	2:05'43.611	1'32.604/24
16	2-4	28	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	72	2:05'29.130	1'34.290/26
17	2-5	26	山梨 順一／長島 正興	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	71	2:05'51.489	1'34.218/25
18	2-6	21	伊藤 晶一／一ツ山 陽介	チームAB・ひろ矯正歯科 M3	BMW M3（E30）		YO	--	70	2:05'34.327	1'36.265/29
19	2-7	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校 RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	69	2:05'31.492	1'37.468/30
20	2-8	11	石森 浩元	ムラウチカメイ GTS-R	スカイラインGTS（HR31）		BS	--	69	2:06'39.565	1'35.299/27
	1	88	和田 孝夫／池沢 さとし	レインXタムラ ディアブロ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	50		1'27.377/15
	1	2	都平 健二／河合 博之	ZEXEL ワイズ スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）		YO	--	44		1'27.281/14
	1	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	41		1'25.847/4
	2	23	鈴木 隆司／杉田 直人	TKC鈴木会計 ポルシェ	ポルシェ911（993）		YO	--	38		1'35.611/28
	2	72	牧口 規雄／木下 隆之	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）		YO	40kg	36		1'31.892/20
	1	19	小林 且雄	JUN スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）		YO	--	32		1'27.593/16
	1	22	水沼 克夫／秋元 光男	橋本車体 INTEC スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）		YO	--	26		1'38.505/31
	1	8	長坂 尚樹	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	25		1'26.069/6
	1	4	福山 英朗／水野 文則	中春スカイライン GTR	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	BS	--	16		1'28.243/18
	1	25	影山 正美	FEDEX 300 ZX-LM	フェアレディ300ZX（Z32）		YO	--	14		1'27.212/13
	2	18	福嶌 稔大／川崎 哲敏	ATS-BM・ERC・RX-7	マツダRX7（FC3S）		YO	--	14		1'32.406/22
	2	7	竹内 浩典／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO	50kg	13		1'30.551/19
ns	1	15	古谷 直広／和田 久	ブローバポルシェターボ	ポルシェ911ターボ（964T）		BS	--	-		1'29.275/33

●優勝スピード：143.499km/h ●最速ラップ：M.クルム（トヨタ） 1'26.299 154.525km/h 68周目
●ペナルティ：Car No.55…1周減算、Car No.21…20秒ストップ

'95全日本GT選手権第6戦 "三洋信販カップグランドツーリングカー耐久"

●決勝日：10月1日／美祢 ●主催：MINEサーキット／VICIC／AMSC ●天候：曇一時雨 ●観客：3万9100人 ●3.23898km×78周＝252.64044km ●参加：30台／決勝出走：27台／完走：17台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	1-1	34	松田 秀士／鈴木 恵一	STPタイサンポルシェGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	78	2:02'03.889	1'28.352/4
2	1-2	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	78	2:02'31.881	1'28.465/7
3	1-3	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	78	2:03'30.746	1'28.755/9
4	1-4	36	関谷 正徳／M.クルム	トヨタカストロールスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	10kg	77	2:02'18.507	1'28.287/2
5	1-5	2	都平 健二／河合 博之	ZEXEL ワイズスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）		YO	--	77	2:02'29.872	1'29.265/11
6	1-6	3	長谷見 昌弘	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	77	2:02'38.466	1'28.189/1
7	1-7	55	鈴木 利男	JOMO R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	75	2:02'21.142	1'28.433/6
8	1-8	99	道上 龍	KANEKO PORSCHE	ポルシェ911（964）		YO	--	75	2:02'23.134	1'31.263/16
9	1-9	35	A.レイド／近藤 真彦	タイサンスターカードGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	75	2:02'38.611	1'28.401/5
10	2-1	7	竹内 浩典／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO	40kg	73	2:02'40.617	1'33.879/20
11	1-10	19	小林 且雄	JUN スカイラインGT-R	スカイラインGTR（BNR32）		YO	--	73	2:02'52.964	1'30.016/15
12	2-2	72	牧口 規雄／木下 隆之	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）		YO	30kg	73	2:03'28.688	1'34.811/22
13	2-3	31	池谷 勝則／袖山 誠一	ナインテンゲータレードポルシェ	ポルシェ911（993）		YO	30kg	73	2:03'38.905	1'35.266/23
14	2-4	28	関根 基司／武藤 文雄	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	70	2:03'27.658	1'37.974/27
15	1-11	39	J.クロスノフ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-G	DL	--	67		1'28.309/3
16	1-12	40	O.ラッラウリ／太田 哲也	タイサンスターカードF40	フェラーリF40	F120A	YO	--	58		1'30.019/16
17	2-5	71	山岸 豪／小泉 和寛	SOUND STREAM M3	BMW M3（E30）		YO	20kg	57		1'37.689/25
	1	8	長坂 尚樹	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	53		1'29.425/12
	1	10	飯田 章	ジョンソン スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51		1'28.895/10
	1	41	伊達 邦夫／石川 朗	京都近鉄ARPシルビア	シルビア（PS13）		YO	--	46		1'34.520/21
	2	26	山梨 順一／長島 正興	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）		YO	--	41		1'37.923/26
	1	25	影山 正美	FEDEX 300ZX-LM	フェアレディ300ZX（Z32）	SR20DET改	YO	--	41		1'31.566/19
	1	88	和田 孝夫／金海 辰彦	レインXタムラディアブロ	ランボルギーニディアブロ（ZA9）		YO	--	29		1'29.653/14
	2	70	石橋 義三／星野 薫	外車販売の外国屋アドバンR31	スカイラインGTS（HR31）		YO	100kg	5		1'37.366/24
	1	100	高橋 国光／土屋 圭市	BPオイルポルシェ・ターボ	ポルシェ911RSR（964RSR）		YO	--	1		1'29.623/13
	1	15	S.マクスウェル／古谷 直広	ブローバポルシェターボ	ポルシェ911ターボ（964T）		BS	--	-		1'30.951/17
dq	1	38	E.コマス	トヨタスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-G	BS	--	77	2:02'31.763	1'28.539/8

●優勝スピード：124.099km/h ●最速ラップ：田嶋 栄一（ポルシェ） 1'29.982 129.585km/h 30周目
●ペナルティ：Car No.38…危険走行により失格

1995シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門

Pos.	Driver	第1戦 4/2 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/25 仙台	第4戦 8/13 富士	第5戦 9/10 菅生	第6戦 10/1 美祢	Total
1	影山 正彦	20	1	15	4	15	12	67
2	長谷見 昌弘	10	15		20	10	6	61
3	鈴木 利男	15	10	6	15	8	4	58
4	松田 秀士		20	3	8	6	20	57
5	M.クルム	6	6	20		4	10	46
6	関谷 正徳	6	6	20			10	42
7	A.レイド			12	2	20	2	36
8	J.クロスノフ	12		8		12		32
9	飯田 章		10	6	12	2		30
10	土屋 圭市／高橋 国光		12	10	3	3		28
11	長坂 尚樹	3	8	1	10			22
12	田嶋 栄一	1		4	1		15	21
13	星野 一義			15	4			19
14	近藤 真彦			12	2		2	16
15	都平 健二／河合 博之	2					8	10
16	柏原 浩一	4	3	2		1		10
17	E.コマス	8						8
18	羽根 幸浩	4	3					7
18	鈴木 恵一		4	3				7
20	水野 文則／福山 英朗				6			6
21	土屋 武士		4					4
22	道上 龍						3	3
22	見崎 清志	3						3
24	太田 哲也		2					2
25	山田 洋二	1			1			2
26	小林 且雄						1	1
26	田中 実					1		1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門

Pos.	Driver	第1戦 4/2 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/25 仙台	第4戦 8/13 富士	第5戦 9/10 菅生	第6戦 10/1 美祢	Total
1	石橋 義三／星野 薫	20	20	15	12	12		79
2	松本 晴彦／竹内 浩典		2	20	15		20	57
3	山岸 豪		6	12	10	15	8	53
4	牧口 規雄		15		20		15	50
5	池谷 勝則		10	8		20	12	50
6	黒須 俊文		6	12	10	15		45
7	関根 基司	10		6		10	10	36
8	石森 浩元		12	10		3		25
9	木下 隆之				20			20
10	武藤 文雄	10				10		20
11	岡野谷 純／大山 茂	15	4					19
12	山梨 順一／長島 正興				8	8		16
13	堀米 徹		15					15
14	袖山 誠一			3			12	15
15	野上 敏彦／輿水 敏明		3		6	4		13
16	八代 俊二	12						12
17	小泉 和_						8	8
18	鈴木 隆司／杉田 直人			4	4			8
19	伊藤 晶一／一ツ山 陽介					6		6
19	林 道明		6					6
19	金森 敏一		6					6
22	永井 明				3			3
22	中田 雅久			3				3
24	早川 篤／吉田 伸宏		1					1

●全日本GT選手権／チーム第1部門

Pos.	Team	第1戦 4/2 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/25 仙台	第4戦 8/13 富士	第5戦 9/10 菅生	第6戦 10/1 美祢	Total
1	TEAM TAISAN		20	12	8	20	20	80
2	HOSHINO RACING	20	1	15	4	15	12	67
3	ハセミ・モータースポーツ	10	15		20	10	6	61
4	NISMO	15	10	6	15	8	4	58
5	TOYOTA TEAM TOM'S	6	6	20		4	10	46
6	トヨタチーム サード	12		8		12		32
7	チーム国光		12	10	3	3	3	31
8	TOYOTA TEAM FET	3	8	1	10			22
9	TEAM TAKE ONE	1		4	1		15	21
10	TEAM ZEXEL	2					8	10
11	RANK UP TOMEI SPORT	4	3	2		1		10
12	TOYOTA TEAM CERUMO	8						8
13	RACING TEAM 中春				6			6
14	TEAMJUN						1	1

●全日本GT選手権／チーム第2部門

Pos.	Team	第1戦 4/2 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/25 仙台	第4戦 8/13 富士	第5戦 9/10 菅生	第6戦 10/1 美祢	Total
1	石橋義三	20	20	15	12	12		79
2	牧口エンジニアリング		15	12	20	15	15	77
3	RE雨宮レーシング		2	20	15		20	57
4	COBRA RACING		10	8		20	12	50
5	TEAM TAISAN	10		6	8	10	10	44
6	エムファクトリーレーシングクラブ		12	10		3		25
7	OHYAMA-RACING	15	4					19
8	KAGEISEN RACING TEAM		3		6	4		13
9	シュロスモータースポーツ	12						12
10	B.H.Studio Racing			4	4			8
11	一ツ山レーシング					6		6
11	ナック ウエスト		6					6
13	EIMEI AUTO				3			3
13	S2 BRAIN			3				3
15	AMUZE RACING		1					1

1995 Point System

各クラス1〜10位の各車に20・15・12・10・8・6・4・3・2・1の各点。同一チームの複数の車両が入賞した場合は上位車のみ対象。チームが車両を変更しても同一クラスの公認車両であれば得点継続。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'96全日本GT選手権第3戦"ハイランドGT選手権"

●決勝日：6月30日／仙台ハイランド ●主催：VICIC／奥州VICIC ●天候：曇→晴れ ●観客：4万8400人 ●4.02960km×63周＝253.8648km ●参加：38台／決勝出走：36台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	37	E.コマス／竹内 浩典	カストロール セルモ スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	63	1:57'53.822	1'46.664/4
2	500-2	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	1:58'06.916	1'47.672/7
3	500-3	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	20kg	63	1:58'08.759	1'46.747/5
4	500-4	39	W.ガードナー／A.フェルテ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	10kg	63	1:58'11.319	1'47.885/8
5	500-5	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	1:58'18.676	1'48.242/10
6	500-6	8	T.クリステンセン／谷川 達也	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	63	1:59'03.902	1'46.447/2
7	500-7	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	1:59'46.325	1'48.929/13
8	500-8	61	D.ブラバム／J.ニールセン	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	50kg	61	1:58'08.021	1'46.983/6
9	500-9	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	61	1:57'55.612	1'46.544/3
10	500-10	5	飯田 薫／太田 哲也	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	61	1:58'38.062	1'49.293/14
11	500-11	55	都平 健二／河合 博之	WISE スカイラインGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26改	YO	--	61	1:59'35.432	1'51.135/16
12	500-12	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	60	1:59'28.400	1'48.575/11
13	500-13	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェカレラRS（964RSR）	M64	YO	--	60	1:59'39.137	1'51.223/17
14	300-1	72	木下 隆之／牧口 規雄	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	59	1:59'15.968	1'54.441/23
15	300-2	6	川崎 哲哉／福嵩 稔大	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	10kg	59	1:59'30.974	1'56.814/26
16	300-3	7	山路 慎一／和田 久	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	58	1:58'06.078	1'55.627/26
17	300-4	910	袖山 誠一／長坂 尚樹	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	30kg	58	1:58'42.829	1'55.135/25
18	300-5	70	石橋 義三／星野 薫	外国屋アドバンドリブポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	58	1:58'56.296	1'58.005/31
19	300-6	21	一ツ山 幹雄／山本 健詞	BP-アドバンM3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	58	1:59'44.067	1'57.707/29
20	300-7	18	小林 正吾／榎本 広行	GOLDEN BEAR ポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	DL	--	57	1:59'14.467	1'59.051/34
21	500-14	69	川越 賢二／粕谷 俊二	オートショップ・ゼニーGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	57	1:59'44.794	1'52.622/20
22	500-15	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	20kg	55		1'45.745/1
23	300-8	38	A.フー／長島 正興	タイサンFUSPEEDポルシェ	ポルシェカレラRS	M64	YO	--	55	1:59'18.822	1'57.922/30
24	500-16	19	小林 且雄／古谷 直広	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	52	1:58'48.579	1'52.072/19
25	500-17	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:57'57.159	1'49.308/15
26	300-9	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	49	1:58'11.501	1'55.066/24
	300	11	石森 浩元／斎藤 益生	ムラウチ カメイ GTS-R	スカイラインGTS（HR31）	RB25	BS	--	37		1'59.473/35
	500	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	36		1'48.163/9
	500	25	影山 正美／立川 祐路	FEDEX 300ZX-GTS	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	29		1'51.427/18
	300	12	本山 哲／井出 有治	パーソンズ シルビア	シルビア（S14）	SR20	BS	--	22		1'54.042/21
	300	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンスターカードRSR	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	50kg	21		1'54.176/22
	500	15	関根 基司／伊藤 隆広	ブローバ964ツインターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	DL	--	14		1'56.673/27
	500	35	O.ラッラウリ／土屋 武士	タイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	6		1'48.696/12
	300	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	6		1'59.014/33
	300	51	石原 将光／野地 廣行	コブラポルシェ	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	--	5		1'58.294/32
	300	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェ911カレラRS（993RS）	M61	YO	10kg	5		1'54.671/36

●優勝スピード：129.197km/h ●最速ラップ：服部 尚貴（マクラーレン） 1'47.791 134.580km/h
●ペナルティ：Car No.61…1周減算

'96全日本GT選手権第4戦"JAPAN SPECIAL GT CUP"

●決勝日：8月11日／富士 ●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC ●天候：晴れ ●観客：5万800人 ●4.470km×56周＝250.320km ●参加：42台／決勝出走：39台／完走：30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:31'29.078	1'31.123/7
2	500-2	61	D.ブラバム／J.ニールセン	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	40kg	56	1:31'34.211	1'30.260/1
3	500-3	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:31'40.691	1'31.742/10
4	500-4	8	T.クリステンセン／B.ガショー	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	56	1:32'14.679	1'31.103/5
5	500-5	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:32'26.274	1'31.114/6
6	500-6	55	都平 健二／河合 博之	WISE スカイラインGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26改	YO	--	55	1:31'43.589	1'32.197/11
7	500-7	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	55	1:31'57.443	1'33.666/15
8	500-8	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェ911カレラRS（964RSR）	M64	YO	--	54	1:31'32.608	1'35.527/17
9	300-1	910	袖山 誠一／長坂 尚樹	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	20kg	53	1:32'11.652	1'37.931/19
10	300-2	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンスターカードRSR	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64-80	YO	40kg	53	1:32'26.233	1'38.308/24
11	300-3	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	10kg	53	1:33'11.928	1'39.723/28
12	300-4	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	52	1:31'30.626	1'38.980/26
13	300-5	70	石橋 義三／星野 薫	外国屋アドバンドリブポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	52	1:32'30.085	1'40.182/32
14	500-9	39	W.ガードナー／A.フェルテ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	52	1:32'54.373	1'31.195/8
15	300-6	21	一ツ山 康／山本 健詞	BP-ダンロップ-M3	BMW M3（E36）	S14	DL	--	51	1:32'41.397	1'39.187/27
16	500-10	16	戸田 哲史／光野 太郎	ブローバ993GT-2 38	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	51	1:32'51.731	1'37.279/18
17	500-11	88	和田 孝夫／池沢 さとし	タムラ ディアブロ イオタ	ランボルギーニディアブロ（ZA9）	L522	YO	--	51	1:33'06.625	1'32.922/13
18	300-7	57	深沢 寿裕／長島 正明	カストロールSFアンフィニRX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	50	1:32'37.049	1'40.083/29
19	500-12	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	50	1:32'44.474	1'32.959/14
20	300-8	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	50	1:33'10.074	1'40.106/30
21	300-9	6	川崎 哲哉／脇田 一輝	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	30kg	49		1'37.961/20
22	300-10	51	石原 将光／野地 廣行	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	49	1:31'34.293	1'40.178/31
23	300-11	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	49	1:32'05.440	1'44.663/37
24	300-12	38	A.フー／長島 正興	タイサンFUSPEEDポルシェ	ポルシェカレラRS（993RS）	M64	YO	--	47	1:31'30.097	1'41.098/33
25	500-13	19	小林 且雄／織戸 学	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	47	1:31'53.485	出走せず/40
26	300-13	27	金森 敏一／鈴木 守	浅井家具NAC WESTシルビア	シルビア（PS13）	FJ20T	YO	--	46	1:31'43.480	1'43.513/36
27	500-14	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	46	1:31'57.294	1'31.677/9
28	500-15	15	関根 基司／伊藤 隆広	ブローバ964ツインターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	DL	--	45	1:31'48.579	1'38.076/23
29	300-14	11	石森 浩元／斎藤 益生	ムラウチ カメイ GTS-R	スカイラインGTS（HR31）	RB25	BS	--	45	1:32'00.446	タイム削除/39
30	300-15	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	42	1:31'44.597	1'41.601/35
	300	18	小林 正吾／斉藤 和重	ゴールデンベアーポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	DL	--	28		1'37.964/21
	300	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	--	28		1'38.015/22
	500	37	E.コマス／竹内 浩典	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	30kg	27		1'30.457/2
	500	5	飯田 薫／M.クルム	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	20		1'33.906/16
	500	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	19		1'32.831/12
	300	72	木下 隆之／牧口 規雄	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	30kg	18		1'41.194/34
	500	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	10kg	7		1'30.803/3
	300	12	本山 哲／水野 文則	パーソンズ シルビア	シルビア（S14）	SR20DE	BS	--	6		1'38.469/25
	500	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	30kg	2		1'30.876/4
ns	300	24	平野 敏行／鈴木 康之	ヒラノ モータースポーツGTST	スカイラインGTS（R32）	RB20	YO	--	-		1'58.025/38

●優勝スピード：164.172km/h ●最速ラップ：R.シューマッハー（マクラーレン） 1'31.298 176.258km/h 4周目
●ペナルティ：Car No.100…10秒ストップ、Car No.21…30秒ストップ、Car No.51…10秒ストップ、Car No.38…10秒ストップ、Car No.11…10秒ストップ

1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003

'96全日本GT選手権第1戦"鈴鹿GT300km"

●決勝日：3月31日／鈴鹿 ●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC ●天候：晴れ ●観客：4万5000人 ●5.86403km×51周＝299.06553km ●参加35台／決勝出走35台／完走30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	--	51	1:53'59.892	2'25.067/1
2	500-2	61	D.ブラバム／J.ニールセン	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	--	51	1:54'30.219	2'29.019/13
3	500-3	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:54'36.570	2'26.534/8
4	500-4	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:54'43.925	2'28.219/12
5	500-5	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	51	1:54'52.371	2'26.261/6
6	500-6	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:56'13.331	2'25.964/5
7	500-7	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	50	1:54'25.103	2'25.225/3
8	500-8	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	50	1:55'03.809	2'26.692/9
9	500-9	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	50	1:56'24.325	2'25.432/4
10	500-10	8	T.クリステンセン／谷川 達也	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	49	1:54'17.191	2'29.476/14
11	500-11	55	都平 健二／河合 博之	WISE スカイラインGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26	YO	--	49	1:54'20.106	2'30.864/15
12	500-12	35	A.レイド／土屋 武士	タイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	YO	--	49	1:56'23.065	2'26.715/10
13	500-13	5	飯田 薫／太田 哲也	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	49	1:56'48.840	2'31.570/17
14	300-1	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993GT2）	M64-80	YO	--	48	1:54'26.706	2'33.263/19
15	300-2	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェ911カレラRS（993RS）	M64	YO	--	48	1:56'19.708	2'34.841/22
16	300-3	72	牧口 規雄／木下 隆之	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E30）	S14	YO	--	47	1:54'58.697	2'36.601/25
17	300-4	6	川崎 哲哉／脇田 一輝	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	47	1:56'55.246	2'38.002/28
18	300-5	70	石橋 義三／星野 薫	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）		YO	--	46	1:54'39.388	2'34.787/21
19	300-6	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64-70	YO	--	46	1:55'29.435	2'35.736/23
20	300-7	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	46	1:55'53.966	2'42.895/31
21	500-14	69	川越 賢二／粕谷 俊二	PORSCHE 911 GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	45	1:54'49.636	2'32.055/18
22	300-8	21	水野 文則／山本 健詞	BP-ADVAN BMW	BMW M3（E36）	S14/7	YO	--	45	1:56'08.152	2'40.401/29
23	300-9	38	A.フー／R.ジョーンズ	FUSPEED PORSCHE	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	44	1:55'15.390	2'44.278/32
24	500-15	15	S.マクスウェル／関根 基司	ブローバ964LM Biターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	DL	--	42	1:56'05.535	2'33.316/20
25	300-10	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	41	1:55'34.321	2'41.241/30
26	300-11	51	石原 将光／野地 廣行	コブラポルシェ	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	--	41	1:55'45.323	2'45.981/34
27	300-12	28	長島 正興／山梨 順一	タイサン BMW M3	BMW M3（E30）	S14	YO	--	40	1:56'29.451	2'45.591/33
28	500-16	37	E.コマス／光貞 秀俊	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	49		2'25.078/2
29	300-13	9	岡本 克彦／日置 恒文	シュロスポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64-20	DL	--	46	1:53'23.028	2'39.700/28
30	500-17	39	W.ガードナー／A.フェルテ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	37		2'27.571/11
nc	500	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	31	1:55'07.800	2'26.292/7
	500	88	和田 孝夫／金海 辰彦	タムラ ディアブロ イオタ	ランボルギーニディアブロ（ZA9）	L522	YO	--	19		2'31.073/16
	500	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェカレラRS（964RSR）	M64	YO	--	19		2'56.157/35
	300	7	山路 慎一／山本 将之	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	9		2'36.416/27
	500	19	小林 且雄／古谷 直広	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	6		2'36.039/24

●優勝スピード：157.405km/h ●最速ラップ：服部 尚貴（マクラーレン） 2'08.243 164.613km/h 1周目
●ペナルティ：Car No.51…10秒ストップ

'96全日本GT選手権第2戦"全日本富士GT"

●決勝日：5月4日／富士 ●主催：テレビ東京／VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ ●天候：曇 ●観客：5万6000人 ●4.470km×67周＝299.490km ●参加41台／決勝出走36台／完走26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	61	D.ブラバム／J.ニールセン	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	20kg	67	1:45'20.668	1'30.255/3
2	500-2	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	67	1:45'23.598	1'30.672/4
3	500-3	39	W.ガードナー／A.フェルテ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	67	1:46'22.369	1'31.250/5
4	500-4	37	E.コマス／光貞 秀俊	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	66	1:45'22.170	1'30.069/2
5	500-5	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	66	1:45'27.509	1'32.498/11
6	500-6	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	66	1:45'37.592	1'32.298/9
7	500-7	35	O.ラッラウリ／土屋 武士	タイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	YO	--	66	1:45'49.305	1'31.735/8
8	500-8	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	65	1:46'20.410	1'33.791/17
9	500-9	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	65	1:45'29.747	1'31.279/6
10	500-10	55	都平 健二／河合 博之	WISE スカイラインGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB25改	YO	--	65	1:45'54.543	1'32.391/10
11	500-11	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	65	1:46'57.112	1'31.453/7
12	500-12	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェカレラRS（964RSR）	M64	YO	--	63	1:45'59.234	1'33.674/18
13	300-1	910	袖山 誠一／長坂 尚樹	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	--	63	1:46'42.382	1'38.453/24
14	300-2	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	30kg	63	1:46'44.303	1'38.351/22
15	300-3	6	川崎 哲哉／脇田 一輝	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	62	1:46'40.381	1'39.190/28
16	300-4	72	木下 隆之／牧口 規雄	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	10kg	61	1:46'03.595	1'38.440/23
17	500-13	8	T.クリステンセン／谷川 達也	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	60	1:39'44.685	1'33.285/15
18	300-5	70	石橋 義三／星野 薫	外国屋アドバンドリブポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64-70	YO	--	60	1:46'48.239	1'42.411/34
19	300-6	51	石原 将光／野地 廣行	コブラポルシェ	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	--	60	1:46'50.718	1'40.894/29
20	500-14	5	飯田 薫／太田 哲也	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	59	1:45'45.643	1'34.459/21
21	500-15	69	川越 賢二／粕谷 俊二	PORSCHE 911 GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	58	1:45'20.245	1'34.369/20
22	300-7	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェカレラRS（993）	M64	YO	20kg	54	1:46'43.362	1'39.303/26
23	500-16	15	関根 基司／光野 太郎	ブローバ964ツインターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	DL	--	53	1:45'57.664	1'38.456/25
24	500-17	19	小林 且雄／古谷 直広	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	51	1:45'47.777	1'34.349/19
25	300-8	11	石森 浩元／斎藤 益生	ムラウチ カメイ GTS-R	スカイラインGTS（HR31）	RB25	BS	--	49	1:47'21.909	1'41.171/31
26	300-9	7	山路 慎一／和田 久	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	47	1:45'13.111	1'39.205/27
	500	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	21		1'32.827/13
	300	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	19		1'41.561/32
	500	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	12		1'32.589/12
	300	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	12		1'43.860/36
	500	25	影山 正美／立川 祐路	フェアレディZ	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	8		1'34.187/18
	300	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64-70	YO	--	8		1'42.180/33
	300	14	永井 明／小栁 高茂	ポールリカールエイメイミラージュ	ミラージュ（C53A）	4G63	BS	--	7		1'42.597/35
	500	88	和田 孝夫／池沢 さとし	タムラ ディアブロ イオタ	ランボルギーニディアブロ（ZA9）	L522	YO	--	6		1'32.907/14
	500	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	ラーク・マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	30kg	3		1'29.526/1
	300	21	水野 文則／一ツ山 康	BP-アドバン-M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	3		1'41.018/30

●優勝スピード：170.578km/h ●最速ラップ：D.ブラバム（マクラーレン） 1'30.822 177.182km/h 2周目
●ペナルティ：Car No.15…10秒ストップ

'96全日本GT選手権第5戦"SUGO GT選手権"

●決勝日：10月6日／菅生 ●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC ●天候：晴れ ●観客：3万8300人 ●3.704256km×81周＝300.04473km ●参加：39台／決勝出走：38台／完走：30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	マクラーレンF1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	--	81	2:02'28.825	1'22.630/1
2	500-2	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	81	2:02'31.005	1'24.245/9
3	500-3	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	81	2:02'46.656	1'23.220/2
4	500-4	37	E.コマス／竹内 浩典	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	20kg	81	2:03'23.452	1'23.754/4
5	500-5	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	81	2:03'38.427	1'24.326/10
6	500-6	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	80	2:02'36.885	1'23.860/6
7	500-7	39	長坂 尚樹／A.フェルテ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	80	2:02'47.514	1'24.891/11
8	500-8	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	20kg	80	2:03'12.383	1'23.613/3
9	500-9	55	都平 健二／河合 博之	WISE スカイラインGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26改	YO	--	79	2:03'08.627	1'26.944/17
10	500-10	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	79	2:03'27.834	1'25.269/14
11	300-1	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンスターカードRSR	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64-80	YO	60kg	77	2:03'49.690	1'29.887/25
12	300-2	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	60kg	76	2:02'52.999	1'30.765/28
13	300-3	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェ911カレラRS（993RS）	M64	YO	--	76	2:03'10.894	1'30.506/27
14	300-4	28	織戸 学／土屋 武士	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	76	2:03'31.297	1'29.317/21
15	300-5	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	20kg	76	2:03'34.860	1'30.862/30
16	300-6	91	松永 雅博／河合 隆仁	パーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	74	2:02'28.825	1'30.269/26
17	300-7	21	一ツ山 康／山本 健詞	BP-アドバンM3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	74	2:03'09.167	1'31.867/33
18	500-11	16	戸田 哲史／山田 英二	プローバ993GT-2 38	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	74	2:03'48.516	1'29.570/23
19	300-8	51	石原 将光／野地 廣行	コブラポルシェ	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64	YO	--	73	2:03'24.873	1'32.523/35
20	500-12	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	72	2:02'39.866	1'25.538/15
21	300-9	17	野上 敏彦／輿水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX-7	マツダRX7（FC3S）	13B	YO	--	72	2:02'52.234	1'33.392/36
22	300-10	72	木下 隆之／牧口 規雄	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	20kg	71	2:03'47.101	1'30.765/29
23	500-13	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェカレラRS（964RSR）	M64-81	YO	--	70	2:03'26.154	1'29.564/22
24	300-11	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	64		1'31.998/34
25	500-14	8	T.クリステンセン／B.ガショー	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	64	2:03'12.177	1'24.086/7
26	500-15	35	O.ラッラウリ／A.レイド	タイサン三洋信販F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	61	2:03'23.452	1'25.250/12
27	300-12	12	本山 哲／水野 文則	パーソンズ シルビア	シルビア（S14）	SR20DE	BS	--	60	2:03'11.944	1'27.990/20
28	300-13	6	川崎 哲哉／福嵩 稔大	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	20kg	59		1'29.692/24
29	300-14	57	深沢 寿裕／長島 正明	カストロール SF アンフィニRX7	マツダRX7（FD3S）	13B	YO	--	59		1'34.048/38
30	300-15	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	58	2:02'40.363	1'33.757/37
	500	15	関根 基司／伊藤 隆広	プローバ964ツインターボ	ポルシェ911ターボ（964T）	M64	DL	--	46		1'31.753/32
	500	88	和田 孝夫／池沢 さとし	タムラ ディアブロ イオタ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	45		1'27.047/16
	500	19	小林 且雄／駒 光武	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	20		1'27.880/19
	500	5	飯田 薫／太田 哲也	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	17		1'26.901/18
	300	70	石橋 義三／星野 薫	外国屋アドバンドリブポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64-70	YO	--	10		1'31.383/31
	500	61	D.ブラバム／J.ニールセン	McLaren F1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	60kg	1		1'23.824/5
	500	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	1		1'24.189/8
	500	25	影山 正美／立川 祐路	FEDEX 300ZX-GTS	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	0		1'25.254/13

●優勝スピード：146.984km/h ●最速ラップ：R.シューマッハー（マクラーレン） 1'23.862 159.015km/h

'96全日本GT選手権第6戦"美祢GT"

●決勝日：10月27日／美祢 ●主催：CP MINEサーキット／VICIC／AMSC ●天候：晴れ ●観客：4万400人 ●3.23898km×78周＝252.64044km ●参加：35台／決勝出走：32台／完走：25台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	60	服部 尚貴／R.シューマッハー	McLaren F1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	30kg	78	1:56'26.063	1'24.847/1
2	500-2	37	E.コマス／竹内 浩典	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	10kg	78	1:56'33.216	1'25.256/3
3	500-3	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	78	1:57'27.920	1'26.595/8
4	500-4	61	J.ニールセン／D.ブラバム	McLaren F1 GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW	S70/2GTR	BS	50kg	78	1:57'47.337	1'25.185/2
5	500-5	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	78	1:57'52.648	1'26.822/10
6	500-6	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	77	1:56'45.210	1'26.960/11
7	500-7	8	T.クリステンセン／B.ガショー	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	77	1:56'59.707	1'26.161/5
8	500-8	39	W.ガードナー／G.シモーニ	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	77	1:57'49.297	1'26.256/7
9	500-9	25	影山 正美／立川 祐路	FEDEX 300ZX-GTS	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	77	1:57'50.550	1'27.102/12
10	500-10	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	77	1:57'51.853	1'26.743/9
11	500-11	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E5	YO	--	76	1:56'45.517	1'27.552/14
12	500-12	5	飯田 薫／太田 哲也	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	75	1:56'59.455	1'28.771/17
13	300-1	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサンスターカードRSR	ポルシェ911カレラRSR（993RSR）	M64-80	YO	90kg	73	1:57'35.853	1'32.673/23
14	500-13	88	和田 孝夫／池沢 さとし	タムラ ディアブロ イオタ	ランボルギーニディアブロ	L522	YO	--	72	1:56'31.295	1'28.960/18
15	300-2	31	池谷 勝則／茂木 和男	カルテックス ポルシェ	ポルシェ911カレラRS（993RS）	M64	YO	10kg	72	1:56'52.947	1'33.735/26
16	300-3	21	一ツ山 幹雄／山本 健詞	BP-ダンロップ-M3	BMW M3（E36）	S14	DL	--	72	1:57'07.371	1'33.395/24
17	300-4	72	木下 隆之／牧口 規雄	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	10kg	72	1:57'16.513	1'33.946/28
18	300-5	6	土屋 武士／大文字 良浩	imuraya BP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	10kg	72	1:57'26.510	1'31.486/20
19	300-6	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	10kg	71	1:56'54.849	1'34.373/29
20	300-7	12	本山 哲／水野 文則	パーソンズ シルビア	シルビア（S14）	SR20DE	BS	--	70	1:57'36.541	1'31.775/21
21	300-8	38	A.フー／長島 正興	タイサンFUSPEEDポルシェ	ポルシェカレラRS	M64	YO	--	69	1:56'43.545	1'34.990/30
22	300-9	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	67	1:57'17.854	1'38.461/32
23	300-10	95	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（PS13）	SR20DE	BS	--	66	1:57'13.114	1'37.775/31
24	500-14	19	小林 且雄／駒 光武	JUN-トラスト スカイライン	スカイラインGTR（BNR32）	SR20DET	YO	--	63		1'30.600/19
25	300-11	91	松永 雅博／河合 隆仁	パーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	61		1'33.641/25
	500	35	O.ラッラウリ／木下 みつひろ	タイサン三洋信販F40	フェラーリF40	F120A	YO	--	37		1'28.665/15
	500	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	50kg	27		1'27.159/13
	500	36	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	10kg	23		1'25.804/4
	500	43	岡本 幸夫／桧井 保孝	BMBミニジュークポルシェ	ポルシェカレラRS（964RSR）	M64-81	YO	--	20		1'28.717/16
	300	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-04	YO	70kg	19		1'33.820/27
	500	16	中嶋 修／飯塚 伊智朗	プローバ993GT-2 38	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	13		1'32.734/22
	500	30	山田 洋二／田嶋 栄一	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	13		1'26.197/6

●優勝スピード：130.189km/h ●最速ラップ：R.シューマッハー（マクラーレン） 1'26.040 135.522km/h 2周目
●ペナルティ：Car No.8…ピットスタート、Car No.39…ピットスタート

"NICOS CUP GT オールスター戦"

●決勝日：11月17日／セントラル ●主催：テレビ東京／テレビ大阪／VICIC ●天候：曇 ●観客：2万1500人 ●2.804km×71周＝199.084km ●参加：14台／決勝出走：14台／完走：14台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	71	1:34'23.443	1'15.822/3
2	500-2	37	E.コマス／竹内 浩典	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	71	1:34'35.621	1'16.095/4
3	500-3	2	鈴木 亜久里／福山 英朗	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	71	1:34'42.372	1'15.795/2
4	500-4	36	関谷 正徳／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	71	1:34'45.573	1'16.211/5
5	500-5	1	星野 一義／影山 正彦	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	70	1:34'16.361	1'16.546/6
6	500-6	100	高橋 国光／土屋 圭市	ADVAN BP NSX	ホンダNSX（E-NA1）	RX-306E	YO	--	70	1:35'06.579	1'16.645/7
7	500-7	39	O.グルイヤール／D.デュッソー	サードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	70	1:35'22.419	1'17.593/9
8	300-1	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	67	1:34'59.587	1'20.958/11
9	300-2	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテン ポルシェ	ポルシェ911RSR（964RSR）	M64	YO	--	67	1:35'04.354	1'22.057/12
10	300-3	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカード RSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	66	1:34'46.506	----------/14
11	300-4	70	石橋 義三／星野 薫	外国屋アドバンドリブポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	63	1:35'38.465	計測不可/13
12	500-8	34	松田 秀士／中子 修	STPタイサンポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	50	1:35'25.267	1'16.936/8
13	500-9	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	40		1'17.916/10
14	500-10	556	鈴木 利男／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	21	1:36'22.931	1'15.231/1

●優勝スピード：126.549km/h ●最速ラップ：鈴木 亜久里（ニッサン） 1'16.167 124.318km/h 2周目

1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003

1996シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 3/31 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/30 仙台	第4戦 8/11 富士	第5戦 10/6 菅生	第6戦 10/27 美祢	Total
1	D.ブラバム／J.ニールセン	15	20	3	15		10	63
2	R.シューマッハー／服部 尚貴	20				20	20	60
3	E.コマス		10	20		10	15	55
4	星野 一義／影山 正彦	3	8	8	20	15		54
5	長谷見 昌弘／田中 哲也	12	6	15		6	8	47
6	鈴木 亜久里／福山 英朗	10		4	12	8	12	46
7	竹内 浩典			20		10	15	45
8	関谷 正徳／P.デ・ラ・ロサ	8	15	12		3		38
9	A.フェルテ		12	10	2	4		28
10	W.ガードナー		12	10	2		3	27
11	鈴木 利男／近藤 真彦	6			8	12	1	27
12	T.クリステンセン	1		6	10		4	21
13	B.ガショー				10		4	14
14	光貞 秀俊		10					10
15	松田 秀士／中子 修	2	2				6	10
16	都平 健二／河合 博之		1		6	2		9
17	高橋 国光／土屋 圭市		3		4	1		8
18	谷川 達也	1		6				7
19	山田 洋二／田嶋 栄一	4		2				6
20	O.ラッラウリ		4					4
20	土屋 武士		4					4
20	長坂 尚樹					4		4
23	岡本 幸夫／桧井 保孝				3			3
23	G.シモーニ						3	3
25	影山 正美／立川 祐路						2	2
26	飯田 薫／太田 哲也			1				1
26	光野 太郎／戸田 哲史				1			1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 3/31 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/30 仙台	第4戦 8/11 富士	第5戦 10/6 菅生	第6戦 10/27 美祢	Total
1	鈴木 恵一／新田 守男	20	15		15	20	20	90
2	袖山 誠一		20	10	20	15		65
3	牧口 規雄／木下 隆之	12	10	20		1	10	53
4	長坂 尚樹		20	10	20			50
5	池谷 勝則／茂木 和男	15	4			12	15	46
6	山路 慎一		2	12	12	8	6	40
7	川崎 哲哉	10	12	15	2			39
8	石橋 義三／星野 薫	8	8	8	8			32
9	山本 健詞	3		6	6	4	12	31
10	松本 晴彦				12	8	6	26
11	脇田 一輝	10	12		2			24
12	土屋 武士					10	8	18
13	高橋 健二／須賀 宏明	6			10		2	18
14	福嵩 稔大			15				15
14	玉本 秀幸					15		15
16	和田 久		2	12				14
17	松永 雅博			2	3	6		11
18	織戸 学					10		10
19	一ツ山 康				6	4		10
20	石原 将光／野地 広行		6		1	3		10
21	大文字 良浩						8	8
22	A.フー	2		3			3	8
23	水野 文則	3					4	7
24	一ツ山 幹雄			6				6
24	河合 隆仁					6		6
26	長嶋 正興			3			3	6
27	大八木 信行／萬雲 恒明	4					1	5
28	三原 じゅん子			2	3			5
29	小林 正吾／榎本 広行			4				4
29	深沢 寿裕／長島 正明				4			4
29	本山 哲						4	4
32	石森 浩元／斎藤 益生		3					3
32	斎藤 益生		3					3
34	野上 敏彦／輿水 敏明	1				2		3
35	R.J.ジョーンズ	2						2

●全日本GT選手権／チーム部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 3/31 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/30 仙台	第4戦 8/11 富士	第5戦 10/6 菅生	第6戦 10/27 美祢	Total
1	チーム ラーク・マクラーレGTR	20	20	3	15	20	20	98
2	TOYOTA Castorol TEAM	8	15	20		10	15	68
3	HOSHINO RACING	3	8	8	20	15		54
4	NISMO	10		4	12	12	12	50
5	ハセミ・モータースポーツ	12	6	15		6	8	47
6	トヨタ チーム サード		12	10	2	4	3	31
7	FET RACING TEAM	1		6	10		4	21
8	TEAM TAISAN	2	4				6	12
9	リミット・モータースポーツ		1		6	2		9
10	チーム国光		3		4	1		8
11	TEAM TAKE ONE	4		2				6
12	TEAM BMB MINIJUKE				3			3
13	BROS FACTORY						2	2
14	TAKU MOTOR SPORT			1				1
14	プローバ モータースポーツ				1			1

●全日本GT選手権／チーム部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 3/31 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/30 仙台	第4戦 8/11 富士	第5戦 10/6 菅生	第6戦 10/27 美祢	Total
1	TEAM TAISAN Jr.	20	15	3	15	20	20	93
2	910 RACING		20	10	20	15		65
3	牧口エンジニアリング	12	10	20		1	10	53
4	コブラ レーシングチーム	15	6		1	12	15	49
5	imraya RACING TEAM	10	12	15	2		8	47
6	RE雨宮レーシング		2	12	12	8	6	40
7	石橋義三	8	8	8	8			32
8	HITOTSUYAMA RACING	3		6	6	4	12	31
9	アイ・オートレーシングチーム	6			10		2	18
10	FIRST RACING TEAM			2	3	6		11
11	TEAM DAISHIN	4					1	5
12	GOLDENBEAR SPORTSWEAR RT			4				4
12	SPORTSFACTORYRT				4			4
14	エムファクトリーレーシング		3					3
15	KAGEISEN RACING TEAM	1				2		3

1996 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。同一チームの複数の車両が入賞した場合は上位車のみ対象。この場合、無効となったマシンより下位の得点は繰り上がらない。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'97全日本GT選手権第3戦“ハイランドGT選手権”

●決勝日：6月29日／仙台ハイランド　●主催：VICIC／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：3万7200人　●4.02960km×63周＝253.8648km　●参加：38台／決勝出走：35台／完走：30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	10kg	63	1:56'50.842	1'58.982/5
2	500-2	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	63	1:56'54.014	1'58.553/2
3	500-3	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	63	1:57'12.061	1'58.379/1
4	500-4	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	63	1:57'33.217	1'58.881/4
5	500-5	39	影山 正美／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	50kg	63	1:57'43.432	1'59.178/7
6	500-6	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	63	1:58'10.117	1'59.762/9
7	500-7	8	W.ガードナー／長坂 尚樹	POWER CRAFT SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	63	1:58'41.469	2'00.495/11
8	500-8	510	B.ガショー／P.ベルモンド	RH CERUMO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	62	1:56'55.769	2'00.851/13
9	500-9	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	62	1:57'01.578	2'02.694/16
10	500-10	34	土屋 圭市／松田 秀士	STPタイサン アドバンGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	YO	--	62	1:57'05.727	2'01.507/14
11	500-11	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	62	1:57'27.104	2'01.703/15
12	500-12	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	62	1:58'41.220	1'59.970/10
13	500-13	10	飯田 薫／R.ファーマン	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	61	1:57'04.530	2'00.836/12
14	300-1	25	土屋 武士／長島 正興	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	60	1:57'44.259	2'07.769/21
15	300-2	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DE	YO	50kg	60	1:58'16.456	2'10.583/24
16	300-3	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	30kg	60	1:58'38.426	2'10.679/25
17	300-4	910	袖山 誠一／砂子 智彦	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	DL	10kg	59	1:57'35.326	2'07.413/18
18	300-5	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	10kg	59	1:57'42.727	2'08.164/22
19	300-6	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DE	DL	--	59	1:57'52.480	2'07.607/20
20	300-7	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911	M64	DL	--	59	1:56'20.834	2'11.591/35
21	300-8	72	牧口 規雄／浅見 武	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	58	1:57'09.187	2'11.161/26
22	300-9	27	太田 哲也／S.アンドスカー	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	58	1:57'31.744	2'10.325/23
23	300-10	21	一ツ山 幹雄／山本 健四	ダンロップ-BP-BMW	BMW M3（E36）	S14	DL	--	57	1:57'21.127	2'06.772/17
24	500-14	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	57	1:57'51.975	1'59.389/8
25	300-11	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	57	1:55'02.605	2'11.547/27
26	300-12	16	関根 基司／藤島 敏也	YB BMW 325iクーペ	BMW 325iクーペ（E36）	S14	YO	--	57	1:55'50.933	2'15.627/29
27	500-15	12	星野 一義／本山 哲	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	55	1:57'46.853	2'07.656/33
28	300-13	28	山崎 正弘／杉山 正巳	TEAM FCJ フェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	54	1:57'57.052	2'20.942/32
29	300-14	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	51	1:58'46.555	2'15.019/28
30	500-16	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	49	1:58'33.579	1'58.690/3
	300	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	39		2'07.437/19
	300	55	深沢 寿裕／長島 正明	Castrol RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	34		2'18.651/31
	500	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	24		2'09.350/34
	500	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	12		1'59.036/6
	300	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）	M64	YO	--	9		2'16.344/30

●優勝スピード：130.357km/h　●最速ラップ：鈴木 利男（トヨタ）　1'45.538　137.453km/h
●ペナルティ：Car No.91…4周減算

'97全日本GT選手権第4戦“JAPAN SPECIAL GT CUP”

●決勝日：8月10日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC　●天候：曇　●観客：5万300人　●4.470km×56周＝250.320km　●参加：44台／決勝出走：43台／完走：35台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	39	影山 正美／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	40kg	56	1:37'56.569	1'29.939/9
2	500-2	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	40kg	56	1:37'58.702	1'28.625/1
3	500-3	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	10kg	56	1:37'59.270	1'29.866/7
4	500-4	12	星野 一義／本山 哲	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:38'01.186	1'31.015/14
5	500-5	510	B.ガショー／P.ベルモンド	RH CERUMO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	56	1:38'01.644	1'29.607/4
6	500-6	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	56	1:38'02.125	1'30.438/12
7	500-7	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	56	1:38'06.387	1'30.633/13
8	500-8	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	56	1:38'07.761	1'28.763/2
9	500-9	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	56	1:38'03.271	1'30.157/11
10	500-10	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	40kg	56	1:38'04.943	1'29.965/10
11	500-11	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	56	1:38'05.142	1'29.800/6
12	500-12	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	55	1:36'33.901	1'31.869/16
13	500-13	10	飯田 薫／R.ファーマン	シャトレーゼ・ポルシェGT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	54	1:36'05.695	1'31.548/15
14	300-1	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	40kg	54	1:36'06.841	1'37.796/24
15	300-2	27	太田 哲也／A.オロフソン	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	54	1:36'07.133	1'37.646/21
16	300-3	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	70kg	54	1:36'08.545	1'37.743/23
17	300-4	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	54	1:39'06.334	1'39.006/29
18	300-5	25	土屋 武士／長島 正興	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	30kg	53	1:37'58.437	1'35.127/19
19	300-6	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	53	1:38'09.174	1'36.926/28
20	300-7	51	石原 将光／池谷 勝則	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	53	1:38'34.561	1'36.512/27
21	300-8	72	牧口 規雄／浅見 武	WAKO'S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	52	1:38'23.711	1'39.256/30
22	300-9	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	52	1:38'32.919	1'40.612/33
23	300-10	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	52	1:38'38.075	1'42.357/39
24	500-14	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	52	1:38'41.506	1'40.678/34
25	500-15	8	W.ガードナー／T.クリステンセン	POWER CRAFT SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	51		1'29.161/3
26	300-11	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	51	1:38'29.566	1'37.841/25
27	300-12	16	関根 基司／藤島 敏也	YB BMW 325iクーペ	BMW 325iクーペ（E36）	S14	YO	--	51	1:38'32.548	1'42.318/38
28	300-13	55	深沢 寿裕／長島 正明	Castrol SF RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	51	1:39'18.643	1'39.467/31
29	300-14	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	50	1:38'00.216	1'40.176/32
30	300-15	28	山崎 正弘／杉山 正巳	TEAM FCJ フェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	49	1:38'00.679	1'41.940/36
31	300-16	60	佐藤 久実／田中 実	ワイズダンロップBPキャバリエ	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	49	1:38'30.490	1'42.126/37
32	300-17	333	清水 正智／佐伯 重和	ポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	49	1:38'37.252	1'45.504/42
33	300-18	15	小田切 敬／小野田 貴俊	カムコワークステーションGTR	スカイラインGTR（BNR32）	RB26DETT	YO	--	47	1:38'40.350	1'46.927/43
34	500-16	4	金海 辰彦／駒 光武	ダンロップ ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	46		1'34.004/18
35	300-19	79	杉山 正典／青柳 裕易	ナックウエストシルビア	シルビア（S13）	FJ20	DL	--	46	1:38'28.046	1'41.043/35
	300	21	一ツ山 康／水野 文則	ダンロップ-BP-BMW	BMW M3（E36）	S14	DL	--	38		1'37.872/26
	300	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	38		1'37.696/22
	300	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	21		1'37.371/20
	300	17	野上 敏彦／細野 智行	東京科芸専:REロードスター	マツダロードスター（NA6CE）	13B	DL	--	16		1'44.129/40
	500	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	15		1'29.780/5
	500	47	山本 正人／岡本 克彦	アドバンオートGTカマロ	シボレーカマロ（E-CF45B）	LT1	GY	--	12		1'44.764/41
	500	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	9		1'29.875/8
	500	34	土屋 圭市／松田 秀士	STPタイサンアドバンGT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	5		1'32.311/17

●優勝スピード：153.346km/h　●最速ラップ：竹内 浩典（トヨタ）　1'30.449　177.912km/h
●ペナルティ：Car No.3…10秒ストップ、Car No.38…10秒ストップ、Car No.100…10秒ストップ、Car No.25…10秒ストップ
Car No.88…10秒ストップ、Car No.8…10秒ストップ、Car No.4…10秒ストップ、Car No.79…10秒ストップ
Car No.910…1分加算、Car No.333…30秒ストップ

'97全日本GT選手権第1戦“鈴鹿GT300km”

●決勝日：3月30日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：曇　●観客：4万2000人　●5.86403km×51周＝299.06553km　●参加：39台／決勝出走：36台／完走：30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:52'14.517	2'05.881/2
2	500-2	39	O.グルイヤール／影山 正美	デンソースープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	--	51	1:52'26.465	2'06.683/6
3	500-3	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	51	1:52'27.468	2'05.426/1
4	500-4	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:52'53.468	2'06.718/7
5	500-5	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:53'27.436	2'05.892/3
6	500-6	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	51	1:54'17.398	2'08.847/9
7	500-7	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	50	1:52'25.378	2'08.965/11
8	500-8	13	木下 みつひろ／菊池 靖	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	50	1:53'07.324	2'08.921/10
9	500-9	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	50	1:54'16.418	2'08.269/8
10	500-10	75	立川 祐路／高橋 毅	NISSAN 300ZX-GTS	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	49	1:52'53.386	2'59.502/36
11	500-11	8	B.ガショー／P.ベルモンド	パワークラフトTRDスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	49	1:53'21.146	2'09.280/12
12	500-12	4	金海 辰彦／駒 光武	アドバン ポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	49	1:53'56.671	2'14.460/15
13	500-13	10	飯田 薫／R.ファーマン	シャトレーゼ・ポルシェ・GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	49	1:54'20.280	2'09.717/13
14	300-1	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	49	1:55'12.009	2'15.259/17
15	300-2	910	袖山 誠一／見崎 清志	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	DL	--	48	1:52'45.869	2'16.264/21
16	300-3	25	土屋 武士／長島 正興	ATLUSつちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	48	1:53'22.790	2'15.033/16
17	300-4	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993GT2）	M64-80	YO	--	48	1:54'34.765	2'13.928/14
18	300-5	51	石原 将光／池谷 勝則	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	47	1:53'15.357	2'15.892/20
19	300-6	9	日置 恒文／木下 正治	PCJ 5ZIGEN RSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	47	1:54'03.956	2'19.750/25
20	300-7	72	牧口 規雄／浅見 武	WAKO' S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	47	1:54'10.861	2'20.147/26
21	300-8	81	大八木 信行／萬雲 恒明	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	BS	--	47	1:54'18.183	2'20.620/27
22	300-9	777	牧田 克哉／塩見 勝治	PCJシオミクリニックRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	--	46	1:53'40.587	2'16.160/22
23	300-10	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）		YO	--	46	1:53'44.524	2'21.931/30
24	300-11	27	太田 哲也／A.オロフソン	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	45	1:52'59.361	2'26.450/35
25	300-12	55	深沢 寿裕／長島 正明	Castrol RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	45	1:53'58.735	2'22.902/31
26	300-13	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	44		2'19.187/24
27	300-14	17	野上 敏彦／興水 敏明	東京科学芸術専門学校:RX7	マツダRX7（FC3S）	13B	DL	--	44	1:54'13.081	2'25.901/33
28	300-15	16	関根 基司／井入 宏之	YB BMW 318iクーペ	BMW 318iクーペ（E36）	S14	YO	--	44	1:54'14.321	2'25.431/32
29	300-16	45	湯浅 毅／花井 聖明	フレンド日東シーサイドシルビア	シルビア（S13）	CA18DET	YO	--	42	1:54'08.258	2'29.486/34
30	500-14	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	39		2'06.107/5
	300	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RS（993RSR）	M64-70	YO	--	23		2'18.926/23
	300	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	16		2'15.390/18
	300	333	清水 正智／片山 義美	カストロールポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	11		2'21.501/29
	300	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	10		2'15.789/19
	500	12	星野 一義／本山 哲	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	3		2'05.946/4
	300	21	木下 隆之／一ツ山 康	ダンロップ-BP-BMW	BMW 318i（E36）	S14	DL	--	3		2'20.638/28

●優勝スピード：159.866km/h　●最速ラップ：鈴木 亜久里（ニッサン）　2'07.322　165.804km/h　3周目
●ペナルティ：Car No.26…10秒ストップ　●得点対象外：Car No.75

'97全日本GT選手権第2戦“全日本富士GT”

●決勝日：5月4日／富士　●主催：テレビ東京／VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ　●天候：雨のち曇　●観客：5万1000人　●4.470km×66周＝295.020km　●参加：41台／決勝出走：39台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	39	影山 正美／谷川 達也	デンソーサードスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	20kg	66	2:09'53.311	1'29.213/2
2	500-2	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	66	2:09'56.834	1'30.055/7
3	500-3	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	66	2:10'23.845	1'28.812/1
4	500-4	2	鈴木 亜久里／M.アピチェッラ	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	66	2:10'25.937	1'30.322/12
5	500-5	12	本山 哲／水野 文則	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	66	2:10'47.163	1'30.309/11
6	500-6	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	10kg	65	2:10'26.423	1'29.335/3
7	500-7	10	飯田 薫／R.ファーマン	シャトレーゼ・ポルシェ・GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	65	2:10'29.115	1'31.453/15
8	500-8	4	金海 辰彦／駒 光武	アルファコンピューターポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	65	2:10'43.191	1'33.650/17
9	300-1	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	--	65	2:10'55.334	1'40.309/27
10	300-2	19	織戸 学／福山 英朗	RS・Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	30kg	64	2:10'39.465	1'36.285/19
11	300-3	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	64	2:10'43.330	1'36.181/24
12	300-4	27	太田 哲也／A.オロフソン	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	64	2:11'12.855	1'41.039/29
13	300-5	51	石原 将光／池谷 勝則	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	64	2:11'19.532	1'36.973/21
14	300-6	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911	M64	DL	--	64	2:11'27.161	1'40.473/28
15	300-7	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	BS	--	63	2:10'45.365	1'43.731/36
16	300-8	910	袖山 誠一／砂子 智彦	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	DL	20kg	63	2:10'48.165	1'39.371/26
17	300-9	72	牧口 規雄／浅見 武	WAKO' S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	63	2:10'48.373	1'39.103/25
18	300-10	21	一ツ山 康／山本 健四	ダンロップ-BP-BMW	BMW M3（E36）	S14	DL	--	63	2:10'48.404	1'38.164/23
19	300-11	55	深沢 寿裕／長島 正明	Castrol RX7	マツダRX7（FD3S）	13B	DL	--	63	2:11'24.982	1'40.684/34
20	500-9	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	62	2:10'22.601	1'29.617/5
21	300-12	17	野上 敏彦／細野 智行	東京科芸専:RX7	マツダRX7（FC3S）	13B	DL	--	62	2:11'21.302	1'43.512/31
22	300-13	79	杉山 正典／青柳 裕易	ナックウエストシルビア	シルビア（S13）	FJ20T	DL	--	62	2:11'34.333	1'44.520/37
23	300-14	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	61	2:11'10.556	1'39.457/32
24	300-15	16	関根 基司／井入 宏之	YB BMW 325iクーペ	BMW 325iクーペ（E36）	S14	YO	--	61	2:11'22.341	1'43.127/35
25	300-16	11	石森 浩元／鈴木 錦治	ムラウチ カメイ スカイライン	スカイラインGTS（HR31）	RB25	BS	--	60	2:10'09.894	1'45.747/38
26	300-17	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RS（993RS）		YO	--	57		1'43.436/30
	500	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	42		1'31.566/16
	500	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	42		1'30.193/8
	500	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	39		1'29.536/4
	300	25	土屋 武士／長島 正興	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	10kg	35		1'36.928/20
	300	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	30		1'38.142/22
	500	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	28		1'31.049/14
	500	8	B.ガショー／P.ベルモンド	POWERCRAFT SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	23		1'30.229/9
	300	45	湯浅 毅／花井 聖明	フレンド日東シーサイドシルビア	シルビア（S13）	CA18DET	YO	--	15		1'55.922/40
	300	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	11		1'40.185/33
	500	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	5		1'34.517/18
	300	28	山崎 正弘／杉山 正巳	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	4		1'48.345/39
	500	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	2		1'29.728/6
	500	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	1		1'30.273/10
ns	500	75	立川 祐路／高橋 毅	NISSAN 300ZX-GTS	フェアレディ300ZX（Z32）	VH45DE	YO	--	-		1'30.781/13

●優勝スピード：136.280km/h　●最速ラップ：M.クルム（トヨタ）　1'31.640　175.600km/h
●ペナルティ：Car No.12…10秒ストップ、Car No.51…10秒ストップ、Car No.910…10秒ストップ、Car No.21…10秒ストップ

1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003

'97NICOS CUP GT オールスター戦
[第1レース]

●決勝日:11月16日／もてぎ　●主催:GSS／ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候:晴れ
●観客:2万3000人　●2.413968km×57周＝137.59617km　●参加:26台／決勝出走:24台／完走:17台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	2	鈴木 亜久里／E.コマス	--	57	50'24.768	47.617/1
2	500-2	38	竹内 浩典／金石 勝智	--	57	50'39.769	47.714/2
3	500-3	37	鈴木 利男／舘 信吾	--	57	51'05.983	47.794/3
4	500-4	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	--	56	50'32.466	48.987/9
5	500-5	30	山田 洋二／茂木 和男	--	56	51'04.659	49.365/12
6	500-6	34	土屋 圭市／松田 秀士	--	55	50'31.449	49.047/10
7	500-7	5	田嶋 栄一／ヒロ 松下	--	55	50'45.607	47.992/6
8	500-8	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	--	54	50'35.199	47.945/4
9	500-9	88	和田 孝夫／和田 久	--	54	50'53.252	58.359/24
10	300-1	27	太田 哲也／A.オロフソン	--	53	50'27.233	52.816/16
11	300-2	19	織戸 学／福山 英朗	--	53	50'37.349	57.032/23
12	300-3	81	大八木 信行／木下 隆之	--	53	50'59.811	52.683/15
13	300-4	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	--	53	51'00.285	52.460/14
14	300-5	71	星野 薫／城内 政樹	--	53	51'06.729	54.391/19
15	300-6	7	山路 慎一／松本 晴彦	--	53	51'07.478	53.929/18
16	500-10	100	高橋 国光／飯田 章	--	52	50'36.764	47.948/5
17	300-7	17	野上 敏彦／細野 智行	--	47	51'21.612	56.740/22
	300	60	佐藤 久実／田中 実	--	34		53.214/17
	500	36	関谷 正徳／片山 右京	--	31		48.195/8
	500	39	影山 正美／谷川 達也	--	28		49.071/11
	500	12	星野 一義／土屋 武士	--	24		49.854/13
	300	25	小幡 栄／長島 正興	--	16		54.491/20
	500	556	影山 正彦／近藤 真彦	--	6		48.166/7
	300	91	松永 雅博／三原 じゅん子	--	-	54.776/21	

●優勝スピード：163.763km/h　●最速ラップ：E.コマス（ニッサン）　47.685　182.244km/h　18周目

'97NICOS CUP GT オールスター戦
[第2レース]

●決勝日:11月16日／もてぎ　●主催:GSS／ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候:曇
●観客:2万3000人　●2.413968km×57周＝137.59617km　●参加:26台／決勝出走:24台／完走:21台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	2	鈴木 亜久里／E.コマス	--	57	49'51.902	--------
2	500-2	37	鈴木 利男／舘 信吾	--	57	50'30.220	--------
3	500-3	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	--	57	50'34.523	--------
4	500-4	38	竹内 浩典／金石 勝智	--	57	50'34.806	--------
5	500-5	36	関谷 正徳／片山 右京	--	57	50'38.756	--------
6	500-6	12	星野 一義／土屋 武士	--	56	49'53.498	--------
7	500-7	556	影山 正彦／近藤 真彦	--	56	50'36.736	--------
8	500-8	30	山田 洋二／茂木 和男	--	55	49'53.068	--------
9	500-9	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	--	54	50'34.493	--------
10	300-1	27	太田 哲也／A.オロフソン	--	53	50'17.743	--------
11	300-2	81	大八木 信行／木下 隆之	--	53	50'27.284	--------
12	300-3	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	--	52	50'07.713	--------
13	300-4	71	星野 薫／城内 政樹	--	52	50'10.309	--------
14	300-5	60	佐藤 久実／田中 実	--	50	50'15.455	--------
15	300-6	91	松永 雅博／三原 じゅん子	--	50	50'32.770	--------
16	300-7	25	小幡 栄／長島 正興	--	48	47'02.811	--------
17	300-8	17	野上 敏彦／細野 智行	--	47	50'31.706	--------
18	300-9	19	織戸 学／福山 英朗	--	45	50'36.876	--------
19	500-10	5	田嶋 栄一／ヒロ 松下	--	41		--------
20	500-11	100	高橋 国光／飯田 章	--	41	50'07.421	--------
21	300-10	7	山路 慎一／松本 晴彦	--	38	50'19.705	--------
	500	34	土屋 圭市／松田 秀士	--	21		--------
	500	88	和田 孝夫／和田 久	--	8		--------
	500	39	影山 正美／谷川 達也	--	8		--------

●優勝スピード：165.562km/h　●最速ラップ：E.コマス（ニッサン）　47.900　181.426km/h　6周目

"'97NICOS CUP GT オールスター戦"
[総合結果]

●決勝日：11月16日／もてぎ　●主催：GSS／ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：晴れ→曇　●観客：2万3000人　●2.413968km×114周＝275.192352km

Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	Points
500-1	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20（10+10）
500-2	37	鈴木 利男／舘 信吾	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	17（8+9）
500-3	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	16（9+7）
500-4	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	15（7+8）
500-5	30	山田 洋二／茂木 和男	NICOS PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	9（6+3）
500-6	36	関谷 正徳／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	6（0+6）
500-7	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	5（3+2）
500-8	5	田嶋 栄一／ヒロ 松下	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	5（4+1）
500-9	34	土屋 圭市／松田 秀士	STPタイサンアドバンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	5（5+0）
500-10	12	星野 一義／土屋 武士	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	5（0+5）
500-11	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	4（0+4）
500-12	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	2（2+0）
500-13	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	1（1+0）
500-14	39	影山 正美／谷川 達也	デンソースープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	0（0+0）
300-1	27	太田 哲也／A.オロフソン	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	20（10+10）
300-2	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	17（8+9）
300-3	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	15（7+8）
300-4	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911（993GT2）	M64	DL	13（6+7）
300-5	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	11（9+2）
300-6	17	野上 敏彦／細野 智行	東京科芸専 REロードスター	マツダロードスター（NA6CE）	13B	DL	7（4+3）
300-7	60	佐藤 久実／田中 実	ワイズダンロップBPキャバリエ	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	6（0+6）
300-8	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	6（5+1）
300-9	91	松永 雅博／三原 じゅん子	BuddyClub・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	5（0+5）
300-10	25	小幡 栄／長島 正興	ATLUSつちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	4（0+4）

'97全日本GT選手権第5戦"CP MINE GT"

●決勝日：10月5日／美祢　●主催：CP MINEサーキット／CPMC　●天候：晴れ　●観客：4万100人　●3.23898km×78周＝252.64044km　●参加：34台／決勝出走：32台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	60kg	78	1:57'35.132	1'25.245/5
2	500-2	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	78	1:56'01.763	1'24.715/3
3	500-3	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	20kg	78	1:56'04.813	1'25.431/6
4	500-4	8	T.クリステンセン／長坂 尚樹	POWER CRAFT SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	78	1:56'20.231	1'24.933/2
5	500-5	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	78	1:56'45.996	1'25.072/4
6	500-6	12	星野 一義／本山 哲	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	77	1:57'49.283	1'27.129/14
7	500-7	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	77	1:56'26.436	1'25.997/11
8	500-8	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	77	1:56'39.293	1'24.606/1
9	500-9	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	76	1:56'03.516	1'25.901/9
10	500-10	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	76	1:56'22.244	1'26.321/12
11	500-11	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	75	1:57'57.227	1'28.873/15
12	500-12	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	75	1:58'01.093	1'57.072/32
13	500-13	39	影山 正美／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	70kg	75	1:58'22.329	1'25.739/8
14	500-14	34	土屋 圭市／松田 秀士	STPタイサンアドバンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	74	1:58'01.091	1'26.806/13
15	300-1	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	50kg	73	1:58'52.278	1'32.634/23
16	300-2	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911（993GT2）	M64	DL	--	72	1:57'39.245	1'33.099/24
17	300-3	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	70kg	72	1:58'46.179	1'32.065/20
18	300-4	60	佐藤 久実／田中 実	ワイズダンロップBPキャバリエ	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	71	1:59'07.893	1'33.168/25
19	300-5	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	70	1:57'48.134	1'35.918/30
20	300-6	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	70	1:58'31.798	1'35.540/29
21	300-7	28	太田 哲也／杉山 正巳	TEAM FCJフェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	20kg	70	1:58'50.741	1'33.602/28
22	300-8	16	関根 基司／藤島 敏也	YB BMW 325クーペ	BMW 325iクーペ（E36）	S14	YO	--	70	1:59'15.263	1'37.217/31
23	300-9	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	69	1:57'45.546	1'33.358/26
24	300-10	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	69	1:58'50.744	1'32.256/21
25	300-11	21	一ツ山 幹雄／水野 文則	ダンロップ-BP-BMW	BMW M3（E36）	S14	DL	--	62		1'32.330/22
26	300-12	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	DL	--	57	1:59'03.869	1'31.656/18
	500	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	39		1'25.840/10
	500	510	B.ガショー／P.ベルモンド	RH CERUMO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	38		1'25.542/7
	300	72	浅見 武／長島 正興	WAKO' S BMW M3	BMW M3（E36）	S14	YO	--	20		1'33.563/27
	300	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	19		1'31.571/17
	500	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	16		1'29.854/16
	300	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	12		1'31.954/19

●優勝スピード：128.896km/h　●最速ラップ：飯田 章（ホンダ）　1'26.529　134.756km/h　5周目
●ペナルティ：Car No.3…10秒ストップ

'97全日本GT選手権第6戦"SUGO GT選手権"

●決勝日：10月26日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：雨一時晴れ　●観客：3万5600人　●3.704256km×81周＝300.04473km　●参加：44台／決勝出走：40台／完走：33台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	5	田嶋 栄一／M.グーセン	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	DL	--	81	2:12'33.526	1'22.525/6
2	500-2	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	81	2:13'18.297	1'21.835/1
3	500-3	2	鈴木 亜久里／E.コマス	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	81	2:13'28.985	1'23.230/10
4	500-4	37	関谷 正徳／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	30kg	81	2:13'42.537	1'22.244/3
5	500-5	18	黒澤 琢弥／山本 勝巳	avex 童夢 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	80		1'22.147/2
6	500-6	8	W.ガードナー／長坂 尚樹	POWER CRAFT SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	80	2:13'05.646	1'22.426/5
7	500-7	39	影山 正美／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	YO	60kg	79	2:12'48.298	1'22.815/8
8	500-8	34	土屋 圭市／松田 秀士	STPタイサンアドバンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	78	2:12'48.518	1'23.659/12
9	500-9	30	山田 洋二／茂木 和男	綜合警備PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	78	2:13'39.667	1'25.297/16
10	300-1	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック 911	ポルシェ911（993GT2）	M64	DL	20kg	78	2:13'41.584	1'29.022/22
11	300-2	26	鈴木 恵一／新田 守男	タイサン スターカードRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	30kg	78	2:14'14.562	1'28.953/20
12	300-3	25	土屋 武士／長島 正興	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	10kg	78	2:14'34.295	1'26.916/18
13	300-4	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮SuperG RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	77	2:12'36.809	1'29.030/23
14	500-10	38	竹内 浩典／金石 勝智	カストロール・セルモ・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	77	2:14'06.603	1'22.341/4
15	300-5	19	織戸 学／福山 英朗	RS☆Rシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	100kg	76	2:12'49.029	1'29.205/26
16	300-6	6	加藤 寛規／藤田 孝博	ワイズ ダンロップBP MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	DL	--	76	2:13'47.729	1'29.388/27
17	300-7	21	一ツ山 康／水野 文則	ダンロップ-BP-BMW	BMW M3（E36）	S14	DL	--	75	2:13'02.625	1'29.063/24
18	300-8	81	大八木 信行／木下 隆之	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	75	2:13'02.712	1'27.932/19
19	300-9	51	石原 将光／池谷 勝則	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	74	2:12'45.601	1'29.123/25
20	500-11	510	B.ガショー／P.ベルモンド	RH CERUMO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	--	74	2:12'53.092	1'22.810/7
21	300-10	54	田中 信幸／斉藤 和重	シュネル ポルシェSDR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	73	2:12'43.945	1'30.785/30
22	300-11	20	高橋 健二／須賀 宏明	アイ・オートGABポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	YO	--	73	2:13'09.620	1'32.630/35
23	300-12	910	袖山 誠一／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	DL	--	73	2:13'52.691	タイム抹消/40
24	300-13	16	関根 基司／藤島 敏也	YB BMW 325クーペ	BMW 325iクーペ（E36）	S14	YO	--	73	2:14'09.252	1'32.643/36
25	500-12	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	73	2:14'24.014	1'24.034/14
26	500-13	88	和田 孝夫／和田 久	JLOC ディアブロ GTR	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	72		1'26.342/17
27	500-14	12	星野 一義／本山 哲	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	72	2:12'56.940	1'24.635/15
28	300-14	911	芳賀 重光／高橋 規一	ナインテンTIBポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-70	DL	--	72	2:13'12.911	1'34.457/39
29	300-15	55	深沢 寿裕／長島 正明	Castrol SF RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	72	2:14'16.835	1'31.445/32
30	300-16	60	佐藤 久実／田中 実	ワイズダンロップBPキャバリエ	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	72	2:14'19.542	1'29.624/28
31	300-17	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	70	2:13'23.112	1'31.457/33
32	300-18	57	砂子 智彦／吉富 章	SiFo Spider Ver.GT	ルノースピダー（EFOH05）	F7R	YO	--	66	2:12'59.287	1'34.440/38
33	500-15	36	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GT改	BS	90kg	57	2:12'45.336	1'22.661/9
	500	556	影山 正彦／近藤 真彦	KURE R33	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	50		1'23.648/13
	300	91	松永 雅博／三原 じゅん子	バーディークラブ・MR-2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	45		1'30.494/29
	300	77	小林 且雄／古谷 直広	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	43		1'31.658/34
	300	27	太田 哲也／S.アンドスカー	シェル・フェラーリF355	フェラーリF355	F129GT	YO	10kg	35		1'28.997/21
	300	17	野上 敏彦／細野 智行	東京科芸専:REロードスター	マツダロードスター（NA6CE）	13B	DL	--	21		1'34.001/37
	500	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	17		1'23.545/11
	300	28	山崎 正弘／P.バン・スクート	TEAM FCJ フェラーリ	フェラーリF355	F129GT	YO	--	0		1'31.107/31

●優勝スピード：135.609km/h　●最速ラップ：P.デ・ラ・ロサ（トヨタ）　1'24.573　157.678km/h
●ペナルティ：Car No.34…1周減算、Car No.6…30秒ストップ、Car No.21…1周減算、Car No.36…10秒ストップ

'98オートバックス全日本GT選手権第1戦“鈴鹿GT300km”

●決勝日：3月22日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：晴れ　●観客：4万3000人　●5.86403km×51周＝299.06553km　●参加：40台／決勝出走：39台／完走：27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:49'45.966	2'03.743/4
2	500-2	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	51	1:49'50.912	2'02.975/2
3	500-3	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	51	1:50'26.309	2'05.163/14
4	500-4	5	M.グーセン／桧井 保孝	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	51	1:50'55.175	2'04.830/11
5	500-5	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	1:51'08.203	2'06.314/15
6	500-6	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	51	1:51'10.063	2'04.404/7
7	500-7	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	51	1:51'42.959	2'04.751/10
8	500-8	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	50		2'05.034/13
9	500-9	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	49	1:50'26.192	2'03.792/5
10	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）		YO	--	48	1:52'02.895	2'15.539/27
11	300-2	51	池谷 勝則／袖山 誠一	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	47	1:50'51.268	2'15.329/25
12	300-3	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	47	1:50'51.434	2'14.379/22
13	300-4	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）		YO	--	47	1:51'25.728	2'16.989/33
14	300-5	910	砂子 智彦／余郷 敦	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	47	1:51'28.094	2'14.740/24
15	300-6	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディークラブMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	47	1:51'57.988	2'16.672/31
16	300-7	44	新田 守男／水野 昇太	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）		DL	--	47	1:52'00.495	2'13.669/21
17	300-8	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	46	1:50'57.241	2'16.066/29
18	500-10	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	45		2'02.939/1
19	500-11	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	45		2'04.430/8
20	500-12	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	45	1:50'14.320	2'09.615/18
21	300-9	911	高橋 規一／小林 正吾	ナインテンPCJポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	45	1:50'22.022	2'19.573/35
22	300-10	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	DL	--	45	1:50'33.610	2'22.190/37
23	500-13	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	43		2'04.674/9
24	500-14	55	松田 秀士／田嶋 栄一	STPタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	43		2'06.647/17
25	300-11	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	43	1:50'26.667	2'19.726/36
26	500-15	777	和田 孝夫／杉山 正巳	レイン・X ディアブロDL	ランボルギーニディアブロ		DL	--	37	1:50'04.177	2'13.543/20
27	300-12	9	日置 恒文／佐々木 秀六	PCJ大黒屋ぽるしぇRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	35		2'16.212/34
	500	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	23		2'04.125/6
	300	21	一ツ山 康／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	20		2'15.400/26
	300	60	佐藤 久実／長島 正興	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）		DL	--	19		2'22.582/38
	500	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	17		2'05.007/12
	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシンシルビア	シルビア（S14）		DL	--	13		2'14.458/23
	500	88	和田 久／古谷 直広	ディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロGTR		DL	--	12		2'09.726/19
	500	18	金石 勝智／山本 勝巳	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	11		2'03.226/3
	500	6	P-H.ラファネル／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	10		2'05.281/15
	300	27	太田 哲也／A.オロフソン	TFCJフェラーリF355GT	フェラーリF355		YO	--	7		2'15.564/28
	300	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	7		2'16.511/30
	300	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	6		2'16.848/32
	300	17	野上 敏彦／細野 智行	東京科芸専:REロードスター	マツダロードスター（NA6CE）	13B	DL	--	5		2'27.903/39

●優勝スピード：163.474km/h　●最速ラップ：T.コロネル（ホンダ）　2'04.235　169.924km/h
●ペネルティ：Car No.64…10秒ストップ、Car No.36…10秒ストップ

'98オートバックス全日本GT選手権第2戦“全日本富士GT”

●決勝日：5月3日／富士　●主催：テレビ東京／VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ　●天候：雨　●観客：4万7500人　●4.470km×--周＝---km　●参加：46台／決勝出走：45台／完走：--台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
--	500	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	30kg	--	--	1'37.961/1
--	500	18	金石 勝智／山本 勝巳	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	--	--	1'38.659/2
--	500	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	--	--	1'39.040/3
--	500	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	--	--	1'39.541/4
--	500	2	影山 正彦／P.デ・ラ・ロサ	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	--	--	1'39.659/5
--	500	23	影山 正美／R.ファーマン	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	50kg	--	--	1'39.902/6
--	500	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	--	--	1'40.064/7
--	500	50	土屋 武士／加藤 寛規	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	--	--	1'40.524/8
--	500	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	--	--	1'40.665/9
--	500	12	黒澤 琢弥／M.クルム	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	--	--	1'40.938/10
--	500	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	--	--	1'41.787/11
--	500	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	--	--	1'41.806/12
--	500	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	--	--	1'42.350/13
--	500	5	M.グーセン／桧井 保孝	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	--	--	1'42.477/14
--	500	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	--	--	1'43.902/15
--	500	55	松田 秀士／田嶋 栄一	STPタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	--	--	1'44.085/16
--	500	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	--	--	1'44.086/17
--	500	6	A.オロフソン／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	--	--	1'44.170/18
--	500	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロGTR	L532	DL	--	--	--	1'46.871/19
--	300	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック911	ポルシェ911GT2（911GT2）	M64	DL	--	--	--	1'47.106/20
--	300	910	砂子 智彦／余郷 敦	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	--	--	1'46.494/21
--	300	21	一ツ山 康／木下 隆之	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	--	--	1'49.444/22
--	300	9	市村 秀明／佐々木 秀六	MTG大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	--	--	1'49.662/23
--	300	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	--	--	1'50.182/24
--	300	51	石原 将光／池谷 勝則	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	20kg	--	--	1'50.415/25
--	300	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	--	--	1'50.939/26
--	300	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	30kg	--	--	1'50.995/27
--	500	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	--	--	1'51.040/28
--	300	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	10kg	--	--	1'51.154/29
--	500	777	和田 孝夫／杉山 正巳	バルボリン ディアブロDL	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	--	--	1'51.527/30
--	300	27	太田 哲也／S.アンドスカー	TFCJフェラーリF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	--	--	1'52.104/31
--	300	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	DL	--	--	--	1'52.237/32
--	300	44	新田 守男／水野 昇太	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	--	--	--	1'52.288/33
--	300	911	高橋 規一／斎藤 和重	ナインテンPCJポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	--	--	1'53.016/34
--	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	--	--	1'53.099/35
--	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-31	DL	--	--	--	1'53.370/36
--	500	89	川越 賢二／金森 敏一	PORSCHE GT-2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-31	DL	--	--	--	1'53.754/37
--	300	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	--	--	1'55.132/38
--	300	117	深沢 寿裕／古在 哲雄	ホイールショップALTA RX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	--	--	1'56.797/39
--	300	11	石森 浩元／三浦 一雄	ムラウチ カメイスカイライン	スカイラインGTS（HR31）	RB20	BS	--	--	--	1'57.961/40
--	300	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディークラブMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	--	--	1'51.443/41
--	300	60	佐藤 久実／三原 じゅん子	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	--	--	1'53.661/42
--	300	79	杉山 正典／青柳 裕昌	ナックウエストシルビア	シルビア（S13）	FJ20T	DL	--	--	--	1'59.654/43
--	300	24	平野 敏行／染葉 輝彦	ヒラノモータースポーツR32M	スカイラインGTS（HCR32）	RB20DET	YO	--	--	--	2'03.716/44
--	300	28	山崎 正弘／須賀 宏明	TFCJ フェラーリF355 GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	--	--	2'05.612/45

●悪天候と事故のため決勝中止

1997シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 3/30 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/29 仙台	第4戦 8/10 富士	第5戦 10/5 美祢	第6戦 10/26 菅生	Total
1	M.クルム／P.デ・ラ・ロサ		12	20	15	20		67
2	影山 正美	15	20	8	20		4	67
3	関谷 正徳／鈴木 利男	12	6	12	12	12	10	64
4	鈴木 亜久里	20	10	15	1	2	12	60
5	谷川 達也		20	8	20		4	52
6	E.コマス	20		15	1	2	12	50
7	長谷見 昌弘／田中 哲也	10	15	2	6	4		37
8	田嶋 栄一／M.グーセン	6		6			20	32
9	高橋 国光／飯田 章					15	15	30
10	竹内 浩典／金石 勝智	4	2	10	3	8	1	28
11	本山 哲		8		10	6		24
12	長坂 尚樹			4		10	6	20
13	星野 一義				10	6		16
14	O.グルイヤール	15						15
15	B.ガショー／P.ベルモンド	1		3	8			12
16	黒澤 琢弥／山本 勝巳					3	8	11
17	T.クリステンセン					10		10
17	M.アピチェッラ		10					10
19	影山 正彦／近藤 真彦	8			2			10
20	W.ガードナー			4			6	10
21	水野 文則		8					8
22	木下 みつひろ	3			4	1		8
23	藤村 満男				4	1		5
24	飯田 章／R.ファーマン		4					4
25	土屋 圭市／松田 秀士			1			3	4
26	山田 洋二／茂木 和男	2					2	4
27	金海 辰彦／駒 光武		3					3
27	菊地 靖	3						3

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 3/30 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/29 仙台	第4戦 8/10 富士	第5戦 10/5 美祢	第6戦 10/26 菅生	Total
1	織戸 学／福山 英朗	20	15	15	12	20	8	90
2	鈴木 恵一／新田 守男	10	20	12	20	12	15	89
3	長島 正興	12		20	8		12	52
3	土屋 武士	12		20	8		12	52
5	星野 薫／城内 政樹		6	4	6	15	20	51
6	袖山 誠一	15	3	10	10			38
7	太田 哲也		10	2	15	4		31
8	山路 慎一／松本 晴彦		12	8		1	10	31
9	A.オロフソン		10		15			25
10	石原 将光／池谷 勝則	8	8		4		2	22
11	大八木 信行	3	4	6			3	16
12	見崎 清志	15						15
13	砂子 智彦		3	10				13
14	木下 隆之		4	6			3	13
15	浅見 武	4	2	3	3			12
15	牧口 規雄	4	2	3	3			12
17	玉本 秀幸				10			10
17	佐藤 久美／田中 実					10		10
19	高橋 健二／須賀 宏明				2	8		10
20	石橋 義三／小宮 延雄	1			1	6		8
21	加藤 寛規／藤田 孝博						6	6
21	日置 恒文／木下 正治	6						6
23	一ツ山 康		1				4	5
24	杉山 正巳					4		4
24	水野 文則						4	4
26	関根 基司／井入 宏之					3		3
26	藤島 敏也					3		3
26	萬雲 恒明	3						3
29	松永 雅博／三原じゅん子					2		2
29	S.アンドスカー			2				2
29	牧田 克哉／塩見 勝治	2						2
32	山本 健司		1	1				2
33	一ツ山 幹雄			1				1
33	田中 信幸／斉藤 和重						1	1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 3/30 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/29 仙台	第4戦 8/10 富士	第5戦 10/5 美祢	第6戦 10/26 菅生	Total
1	TOYOTA Castorl TEAM	12	12	20	15	20	10	89
2	TOYOTA TEAM SARD	15	20	8	20		4	67
3	NISMO	20	10	15	2	2	12	61
4	ハセミ・モータースポーツ	10	15	2	6	4		37
5	TEAM 5ZIGEN	6		6			20	32
6	チーム国光 with MOONCRAFT					15	15	30
7	HOSHINO RACING		8		10	6		24
8	POWER CRAFT	1		4		10	6	21
9	無限＋童夢 PROJECT					3	8	11
10	RYOUWA HOUSE Pacific Team CERUMO FHPT			3	8			11
11	ENDLESS SPORT	3			4	1		8
12	TMS CO.,LTD		4					4
13	TEAM TAISAN			1			3	4
14	TEAM TAKE ONE	2					2	4
15	SUZUKI BANKIN		3					3

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 3/30 鈴鹿	第2戦 5/4 富士	第3戦 6/29 仙台	第4戦 8/10 富士	第5戦 10/5 美祢	第6戦 10/26 菅生	Total
1	RS-Rレーシングチーム with BANDOH	20	15	15	12	20	8	90
2	TEAM TAISAN Jr.	10	20	12	20	12	15	89
3	TSUCHIYA ENGINEERING	12		20	8		12	52
4	シグマテックレーシングチーム		6	4	6	15	20	51
5	910 RACING	15	3	10	10			38
6	TEAM FERRARI CLUB OF JAPAN		10	2	15	4		31
7	RE 雨宮 レーシング		12	8		1	10	31
8	COBRA RACING TEAM	8	8		4		2	22
9	KRAFT					10	6	16
10	TEAM DAISHIN	3	4	6			3	16
11	MAKIGUCHI ENGINEERING	4	2	3	3			12
12	AI・AUTO RACING TEAM				2	8		10
13	石橋 義三	1			1	6		8
14	TEAM 5ZIGEN	6						6
15	HITOTSUYAMA RACING		1	1			4	6
16	Team Power Magic					3		3
17	ファーストレーシング					2		2
17	タックル＆RS松元	2						2
19	S.D.R.						1	1

1997 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'98オートバックス全日本GT選手権第5戦"もてぎGTチャンピオン"

●決勝日：9月13日　／もてぎ　●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：晴れ　●観客：3万5000人　●4.801379km×63周=302.46687km　●参加42台／決勝出走38台／完走27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	63	2:11'00.916	1'49.800/1
2	500-2	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	63	2:11'02.306	1'52.006/13
3	500-3	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	10kg	63	2:11'10.076	1'51.461/9
4	500-4	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	90kg	63	2:11'16.656	1'51.779/11
5	500-5	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	63	2:11'22.013	1'50.939/3
6	500-6	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	2:11'32.464	1'51.341/7
7	500-7	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	63	2:11'45.566	1'49.677/2
8	500-8	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	63	2:12'31.776	1'51.646/12
9	500-9	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）		BS	--	61	2:11'05.116	1'54.918/18
10	300-1	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	60	2:12'21.312	1'58.906/20
11	300-2	19	織戸 学／M.アンジェレッリ	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	60	2:12'41.307	1'59.428/23
12	300-3	910	余郷 敦／木下 隆之	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	--	60	2:12'45.804	2'00.822/29
13	300-4	44	新田 守男／P.ダンブレック	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	20kg	59	2:11'39.156	1'59.168/22
14	300-5	21	一ツ山 幹雄／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）		DL	10kg	59	2:12'33.418	2'00.496/27
15	300-6	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	80kg	59	2:12'47.517	1'56.956/21
16	300-7	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディクラブ・セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	59	2:13'03.029	2'01.924/30
17	300-8	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン ダンロップシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	58	2:11'37.286	2'00.571/28
18	300-9	51	池谷 勝則／石原 将光	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）		YO	--	57	2:11'02.883	2'01.979/32
19	300-10	99	日置 恒文／高橋 規一	PCJ大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	--	56	2:12'37.377	2'06.326/37
20	300-11	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	56	2:12'45.381	2'02.406/35
21	500-10	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT1	ランボルギーニディアブロGTR		DL	--	56	2:13'01.818	1'53.030/15
22	300-12	60	佐藤 久実／渡辺 明	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	54	2:11'27.005	2'02.232/34
23	300-13	117	深沢 寿裕／古在 哲雄	ホイールショップALTA RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	50		2'06.470/38
24	500-11	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	50	2:12'38.347	1'52.163/14
25	300-14	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）		YO	10kg	46		2'00.424/26
26	500-12	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	46		1'54.032/17
27	300-15	72	M.ポーター／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	43	2:11'26.128	2'02.165/33
	500	6	P-H.ラファネル／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	43		1'51.233/6
	500	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	31		1'51.057/4
	500	18	金石 勝智／山本 勝巳	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	27		1'51.348/8
	500	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	70kg	27		1'51.058/5
	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		DL	--	27		2'02.607/36
	500	777	和田 孝夫／杉山 正巳	バルボリン ディアブロDL	ランボルギーニディアブロGTR		DL	--	24		1'58.548/19
	300	9	羽根 幸浩／河野 尚裕	大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	--	24		2'01.925/31
	500	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	17		1'51.768/10
	300	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	14		1'59.657/24
	500	5	M.グーセン／田嶋 栄一	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	3		1'53.109/16
dq	300	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--			1'59.867/25

●優勝スピード：138.527km/h　●最速ラップ：飯田 章（ホンダ）　1'51.379　155.191km/h
●ペナルティ：Car No.50…10秒ストップ、Car No.30…10秒ストップ、Car No.6…10秒ストップ、Car No.37…10秒ストップ、Car No.7…再走エンジン始動違反

'98オートバックス全日本GT選手権第6戦"CP MINE GT"

●決勝日：10月11日／美祢　●主催：CP MINEサーキット／CPMC　●天候：曇　●観客：4万6200人　●3.23896km×78周=252.64044km　●参加：37台／決勝出走：36台／完走：27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	78	1:55'22.563	1'23.796/1
2	500-2	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	60kg	78	1:55'53.769	1'24.134/2
3	500-3	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	78	1:56'27.144	1'24.641/5
4	500-4	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	80kg	78	1:56'36.872	1'24.732/6
5	500-5	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	78	1:56'43.827	1'25.149/9
6	500-6	6	P-H.ラファネル／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	77	1:55'50.513	1'24.904/7
7	500-7	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	50kg	77	1:56'00.054	1'25.152/10
8	500-8	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	20kg	77	1:56'04.850	1'25.301/12
9	500-9	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	77	1:56'36.878	1'25.442/13
10	500-10	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	76	1:55'28.994	1'25.475/14
11	500-11	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	75	1:51'43.164	1'24.279/3
12	500-12	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	75	1:56'53.624	1'25.040/8
13	500-13	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT1	ランボルギーニディアブロGTR	L532	DL	--	74	1:55'36.388	1'26.915/18
14	500-14	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	74	1:55'37.111	1'27.792/19
15	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	70kg	73	1:56'25.429	1'30.067/21
16	300-2	19	織戸 学／M.アンジェレッリ	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	20kg	73	1:56'54.464	1'30.029/20
17	300-3	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン ダンロップシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	72	1:56'14.695	1'30.934/23
18	300-4	44	新田 守男／P.ダンブレック	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	10kg	72	1:56'36.394	1'30.188/22
19	300-5	21	一ツ山 幹雄／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	72	1:56'40.156	1'32.263/29
20	300-6	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	72	1:56'44.855	1'31.506/26
21	500-15	18	金石 勝智／脇阪 寿一	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	70	1:47'57.906	1'24.293/4
22	300-7	60	佐藤 久実／渡辺 明	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	70	1:56'24.512	1'33.186/34
23	300-8	99	日置 恒文／吉富 章	大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	70	1:56'34.776	1'32.973/32
24	300-9	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	67	1:55'26.416	1'31.338/25
25	300-10	51	池谷 勝則／OSAMU	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	67	1:56'20.818	1'33.425/35
26	500-16	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	30kg	62		1'25.267/11
27	500-17	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	54		1'26.783/17
	300	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディークラブ・セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	51		1'31.134/24
	300	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	50		1'32.283/30
	300	910	余郷 敦／木下 隆之	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	10kg	46		1'31.863/28
	300	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	44		1'31.564/27
	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	DL	--	43		1'35.325/36
	500	5	M.グーセン／田嶋 栄一	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	40		1'25.895/16
	500	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	28		1'25.550/15
	300	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	YO	--	8		1'33.009/33
	300	72	M.ポーター／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	7		1'32.525/31

●優勝スピード：131.383km/h　●最速ラップ：金石 勝智（ホンダ）　1'25.766　135.955km/h

'98オートバックス全日本GT選手権第3戦"ハイランドGT選手権"

●決勝日：6月28日／仙台ハイランド　●主催：VICIC／奥州VICIC　●天候：曇　●観客：3万5100人　●4.02960km×63周=253.8648km　●参加：38台／決勝出走：36台／完走：25台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	50kg	63	1:56'04.709	1'45.926/2
2	500-2	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	1:56'25.646	1'46.544/7
3	500-3	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	63	1:56'44.976	1'47.335/13
4	500-4	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	63	1:56'45.411	1'46.787/8
5	500-5	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	63	1:57'16.474	1'46.534/6
6	500-6	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	62	1:58'11.276	1'47.617/14
7	500-7	5	M.グーセン／松井 保孝	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	62	1:58'12.966	1'45.997/3
8	500-8	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	60	1:56'14.000	1'50.678/16
9	500-9	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT1	ランボルギーニディアブロGTR	L532	DL	--	60	1:56'48.900	1'51.554/19
10	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	30kg	60	1:57'50.421	1'53.118/21
11	300-2	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	59	1:58'14.751	1'52.992/20
12	300-3	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	59	1:58'50.562	1'53.413/22
13	300-4	910	余郷 敦／小林 正吾	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	59	1:57'31.764	1'55.178/28
14	300-5	21	一ツ山 幹雄／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	59	1:57'39.738	1'53.874/25
15	300-6	44	新田 守男／木野 昇太	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	--	59	1:57'46.130	1'53.777/24
16	300-7	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	10kg	58	1:57'55.864	1'55.493/30
17	300-8	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディークラブMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-G	YO	--	57	1:57'45.774	1'55.891/32
18	500-10	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	57	1:56'05.550	1'46.945/9
19	300-9	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック911	ポルシェ911GT2（911GT2）	M64	DL	--	57	1:56'56.912	1'54.550/26
20	300-10	60	佐藤 久実／渡辺 明	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	57	1:57'57.942	1'59.003/34
21	300-11	911	高橋 規一／中島 廣高	ナインテンPCJポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	56	1:56'28.395	1'59.297/35
22	300-12	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	YO	--	56	1:57'53.394	1'57.416/33
23	500-11	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	52		1'46.994/11
24	300-13	9	日置 恒文／羽根 幸浩	MTG大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	48	1:57'30.252	1'55.669/31
25	500-12	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	44		1'46.977/10
	500	6	P-H.ラファネル／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	43		1'49.596/16
	500	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	42		1'47.011/12
	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	32		1'53.537/23
	500	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	32		1'49.694/17
	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	31		2'00.024/36
	500	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	28		1'46.396/5
	500	18	金石 勝智／山本 勝巳	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	25		1'46.161/4
	300	51	池谷 勝則／伊藤 清彦	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	20kg	24		1'55.325/29
	300	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	23		1'54.810/27
	500	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	12		1'45.584/1
	500	64	佐藤 浩二／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	30kg	12		1'47.813/15
ns	300	72	M.ポーター／片山 義美	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	-		2'00.935/37

●優勝スピード：131.221km/h　●最速ラップ：道上 龍（ホンダ）　1'46.141　136.673km/h
●ペナルティ：Car No.12…10秒ストップ、Car No.91…1周減算、Car No.50…10秒ストップ

'98オートバックス全日本GT選手権第4戦"JAPAN SPECIAL GT CUP"

●決勝日：8月9日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC　●天候：曇　●観客：6万5000人　●4.470km×55周=245.850km　●参加：47台／決勝出走：45台／完走：36台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	55	1:32'10.247	1'27.837/3
2	500-2	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	55	1:32'13.204	1'29.259/14
3	500-3	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	55	1:32'22.731	1'28.561/6
4	500-4	18	金石 勝智／山本 勝巳	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	55	1:32'24.382	1'28.034/5
5	500-5	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	55	1:32'36.045	1'27.517/2
6	500-6	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	55	1:32'57.038	1'29.406/15
7	500-7	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	30kg	55	1:32'59.266	1'29.064/13
8	500-8	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	20kg	55	1:33'01.319	1'28.655/7
9	500-9	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	55	1:33'04.639	1'27.994/4
10	500-10	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	100kg	55	1:33'30.457	1'29.984/16
11	500-11	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	54	1:32'23.247	1'29.015/11
12	500-12	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	54	1:32'29.187	1'26.937/10
13	500-13	6	P-H.ラファネル／高木 真一	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	54	1:32'30.144	1'29.056/12
14	500-14	55	松田 秀士／木野 文則	STPタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	53	1:32'55.219	1'26.840/9
15	500-15	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	53	1:33'42.237	1'31.810/20
16	500-16	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	52	1:32'13.627	1'30.176/19
17	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	60kg	52	1:33'10.082	1'34.608/22
18	300-2	44	新田 守男／P.ダムブレック	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	--	51	1:32'13.322	1'35.052/24
19	300-3	21	一ツ山 康／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	51	1:32'57.879	1'36.293/29
20	300-4	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック911	ポルシェ911GT2（911GT2）	M64	DL	--	51	1:32'58.287	1'35.654/26
21	300-5	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	10kg	51	1:33'02.071	1'35.497/25
22	300-6	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン ダンロップ シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	51	1:33'03.976	1'35.860/28
23	500-17	777	和田 孝夫／杉山 正巳	バルボリン ディアブロDL	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	51	1:33'17.973	1'33.890/21
24	300-7	19	織戸 学／M.アンジェレッリ	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST202）	3S-GE	YO	--	51	1:33'19.996	1'35.725/27
25	300-8	910	余郷 敦／小林 正吾	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	51	1:33'24.150	1'36.353/31
26	300-9	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディー・セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	50	1:32'17.062	1'37.021/33
27	300-10	51	池谷 勝則／石原 将光	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	10kg	49		1'37.908/35
28	300-11	60	佐藤 久実／渡辺 明	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-G	DL	--	49	1:32'19.285	1'38.619/39
29	300-12	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	DL	--	49	1:32'19.739	1'38.530/38
30	300-13	11	石森 浩元／三浦 一雄	ムラウチ カメイ スカイライン	スカイラインGTS（HR31）	RB20	BS	--	48	1:32'16.696	1'42.398/43
31	300-14	79	杉山 正典／青柳 裕昌	ナックウエストシルビア	シルビア（S13）	FJ20T	DL	--	46	1:32'47.660	1'42.408/44
32	300-15	17	長島 正明／野上 敏彦	東京科芸専:REロードスター	マツダロードスター（NA6CE）	13B	DL	--	44		1'44.926/45
33	300-16	24	平野 敏行／染葉 輝彦	ヒラノモータースポーツR32M	スカイラインGTS（HCR32）	RB20DET	YO	--	44	1:32'12.571	1'44.931/46
34	500-18	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT1	ランボルギーニディアブロGTR	L532	DL	--	39		1'29.696/17
35	300-17	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	39		1'36.959/32
36	300-18	117	深沢 寿裕／古在 哲雄	ホイールショップALTA RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	38		1'41.641/42
nc	300	355	須賀 宏明／大井 貴之	イエローマジックF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	36	1:32'23.605	1'37.851/34
nc	300	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	20kg	35	1:32'40.787	1'36.347/30
	300	911	高橋 規一／中島 廣高	ナインテンPCJポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	33		1'39.632/40
	300	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	22		1'34.629/23
	500	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	17		1'27.316/1
	500	5	M.グーセン／田嶋 栄一	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	17		1'29.656/16
	300	72	M.ポーター／片山 義美	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	15		1'38.033/37
	300	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	YO	--	5		1'37.964/36
	500	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	-		1'28.754/8
ns	300	9	羽根 幸浩／河野 尚裕	スペックス大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	-		1'40.059/41
ns	300	280	大城 一／鈴木 守	ADVANタルガスポーツNSX	ホンダNSX（NA1）	C32B	YO	--	-	DNQ	1'53.128/47

●優勝スピード：160.040km/h　●最速ラップ：飯田 章（ホンダ）　1'28.219　182.410km/h　4周目
●ペナルティ…Car No.16…10秒ストップ、Car No.39…30秒ストップ、Car No.70…10秒ストップ

1998シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 3/22 鈴鹿	第2戦 5/3 富士	第3戦 6/28 仙台	第4戦 8/9 富士	第5戦 9/13 もてぎ	第6戦 10/11 美祢	第7戦 10/25 菅生	Total
1	E.コマス／影山 正美	20	中止	20	1	10	10	6	67
2	山西 康司	15			20		15		50
2	T.コロネル	15			20		15		50
3	星野 一義／黒澤 琢弥			8	12	15	4	10	49
4	中子 修／道上 龍				8	20		20	48
5	長谷見 昌弘／田中 哲也	8			15	3	3	8	37
6	土屋 圭市／谷川 達也	12		10	2		12		36
7	関谷 正徳／N.フォンタナ	6		12	3	12			33
8	鈴木 亜久里／影山 正彦			15	4		8	2	29
9	鈴木 利男／K.バート	4		6			1	15	26
10	高橋 国光／飯田 章	1				4	20		25
11	竹内 浩典／野田 英樹	2				8		12	22
12	本山 哲／土屋 武士				6	6	2	3	17
13	M.グーセン	10		4					14
13	桧井 保孝	10		4					14
14	金石 勝智				10				10
14	山本 勝巳				10				10
15	W.ガードナー／田中 実	3		1				4	8
16	P-H.ラファネル／高木 真一						6		6
17	山田 洋二／岡田 秀樹			3		2			5
18	和田 久／古谷 直広			2		1			3
19	松田 秀士							1	1
19	A.レイド							1	1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 3/22 鈴鹿	第2戦 5/3 富士	第3戦 6/28 仙台	第4戦 8/9 富士	第5戦 9/13 もてぎ	第6戦 10/11 美祢	第7戦 10/25 菅生	Total
1	鈴木 恵一／舘 信吾	20	中止	20	20	6	20	20	106
2	織戸 学				4	15	15	12	46
3	新田 守男	4		6	15	10	10		45
4	加藤 寛規			8	12	8	8	8	44
5	中谷 明彦／原 貴彦	12		4			6	15	37
6	P.ダンブレック				15	10	10		35
6	近藤 真彦／青木 孝行	10		15				10	35
8	M.アンジェレッリ				4	15	15		34
9	余郷 敦	8		10	3	12			33
10	山路 慎一／松本 晴彦			12	3		2	6	26
11	福山 英朗／大八木 信行				6	3	12	3	24
12	一ツ山 幹雄			8		8	8		24
13	小林 且雄／玉本 秀幸	3				20			23
14	一ツ山 康				12			8	20
15	池谷 勝則	15			1	2	1		19
16	袖山 誠一	15							15
17	小林 正吾	2		10	3				15
18	松永 雅博／藤原 靖久	6		3	2	4			15
19	山本 勝巳							12	12
19	木下 隆之					12			12
21	星野 薫／城内 政樹			2	10				12
22	水野 昇太	4		6					10
23	砂子 智彦	8							8
24	佐藤 久実			1			4	2	7
24	渡辺 明			1			4	2	7
25	羽根 幸浩／河野 尚裕							4	4
26	日置 恒文					1	3		4
27	吉冨 章						3		3
28	高橋 規一	2				1			3
28	石原 将光				1	2			3
30	石橋 義三／P.バン・スクート	1						1	2
31	OSAMU						1		1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 3/22 鈴鹿	第2戦 5/3 富士	第3戦 6/28 仙台	第4戦 8/9 富士	第5戦 9/13 もてぎ	第6戦 10/11 美祢	第7戦 10/25 菅生	Total
1	NISMO	20	中止	20	4	10	10	6	70
2	NAKAJIMA PLANNING	15			20		15		50
3	Castrol TOYOTA TEAM TOM'S	6		12	3	12	1	15	49
4	TEAM IMPUL	0		8	12	15	4	10	49
5	CASTROL MUGEN				8	20		20	48
6	ハセミ・モータースポーツ	8			15	3	3	8	37
7	TOYOTA TEAM SARD	12		10	2		12		36
8	チーム国光 with MOONCRAFT	1				4	20		25
9	TOYOTA TEAM CERUMO	2				8		12	22
10	AUTOBACS RACING TEAM AGURI				6	6	2	3	17
11	TEAM 5ZIGEN	10		4					14
12	童夢				10				10
13	TEAM POWER CRAFT	3		1				4	8
14	INGING						6		6
15	TEAM TAKE ONE			3		2			5
16	JLOC			2		1			3
17	TEAM TAISAN							1	1

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 3/22 鈴鹿	第2戦 5/3 富士	第3戦 6/28 仙台	第4戦 8/9 富士	第5戦 9/13 もてぎ	第6戦 10/11 美祢	第7戦 10/25 菅生	Total
1	TEAM TAISAN Jr. with TSUCHIYA	20	中止	20	20	6	20	20	106
2	RACING PROJECT BANDOH				4	15	15	12	46
3	株式会社アペックス	4		6	15	10	10		45
4	一ツ山レーシング			8	12	8	8	8	44
5	チーム・ノバ・ラリーアート	12		4			6	15	37
6	NISMO	10		15				10	35
7	910 RACING	8		10	3	12			33
8	RE雨宮レーシング			12	8		2	6	28
9	TEAM DAISHIN				6	3	12	3	24
10	クスコレーシング	3				20			23
11	COBRA RACING TEAM	15			1	2	1		19
12	FIRST RACING TEAM	6		3	2	4			15
13	シグマテックレーシングチーム			2	10				12
14	TEAM 大黒屋					1	3	4	8
15	KRAFT			1			4	2	7
16	TEAM GAIKOKUYA	1						1	2

1998 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'98オートバックス全日本GT選手権第7戦“SUGO GT選手権”

●決勝日：10月25日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：3万8100人　●3.704256km×78周＝288.93196km　●参加：43台／決勝出走：41台／完走：28台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	40kg	78	1:56'38.356	1'20.642/1
2	500-2	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	78	1:56'43.637	1'21.654/7
3	500-3	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	78	1:56'50.628	1'21.192/4
4	500-4	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	40kg	78	1:56'52.524	1'22.405/14
5	500-5	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	10kg	78	1:56'52.914	1'22.666/16
6	500-6	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	70kg	78	1:56'55.886	1'22.206/13
7	500-7	8	W.ガードナー／田中 実	FET SPORTS SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	77	1:56'48.262	1'21.935/9
8	500-8	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	77	1:56'51.258	1'22.134/10
9	500-9	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	77	1:56'19.113	1'22.656/15
10	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	80kg	74	1:57'37.431	1'26.667/21
11	300-2	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	73	1:57'25.934	1'27.868/26
12	300-3	19	織戸 学／山本 勝巳	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	40kg	73	1:57'32.092	1'27.360/24
13	300-4	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	73	1:57'32.995	1'28.521/31
14	300-5	21	一ツ山 康／加藤 寛規	ダンロップ-BP-BMW	BMW 320i（E36）	S14	DL	--	72	1:57'00.182	1'28.276/30
15	300-6	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	72	1:57'16.272	1'27.611/25
16	300-7	9	羽根 幸浩／河野 尚裕	大黒屋ぼるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	72	1:57'33.769	1'28.801/32
17	300-8	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン ダンロップシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	10kg	71	1:57'29.797	1'27.159/23
18	300-9	60	佐藤 久実／渡辺 明	TOYOTA CAVALIER	トヨタキャバリエ（TJG00）	3S-GE	DL	--	71	1:57'33.000	1'29.235/35
19	300-10	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	71	1:57'43.211	1'32.571/40
20	300-11	911	高橋 規一／斎藤 和重	ナインテンPCJポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	67	1:57'53.534	1'31.578/39
21	300-12	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	20kg	64		1'28.046/27
22	500-10	55	松田 秀士／A.レイド	STPタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	63		1'22.145/11
23	300-13	91	松永 雅博／藤原 靖久	コーセイ&バーディクラブ・セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	61		1'28.742/34
24	500-11	88	和田 久／古谷 直広	ウェディング ディアブロGT1	ランボルギーニディアブロGTR	L532	DL	--	61	1:57'18.394	1'23.398/17
25	300-14	910	余郷 敦／木下 隆之	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	DL	--	55	1:58'34.356	1'28.205/29
26	300-15	117	深沢 寿裕／古在 哲雄	ホイールショップALTA RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	55	1:58'54.266	1'32.574/41
27	300-16	71	星野 薫／城内 政樹	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	DL	--	54		1'28.109/28
28	300-17	10	麻生 英彦／石川 朗	アビリティポルシェ993GT2	ポルシェ911GT2（993GT2）	M61	YO	--	51		1'28.736/33
	300	44	新田 守男／P.ダンブレック	アペックスDLモモコルセMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	DL	--	46		1'26.753/22
	500	13	木下 みつひろ／藤村 満男	エンドレス アドバンGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	31		1'23.762/18
	500	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	31		1'20.900/2
	500	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	21		1'21.622/6
	500	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	20kg	12		1'21.735/8
	500	5	M.グーセン／田嶋 栄一	5ZIGEN SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	11		1'22.151/12
	300	355	袖山 誠一／須賀 宏明	イエローマジックF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	11		1'30.780/38
	500	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	BS	--	9		1'25.552/19
	500	777	和田 孝夫／杉山 正巳	バルボリン ディアブロDL	ランボルギーニディアブロGTR	L522	DL	--	8		1'26.639/20
	300	51	池谷 勝則／石原 将光	コブラポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	7		1'29.292/36
	500	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	90kg	0		1'21.524/5
	300	72	M.ポーター／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	0		1'30.016/37
dq	500	18	金石 勝智／脇阪 寿一	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	78	1:56'37.158	1'21.082/3

●優勝スピード：148.628km/h　●最速ラップ：道上 龍（ホンダ）　1'22.329　161.976km/h　2周目
●ペナルティ：Car No.8…10秒ストップ、Car No.18…エアリストリクター違反により失格

“NICOS CUP GTオールスター戦'98”

●決勝日：11月15日／TIサーキット英田　●主催：TIサーキット／AC／テレビ東京／テレビ大阪　●天候：晴れ　●観客：4万7897人　●3.703km×67周＝248.101km　●参加：21台／決勝出走：21台／完走：14台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	山西 康司／T.コロネル	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	67	1:50'17.903	1'27.439/1
2	500-2	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	67	1:50'22.563	1'28.010/3
3	500-3	39	土屋 圭市／谷川 達也	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	67	1:50'33.264	1'28.137/5
4	500-4	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	67	1:50'38.464	1'29.866/10
5	500-5	12	星野 一義／黒澤 琢弥	カルソニック スカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	67	1:50'38.692	--------/19
6	500-6	37	鈴木 利男／K.バート	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	67	1:50'39.795	1'29.111/8
7	500-7	16	中子 修／道上 龍	Castrol無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	66	1:51'00.795	1'27.572/2
8	500-8	55	松田 秀士／木下 みつひろ	STPタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	66	1:51'45.823	1'30.598/13
9	300-1	25	鈴木 恵一／舘 信吾	つちやMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GTE	YO	--	64	1:50'19.374	1'33.947/14
10	500-9	30	山田 洋二／岡田 秀樹	NICOS PORSCHE	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-81	BS	--	64	1:50'36.612	--------/20
11	300-2	7	山路 慎一／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	64	1:51'48.827	1'35.776/16
12	300-3	15	近藤 真彦／青木 孝行	ザナヴィシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	63	1:50'38.002	--------/21
13	300-4	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン ダンロップ シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	DL	--	58	1:51'35.893	1'37.832/18
14	500-10	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	48	1:51'31.306	1'25.944/7
	300	61	中谷 明彦／原 貴彦	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	38		1'35.512/15
	300	77	小林 且雄／玉本 秀幸	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	25		1'35.976/17
	500	38	竹内 浩典／野田 英樹	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	23		1'29.425/9
	500	2	鈴木 亜久里／影山 正彦	ZEXELスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	6		1'30.293/12
	500	36	関谷 正徳／N.フォンタナ	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	0		1'28.453/6
	500	18	金石 勝智／脇阪 寿一	TAKATA童夢無限NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	0		1'28.094/4
	500	50	本山 哲／土屋 武士	ARTAスカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	0		1'29.958/11

●優勝スピード：134.962km/h　●最速ラップ：道上 龍（ホンダ）　1'29.772　148.496km/h

'99オートバックス全日本GT選手権第1戦“鈴鹿GT300km”

●決勝日：3月21日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：雨　●観客：3万9000人　●5.86403km×51周＝299.06553km　●参加：36台／決勝出走：34台／完走：29台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	51	2:03'21.555	2'13.037/1
2	500-2	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	51	2:04'01.347	2'14.698/2
3	500-3	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	51	2:04'14.322	2'16.374/7
4	500-4	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	51	2:04'16.962	2'16.088/4
5	500-5	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	51	2:04'17.872	2'19.170/9
6	500-6	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	51	2:04'55.953	2'19.400/10
7	500-7	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	50	2:03'33.355	2'24.012/12
8	500-8	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	49	2:04'13.837	2'22.954/26
9	500-9	55	松田 秀士／田嶋 栄一	STP タイサン バイパーGTSR	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	49	2:04'47.113	2'46.912/32
10	500-10	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	48	2:05'17.645	2'16.431/8
dq	300-	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	48	2:05'55.737	2'29.241/19
11	300-1	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	47	2:04'37.710	2'30.026/20
12	500-11	64	T.コロネル／山西 康司	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	47	2:04'39.212	2'15.790/3
13	500-12	11	和田 孝夫／木下 みつひろ	エンドレス アドバン GTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	47	2:04'41.575	2'56.107/33
14	300-2	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	47	2:05'03.993	2'32.212/30
15	300-3	910	余郷 敦／玉本 秀幸	ナインテンポルシェ	ポルシェ911RSR/GT2（993RSR）	M64-80	YO	--	47	2:05'16.428	2'26.183/15
16	500-13	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	47	2:05'54.737	2'20.562/11
17	500-14	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	46		2'17.661/6
18	500-15	88	和田 久／古谷 直広	JLOC ディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	--	46	2:03'54.302	2'25.761/26
19	300-4	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	46	2:05'24.711	2'27.372/16
20	300-5	26	須賀 宏明／砂子 智彦	TAISANポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993GT2）	M64-75	YO	--	45		2'31.515/23
21	300-6	14	古在 哲雄／小宮 延雄	ホイールショップアルタシルビア	シルビア（S14）	SR20	YO	--	45	2:04'13.347	2'30.902/21
22	300-7	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64	YO	--	45	2:04'47.494	2'31.447/22
23	300-8	25	新田 守男／菊地 靖	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	--	45	2:05'45.872	2'30.331/29
24	300-9	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	45	2:05'54.360	2'28.220/18
25	500-16	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	44	2:03'43.980	2'18.375/24
26	300-10	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	43	2:05'59.067	2'25.926/13
27	300-11	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	41	2:03'30.922	2'26.710/27
28	300-12	21	一ツ山 康／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW M3（E36）	S14	TY	--	40	2:05'16.263	2'29.068/28
29	500-17	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	37		3'04.258/34
	300	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	20		2'37.876/31
	500	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	12		2'16.825/5
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	10		2'26.142/14
	300	9	羽根 幸浩／徳田 照幸	大黒屋プロキダイポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	8		2'27.772/17
ns	300	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	--		2'30.280/35

●優勝スピード：145.461km/h　●最速ラップ：中子 修／道上 龍（ホンダ）　2'17.903　153.082km/h　24周目
●ペナルティ：Car No.71…1分加算＆再車検でエアリストラクター径の違反により失格、Car No.10…車両違反のため出走取消

'99オートバックス全日本GT選手権第2戦“全日本富士GT”

●決勝日：5月2日／富士　●主催：テレビ東京／VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ　●天候：晴れ　●観客：4万8100人　●4.400km×67周＝294.800km　●参加：41台／決勝出走：39台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	67	1:40'14.664	1'25.424/3
2	500-2	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	67	1:40'56.298	1'25.370/1
3	500-3	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	67	1:41'12.672	1'27.036/14
4	500-4	37	鈴木 利男／D.マニング	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	67	1:41'25.763	1'27.079/13
5	500-5	1	E.コマス／A.オロフソン	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	40kg	67	1:41'28.221	1'27.414/16
6	500-6	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	67	1:41'42.436	1'26.297/9
7	500-7	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	66	1:40'15.842	1'26.103/19
8	500-8	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	66	1:40'27.004	1'25.426/4
9	500-9	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	66	1:40'38.861	1'26.054/8
10	500-10	11	和田 孝夫／木下 みつひろ	エンドレス アドバン GTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	66	1:41'33.983	1'27.359/15
11	500-11	2	鈴木 亜久里／A.ハーネ	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	65	1:40'22.506	1'26.932/12
12	500-12	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	10kg	65	1:41'12.660	1'25.999/7
13	300-1	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	--	63	1:41'18.660	1'32.107/21
14	300-2	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	40kg	62	1:40'54.052	1'33.913/24
15	300-3	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	61	1:40'29.693	1'34.595/28
16	300-4	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	10kg	61	1:40'41.384	1'32.707/23
17	500-13	55	松田 秀士／田嶋 栄一	STPアドバンタイサン バイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	61	1:40'52.551	1'27.501/17
18	300-5	14	古在 哲雄／小宮 延雄	ホイールショップアルタシルビア	シルビア（S14）	SR20	YO	--	61	1:40'55.268	1'35.685/33
19	300-6	70	石橋 義三／星野 薫	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	60	1:40'46.112	1'35.546/31
20	300-7	910	余郷 敦／玉本 秀幸	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	30kg	60	1:40'58.564	1'35.517/30
21	300-8	355	井上 隆智穂／高橋 毅	イエローマジックF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	60	1:41'53.072	1'36.724/35
22	300-9	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	59	1:41'44.940	1'35.134/29
23	500-14	64	T.コロネル／山西 康司	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	10kg	58		1'25.625/5
24	500-15	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	53		1'25.414/2
25	300-10	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	52	1:40'36.369	1'36.168/34
26	300-11	20	松永 雅博／藤原 靖久	Kosei CELICA	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	48	1:40'31.101	1'34.477/27
nc	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	10kg	42	1:41'42.979	1'34.088/25
nc	300	21	一ツ山 康／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW M3（E36）	S14	TY	--	33	1:41'18.713	1'36.879/36
	500	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	19		1'25.996/6
	300	84	袖山 誠一／中村 善州	アイエーテックシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	19		1'40.919/39
	500	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	--	15		1'27.700/18
	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	15		1'32.258/22
	300	61	R.デルフラー／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	20kg	14		1'34.317/25
	300	26	須賀 宏明／D.マラガムワ	アドバンタイサンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	YO	--	12		1'37.437/37
	300	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	9		1'37.613/38
	300	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	3		1'35.859/32
	300	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	1		1'31.920/20
	500	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	0		1'28.558/10
	500	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	70kg	0		1'28.662/11
ns	300	24	平野 敏行／染葉 輝彦	ヒラノMS BP&μ R32GTS	スカイラインGTS（HCR32）	RB20DETT	YO	--	-		1'45.752/40

●優勝スピード：176.449km/h　●最速ラップ：飯田 章（ホンダ）　1'26.827　182.432km/h　4周目
●ペナルティ：Car No.64…10秒ストップ、Car No.24…車両違反のため出走取消

'99オートバックス全日本GT選手権第3戦“SUGO GT選手権”

●決勝日：5月30日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：4万600人　●3.704256km×81周＝300.04473km　●参加：38台／決勝出走：37台／完走：29台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:06'05.136	1'21.807/4
2	500-2	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:06'09.157	1'21.903/8
3	500-3	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	81	2:06'09.386	1'22.071/9
4	500-4	64	T.コロネル／山西 康司	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	10kg	81	2:06'09.771	1'22.259/10
5	500-5	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	30kg	81	2:06'16.071	1'22.774/14
6	500-6	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	81	2:06'16.307	1'22.964/15
7	500-7	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	81	2:06'16.744	1'23.514/17
8	500-8	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:06'19.066	1'22.483/12
9	500-9	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:06'47.632	1'22.337/11
10	500-10	11	和田 孝夫／木下 みつひろ	エンドレス アドバン GTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	80	2:06'09.701	1'23.053/16
11	500-11	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	80	2:06'10.647	1'21.795/3
12	500-12	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	80	2:06'33.549	1'21.864/6
13	500-13	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	70kg	79	2:06'10.292	1'21.554/2
14	300-1	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	76	2:06'50.042	1'26.939/20
15	300-2	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	50kg	76	2:07'01.461	1'27.126/21
16	300-3	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	30kg	77	2:07'01.010	1'28.793/26
17	300-4	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	10kg	77	2:07'11.722	1'27.844/24
18	500-14	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	--	76	2:06'42.779	1'24.288/19
19	300-5	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	10kg	76	2:07'11.320	1'28.931/29
20	300-6	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	10kg	76	2:07'11.828	1'28.805/27
21	500-15	55	D.シュワガー／田嶋 栄一	STPアドバンタイサン バイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	76	2:07'21.741	1'23.526/18
22	300-7	14	古在 哲雄／小宮 延雄	ホイールショップアルタシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	75	2:07'19.614	1'30.066/34
23	300-8	70	石橋 義三／酒井 浩	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	75	2:07'19.891	1'30.513/36
24	300-9	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	73	2:07'02.660	1'28.289/25
25	300-10	9	羽根 幸浩／徳田 照幸	大黒屋プロキダイポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	72	2:07'13.084	1'29.322/31
26	300-11	86	田中 実／雨宮 栄城	BP・KRAFT・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	TY	--	72	2:07'14.317	1'29.890/33
27	300-12	21	一ツ山 康／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW 320i（E36）	S14	TY	--	67		1'29.111/30
28	500-16	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	63		1'21.398/1
29	300-13	99	吉富 章／高橋 規一	大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	59		1'29.662/32
	300	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	50kg	47		1'27.499/22
	500	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	45		1'22.525/13
	300	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	33		1'27.704/23
	300	26	須賀 宏明／D.マラガムワ	アドバンタイサンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	YO	--	18		1'31.563/37
	500	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	15		1'21.837/5
	500	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	12		1'21.901/7
	300	355	井上 隆智穂／高橋 毅	イエローマジックF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	6		1'30.228/35
	300	910	余郷 敦／玉本 秀幸	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	20kg	3		1'28.923/28

●優勝スピード：142.781km/h　●最速ラップ：野田 英樹（トヨタ）　1'22.634　161.378km/h　5周目

'99オートバックス全日本GT選手権第4戦“CP MINE GT”

●決勝日：7月11日／美祢　●主催：CP MINEサーキット／CPMC　●天候：曇　●観客：4万2200人　●3.330839km×76周＝253.14376km　●参加：34台／決勝出走：34台／完走：27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	76	1:53'17.952	1'25.358/8
2	500-2	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	76	1:53'20.032	1'24.519/1
3	500-3	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	40kg	76	1:53'34.214	1'25.430/9
4	500-4	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	76	1:53'52.696	1'26.425/16
5	500-5	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	76	1:54'02.394	1'24.782/5
6	500-6	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	76	1:54'26.228	1'25.656/13
7	500-7	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	76	1:54'29.758	1'24.699/3
8	500-8	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	30kg	75	1:54'10.126	1'25.444/10
9	500-9	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	73	1:52'13.317	1'25.714/14
10	500-10	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	50kg	73	1:54'19.888	1'25.071/7
11	300-1	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	72	1:53'59.017	1'30.431/20
12	300-2	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	80kg	72	1:54'21.086	1'31.205/21
13	500-11	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	30kg	72	1:54'34.382	1'24.869/6
14	500-12	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	71		1'25.510/11
15	300-3	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	60kg	71	1:56'03.897	1'32.417/28
16	500-13	55	松田 秀士／田嶋 栄一	STPアドバンタイサン バイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	70	1:53'43.505	1'28.624/18
17	300-4	70	石橋 義三／酒井 浩	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	70	1:54'13.028	1'33.957/33
18	300-5	86	田中 実／雨宮 栄城	BPアペックスKRAFTトレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	TY	--	70	1:54'20.330	1'33.491/32
19	300-6	20	松永 雅博／藤原 靖久	オートレット セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	69	1:53'36.279	1'32.456/29
20	300-7	21	一ツ山 幹雄／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW 320i（E36）	S14	TY	--	69	1:53'45.202	1'33.195/30
21	300-8	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	20kg	66	1:53'36.896	1'31.477/24
22	300-9	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	65	1:54'10.101	1'33.327/31
23	500-14	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	65	1:54'17.232	1'24.624/2
24	300-10	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	64	1:53'31.373	1'31.566/25
25	300-11	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	64		1'31.869/26
26	500-15	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	70kg	62		1'25.964/15
27	300-12	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	61	1:54'46.406	1'31.446/23
	500	64	T.コロネル／山西 康司	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	10kg	61		1'24.710/4
	300	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	32		1'31.317/22
	300	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	21		1'33.271/34
	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	40kg	18		1'29.920/19
	500	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	17		1'25.556/12
	500	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	--	5		1'27.914/17
	300	26	須賀 宏明／D.シュワガー	アドバンタイサンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	YO	--	5		1'32.167/27

●優勝スピード：134.058km/h　●最速ラップ：P-H.ラファネル（トヨタ）　1'26.158　138.237km/h
●ペナルティ：Car No.99…1周減算、Car No.72…1周減算

'99オートバックス全日本GT選手権第5戦“JAPAN SPECIAL GT CUP”

●決勝日：8月8日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC　●天候：晴れ　●観客：6万2700人　●4.400km×57周＝250.800km　●参加：42台／決勝出走：40台／完走：36台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	57	1:26'41.511	1'27.052/4
2	500-2	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	57	1:27'12.088	1'27.945/7
3	500-3	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	60kg	57	1:27'13.723	1'26.339/14
4	500-4	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	57	1:27'13.847	1'26.906/1
5	500-5	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	57	1:27'18.534	1'26.207/10
6	500-6	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	57	1:27'20.766	1'26.026/8
7	500-7	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	57	1:27'24.928	1'27.919/5
8	500-8	64	T.コロネル／光貞 秀俊	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	57	1:27'29.422	1'26.066/9
9	500-9	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	70kg	57	1:27'34.339	1'28.514/15
10	500-10	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	57	1:27'39.086	1'27.932/6
11	500-11	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	57	1:27'53.613	1'29.434/17
12	500-12	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:26'10.531	1'28.265/12
13	500-13	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	56	1:26'44.511	1'26.934/2
14	500-14	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW（19R GTR）	S70/2GTR	BS	--	56	1:26'47.309	1'28.233/11
15	500-15	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	60kg	56	1:27'15.454	1'26.968/3
16	500-16	11	和田 孝夫／木下 みつひろ	エンドレス アドバン GTR	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	YO	--	56	1:27'41.502	1'29.158/16
17	300-1	26	松田 秀士／D.シュワガー	STPアドバンタイサン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	53	1:27'44.391	1'34.965/23
18	500-17	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ（ZA90DE068）	L532	TY	--	53	1:27'50.399	1'30.185/18
19	300-2	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	53	1:27'55.281	1'35.356/24
20	300-3	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	--	53	1:28'00.574	1'34.727/21
21	300-4	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	53	1:28'06.563	1'33.604/19
22	300-5	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	80kg	52	1:27'13.675	1'34.941/39
23	300-6	14	古在 哲雄／小宮 延雄	ホイールショップアルタシルビア	シルビア（S14）	SR20	YO	--	52	1:27'22.707	1'37.067/31
24	300-7	55	須賀 宏明／田嶋 栄一	アドバンタイサンポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-75	YO	--	52	1:27'56.371	1'37.600/34
25	300-8	910	余郷 敦／D.マラガムワ	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	20kg	52	1:28'21.642	1'36.473/28
26	300-9	21	一ツ山 康／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW M3（E36）	S14	TY	--	51	1:26'45.386	1'36.794/30
27	300-10	86	田中 実／雨宮 栄城	BP KRAFT トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	TY	--	51	1:27'38.564	1'39.183/40
28	300-11	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	51	1:28'16.032	1'38.894/38
29	300-12	355	井上 隆智穂／高橋 毅	イエローマジックF355GT	フェラーリF355	F129B	YO	--	49	1:26'51.952	1'39.409/37
30	300-13	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	49	1:27'04.721	1'36.567/29
31	300-14	911	石原 将光／野地 廣行	ダイヤモンドポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	--	49	1:27'28.037	1'41.070/35
32	300-15	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	46	1:27'20.163	1'37.433/33
33	300-16	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355（F355）	F129B	YO	--	46	1:27'54.116	1'37.878/35
34	300-17	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	46	1:28'00.946	1'37.096/32
35	300-18	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	20kg	44		1'34.906/22
36	300-19	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	10kg	40	1:27'40.891	1'36.136/2
nc	300	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	24	1:27'44.667	1'34.538/20
	300	20	松永 雅博／佐藤 久実	オートレット セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	30		1'36.074/26
	500	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	9		1'28.291/13
	300	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	70kg	3		1'35.386/25
ns	300	84	袖山 誠一／中村 誉州	アイエーテックシルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	-		1'50.456/41

●優勝スピード：173.580km/h　●最速ラップ：野田 英樹（トヨタ）　1'28.478　179.028km/h
●ペナルティ：Car No.88…10秒ストップ、Car No.10…10秒ストップ、Car No.111…10秒ストップ、Car No.71…10秒ストップ

'99オートバックス全日本GT選手権第6戦“晴れの国・岡山 GT選手権 in TI”

●決勝日：9月26日／TIサーキット英田　●主催：TIサーキット／AC／テレビ大阪／テレビ東京　●天候：曇　●観客：4万8800人　●3.703km×82周＝303.646km　●参加：37台／決勝出走：35台／完走：30台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	T.コロネル／光貞 秀俊	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	82	2:06'35.502	1'28.203/1
2	500-2	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	82	2:07'05.419	1'30.012/13
3	500-3	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	82	2:07'07.225	1'28.649/3
4	500-4	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	82	2:07'10.566	1'28.913/5
5	500-5	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	40kg	82	2:07'14.636	1'28.613/2
6	500-6	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	82	2:07'48.312	1'29.129/7
7	500-7	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGTR	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	80kg	81	2:06'40.874	1'29.533/8
8	500-8	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	81	2:06'46.291	1'29.035/6
9	500-9	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	80kg	81	2:06'57.623	1'29.969/12
10	500-10	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	81	2:07'11.704	1'29.670/9
11	500-11	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:07'17.219	1'29.896/10
12	500-12	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	81	2:07'23.747	1'30.630/16
13	500-13	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	80	2:06'36.593	1'30.122/14
14	500-14	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW（19R GTR）	S70/2GTR	BS	--	80	2:07'41.103	1'30.561/15
15	500-15	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	80kg	80	2:07'46.511	1'29.957/11
16	500-16	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	50kg	78	2:06'38.638	1'28.822/4
17	300-1	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	77	2:07'21.662	1'35.381/18
18	300-2	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	76	2:06'43.098	1'35.879/22
19	300-3	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	20kg	76	2:06'44.297	1'35.574/20
20	300-4	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	70kg	76	2:07'19.635	1'35.821/21
21	300-5	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	50kg	76	2:07'53.979	1'36.653/25
22	300-6	55	須賀 宏明／田嶋 栄一	アドバンタイサンポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993RSR）		YO	--	75	2:07'33.888	1'37.085/29
23	300-7	86	田中 実／雨宮 栄城	BPアペックスKRAFTトレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	TY	--	75	2:07'37.083	1'38.048/34
24	300-8	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	20kg	75	2:07'45.934	1'36.438/24
25	300-9	910	余郷 敦／D.マラガムワ	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	20kg	75	2:07'58.001	1'36.734/26
26	300-10	70	石橋 義三／星野 薫	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	74	2:07'40.699	1'39.159/36
27	300-11	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	72	2:07'13.893	1'35.194/35
28	300-12	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	71	2:07'22.625	1'36.739/27
29	300-13	9	羽根 幸浩／徳田 照幸	大黒屋プロキダイポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	68	2:07'17.312	1'40.402/37
30	300-14	21	一ツ山 幹雄／伊藤 大輔	BP-トランピオ-BMW	BMW 320i（E36）	S14	TY	--	65	2:08'11.639	1'37.784/33
nc	300	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	48	2:07'16.277	1'37.284/31
	300	26	松田 秀士／D.シュワガー	STPアドバンタイサン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	51		1'35.547/19
	300	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	36		1'37.132/30
	300	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	10kg	30		1'37.266/32
	500	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ（ZA90DE068）	L532	TY	--	26		1'32.726/17
	300	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	80kg	25		1'35.907/23
ns	300	20	松永 雅博／佐藤 久実	オートレット セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	--	-		1'37.060/23

●優勝スピード：143.917km/h　●最速ラップ：光貞 秀俊（ホンダ）　1'29.376　149.154km/h
●ペナルティ：Car No.16…10秒ストップ

'99オートバックス全日本GT選手権第7戦“もてぎGTチャンピオン”

●決勝日：10月24日／もてぎ　●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：晴れ　●観客：4万2300人　●4.801379km×63周＝302.48687km　●参加：39台／決勝出走：37台／完走：29台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	63	1:59 11.065	1'48.374/1
2	500-2	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	30kg	63	1:59 21.782	1'49.015/4
3	500-3	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	60kg	63	1:59 21.894	1'49.158/6
4	500-4	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	30kg	63	1:59 23.445	1'48.595/2
5	500-5	64	T.コロネル／光貞 秀俊	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	90kg	63	1:59 52.813	1'49.368/10
6	500-6	35	P-H.ラファネル／山路 慎一	マツモトキヨシ・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	63	1:59 59.326	1'48.678/3
7	500-7	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	63	2:00 10.435	1'49.248/8
8	500-8	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	—	63	2:00 17.124	1'49.808/14
9	500-9	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	60kg	63	2:00 20.442	1'49.320/9
10	500-10	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	50kg	63	2:00 31.963	1'49.704/13
11	500-11	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	—	62	1:59 14.143	1'50.006/15
12	500-12	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	62	1:59 23.549	1'49.373/11
13	500-13	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	60kg	61	1:59 17.609	1'49.021/5
14	300-1	26	松田 秀士／D.シュワガー	STPアドバンタイサン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	40kg	59	1:59 24.272	1'57.803/21
15	500-14	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	—	59	1:59 27.425	1'52.399/17
16	300-2	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	50kg	59	2:00 08.274	1'57.776/20
17	300-3	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	60kg	59	2:00 17.810	1'57.653/19
18	300-4	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	59	2:00 31.017	1'57.485/18
19	300-5	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	80kg	59	2:01 02.299	1'58.665/23
20	300-6	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	40kg	58	1:59 44.556	1'59.057/26
21	300-7	61	中谷 明彦／R.ファーマン	テイボン・トランピオ・FTO	ミツビシFTO（DE3A）	4G63	TY	10kg	58	2:00 42.007	1'59.195/27
22	300-8	14	古在 哲雄／小宮 延雄	ホイールショップアルタシルビア	シルビア（S14）		YO	—	58	2:01 13.046	2'00.617/33
23	300-9	910	余郷 敦／砂子 智彦	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911RSR/GT2（993RSR）		YO	20kg	57	1:59 29.392	1'59.550/29
24	300-10	10	麻生 英彦／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	—	57	1:59 58.575	1'59.021/25
25	300-11	55	須賀 宏明／田嶋 栄一	アドバンタイサンポルシェRSR	ポルシェ911RSR（993GT2）	M64-75	YO	—	57	2:01 01.668	2'00.483/32
26	300-12	99	吉富 章／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	—	56	1:59 43.618	2'01.335/37
27	300-13	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）		YO	—	56	1:59 57.365	2'04.009/35
28	300-14	20	松永 雅博／佐藤 久実	オートレット セリカ	セリカ（ST205）	3S-G	YO	—	54	2:00 06.628	1'59.735/30
29	500-15	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	—	53	1:59 37.415	1'50.022/16
	300	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	—	37		2'01.268/34
	300	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	—	37		2'00.346/36
	300	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	70kg	32		1'57.851/22
	300	355	井上 隆智穂／高橋 毅	イエローマジックF355GT	フェラーリF355（F355）	F129B	YO	—	24		1'59.486/28
	500	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	90kg	11		1'49.426/12
	500	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	4		1'49.223/7
	300	86	田中 実／雨宮 栄城	BPアペックスKRAFTトレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	TY	—	2		1'58.741/24
	300	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	10kg	--	スタートできず	1'59.772/31

●優勝スピード：152.279km/h　●最速ラップ：黒澤 琢弥（トヨタ）　1'50.632　156.238km/h　3周目
●ペナルティ：Car No.64…10秒ストップ、Car No.37…10秒ストップ、Car No.70…10秒ストップ

“NICOS CUP GTオールスター戦'99”

●決勝日：11月28日／オートポリス　●主催：MCO　●天候：曇　●観客：4万8800人　●4.674km×54周＝252.396km　●参加：25台／決勝出走：25台／完走：22台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	T.コロネル／光貞 秀俊	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:46'04.232	1'43.235/1
2	500-2	100	高橋 国光／飯田 章	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:46'07.756	1'44.343/5
3	500-3	2	鈴木 亜久里／M.クルム	ARTAゼクセルスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:46'42.610	1'45.693/12
4	500-4	1	E.コマス／本山 哲	ペンズオイル・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:46'52.637	1'45.036/9
5	500-5	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:47'41.928	1'43.573/2
6	500-6	36	関谷 正徳／黒澤 琢弥	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	54	1:48'00.059	1'44.561/7
7	500-7	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	54	1:48'00.449	1'44.403/6
8	500-8	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	53	1:46'48.949	1'44.755/8
9	500-9	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシアジェックススカイライン	スカイラインGTR（BCNR33）	RB26DETT	BS	--	53	1:46'52.191	1'45.731/13
10	500-10	55	田嶋 栄一／本庄 康幸	ECLIPSEタイサン バイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	52	1:47'21.046	1'49.209/16
11	500-11	12	星野 一義／影山 正美	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	52	1:47'38.266	1'45.953/14
12	500-12	88	和田 久／古谷 直広	ノマドディアブロGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	TY	--	52	1:47'58.439	1'55.553/24
13	500-13	39	土屋 圭市／影山 正彦	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	51	1:47'04.249	1'45.561/11
14	500-14	30	山田 洋二／岡田 秀樹	NICOS McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	51	1:47'12.490	1'45.296/10
15	300-1	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC4）	EJ20	YO	--	50	1:46'36.724	1'53.547/18
16	300-2	7	松本 晴彦／山野 哲也	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	50	1:47'24.120	1'53.623/19
17	300-3	15	土屋 武士／井出 有治	ザナヴィARTAシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	49	1:46'07.451	1'54.075/21
18	300-4	81	福山 英朗／大八木 信行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	49	1:46'50.703	1'54.102/22
19	300-5	19	織戸 学／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	49	1:47'41.566	1'53.358/17
20	300-6	25	新田 守男／高木 真一	モモコルセ・アペックスMR2	トヨタMR2（SW20）	3S-GT	YO	--	49	1:48'07.563	1'53.625/20
21	500-15	6	野田 英樹／W.ガードナー	ESSO Tiger Supra	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	48	1:47'08.621	1'44.268/4
22	300-7	26	松田 秀士／D.シュワガー	STPアドバンタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	39		出走せず/25
	500	37	鈴木 利男／片山 右京	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	24		1'46.735/15
	500	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	23		1'43.592/3
	300	72	石川 朗／平野 功	オークラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	14		1'57.662/23

●優勝スピード：142.771km/h　●最速ラップ：道上 龍（ホンダ）　1'54.037　147.552km/h　28周目
●Car No.26…10秒ストップ

'00オートバックス全日本GT選手権第1戦“もてぎGTチャンピオン”

●決勝日：4月2日／もてぎ ●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC ●天候：晴れ ●観客：4万2500人 ●4.801379km×63周＝302.48687km ●参加：38台／決勝出走：35台／完走：28台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Quality Time/Pos.
1	500-1	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	63	2:03'54.058	1'48.600/4
2	500-2	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	63	2:04'17.194	1'48.442/2
3	500-3	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	63	2:04'34.928	1'49.826/13
4	500-4	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	63	2:04'47.347	1'49.359/8
5	500-5	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	63	2:04'48.669	1'49.152/7
6	500-6	2	井出 有治／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	63	2:04'50.364	1'50.242/15
7	500-7	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	63	2:04'51.992	1'49.448/10
8	500-8	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	63	2:05'24.454	1'49.585/12
9	500-9	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	63	2:05'41.580	1'50.385/16
10	500-10	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	62	2:04'06.568	1'50.531/17
11	500-11	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	62	2:04'18.208	1'49.466/11
12	500-12	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	62	2:04'19.076	1'50.708/18
13	500-13	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	62	2:04'19.321	1'51.069/19
14	500-14	21	一ツ山 幹雄／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	61	2:04'06.694	1'50.222/14
15	500-15	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	59	2:04'36.930	1'51.605/20
16	300-1	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	59	2:05'04.496	1'56.733/22
17	300-2	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	59	2:05'09.293	1'57.992/26
18	500-16	55	須賀 宏明／柴原 眞介	イクリプスRDタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	59	2:05'47.149	1'52.044/21
19	300-3	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	58	2:03'57.044	1'57.610/25
20	300-4	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	58	2:04'02.254	1'57.022/23
21	300-5	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	58	2:04'11.296	1'57.369/24
22	300-6	31	新田 守男／五十嵐 勇大	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GT	YO	--	58	2:04'23.735	1'59.182/28
23	300-7	10	檜井 保孝／山岸 大	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	58	2:04'24.504	1'59.982/29
24	300-8	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	57	2:06'01.253	2'03.177/31
25	300-9	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	56	2:05'00.444	2'01.747/30
26	300-10	27	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテールプロジェポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	56	2:05'35.435	2'04.376/32
27	500-17	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	2:04'56.080	1'49.075/5
28	300-11	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	51	2:04'06.259	2'06.267/34
nc	300	9	佐々木 秀六／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	36	2:05'26.236	2'03.002/33
	500	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	52		1'48.574/3
	500	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	39		1'46.968/1
	500	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	26		1'49.134/6
	500	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	11		1'49.437/9
	300	911	石原 将光／砂子 智彦	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	--	9		1'58.442/27
ns	300	11	北浦 健吾／宮城 光	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911RSR	M64-81	YO	--	--		2'33.023/35

●優勝スピード：146.482km/h ●最速ラップ：脇阪 寿一（ホンダ） 1'48.462 159.364km/h 4周目
●ペナルティ：Car No.55…1分加算

'00オートバックス全日本GT選手権第2戦“全日本富士GT”

●決勝日：5月4日／富士 ●主催：VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ ●天候：曇 ●観客：4万8500人 ●4.400km×67周＝294.800km ●参加：41台／決勝出走：37台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Quality Time/Pos.
1	500-1	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	67	1:40'04.816	1'25.017/1
2	500-2	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	67	1:40'19.055	1'25.508/3
3	500-3	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	67	1:40'21.153	1'25.772/5
4	500-4	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	67	1:40'28.044	1'25.136/2
5	500-5	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	67	1:40'36.496	1'26.360/9
6	500-6	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	50kg	67	1:40'47.139	1'26.632/13
7	500-7	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	20kg	67	1:40'48.983	1'26.560/12
8	500-8	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	50kg	67	1:40'50.571	1'26.057/6
9	500-9	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	67	1:41'06.301	1'26.843/16
10	500-10	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	67	1:41'20.390	1'27.110/18
11	500-11	21	一ツ山 康／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	66	1:40'05.883	1'25.571/4
12	500-12	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	66	1:40'14.225	1'26.886/15
13	300-1	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	50kg	62	1:40'37.096	1'33.589/20
14	300-2	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	62	1:40'38.691	1'33.654/21
15	300-3	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	62	1:40'55.228	1'34.521/28
16	300-4	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	62	1:40'56.711	1'33.973/23
17	300-5	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	30kg	62	1:41'35.808	1'34.495/27
18	300-6	86	田中 実／松田 晃司	BP・KRAFT・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	--	61	1:40'29.020	1'33.932/22
19	500-13	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	61	1:41'12.734	1'28.197/36
20	300-7	10	檜井 保孝／山岸 大	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-52	YO	--	60		1'35.829/30
21	300-8	911	石原 将光／砂子 智彦	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	60	1:41'45.883	1'34.361/25
22	300-9	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	59	1:41'07.153	1'38.439/35
23	300-10	31	新田 守男／五十嵐 勇大	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	59	1:41'23.037	1'34.377/26
24	300-11	9	羽根 幸浩／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-50	DL	--	55	1:41'32.495	1'36.446/32
25	500-14	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	52	1:41'01.866	1'26.281/7
26	300-12	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	44		1'37.213/33
nc	500	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	7	1:40'11.376	1'26.493/11
	500	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	35		1'26.664/14
	300	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	10kg	32		1'34.139/24
	300	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	29		1'35.319/29
	500	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	17		1'26.282/8
	300	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	17		1'37.398/34
	300	51	袖山 誠一／山田 英二	オートスタッフ アドバン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	15		1'35.853/31
	500	55	須賀 宏明／柴原 眞介	イクリプスRDタイサンバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	3		出走せず/38
	500	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	0		1'26.489/10
	500	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	0		1'26.982/17
	500	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	0		1'27.291/19
ns	500	69	D.マラガムワ／S.ヤング	RGS-MIRAGE	RGSミラージュGT1・シボレー		YO	--	-		1'37.253/37
ns	300	11	宮城 光／北浦 健吾	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	-	DNQ	1'40.664/39

●優勝スピード：176.738km/h ●最速ラップ：脇阪 寿一（ホンダ） 1'26.618 182.872km/h 3周目

1999シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 3/21 鈴鹿	第2戦 5/2 富士	第3戦 5/30 菅生	第4戦 7/11 美祢	第5戦 8/8 富士	第6戦 9/26 TI英田	第7戦 10/24 もてぎ	Total
1	E.コマス	15	8	6	20	12	4	12	77
2	関谷 正徳／黒澤 琢弥	10	2	20	1	10	10	20	73
3	本山 哲	15		6	20	12	4	12	69
4	脇阪 寿一／金石 勝智	20				15	12		47
5	T.コロネル			10		3	20	8	41
6	鈴木 亜久里	8		2			15	15	40
6	M.クルム	8		2			15	15	40
7	星野 一義／影山 正美	1	12	8	6	8	1	4	40
8	鈴木 利男	12	10		15			1	38
9	中子 修／道上 龍			12	12	2		10	36
10	高橋 国光／飯田 章		20			4	8	2	34
11	野田 英樹／W.ガードナー		3		8	20	2		33
12	光貞 秀俊					3	20	8	31
13	竹内 浩典／立川 祐路	4	15		3	6	3		31
14	片山 右京	12			15			1	28
15	P-H.ラファネル／山路 慎一			15			6	6	27
16	長谷見 昌弘／田中 哲也	6	4	4	10			3	27
17	木下 隆之／近藤 真彦	3	6	3					12
18	D.マニング		10						10
18	山西 康司			10					10
20	A.オロフソン		8						8
21	土屋 圭市／影山 正彦				4	1			5
22	松田 秀士	2							2
22	田嶋 栄一	2							2
22	山田 洋二／岡田 秀樹				2				2
25	和田 孝夫／木下 みつひろ		1	1					2

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 3/21 鈴鹿	第2戦 5/2 富士	第3戦 5/30 菅生	第4戦 7/11 美祢	第5戦 8/8 富士	第6戦 9/26 TI英田	第7戦 10/24 もてぎ	Total
1	新田 守男	3	20	15	15	8		12	73
2	土屋 武士／井出 有治	2		20	20		20	10	72
3	高木 真一		20	15	15	8		12	70
3	織戸 学／原 貴彦	20	15		12		8	15	70
5	松本 晴彦／山野 哲也	10	10			15	15	8	58
6	中谷 明彦／R.ファーマン	15		6		12	3	4	42
7	松田 秀士					20		20	40
7	D.シュワガー					20		20	40
8	福山 英朗／大八木 信行	1		12		10	10		33
9	小林 且雄／谷川 達也			10	3		12	6	31
10	古在 哲雄／小宮 延雄	6	6	4		6		3	27
11	石橋 義三	4	6	3	10		1		24
12	余郷 敦	12	4			3	2	2	23
13	城内 政樹／河野 尚裕		12	6					18
14	須賀 宏明	8				4	6		18
15	玉本 秀幸	12	4						16
16	酒井 清			3	10				13
17	田中 実／雨宮 栄城				8	1	4		13
18	砂子 智彦	8						2	10
19	田嶋 栄一					4	6		10
20	星野 薫		6				1		7
21	松永 雅博				6				6
21	藤原 靖久				6				6
23	伊藤 大輔				4	2			6
24	D.マラガムワ					3	2		5
25	P.バン・スクート	4							4
25	一ツ山 幹雄				4				4
27	吉富 章		2		2				4
27	日置 恒文		2		2				4
28	麻生 英彦／檜井 保孝		1	2				1	4
29	菊地 靖	3							3
29	井上 隆智穂／高橋 毅		3						3
31	一ツ山 康					2			2
32	羽根 幸浩／徳田 照幸			1					1
32	石川 朗／平野 功				1				1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 3/21 鈴鹿	第2戦 5/2 富士	第3戦 5/30 菅生	第4戦 7/11 美祢	第5戦 8/8 富士	第6戦 9/26 TI	第7戦 10/24 もてぎ	Total
1	TOYOTA Castrol TEAM TOM'S	12	10	20	15	10	10	20	97
2	NISMO	15	8	6	20	12	15	15	91
3	MUGEN・DOME PROJECT	20		12	12	15	12	10	81
4	NAKAJIMA PLANNING			10		3	20	8	41
5	TEAM IMPUL	1	12	8	6	8	1	4	40
6	TEAM KUNIMITSU with MOONCRAFT		20			4	8	2	34
7	ESSO Tiger Team LeMans		3		8	20	2		33
8	TOYOTA TEAM CERUMO	4	15		3	6	3		31
9	マツモトキヨシ TEAM TOM'S			15			6	6	27
10	ハセミ・モータースポーツ	6	4	4	10			3	27
11	cdma One TOYOTA TEAM CERUMO with Key's	3	6	3					12
12	TOYOTA TEAM SARD				4	1			5
13	TEAM TAISAN	2							2
13	TEAM TAKE ONE				2				2
15	ENDLESS SPORTS		1	1					2

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 3/21 鈴鹿	第2戦 5/2 富士	第3戦 5/30 菅生	第4戦 7/11 美祢	第5戦 8/8 富士	第6戦 9/26 TI	第7戦 10/24 もてぎ	Total
1	MOMO CORSE Racing Team with Tsuchiya	3	20	15	15	8		12	73
2	NISMO	2		20	20		20	10	72
3	RACING PROJECT BANDOH	20	15		12		8	15	70
4	RE雨宮レーシング	10	10			15	15	8	58
5	TEAM TAISAN Jr.	8				20		20	48
6	TEAM TAEIVON RALLIART	15		8		12	3	4	42
7	TEAM DAISHIN	1		12		10	10		33
8	CUSCO RACING			10	3		12	6	31
9	ALTA RACING TEAM	6	6	4		6		3	27
10	TEAM GAIKOKUYA	4	6	3	10		1		24
11	910 RACING	12	4			3	2	2	23
12	SHIGMATEC RACING TEAM		12	6					18
13	KRAFT				8	1	4		13
14	TEAM TAISAN					4	6		10
15	SPIRIT TOM'S				6				6
16	HITOTSUYAMA RACING				4	2			6
17	TEAM DAIKOKUYA		2	1	2				5
18	ABILITY MOTOR SPORT		1	2				1	4
19	YELLOW.MAGIC		3						3
20	OKURA ROTARY RACING				1				1

1999 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003

'00オートバックス全日本GT選手権第5戦"GT CHAMPIONSHIP in TI"

●決勝日：9月10日／TIサーキット英田　●主催：TIサーキット／AC　●天候：晴れ　●観客：4万9200人　●3.703km×82周＝303.646km　●参加：42台／決勝出走：39台／完走：33台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	10kg	82	2:07'40.269	1'28.097/1
2	500-2	16	道上 龍／光貞 秀俊	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	40kg	82	2:07'46.962	1'28.377/3
3	500-3	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	82	2:07'50.879	1'28.324/2
4	500-4	30	岡田 秀樹／松田 次生	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	82	2:08'28.875	1'28.550/6
5	500-5	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	82	2:08'30.936	1'28.682/9
6	500-6	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	82	2:08'40.534	1'29.427/13
7	500-7	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	40kg	82	2:08'59.971	1'29.745/14
8	500-8	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	82	2:09'24.127	1'30.133/17
9	500-9	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	81	2:07'40.303	1'29.117/12
10	500-10	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	70kg	81	2:07'49.094	1'28.608/8
11	500-11	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	81	2:07'50.492	1'28.513/4
12	500-12	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:06'05.030	1'29.673/15
13	500-13	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:06'28.278	1'30.967/19
14	500-14	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	81	2:06'48.179	1'28.552/7
15	500-15	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:09'03.702	1'30.166/18
16	500-16	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	50kg	80	2:05'53.881	1'28.990/11
17	500-17	21	一ツ山 幹雄／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGT-R	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	79	2:07'47.832	1'29.984/16
18	300-1	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンウェディングアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	60kg	76	2:07'40.512	1'36.290/23
19	300-2	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	76	2:05'38.107	1'35.469/21
20	500-18	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	75	2:07'52.439	1'32.591/20
21	300-3	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	20kg	75	2:08'10.798	1'43.305/38
22	300-4	71	城内 政樹／竹中 正信	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	75	2:08'20.892	1'36.827/31
23	300-5	11	北浦 健吾／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	74	2:08'15.794	1'36.859/32
24	300-6	20	松永 雅博／佐藤 久実	ネッツアペックススピリットMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	74	2:08'18.468	1'36.417/24
25	300-7	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	80kg	74	2:08'51.085	1'36.686/27
26	300-8	28	須賀 宏明／柴原 眞介	イクリプスRDタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	50kg	74	2:09'05.755	1'36.873/28
27	300-9	86	田中 実／松田 晃司	BP KRAFT トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	10kg	74	2:09'17.067	1'38.460/30
28	300-10	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2		YO	--	73	2:09'03.707	1'40.227/36
29	300-11	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM-C TWS F355	フェラーリF355（F355）	F129B	YO	--	72	2:08'13.510	1'38.878/33
30	300-12	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ヒマラヤ D-PROJET RSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	--	67	2:03'01.460	1'43.538/39
31	300-13	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	66	2:08'52.687	1'36.938/29
32	300-14	27	平川 晃／橋村 俊英	PCJ塩見設計&千成ポルシェ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	61		1'40.634/37
33	300-15	51	袖山 誠一／尾本 直史	C-WESTオートスタッフ ADVAN シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	55	2:08'17.210	1'39.444/34
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	46		1'36.567/25
	300	31	新田 守男／高木 真一	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	45		1'36.136/22
	500	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	40kg	26		1'28.821/10
	300	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	70kg	26		1'36.661/26
	500	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	60kg	23		1'28.532/5
	300	9	羽根 幸浩／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	13		1'39.454/35

●優勝スピード：142.701km/h　●最速ラップ：E.コマス（ニッサン）　1'29.704　148.609km/h
●ペナルティ：Car No.35…10秒ストップ

'00オートバックス全日本GT選手権第6戦"CP MINE GT"

●決勝日：10月1日／美祢　●主催：CP MINEサーキット／CPMC　●天候：晴れ　●観客：3万2900人　●3.330839km×76周＝253.14376km　●参加：38台／決勝出走：35台／完走：27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	76	2:05'47.059	1'35.304/5
2	500-2	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	60kg	76	2:05'48.715	1'34.624/1
3	500-3	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	40kg	76	2:06'15.907	1'35.438/6
4	500-4	16	道上 龍／光貞 秀俊	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	90kg	76	2:06'53.182	1'35.172/3
5	500-5	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	40kg	76	2:07'03.848	1'36.478/11
6	500-6	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	80kg	75	2:06'07.458	1'36.250/10
7	500-7	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	75	2:06'36.876	1'36.773/17
8	500-8	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	75	2:06'45.484	1'37.539/13
9	500-9	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	75	2:06'45.797	1'36.053/15
10	500-10	21	一ツ山 幹雄／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGT-R	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	75	2:07'00.822	1'36.658/16
11	500-11	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	74	2:06'05.592	1'41.114/22
12	500-12	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	73	2:05'51.672	1'42.546/28
13	300-1	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	60kg	72	2:07'06.695	1'41.182/23
14	300-2	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンウェディングアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	60kg	72	2:07'14.945	1'42.068/26
15	300-3	28	須賀 宏明／柴原 眞介	RDタイサンBP GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	50kg	71	2:06'25.143	1'39.168/19
16	300-4	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	71	2:06'36.401	1'40.395/20
17	300-5	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	71	2:06'37.682	1'44.114/31
18	300-6	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	71	2:06'41.389	1'45.976/35
19	300-7	71	城内 政樹／竹中 正信	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	71	2:07'18.639	1'43.797/30
20	300-8	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	70	2:05'49.686	1'42.333/27
21	300-9	20	松永 雅博／佐藤 久実	ネッツアペックススピリットMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	70	2:07'06.792	1'45.187/33
22	300-10	55	山田 英二／田崎 貴英	DUPLEXタイサンADバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	69	2:06'04.000	1'42.066/25
23	300-11	51	袖山 誠一／尾本 直史	C-WESTオートスタッフ ADVAN シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	69	2:06'07.018	1'44.958/32
24	300-12	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	69	2:06'37.372	1'45.449/34
25	300-13	86	田中 実／松田 晃司	BP・KRAFT・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	10kg	69	2:09'39.610	1'46.334/36
26	300-14	31	新田 守男／高木 真一	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GT	YO	10kg	67	2:05'50.953	1'41.554/24
27	300-15	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	30kg	59	2:07'17.447	1'43.335/29
	500	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	32		1'35.188/4
	500	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	30		1'36.082/9
	300	11	木下 淳／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	23		1'40.881/21
	500	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	14		1'39.106/18
	500	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	0		1'35.795/8
	500	30	岡田 秀樹／松田 次生	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	0		1'37.700/14
	500	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	0		1'36.654/12
	500	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	0		1'34.705/2
	500	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	40kg	0		1'35.552/7

●優勝スピード：120.751km/h　●最速ラップ：E.コマス（ニッサン）　1'26.713　138.284km/h

'00オートバックス全日本GT選手権第3戦"SUGO GT選手権"

●決勝日：5月28日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：4万100人　●3.704256km×81周＝300.04473km　●参加：37台／決勝出走：34台／完走：27台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	81	1:56'02.230	1'20.581/2
2	500-2	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	81	1:56'12.973	1'20.763/5
3	500-3	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	1:56'14.880	1'21.249/8
4	500-4	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	90kg	81	1:56'35.818	1'20.296/1
5	500-5	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	1:56'37.932	1'21.367/12
6	500-6	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	81	1:56'38.199	1'21.360/11
7	500-7	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	81	1:56'41.799	1'20.735/4
8	500-8	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	1:56'48.620	1'21.178/7
9	500-9	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	1:57'03.475	1'20.713/3
10	500-10	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	81	1:57'07.770	1'21.253/9
11	500-11	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	50kg	81	1:57'16.517	1'21.291/10
12	500-12	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	81	1:57'27.330	1'21.467/14
13	500-13	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	80	1:57'17.906	1'21.945/16
14	500-14	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	78	1:56'37.373	1'21.946/17
15	500-15	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	77	1:56'37.712	1'21.416/13
16	500-16	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	77	1:56'44.560	1'22.374/19
17	300-1	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	75	1:56'23.637	1'28.569/25
18	300-2	10	桧井 保孝／山岸 大	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	75	1:56'43.721	1'29.042/28
19	300-3	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	75	1:56'47.422	1'29.269/29
20	300-4	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	75	1:57'27.660	1'29.767/30
21	300-5	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	71	1:56'09.761	1'30.814/33
22	300-6	31	新田 守男／五十嵐 勇大	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	71	1:56'19.010	1'28.566/27
23	300-7	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	70	1:56'28.825	1'30.970/34
24	300-8	51	袖山 誠一／山田 英二	オートスタッフ アドバン シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	70	1:57'13.636	1'30.191/32
25	500-17	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	69		1'23.052/20
26	300-9	26	福山 英朗／水野 文則	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）		YO	80kg	67	1:56'49.067	1'28.139/22
27	300-10	28	須賀 宏明／柴原 眞介	イクリプスRDタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）		YO	--	67	1:57'27.689	1'29.822/31
nc	300	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	20kg	47	1:57'13.069	1'25.403/24
	300	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	30kg	47		1'27.272/21
	500	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	27		1'22.351/18
	500	21	一ツ山 康／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	13		1'20.859/6
	300	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンウェディングアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	60kg	10		1'26.306/23
	300	911	石原 将光／砂子 智彦	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	10		1'28.152/35
	500	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	30kg	3		1'21.681/15
ns	300	86	田中 実／松田 晃司	BP KRAFT トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	10kg	-		1'26.549/25
ns	500	69	D.マラガムワ／玉本 秀幸	RGS-MIRAGE	RGSミラージュGT1・シボレー		YO	--	-		1'29.916/36

●優勝スピード：155.146km/h　●最速ラップ：D.シュワガー（ホンダ）　1'22.210　162.210km/h

'00オートバックス全日本GT選手権第4戦"JAPAN SPECIAL GT CUP"

●決勝日：8月6日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC　●天候：晴れ　●観客：5万9200人　●4.400km×57周＝250.800km　●参加：44台／決勝出走：41台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	57	1:41'30.521	1'26.666/5
2	500-2	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	57	1:41'35.300	1'26.322/2
3	500-3	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:41'46.721	1'26.864/8
4	500-4	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	10kg	57	1:41'49.504	1'26.944/10
5	500-5	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	57	1:41'58.083	1'26.456/4
6	500-6	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	30kg	57	1:41'59.446	1'26.982/11
7	500-7	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	57	1:42'00.847	1'26.690/6
8	500-8	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	57	1:42'02.538	1'27.573/15
9	500-9	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	70kg	57	1:42'03.467	1'26.927/9
10	500-10	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	60kg	57	1:42'13.187	1'26.997/12
11	500-11	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:42'18.972	1'28.037/17
12	500-12	30	山田 洋二／岡田 秀樹	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	57	1:42'41.616	1'28.827/7
13	500-13	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	57	1:42'44.826	1'27.112/14
14	500-14	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	56	1:42'09.640	1'28.422/18
15	500-15	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	56	1:44'09.022	1'26.411/3
16	500-16	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	55	1:41'50.791	1'30.249/20
17	300-1	28	須賀 宏明／柴原 眞介	イクリプスRDタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	--	55	1:42'36.760	1'34.276/23
18	300-2	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	55	1:43'02.686	1'33.497/22
19	300-3	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	40kg	54	1:41'36.664	1'34.381/24
20	300-4	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンウェディングアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	70kg	54	1:41'37.661	1'34.514/27
21	300-5	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	10kg	54	1:42'01.433	1'35.418/31
22	300-6	31	新田 守男／高木 真一	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	54	1:42'07.327	1'34.509/25
23	300-7	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	80kg	53	1:42'16.741	1'35.021/28
24	300-8	51	袖山 誠一／尾本 直史	C-WESTオートスタッフ ADVAN シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	53	1:42'45.555	1'37.263/37
25	300-9	911	石原 将光／砂子 智彦	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	10kg	52	1:42'55.565	1'35.342/30
26	500-17	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	90kg	51		1'27.151/15
27	300-10	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	51	1:41'43.811	1'38.561/39
28	300-11	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ヒマラヤ D-PROJET RSR	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	YO	--	50	1:41'35.667	1'41.230/42
29	300-12	86	田中 実／松田 晃司	BP・KRAFT・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	10kg	50	1:42'24.426	1'36.622/35
30	300-13	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター		YO	--	49		1'38.270/38
31	300-14	11	北浦 健吾／宮城 光	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	--	49	1:41'57.131	1'41.835/40
32	500-18	55	山田 英二／田崎 貴英	イクリプスDUPLEXバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	48	1:42'33.043	1'30.475/21
33	300-15	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM GAINER F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	47	1:42'28.624	1'35.877/32
34	500-19	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	43		1'28.441/19
	300	10	桧井 保孝／山岸 大	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	20kg	23		1'35.990/33
	500	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	16		1'26.212/1
	300	9	渡辺 明／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）	M64-80	DL	--	16		1'36.476/34
	300	71	城内 政樹／河野 尚裕	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	16		1'36.863/36
	300	20	松永 雅博／佐藤 久実	ネッツアペックススピリットMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	12		1'34.616/26
	300	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	30kg	12		1'35.059/29
	500	21	一ツ山 康／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGT-R	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	8		1'27.083/13
ns	500	15	D.マラガムワ／玉本 秀幸	RGS-MIRAGE	RGSミラージュGT1・シボレー		YO	--	-		1'24.657/41
ns	300	101	佐々木 博／鈴木 守	BOMEX・ポイントSカローラ	カローラレビン（AE101）	3S-GE	YO	--	-	DNQ	1'42.471/43

●優勝スピード：148.243km/h　●最速ラップ：土屋 圭市（ホンダ）　1'27.883　180.240km/h　39周目
●ペナルティ：Car No.360…10秒ストップ、Car No.35…10秒ストップ

2000シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 4/2 もてぎ	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/28 菅生	第4戦 8/6 富士	第5戦 9/10 TI英田	第6戦 10/1 美祢	第7戦 10/22 鈴鹿	Total
1	道上 龍	15	3	15	1	15	10	15	74
2	E.コマス／影山 正美	20	6		10	12	12	8	68
3	星野 一義／本山 哲		8	8	12	6	20	12	66
4	伊藤 大輔／D.シュワガー	12	4	20	2			20	58
5	竹内 浩典／立川 祐路	10	12			20	6		48
6	脇阪 寿一／金石 勝智		20	10		1	15		46
7	光貞 秀俊					15	10	15	40
8	M.クルム	6	15		6			10	37
9	野田 英樹／W.ガードナー	3	10	4		4	8	6	35
10	中子 修	15	3	15	1				34
11	片山 右京		15		6			10	31
12	影山 正彦／R.ファーマン	1		6	15		3		25
13	鈴木 亜久里／土屋 圭市	4			20				24
14	山路 慎一／P-H.ラファネル			12		2		4	18
15	飯田 章／服部 尚貴			1	4	8			13
16	長谷見 昌弘／田中 哲也	8	2					3	13
17	関谷 正徳／土屋 武士			2	8			2	12
18	木下 みつひろ／織戸 学		1		3	3	4		11
19	岡田 秀樹					10			10
19	松田 次生					10			10
21	荒 聖治／鈴木 利男	2		3			2		7
22	井出 有治	6							6
23	一ツ山 幹雄						1		1
23	中谷明彦						1		1
25	木下 隆之／近藤 真彦							1	1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 4/2 もてぎ	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/28 菅生	第4戦 8/6 富士	第5戦 9/10 TI英田	第6戦 10/1 美祢	第7戦 10/22 鈴鹿	Total
1	福山 英朗	20	20	2	4	4	20	15	85
2	松田 秀士	20	20		4	4	20	15	83
3	余郷 敦／和田 久	10	15		10	20	15	10	80
4	大八木 信行／青木 孝行	8	12		15	15	8	6	64
5	山野 哲也／松本 晴彦	15	8		12		10	12	57
6	脇阪 薫一／原 貴彦	12		20		12			44
7	新田 守男	6	1	6	6			20	39
8	須賀 宏明／柴原 眞介			1	20	3	12		36
9	小林 且雄／谷川 達也		10	12	8		6		36
10	桧井 保孝	4	4	15		8		3	34
11	城内 政樹			10		10	4	8	32
12	高木 真一				6			20	26
13	山岸 大	4	4	15					23
14	竹中 正信					10	4	8	22
15	西澤 和之／M.アピチェッラ			8			3	2	13
16	五十嵐 勇大	6	1	6					13
17	松永 雅博／佐藤 久実					6	2	4	12
18	北浦 健吾					8		3	11
19	石橋 義三	3	2	4	1	1			11
20	河野 尚裕			10					10
21	田中 実／松田 晃司		6			2			8
22	袖山 誠一			3	3				6
23	P.バン・スクート	3	2		1				6
24	小宮 延雄			4		1			5
25	砂子 智彦		3		2				5
26	山田 英二			3			1		4
27	尾本 直史				3				3
28	井倉 淳一／真希 遊世	2							2
28	水野 文則			2					2
28	石原 将光				2				2
31	佐々木 孝太／西澤 誠剛	1							1
31	田崎 貴英						1		1
31	日置 恒文							1	1
31	渡辺 明							1	1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 4/2 もてぎ	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/28 菅生	第4戦 8/6 富士	第5戦 9/10 TI英田	第6戦 10/1 美祢	第7戦 10/22 鈴鹿	Total
1	MUGEN DOME PROJECT	15	20	15	1	15	15	15	96
2	NISMO	20	15		10	12	12	10	79
3	TEAM IMPUL		8	8	12	6	20	12	66
4	NAKAJIMA RACING	12	4	20	2			20	58
5	TOYOTA TEAM CERUMO	10	12			20	6		48
6	ESSO ULTRON TOYOTA TEAM LeMans	3	10	4		4	8	6	35
7	TOYOTA TEAM SARD	1		6	15		3		25
8	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	4			20				24
9	マツモトキヨシ TEAM TOM'S			12		2		4	18
10	TOYOTA Castrol TEAM TOM'S	2		3	8		2	2	17
11	TEAM KUNIMITSU with MOONCRAFT			1	4	8			13
12	ハセミ・モータースポーツ	8	2					3	13
13	ENDLESS+TSUCHIYA ENGINNEERING		1		3	3	4		11
14	TEAM TAKE ONE					10			10
15	HITOTSUYAMA RACING						1		1
15	cdma One TOYOTA TEAM CERUMO with Key's							1	1

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 4/2 もてぎ	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/28 菅生	第4戦 8/6 富士	第5戦 9/10 TI英田	第6戦 10/1 美祢	第7戦 10/22 鈴鹿	Total
1	TEAM TAISAN JR.	20	20	2	20	4	20	15	101
2	910 RACING	10	15		10	20	15	10	80
3	TEAM DAISHIN	8	12		15	15	8	6	64
4	RE AMEMIYA RACING	15	8		12		10	12	57
5	RACING PROJECT BANDOH	12		20		12			44
6	SUPER AUTOBACS RACING TEAM WITH A'PEX	6	1	6	6			20	39
7	CUSCO RACING		10	12	8		6		36
8	ABILITY MOTOR SPORT	4	4	15		8		3	34
9	SHIGMATEC RACING TEAM			10		10	4	8	32
10	TOMEI SPORT			8			3	2	13
11	SPIRIT TOM'S					6	2	4	12
12	TEAM GAIKOKUYA	3	2	4	1	1			11
13	KRAFT		6			2			8
14	AUTO STAFF RACING			3	3				6
15	TEAM GAINER	2							2
16	TEAM DAIKOKUYA	1						1	2
17	TEAM TAISAN						1		1

2000 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'00オートバックス全日本GT選手権第7戦"SUZUKA GT 300km"

●決勝日：10月22日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：曇　●観客：3万9000人　●5.86403km×51周＝299.06553km　●参加：42台／決勝出走：40台／完走：33台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	51	1:48'07.510	2'00.905/2
2	500-2	16	道上 龍／光貞 秀俊	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	80kg	51	1:48'51.556	2'01.209/5
3	500-3	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	60kg	51	1:49'14.309	2'00.992/3
4	500-4	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	51	1:49'14.531	タイム無効/20
5	500-5	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	70kg	51	1:49'36.623	2'02.330/10
6	500-6	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	40kg	51	1:49'41.216	2'02.145/9
7	500-7	35	山路 慎一／P-H.ラファネル	マツモトキヨシ・トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	51	1:49'57.184	2'02.652/12
8	500-8	3	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	51	1:49'57.646	2'03.575/16
9	500-9	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	51	1:49'59.596	2'01.171/4
10	500-10	32	木下 隆之／近藤 真彦	cdma One セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	51	1:50'17.746	2'03.245/15
11	500-11	38	竹内 浩典／立川 祐路	FK/マッシモセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	60kg	50	1:48'36.902	2'02.943/14
12	500-12	37	荒 聖治／鈴木 利男	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	50	1:49'05.505	2'04.030/18
13	500-13	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	50	1:49'36.870	2'03.802/17
14	500-14	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	49	1:49'13.392	2'06.355/19
15	500-15	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	110kg	48	1:49'00.507	2'01.490/7
16	300-1	31	新田 守男／高木 真一	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	20kg	47	1:48'23.420	2'11.775/22
17	300-2	26	松田 秀士／福山 英朗	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	80kg	47	1:48'29.538	2'13.244/27
18	300-3	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	70kg	47	1:48'40.784	2'12.931/26
19	300-4	910	余郷 敦／和田 久	ナインテンウェディングアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	80kg	47	1:48'45.422	2'12.776/24
20	300-5	71	城内 政樹／竹中 正信	シグマテック911	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64	YO	--	46	1:48'26.685	2'15.334/34
21	300-6	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	46	1:48'46.738	2'12.899/25
22	300-7	20	松永 雅博／佐藤 久実	オートレットAPEX-SPIRIT-MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	46	1:48'52.094	2'13.411/28
23	300-8	11	北浦 健吾／桧井 保孝	アビリティ・マリオポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）	M64-82	YO	10kg	46	1:50'23.608	2'14.996/32
24	300-9	24	西澤 和之／M.アピチェッラ	986ボクスター	ポルシェ986ボクスター	M96-77	YO	--	46	1:52'19.836	2'11.647/21
25	300-10	9	渡辺 明／日置 恒文	大黒屋ARCぽるしぇ	ポルシェ911RSR（993RSR）		DL	--	45	1:49'35.240	2'16.319/40
26	300-11	51	袖山 誠一／尾本 直史	C-WESTオートスタッフ ADVAN シルビア	シルビア（S14）	SR20DET	YO	--	44	1:48'44.153	2'17.466/35
27	300-12	911	石原 将光／砂子 智彦	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	10kg	44	1:50'38.282	2'14.210/38
28	300-13	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ヒマラヤADVAN D-PROJETモデナ	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	43	1:49'17.075	2'19.455/37
29	300-14	111	井倉 淳一／真希 遊世	JIM-C TWS F355	フェラーリF355	F129B	YO	--	42	1:45'15.569	2'15.977/39
30	300-15	55	山田 英二／田崎 貴英	DUPLEXタイサンADバイパー	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	42	1:49'03.560	2'12.273/23
31	300-16	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	42	1:49'14.364	2'17.935/36
32	500-16	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	38		2'02.459/11
33	300-17	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	20kg	37	1:49'03.169	2'14.010/29
	300	86	田中 実／松田 晃司	BP・KRAFT・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	10kg	31		2'14.115/30
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	25		2'15.032/33
	500	30	岡田 秀樹／松田 次生	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	15		2'01.484/6
	300	28	須賀 宏明／柴原 眞介	RDタイサンBP GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	80kg	9		2'14.120/31
	500	21	一ツ山 康／中谷 明彦	ZEROマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	1		2'02.899/13
dq	500	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	51	1:48'25.211	2'01.655/8
dq	500	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	51	1:48'26.507	1'59.923/1

●優勝スピード：165.955km/h　●最速ラップ：伊藤 大輔（ホンダ）　2'02.718　172.025km/h　3周目
●ペナルティ：Car No.18…10秒ストップ、Car No.24…3分加算、Car No.70…10秒ストップ、Car No.8…再車検失格、Car No.100…再車検失格、Car No.86…10秒ストップ

"2000 JAPAN GT FESTIVAL in MALAYSIA"

●決勝日：6月25日／セパン　●主催：Sepang Circuit　●天候：晴れのち曇　●観客：3万460人　●5.543km×54周＝299.322km　●参加：24台／決勝出走：24台／発走：21台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	2	片山 右京／M.クルム	カストロール・ニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:54'17.507	2'02.851/9
2	500-2	18	脇阪 寿一／金石 勝智	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:54'53.334	2'00.426/1
3	500-3	64	伊藤 大輔／D.シュワガー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:55'01.085	2'02.259/5
4	500-4	36	関谷 正徳／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	54	1:55'14.131	2'02.129/4
5	500-5	8	鈴木 亜久里／土屋 圭市	ARTA NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:55'24.193	2'02.497/8
6	500-6	100	飯田 章／服部 尚貴	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	54	1:56'10.399	2'03.475/13
7	500-7	1	E.コマス／影山 正美	ロックタイト・ゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	53	1:54'24.403	2'03.069/10
8	500-8	25	木下 みつひろ／織戸 学	エンドレス アドバン スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	53	1:54'53.028	2'03.364/12
9	500-9	6	野田 英樹／W.ガードナー	エッソウルトロンタイガースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	53	1:55'25.172	2'03.489/14
10	500-10	16	中子 修／道上 龍	Castrol 無限 NSX	ホンダNSX（E-NA2）	C32B	BS	--	52	1:55'15.519	2'00.616/2
11	500-11	37	荒 聖治／山路 慎一	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	51	1:54'56.325	2'04.003/15
12	300-1	7	山野 哲也／松本 晴彦	RE雨宮マツモトキヨシRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	50	1:56'19.155	2'12.629/17
13	300-2	19	脇阪 薫一／原 貴彦	ウェッズスポーツセリカ	セリカ（ST205）	3S-GE	YO	--	50	1:56'04.116	2'12.637/18
14	300-3	31	新田 守男／高木 真一	スーパーオートバックス アペックス MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GT	YO	--	50	1:56'24.033	2'13.391/20
15	500-12	88	古谷 直広／高橋 毅	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	49	1:54'59.993	2'05.263/16
16	300-4	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	49	1:56'07.115	2'14.610/21
17	300-5	26	福山 英朗／D.マラガムワ	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M64-75	YO	--	49	1:56'08.167	2'12.846/19
18	300-6	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT2（993GT2）		YO	--	47	1:56'26.378	2'21.427/22
19	500-13	39	影山 正彦／R.ファーマン	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	42		2'03.179/11
20	300-7	5	K.スーン・ユーン／I.リダック	ポルシェ・カレラRS	ポルシェ911GT3R（996GT3R）		MI	--	42	1:54'55.499	2'35.305/23
21	500-14	14	長谷見 昌弘／田中 哲也	ユニシア・ザナヴィスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	36		2'02.285/6
	500	32	近藤 真彦／立川 祐路	トヨタ セルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	24		2'01.904/3
	500	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	13		2'02.471/7
	500	55	山田 英二／余郷 敦	イクリプス スリランカ バイパーGTSR	バイパーGTS-R	356-T6	YO	--	3	1:55'28.554	--------/24

●優勝スピード：157.136km/h　●最速ラップ：道上 龍（ホンダ）　2'03.791　161.198km/h

1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003

'01オートバックス全日本GT選手権第3戦"SUGO GT選手権"

●決勝日：5月27日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：4万7500人　●3.704256km×81周＝300.04473km　●参加：38台／決勝出走：37台／完走：28台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:00'52.246	1'19.832/8
2	500-2	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	81	2:01'02.011	1'19.320/2
3	500-3	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	81	2:01'14.910	1'19.653/5
4	500-4	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	50kg	81	2:01'15.487	1'19.827/7
5	500-5	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	60kg	81	2:01'15.661	1'20.176/12
6	500-6	18	加藤 寛規／S.フィリップ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	81	2:01'30.660	1'19.752/6
7	500-7	12	本山 哲／服部 尚貴	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:01'38.609	1'20.192/13
8	500-8	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:01'38.938	1'19.452/3
9	500-9	39	R.デュマ／J.デュフォア	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	81	2:01'39.251	1'20.201/14
10	500-10	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:01'43.497	1'19.535/4
11	500-11	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	80	2:01'09.101	1'20.750/17
12	500-12	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	10kg	80	2:01'52.282	1'20.691/15
13	500-13	33	片山 右京／近藤 真彦	TEAM UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	80	2:02'13.504	1'20.748/16
14	500-14	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	79	2:01'40.354	1'19.906/9
15	300-1	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	76	2:00'54.931	1'27.339/21
16	300-2	910	和田 久／砂子塾長	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	76	2:01'35.296	1'28.561/32
17	300-3	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	20kg	76	2:02'18.527	1'27.651/23
18	300-4	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	76	2:02'18.767	1'27.651/24
19	300-5	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	75	2:00'52.336	1'28.150/29
20	300-6	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	74	2:01'19.224	1'28.805/35
21	300-7	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	2:01'34.209	1'27.838/27
22	300-8	11	井倉 淳一／真希 遊世	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	2:02'20.901	1'29.169/36
23	300-9	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	72	2:01'48.816	1'28.027/28
24	300-10	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	70	2:01'49.862	1'27.762/26
25	300-11	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	70	2:01'50.437	1'30.537/37
26	300-12	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	30kg	69		1'26.968/20
27	300-13	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツォADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	68	2:01'19.664	1'28.681/34
28	300-14	900	D.マラガムワ／浅見 武	MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	66	2:02'06.353	1'27.366/22
	500	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	46		1'19.129/1
	300	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・エスペリアトレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	--	43		1'28.406/30
	500	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	27		1'19.941/10
	300	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	27		1'28.461/31
	300	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	70kg	17		1'28.568/33
	300	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテール・フェラーリ360ウエディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	13		1'27.740/25
	500	21	中谷 明彦／一ツ山 康	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	10kg	12		1'20.046/11
	300	71	城内 政樹／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	9		1'26.707/18
	500	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロJGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	-		1'26.807/19

●優勝スピード：148.942km/h　●最速ラップ：W.ガードナー（トヨタ）　1'21.498　163.626km/h
●ペナルティ：Car No.36…10秒ストップ、Car No.23…10秒ストップ、Car No.30…10秒ストップ、Car No.33…10秒ストップ、Car No.22…1周減算、Car No.21…1周減算

'01オートバックス全日本GT選手権第4戦"JAPAN SPECIAL GT CUP"

●決勝日：8月5日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／VICIC　●天候：曇　●観客：5万人　●4.400km×57周＝250.800km　●参加：41台／決勝出走：39台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:24'42.126	1'25.516/8
2	500-2	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:24'43.021	1'25.311/2
3	500-3	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	60kg	57	1:24'57.298	1'25.377/3
4	500-4	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	70kg	57	1:25'09.723	1'25.466/5
5	500-5	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	57	1:25'19.640	1'25.998/13
6	500-6	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	57	1:25'22.798	1'25.440/4
7	500-7	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	57	1:25'26.380	1'25.570/9
8	500-8	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	57	1:25'29.775	1'25.430/6
9	500-9	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	57	1:25'49.460	1'26.134/15
10	500-10	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	60kg	57	1:25'54.627	1'26.028/14
11	500-11	21	服部 尚貴／一ツ山 康	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	10kg	57	1:25'56.766	1'25.490/7
12	500-12	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	50kg	56	1:24'57.489	1'26.564/16
13	500-13	39	J.デュフォア／R.デュマ	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	56	1:25'11.216	1'25.774/12
14	500-14	33	片山 右京／近藤 真彦	Team UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	56	1:25'34.610	1'25.268/1
15	500-15	18	加藤 寛規／S.フィリップ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	53	1:25'04.597	1'25.755/11
16	300-1	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	40kg	52	1:24'44.011	1'33.783/19
17	300-2	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	40kg	52	1:24'57.505	1'34.558/20
18	300-3	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	52	1:24'57.950	1'33.706/18
19	300-4	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	60kg	52	1:25'11.795	1'34.622/21
20	300-5	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	60kg	52	1:25'15.768	1'35.144/28
21	300-6	910	和田 久／砂子塾長	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	52	1:25'39.736	1'35.892/34
22	300-7	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	52	1:25'42.249	1'35.083/26
23	300-8	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツォADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	52	1:25'57.896	1'34.634/22
24	300-9	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスオメガタイサンバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	52	1:25'58.753	1'35.360/29
25	300-10	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	30kg	51	1:24'56.167	1'34.847/23
26	300-11	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	51	1:25'12.151	1'35.934/35
27	300-12	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	51	1:25'16.163	1'37.065/36
28	300-13	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	51	1:25'42.575	1'35.466/30
29	300-14	11	井倉 淳一／真希 遊世	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	51	1:25'56.012	1'35.658/33
30	300-15	900	D.マラガムワ／中島 哲也	MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	10kg	50	1:25'21.023	1'35.721/32
31	300-16	911	石原 将光／平川 晃	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	49	1:26'03.709	1'38.323/38
32	500-16	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	10kg	48		1'25.752/10
33	300-17	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	47		1'35.007/25
34	300-18	10	山岸 大／大野 尊久	アビリティレスポ ポルシェ	ポルシェ911（993）		YO	--	36		1'38.294/37
	300	9	渡辺 明／日置 恒文	ARC大黒屋ぼるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	24		1'35.730/39
	300	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	15		1'35.067/27
	300	71	Guts城内／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	20kg	11		1'34.994/24
	500	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロJGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	9		1'30.340/17
	300	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテールフェラーリ360ウェディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	5		1'35.623/31

●優勝スピード：177.658km/h　●最速ラップ：E.コマス（ニッサン）　1'26.691　182.718km/h　6周目
●ペナルティ：Car No.360…1周減算

'01オートバックス全日本GT選手権第1戦"GT選手権 in TI"

●決勝日：4月15日／TIサーキット英田　●主催：TIサーキット／AC　●天候：晴れ　●観客：5万500人　●3.703km×82周＝303.646km　●参加：38台／決勝出走：36台／完走：31台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	82	2:10'09.601	1'25.621/1
2	500-2	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	82	2:10'13.270	1'26.396/10
3	500-3	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	82	2:10'43.138	1'25.890/3
4	500-4	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	82	2:10'46.252	1'26.187/5
5	500-5	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	82	2:10'58.328	1'26.645/12
6	500-6	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	82	2:11'07.537	1'26.658/13
7	500-7	39	影山 正彦／J.デュフォア	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	82	2:11'13.108	1'25.873/2
8	500-8	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	82	2:11'25.207	1'27.075/14
9	500-9	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	82	2:11'39.677	1'27.801/17
10	500-10	21	中谷 明彦／木下 みつひろ	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	81	2:10'56.337	1'27.228/15
11	500-11	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:10'59.567	1'26.425/11
12	500-12	33	片山 右京／近藤 真彦	TEAM UKYOセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:11'06.619	1'27.403/16
13	500-13	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:12'09.004	1'25.964/4
14	500-14	18	加藤 寛規／S.フィリップ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	80	2:10'47.690	1'26.206/6
15	500-15	12	本山 哲／服部 尚貴	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	78	2:11'25.951	1'26.222/8
16	300-1	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	77	2:10'20.587	1'34.205/18
17	300-2	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	77	2:10'22.624	1'34.679/21
18	300-3	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	77	2:10'39.621	1'34.402/19
19	300-4	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	77	2:10'43.126	1'35.180/23
20	300-5	910	和田 久／砂子塾長	910ディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	77	2:11'00.841	1'35.709/29
21	300-6	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	76	2:10'59.509	1'37.065/34
22	300-7	62	柴原 眞介／藤原 靖久	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	76	2:11'41.573	1'35.568/27
23	300-8	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスDUPLEXバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	75	2:10'10.387	1'35.265/24
24	300-9	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	75	2:10'39.161	1'36.535/33
25	300-10	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	75	2:10'53.619	1'35.532/26
26	300-11	24	松田 秀士／西澤 和之	スポーツトゥデイタイサンGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	75	2:11'44.750	1'34.537/20
27	300-12	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）		YO	--	75	2:11'45.237	1'34.732/22
28	300-13	900	D.マラガムワ／浅見 武	MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	74	2:10'13.884	1'35.417/25
29	300-14	11	井倉 淳一／牛窪 宏次	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	2:10'15.154	1'36.490/32
30	300-15	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	2:10'32.177	1'36.672/36
31	300-16	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテール・フェラーリ・ウエディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	72	2:10'15.027	1'35.603/28
	500	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	36		1'26.215/7
	300	9	渡辺 明／日置 恒文	ARC大黒屋ぼるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	34		1'36.235/31
	500	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	32		1'26.295/9
	300	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・トレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	--	28		1'38.015/35
	300	71	Guts城内／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	9		1'36.039/30
ns	500	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	-	DNQ	15'55.829/37

●優勝スピード：139.972km/h　●最速ラップ：伊藤 大輔（ホンダ）　1'28.747　150.211km/h
●ペナルティ：Car No.100…10秒ストップ、Car No.33…10秒ストップ

'01オートバックス全日本GT選手権第2戦"カッチャオ全日本富士GT"

●決勝日：5月4日／富士　●主催：VICIC／FISCOクラブ／富士スピードウェイ　●天候：曇　●観客：5万1000人　●4.400km×114周＝501.600km　●参加：41台／決勝出走：40台／完走：33台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	10kg	114	3:03'47.900	1'24.354/1
2	500-2	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	114	3:03'48.793	1'24.470/2
3	500-3	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	114	3:03'55.592	1'25.491/6
4	500-4	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	114	3:03'57.402	1'26.119/15
5	500-5	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	114	3:03'57.746	1'25.625/9
6	500-6	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	114	3:04'00.489	1'25.939/12
7	500-7	39	影山 正彦／J.デュフォア	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	114	3:04'03.866	1'25.536/8
8	500-8	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	70kg	114	3:04'05.183	1'25.924/13
9	500-9	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	114	3:04'14.003	1'25.726/10
10	500-10	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	114	3:04'16.823	1'25.147/4
11	500-11	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	113	3:03'53.995	1'25.779/11
12	500-12	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	113	3:04'11.229	1'26.120/16
13	500-13	21	中谷 明彦／一ツ山 康	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	112	3:04'15.742	1'25.529/37
14	500-14	33	片山 右京／近藤 真彦	Team UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	111	3:03'52.101	1'26.014/14
15	300-1	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	EJ21	YO	--	107	3:04'40.303	1'33.093/17
16	300-2	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	107	3:04'43.791	1'34.294/20
17	300-3	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	50kg	106	3:04'36.025	1'33.840/18
18	300-4	24	松田 秀士／西澤 和之	スポーツトゥデイタイサンGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	106	3:04'38.624	1'36.813/31
19	500-15	18	加藤 寛規／S.フィリップ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	105		1'25.505/7
20	300-5	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	105	3:04'20.362	1'33.869/19
21	300-6	910	和田 久／砂子塾長	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	105	3:04'34.896	1'34.427/24
22	300-7	9	羽根 幸浩／渡辺 明	ARC大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	105	3:04'35.273	1'36.255/34
23	300-8	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	105	3:04'40.923	1'34.388/23
24	300-9	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスDUPLEXバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	105	3:04'46.950	1'34.370/21
25	300-10	900	D.マラガムワ／浅見 武	MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	104	3:04'21.797	1'35.249/28
26	300-11	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	104	3:04'22.674	1'34.772/27
27	300-12	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	103	3:04'41.733	1'36.606/35
28	300-13	11	井倉 淳一／真木 遊世	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	102	3:04'36.332	1'35.885/32
29	300-14	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツォADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	99	3:04'39.967	1'36.220/33
30	300-15	911	石原 将光／平川 晃	ダイヤモンドアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	99	3:05'05.811	1'37.453/39
31	300-16	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	96		1'35.336/30
32	300-17	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	96	3:04'32.743	1'34.372/22
33	300-18	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・エスペリアトレノ	スプリンタートレノ（AE86）	3S-GT	DL	--	86		1'36.747/36
nc	300	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテール・フェラーリ360ウエディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	45	3:04'55.506	1'35.275/29
	500	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	--	68		1'24.779/3
	500	12	本山 哲／服部 尚貴	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	63		1'25.226/5
	300	62	柴原 眞介／藤原 靖久	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	39		1'34.689/26
	300	10	山岸 大／大野 尊久	アビリティレスポ ポルシェ	ポルシェ911（993）		YO	--	36		1'43.510/40
	500	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	34		1'31.518/38
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	30kg	11		1'34.571/25

●優勝スピード：163.745km/h　●最速ラップ：立川 祐路（トヨタ）　1'26.040　184.100km/h　4周目
●ペナルティ：Car No.21…10秒ストップ、Car No.33…1周減算

'01オートバックス全日本GT選手権第7戦“CP MINE GT”

●決勝日：11月11日／美祢　●主催：CP MINE／CPMC／KRS　●天候：晴れ　●観客：4万6400人　●3.330839km×76周＝253.14376km　●参加：39台／決勝出走：37台／完走：33台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	20kg	76	1:51'07.375	1'21.739/1
2	500-2	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	40kg	76	1:51'16.533	1'23.000/11
3	500-3	18	S.フィリップ／B.トレルイエ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	76	1:51'21.649	1'22.333/2
4	500-4	39	J.デュフォア／R.デュマ	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	76	1:51'24.504	1'22.806/6
5	500-5	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	76	1:51'36.521	1'22.435/3
6	500-6	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	76	1:51'37.111	1'22.616/4
7	500-7	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	10kg	76	1:51'44.258	1'22.883/8
8	500-8	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	76	1:51'45.245	1'22.872/7
9	500-9	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	76	1:51'52.528	1'23.366/14
10	500-10	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	76	1:51'53.084	1'23.561/16
11	500-11	21	服部 尚貴／一ツ山 幹雄	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	10kg	76	1:52'03.164	1'23.018/12
12	500-12	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	70kg	76	1:52'06.493	1'22.913/9
13	500-13	33	片山 右京／近藤 真彦	Team UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	75	1:51'21.834	1'23.751/17
14	500-14	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	74	1:52'00.333	1'22.762/5
15	500-15	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロJGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	72	1:52'39.131	1'26.477/37
16	300-1	71	Guts城内／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	40kg	71	1:52'24.470	1'30.730/30
17	300-2	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	71	1:52'29.418	1'30.061/22
18	300-3	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスオメガタイサンバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	70	1:51'17.309	1'30.198/26
19	300-4	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	70	1:51'18.397	1'29.564/18
20	300-5	910	和田 久／砂子塾長	910ディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	70	1:51'18.921	1'30.831/31
21	300-6	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	70	1:51'39.174	1'29.772/19
22	300-7	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	70	1:51'40.852	1'30.892/32
23	300-8	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	70	1:51'53.179	1'31.059/33
24	300-9	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツオADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	70	1:52'27.150	1'31.772/34
25	300-10	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・エスペリアMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	30kg	70	1:52'37.546	1'30.063/23
26	300-11	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	69	1:51'44.589	1'30.169/25
27	300-12	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	68	1:51'32.704	1'30.164/24
28	300-13	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	70kg	67	1:52'13.475	1'29.893/21
29	300-14	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	67	1:52'34.284	1'33.055/36
30	500-16	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	80kg	66	1:51'54.544	1'23.051/13
31	300-15	901	玉中 哲二／中島 哲也	K-STADIUM MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	63	1:52'36.810	1'32.961/35
32	300-16	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテールフェラーリ360ウェディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	58	1:52'58.131	1'30.527/28
33	300-17	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	30kg	51		1'30.225/27
	500	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	50kg	47		1'22.913/10
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	10kg	36		1'29.752/20
	300	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	20kg	36		1'30.575/29
	500	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	60kg	34		1'23.529/15

●優勝スピード：136.683km/h　●最速ラップ：A.コート（マクラーレン）　1'23.940　142.852km/h

“MALAYSIAN GT選手権”

●決勝日：6月24日／セパン　●主催：Sepang Circuit　●天候：晴れ　●観客：4万3000人　●5.543km×54周＝299.322km　●参加：27台／決勝出走：27台／完走：24台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	54	1:52'34.377	1'59.374/2
2	500-2	18	加藤 寛規／S.フィリップ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:52'39.333	1'59.875/4
3	500-3	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:52'56.520	1'59.574/3
4	500-4	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:53'09.647	2'01.744/13
5	500-5	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:53'21.935	2'00.974/10
6	500-6	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:53'36.974	2'00.383/7
7	500-7	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:53'38.713	2'01.381/12
8	500-8	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:53'56.364	1'59.954/5
9	500-9	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	54	1:54'14.542	2'00.889/9
10	500-10	21	一ツ山 康／服部 尚貴	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	--	53		2'01.018/11
11	500-11	33	片山 右京／近藤 真彦	TEAM UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	52		2'00.750/8
12	500-12	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	51		1'59.184/1
13	300-1	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	50		2'10.945/14
14	300-2	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	--	50	1:53'18.692	2'11.795/16
15	300-3	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	50	1:54'37.096	2'11.867/17
16	300-4	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	50	1:54'26.659	2'13.761/20
17	300-5	900	D.マラガムワ／J.パルボーサ	MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	49		2'10.985/15
18	300-6	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	49	1:53'23.196	2'13.153/19
19	300-7	910	和田 久／A.ウィルコクス	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	49	1:53'21.611	2'14.353/23
20	300-8	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスTAISANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	48		2'13.919/21
21	300-9	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	48	1:55'36.333	2'16.390/25
22	300-10	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	47		2'14.206/22
23	300-11	9	羽根 幸浩／下島 洋介	ARC大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	47	1:55'49.295	2'14.602/24
24	300-12	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテール・フェラーリ360GT	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	40		2'13.071/18
	500	36	W.ガードナー／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	28		2'00.128/6
	300	65	橋本 元治／C.クワン	AMPREX elf RX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	6		--------/29
	500	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	1		--------/27
dq	300	5	K.スーン・ユエ／I.リダク		ポルシェ911RS（993RS）		MI	--	-		2'36.710/26

●優勝スピード：159.535km/h　●最速ラップ：竹内 浩典／立川 祐路（トヨタ）　2'02.117　163.407km/h
●ペナルテ：Car No.64…1分加算、Car No.360…1分加算

'01オートバックス全日本GT選手権第5戦“もてぎGTチャンピオン”

●決勝日：9月16日／もてぎ　●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：晴れ　●観客：4万4000人　●4.801379km×63周＝302.48687km　●参加：40台／決勝出走：40台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	--	63	1:59'28.774	1'47.575/1
2	500-2	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	63	1:59'39.838	1'47.838/3
3	500-3	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	63	1:59'43.819	1'48.327/5
4	500-4	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	63	1:59'55.532	1'48.517/8
5	500-5	36	土屋 武士／P.モンティン	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	63	2:00'16.255	1'49.071/14
6	500-6	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	10kg	63	2:00'16.919	1'47.757/2
7	500-7	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	63	2:00'17.653	1'47.917/4
8	500-8	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	40kg	63	2:00'37.642	1'49.586/17
9	500-9	33	脇阪 薫一／近藤 真彦	TEAM UKYOセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	63	2:00'45.254	1'49.347/16
10	500-10	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	60kg	63	2:01'11.512	1'48.654/11
11	500-11	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	30kg	63	2:01'27.711	1'48.659/13
12	500-12	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	61		1'48.690/12
13	500-13	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	90kg	61		1'48.563/9
14	300-1	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	30kg	59	2:00'53.613	1'57.519/19
15	300-2	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	59	2:01'23.692	1'58.843/23
16	500-14	18	S.フィリップ／B.トレルイエ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	58		1'48.584/10
17	500-15	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロJGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	58	1:59'41.197	1'52.714/18
18	300-3	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	58	1:59'43.667	1'58.959/26
19	300-4	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	58	1:59'45.063	1'58.047/20
20	300-5	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	58	2:00'07.490	1'59.078/26
21	300-6	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	20kg	58	2:00'15.174	1'59.747/33
22	300-7	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	58	2:00'51.564	1'58.749/22
23	300-8	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツオADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	58	2:01'33.910	1'59.661/31
24	300-9	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	70kg	57		1'58.570/21
25	300-10	910	和田 久／砂子塾長	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	57	1:59'42.318	1'59.909/35
26	300-11	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	57	2:00'03.136	2'01.021/37
27	300-12	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテールフェラーリ360ウェディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	57	2:01'12.979	1'59.322/29
28	300-13	2	高橋 一穂／木村 博	ドリーム28NSXアメリカンR	ホンダNSX（NA2）	C32B	YO	--	56	2:00'40.357	2'02.260/40
29	300-14	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスオメガタイサンバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	55	1:59'44.477	1'59.070/27
30	300-15	11	井倉 淳一／真希 遊世	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	55	2:00'07.111	1'59.376/30
31	300-16	9	渡辺 明／日置 恒文	ARC大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	55	2:00'39.862	1'59.792/34
32	300-17	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	55	2:01'19.105	1'59.702/32
33	300-18	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・エスペリアMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	53		2'01.360/39
34	300-19	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	53	2:00'40.122	2'01.300/38
nc	500	39	J.デュフォア／R.デュマ	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	35	1:59'53.182	1'48.509/7
	300	71	Guts城内／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	30kg	26		1'58.847/24
	300	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	50kg	22		1'58.913/25
	500	21	服部 尚貴／中谷 明彦	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	10kg	19		1'48.496/6
	300	901	浅見 武／桧井 保孝	K-STADIUM MT900R	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	1		2'00.368/36
	500	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	50kg	0		1'49.235/15

●優勝スピード：151.902km/h　●最速ラップ：竹内 浩典／立川 祐路（トヨタ）　1'50.372　156.606km/h　34周目
●ペナルティ：Car No.360…1分加算

'01オートバックス全日本GT選手権第6戦“SUZUKA GT 300km”

●決勝日：10月28日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：曇　●観客：3万人　●5.85913km×49周＝287.09737km　●参加：41台／決勝出走：39台／完走：31台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	49	1:42'57.791	1'58.290/1
2	500-2	1	道上 龍／光貞 秀俊	ロックタイト無限NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	49	1:43'35.139	1'58.526/2
3	500-3	23	E.コマス／影山 正美	ペンズオイルゼクセルGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	30kg	49	1:43'58.076	1'59.420/12
4	500-4	37	山路 慎一／W.ガードナー	マツキヨZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	49	1:44'01.887	1'59.337/10
5	500-5	36	黒澤 琢弥／土屋 武士	カストロール・トムス・スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	49	1:44'18.418	1'59.514/14
6	500-6	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	100kg	49	1:44'37.770	1'59.377/11
7	500-7	25	織戸 学／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	49	1:44'44.026	1'59.489/13
8	500-8	22	M.クルム／田中 哲也	ザナヴィヒロトGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	40kg	49	1:44'47.568	1'59.333/8
9	500-9	39	J.デュフォア／R.デュマ	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	49	1:44'49.366	1'59.249/5
10	500-10	30	岡田 秀樹／A.コート	綜警 McLaren GTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	BS	20kg	48	1:43'32.026	1'59.292/6
11	500-11	12	星野 一義／本山 哲	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	20kg	48	1:43'32.733	1'59.195/4
12	500-12	18	S.フィリップ／B.トレルイエ	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	10kg	46	1:43'02.402	1'59.035/3
13	300-1	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・エスペリアMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	45	1:43'26.140	2'10.873/25
14	300-2	3	井出 有治／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	70kg	45	1:43'35.315	2'10.333/22
15	300-3	26	福山 英朗／余郷 敦	シェルタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	45	1:44'34.267	2'13.073/34
16	300-4	910	和田 久／砂子塾長	910ロディオドライブアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	45	1:44'36.911	2'12.634/33
17	300-5	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&Dダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	44	1:43'14.236	2'11.908/29
18	300-6	62	柴原 眞介／密山 祥吾	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	44	1:44'19.985	2'11.802/28
19	300-7	0	松永まさひろ／佐藤 久実	Netz BP Kosei MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	44	1:44'35.944	2'10.235/20
20	300-8	360	佐々木 孝太／西澤 誠剛	ダンテールフェラーリ360ウェディング	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	YO	--	44	1:45'10.964	2'12.040/31
21	300-9	11	井倉 淳一／真希 遊世	JIM・メディコムGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	44	1:45'24.967	2'11.471/27
22	300-10	70	石橋 義三／須賀 宏明	外車の外国屋アドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	43	1:43'15.251	2'15.521/38
23	300-11	71	Guts城内／田嶋 栄一	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	43	1:44'31.420	2'10.650/24
24	300-12	9	下島 洋介／日置 恒文	ARC大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	43	1:45'22.003	2'13.262/39
25	300-13	2	高橋 一穂／渡辺 明	ベルノ東海ARドリーム28NSX	ホンダNSX（NA2）	C32B	YO	--	42	1:43'15.600	2'14.982/36
26	500-13	100	飯田 章／伊藤 大輔	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	20kg	40	1:43'18.692	1'59.334/9
27	300-14	51	尾本 直史／山本 泰吉	C-WESTレッツオADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	39	1:43'42.125	2'13.253/35
28	300-15	7	山野 哲也／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	39	1:45'00.259	2'10.294/21
29	500-14	88	M.アピチェッラ／古谷 直広	ノマドディアブロJGT1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	33	1:43'32.290	2'03.664/18
30	300-16	24	松田 秀士／西澤 和之	JCMタイサンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	33	1:43'23.974	2'12.192/32
31	300-17	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	80kg	32		2'11.931/30
	500	6	脇阪 寿一／野田 英樹	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	70kg	27		1'59.327/7
	300	901	玉中 哲二／桧井 保孝	K-STADIUM MT900	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	27		2'15.090/37
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GC8）	EJ20	YO	10kg	25		2'10.927/26
	300	31	新田 守男／高木 真一	ARTA・アペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	40kg	15		2'10.381/23
	300	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	15		2'10.158/19
	500	21	服部 尚貴／中谷 明彦	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR･BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	10kg	14		1'59.552/15
	500	64	D.シュワガー／松田 次生	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	BS	70kg	13		1'59.602/16
	500	33	片山 右京／近藤 真彦	Team UKYOスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	20kg	6		2'01.160/17

●優勝スピード：167.301km/h　●最速ラップ：土屋 圭市／金石 勝智（ホンダ）　2'02.130　172.708km/h　2周目
●ペナルティ：Car No.39…10秒ストップ2回、Car No.12…10秒ストップ、Car No.18…10秒ストップ2回、Car No.3…10秒ストップ、Car No.11…10秒ストップ、Car No.71…10秒ストップ、Car No.6…10秒ストップ

2001シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 4/15 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/27 菅生	第4戦 8/5 富士	第5戦 9/16 もてぎ	第6戦 10/28 鈴鹿	第7戦 11/11 美祢	Total
1	竹内 浩典／立川 祐路		15	12	10	15	6		58
2	土屋 圭市／金石 勝智	15	6	15			20		56
3	道上 龍／光貞 秀俊	20	3	10	8		15		56
4	E.コマス／影山 正美		10	1	15		12	15	53
5	M.クルム／田中 哲也	10	12		20	1	3	6	52
6	山路 慎一／W.ガードナー	8	2	20	1	3	10	2	46
7	脇阪 寿一／野田 英樹		20	8	12				40
8	D.シュワガー／松田 次生	12			6	20			38
9	岡田 秀樹／A.コート	3				6	1	20	30
10	飯田 章／伊藤 大輔	6	8		2	10		3	29
11	本山 哲			4	4	12		8	28
12	土屋 武士		1	3	3	8	8	4	27
13	星野 一義				4	12		8	24
14	J.デュフォア	4	4	2			2	10	22
15	黒澤 琢弥		1	3	3		8	4	19
16	S.フィリップ			6				12	18
17	R.デュマ			2			2	10	14
18	B.トレルイエ							12	12
19	織戸 学／荒 聖治	2				4	4	1	11
20	P.モンティン					8			8
21	影山 正彦	4	4						8
22	加藤 寛規			6					6
23	服部 尚貴			4					4
24	近藤 真彦					2			2
24	脇阪 薫一					2			2
26	中谷 明彦	1							1
26	木下 みつひろ	1							1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 4/15 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/27 菅生	第4戦 8/5 富士	第5戦 9/16 もてぎ	第6戦 10/28 鈴鹿	第7戦 11/11 美祢	Total
1	大八木 信行／青木 孝行		20	10	20	10		6	66
2	山野 哲也／松本 晴彦	12	8	20	10	4			54
3	和田 久／砂子塾長	8	6	15	6	1	10	8	54
4	井出 有治／柳田 真孝	6	15		15	2	15		53
5	松田 秀士／西澤 和之		10	8	4	12		15	49
6	福山 英朗／余郷 敦	10		4		15	12	3	44
7	新田 守男／高木 真一	20	12		8				40
8	小林 且雄／谷川 達也	15		12	1	6			34
9	田中 実／後藤 聡			1	12	20			33
10	柴原 眞介	4		2		8	6	10	30
11	宮山 祥吾			2		8	6	10	26
12	OSAMU／中川 隆正	2	3	6			8	4	23
13	長島 正興／松田 晃司						20	1	21
14	城内 政樹／田嶋 栄一							20	20
15	山田 英二／木下 隆之	3	2		2			12	19
16	尾本 直史／山本 泰吉				3	3		2	8
17	松永 まさひろ／佐藤 久実	1					4		5
18	井倉 淳一			3			2		5
19	真篠 遊世			3			2		5
20	藤原 靖久	4							4
20	渡辺 明		4						4
20	羽根 幸浩		4						4
23	佐々木 孝太／西澤 誠剛						3		3
24	D.マラガムワ		1						1
24	浅見 武		1						1
24	石橋 義三／須賀 宏明						1		1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 4/15 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/27 菅生	第4戦 8/5 富士	第5戦 9/16 もてぎ	第6戦 10/28 鈴鹿	第7戦 11/11 美祢	Total
1	NISMO	10	12	1	20	1	12	15	71
2	MUGEN×DOME PROJECT	20	3	10	8		15	12	68
3	TOYOTA TEAM CERUMO		15	12	10	15	6		58
4	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	15	6	15			20		56
5	TOYOTA TEAM TOM'S	8	2	20	3	8	10	4	55
6	ESSO TOYOTA TEAM Le Mans		20	8	12				40
7	NAKAJIMA RACING	12			6	20			38
8	TEAM TAKE ONE	3				6	1	20	30
9	TEAM KUNIMITSU with MOONCRAFT	6	8		2	10		3	29
10	TEAM IMPUL			4	4	12		8	28
11	TOYOTA TEAM SARD	4	4	2			2	10	22
12	TSUCHIYA ENGINEERING	2				4	4	1	11
13	HITOTSUYAMA RACING	1							1

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 4/15 TI	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/27 菅生	第4戦 8/5 富士	第5戦 9/16 もてぎ	第6戦 10/28 鈴鹿	第7戦 11/11 美祢	Total
1	TEAM TAISAN ADVAN	10	10	8	4	15	12	15	74
2	TEAM DAISHIN		20	10	20	10		6	66
3	RE AMEMIYA RACING	12	8	20	10	4			54
4	910 RACING	8	6	15	6	1	10	8	54
5	ハセミ・モータースポーツ	6	15		15	2	15		53
6	ARTA with A'pex	20	12		8				40
7	アール アンド デー スポーツ	4	3	6		8	8	10	39
8	CUSCO RACING	15		12	1	6			34
9	RACING PROJECT BANDOH			1	12	20			33
10	KRAFT						20	1	21
11	SHIGMATEC RACING TEAM							20	20
12	TEAM TAISAN Jr.	3	2		2			12	19
13	AUTO STAFF RACING				3	3		2	8
14	TOM'S SPIRIT	1					4		5
15	TEAM GAINER			3			2		5
16	TEAM DAIKOKUYA		4						4
17	DENTAIRE PROJET RACING						3		3
18	TEAM SRILANKA		1						1
18	TEAM GAIKOKUYA						1		1

2001 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位決定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'02オートバックス全日本GT選手権第1戦"GT選手権 in TI"

●決勝日：4月14日／TIサーキット英田 ●主催：TIサーキット／AC ●天候：晴れ ●観客：5万1000人 ●3.703km×82周＝303.646km ●参加：43台／決勝出走：42台／完走：37台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	82	2:04'24.933	1'25.111/1
2	500-2	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	82	2:04'53.331	1'25.382/2
3	500-3	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	82	2:04'54.452	1'25.739/6
4	500-4	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	82	2:04'54.746	1'25.640/3
5	500-5	16	D.シュワガー／伊藤 大輔	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	82	2:05'36.995	1'25.601/3
6	500-6	25	山路 慎一／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	82	2:05'43.980	1'25.619/4
7	500-7	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	82	2:05'44.844	1'26.086/9
8	500-8	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	82	2:05'45.327	1'26.122/10
9	500-9	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	82	2:05'47.757	1'26.137/11
10	500-10	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:04'30.096	1'26.257/13
11	500-11	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:04'50.507	1'25.705/5
12	500-12	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:04'52.817	1'26.211/12
13	500-13	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	81	2:05'00.456	1'25.811/7
14	500-14	12	星野 一義／田中 哲也	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	80	2:05'04.406	1'26.888/15
15	500-15	33	片山 右京／近藤 真彦	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	79	2:05'09.832	1'28.564/18
16	500-16	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	78	2:05'15.850	1'26.902/16
17	300-1	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	77	2:05'34.561	1'32.430/19
18	500-17	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	77	2:05'46.167	1'27.303/17
19	300-2	24	福山 英朗／木下 みつひろ	EndlessタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	76	2:04'25.396	1'32.844/20
20	300-3	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	76	2:04'57.379	1'33.436/23
21	300-4	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	76	2:04'57.557	1'33.282/21
22	300-5	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	76	2:05'08.489	1'34.079/25
23	300-6	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	76	2:05'08.814	1'34.090/26
24	300-7	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	76	2:05'33.995	1'33.460/24
25	300-8	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	76	2:05'43.324	1'34.793/33
26	300-9	2	高橋 一穂／渡辺 明	ベルノ東海ARドリーム28NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	--	75	2:05'31.102	1'35.300/36
27	300-10	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	75	2:05'39.642	1'34.525/30
28	300-11	28	羽根 幸浩／山岸 大	MY&CタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	2:05'13.112	1'36.273/40
29	300-12	17	松永まさひろ／滑川 健	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	74	2:05'59.422	1'34.759/32
30	300-13	360	西澤 誠剛／佐々木 孝太	ダンテール・フェラーリ	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131B	DL	--	74	2:06'04.042	1'34.737/31
31	300-14	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	73	2:04'45.858	1'33.398/22
32	300-15	911	平川 晃／橋村 俊英	PCJケルンテンBORO GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	73	2:05'21.375	1'35.904/37
33	300-16	21	一ツ山 幹雄／菊地 靖	ダンロップBMW M3	BMW M3（E46）	32-6S	DL	--	72	2:04'33.091	1'35.025/35
34	300-17	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	72	2:05'07.977	1'36.119/39
35	300-18	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	67	2:04'25.934	1'34.368/28
36	300-19	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クラフト・MRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	67		1'34.434/29
37	300-20	61	須賀 宏明／宮川 やすお	Asports R&D ダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	66		1'36.362/38
	500	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	43		1'26.506/14
	300	62	柴原 眞介／宮山 祥吾	R&DスポーツダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	42		1'34.362/27
	300	5	玉中 哲二／桧井 保孝	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	39		1'37.439/42
	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	11		1'37.077/41
	300	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	32-6S	BFG	--	1		1'34.825/34
ns	300	9	下島 洋介／日置 恒文	ARC大黒屋ぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	-		1'35.749/43

●優勝スピード：146.435km/h ●最速ラップ：R.ファーマン（ホンダ） 1'26.659 153.831km/h 3周目
●ペナルティ：Car No.35…1分加算

'02オートバックス全日本GT選手権第2戦"全日本富士GT"

●決勝日：5月4日／富士 ●主催：VICIC／富士スピードウェイ／FISCOクラブ ●天候：曇 ●観客：5万3000人 ●4.400km×114周＝501.600km ●参加：45台／決勝出走：43台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	114	3:14'42.322	1'24.386/2
2	500-2	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	114	3:14'47.633	1'24.303/1
3	500-3	16	伊藤 大輔／D.シュワガー	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	114	3:14'48.496	1'25.013/9
4	500-4	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	114	3:14'56.879	1'24.887/6
5	500-5	100	光貞 秀俊／金石 年弘	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	114	3:14'58.415	1'25.118/11
6	500-6	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	114	3:15'07.894	1'25.526/16
7	500-7	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	114	3:15'10.909	1'25.343/14
8	500-8	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	114	3:15'59.637	1'24.423/3
9	500-9	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	113	3:14'57.824	1'24.726/5
10	500-10	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	113	3:15'15.092	1'25.393/15
11	500-11	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	70kg	112	3:14'58.446	1'25.011/8
12	500-12	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	111	3:15'11.418	1'25.071/10
13	500-13	25	山路 慎一／G.リース	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	111	3:15'34.729	1'25.655/17
14	300-1	62	柴原 眞介／宮山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	--	108	3:16'02.907	1'32.379/19
15	300-2	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	108	3:16'14.225	1'33.053/23
16	300-3	26	木下 隆之／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	108	3:16'17.611	1'33.580/31
17	300-4	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	107	3:14'42.993	1'33.139/27
18	300-5	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	107	3:15'33.478	1'32.662/21
19	300-6	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	106	3:14'45.360	1'34.411/35
20	300-7	28	砂子塾長／山岸 大	MY&CタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	106	3:16'14.064	1'34.795/37
21	300-8	21	一ツ山 康／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	32654	DL	--	104	3:14'57.214	1'35.402/41
22	300-9	5	玉中 哲二／桧井 保孝	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	--	104	3:14'58.518	1'34.617/36
23	300-10	61	黒澤 翼／宮川 やすお	Asports R&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	103	3:15'17.449	1'35.342/40
24	300-11	17	松永まさひろ／滑川 健	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	102	3:15'32.772	1'34.157/33
25	500-14	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	100		1'24.704/4
26	300-12	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	99	3:15'08.521	1'33.691/32
27	300-13	360	西澤 誠剛／佐々木 孝太	ダンテール・フェラーリ	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	DL	--	95	3:14'59.215	1'34.348/34
28	300-14	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	--	95	3:15'53.278	1'32.521/20
29	300-15	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	94	3:15'34.363	1'37.030/43
30	300-16	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	93		1'33.133/26
31	300-17	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタル・MRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	90	3:16'15.190	1'33.205/28
32	500-15	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	50kg	89		1'25.211/12
33	300-18	9	下島 洋介／竹中 正信	ARCいじけむしぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	88	3:14'57.418	1'35.192/38
34	300-19	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	87		1'33.044/22
	300	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	65		1'33.381/30
	300	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	20kg	62		1'33.339/29
	500	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	58		1'28.732/18
	500	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	30kg	45		1'24.980/7
	300	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	50kg	35		1'33.095/24
	300	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	27		1'35.295/39
	500	12	星野 一義／田中 哲也	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	18		1'25.257/13
	300	24	福山 英朗／木下 みつひろ	EndlessタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	40kg	14		1'33.117/25
dq	300	911	平川 晃／芳賀 重光	PCJケルンテンBORO GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	-		1'35.509/42
ns	300	4	山本 俊之／吉田 泉	ZIPSPEED CORVETTE	シボレーコルベット（C4）	L98	DL	--	-	DNQ	1'48.145/-

●優勝スピード：154.572km/h ●最速ラップ：立川 祐路（トヨタ） 1'25.942 184.310km/h 9周目

'02オートバックス全日本GT選手権第5戦“JAPAN SPECIAL GT CUP”

●決勝日：7月28日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCO-C／VICIC　●天候：曇　●観客：5万1000人　●4.400km×57周＝250.800km　●参加：47台／決勝出走：45台／完走：40台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	30kg	57	1:52'06.123	1'24.729/1
2	500-2	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	57	1:52'13.119	1'25.179/3
3	500-3	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	30kg	57	1:52'14.425	1'25.443/8
4	500-4	25	荒 聖治／山路 慎一	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	57	1:52'17.856	1'24.920/2
5	500-5	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	60kg	57	1:52'25.456	1'25.205/4
6	500-6	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	57	1:52'26.254	1'25.359/7
7	500-7	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	70kg	57	1:52'26.353	1'25.501/9
8	500-8	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	57	1:52'30.201	1'25.508/10
9	500-9	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	57	1:52'31.854	1'25.603/12
10	500-10	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	57	1:52'37.071	1'26.092/17
11	500-11	16	道上 龍／伊藤 大輔	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	40kg	57	1:52'39.220	1'25.685/14
12	500-12	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	110kg	57	1:52'39.800	1'26.073/16
13	500-13	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	20kg	57	1:52'40.120	1'25.345/5
14	500-14	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	57	1:52'50.015	1'25.517/11
15	500-15	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	55		1'25.781/15
16	500-16	33	近藤 真彦／下田 隼成	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	55	1:52'42.950	1'25.616/13
17	300-1	24	福山 英朗／木下 みつひろ	EndlessタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	55	1:52'52.415	1'32.993/23
18	300-2	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	20kg	55	1:53'00.959	1'32.924/22
19	300-3	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	70kg	55	1:53'01.586	1'32.694/21
20	300-4	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	70kg	54	1:52'36.769	1'33.366/27
21	300-5	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	10kg	54	1:52'35.894	1'33.609/29
22	300-6	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	54	1:52'39.720	1'33.351/26
23	300-7	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	54	1:52'43.899	1'33.205/25
24	300-8	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	54	1:52'57.661	1'33.949/31
25	300-9	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	54	1:52'56.547	1'33.942/30
26	300-10	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	54	1:52'59.773	1'33.666/28
27	300-11	28	羽根 幸浩／山岸 大	DIRECTIONタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	54	1:53'03.056	1'34.576/37
28	300-12	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	50kg	54	1:53'04.876	1'34.254/33
29	300-13	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	40kg	54	1:53'10.083	1'31.765/20
30	300-14	911	平川 晃／砂子塾長	BOROセンナリ910ポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	54	1:53'10.173	1'35.524/41
31	300-15	9	竹中 正信／堤 明彦	ARCいじけむしぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	54	1:53'16.782	1'35.168/40
32	300-16	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	53	1:52'53.491	1'36.035/44
33	300-17	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	53	1:52'53.666	1'34.976/39
34	300-18	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタル・MRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	53	1:52'59.179	1'34.343/34
35	300-19	66	清水 哲也／阿部 伸次	ORC with REVOLUTION RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	50	1:53'12.881	1'36.513/45
36	300-20	21	一ツ山 康／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	--	48	1:52'53.531	1'35.876/43
37	300-21	61	宮川 やすお／勝間田 敦	ASports R&D ダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	44		1'34.764/38
38	300-22	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	50kg	44		1'34.364/35
39	300-23	17	松永まさひろ／滑川 健	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	44		1'34.232/32
40	300-24	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	--	41	1:52'33.634	1'34.417/36
nc	500	12	星野 一義／田中 哲也	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	18	1:52'52.085	1'26.930/18
	500	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	33		1'25.357/6
	500	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	26		1'27.706/19
	300	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	10kg	20		1'33.072/24
	300	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	1		1'35.534/42

●優勝スピード：134.195km/h　●最速ラップ：黒澤 琢弥（トヨタ）　1'25.134 186.060km/h 18周目
●ペナルティ：Car No.23…10秒ストップ、Car No.63…30秒ストップ

'02オートバックス全日本GT選手権第6戦“もてぎGTチャンピオン”

●決勝日：9月15日／もてぎ　●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：曇　●観客：4万4000人　●4.801379km×63周＝302.48687km　●参加：44台／決勝出走：42台／完走：35台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	63	1:57'38.612	1'46.926/5
2	500-2	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	63	1:57'39.196	1'46.865/3
3	500-3	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	20kg	63	1:57'58.043	1'46.724/1
4	500-4	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	63	1:58'00.179	1'47.063/9
5	500-5	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	63	1:58'29.523	1'47.163/10
6	500-6	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	40kg	63	1:58'35.753	1'46.841/2
7	500-7	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	60kg	63	1:58'45.107	1'47.658/14
8	500-8	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	63	1:58'52.009	1'47.165/11
9	500-9	25	荒 聖治／山路 慎一	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	63	1:59'01.292	1'47.567/13
10	500-10	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	40kg	63	1:59'31.014	1'48.316/18
11	500-11	12	田中 哲也／B.トレルイエ	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	62	1:57'45.623	1'47.773/15
12	500-12	33	近藤 真彦／下田 隼成	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	62	1:58'44.709	1'48.180/16
13	500-13	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	100kg	60	1:59'01.715	1'48.306/17
14	300-1	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	50kg	59	1:58'16.372	1'55.385/20
15	300-2	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	59	1:58'22.543	1'56.027/23
16	300-3	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	59	1:58'52.111	1'55.885/21
17	500-14	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	90kg	59	1:58'52.470	1'46.972/7
18	300-4	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	59	1:59'27.507	1'56.543/26
19	300-5	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	70kg	59	1:59'23.681	1'56.328/24
20	300-6	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	40kg	59	1:59'33.635	1'56.850/29
21	300-7	24	福山 英朗／木下 みつひろ	Endlessタイサンアドバンgt3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	50kg	59	1:59'35.616	1'57.255/34
22	300-8	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	59	1:59'35.799	1'57.169/32
23	300-9	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	56	1:58'06.501	1'57.447/35
24	300-10	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	10kg	56	1:59'13.290	1'56.869/31
25	300-11	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	56	1:59'21.885	1'58.217/36
26	300-12	911	平川 晃／芳賀 重光	BOROセンナリ910ポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	57	1:58'22.125	1'59.350/40
27	500-15	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	57	1:58'27.280	1'46.893/4
28	300-13	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	57	1:58'51.750	1'59.105/39
29	300-14	21	一ツ山 幹雄／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	326S4	DL	--	57	1:59'40.640	1'58.467/37
30	300-15	70	石橋 義三／袖山 誠一	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	56	1:58'04.013	2'01.165/41
31	300-16	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	--	55	1:58'00.417	1'55.905/22
32	300-17	28	羽根 幸浩／山岸 大	DIRECTIONタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	53	1:58'17.618	1'56.843/28
33	500-16	16	道上 龍／伊藤 大輔	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	49		1'46.955/6
34	500-17	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	47		1'47.423/12
35	500-18	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	44		1'50.965/19
	300	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	39		1'57.239/33
	300	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	34		1'56.592/27
	300	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	30kg	32		1'56.467/25
	300	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタルMRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	26		1'56.867/30
	500	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	10		1'47.029/8
	500	87	山西 康司／五十嵐 勇大	HKS CLK	メルセデスベンツCLK	M119	MI	--	3		1'55.725/42
	300	66	清水 哲也／塩野入 睦	ORC with REVOLUTION RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	0		1'58.700/38
ns	300	4	古谷 直広／吉田 泉	ZIPSPEED CORVETTE	シボレーコルベット（C4）	L98	DL	--	-	DNQ	2'07.995/-

●優勝スピード：154.273km/h　●最速ラップ：R.ライアン（ホンダ）　1'48.349 159.530km/h 3周目
●ペナルティ：Car No.39…00秒ストップ、Car No.33…10秒ストップ、Car No.71…00秒ストップ

'02オートバックス全日本GT選手権第3戦“SUGO GT選手権”

●決勝日：5月26日／菅生　●主催：VICIC／菅生／奥州VICIC　●天候：晴れ　●観客：4万8500人　●3.704256km×81周＝300.04473km　●参加：43台／決勝出走：42台／完走：35台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	40kg	81	2:07'09.240	1'18.696/6
2	500-2	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	81	2:07'19.169	1'18.906/9
3	500-3	16	伊藤 大輔／D.シュワガー	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	40kg	81	2:07'25.534	1'19.046/10
4	500-4	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	81	2:07'26.170	1'20.079/17
5	500-5	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:07'26.403	1'19.066/11
6	500-6	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	20kg	81	2:07'34.649	1'19.441/13
7	500-7	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:07'34.806	1'19.324/12
8	500-8	12	星野 一義／田中 哲也	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	81	2:07'35.947	1'19.847/16
9	500-9	33	片山 右京／近藤 真彦	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	81	2:07'42.985	1'20.558/18
10	500-10	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	81	2:07'49.616	1'16.097/2
11	500-11	25	山路 慎一／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	81	2:08'12.666	1'16.372/4
12	500-12	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	81	2:08'25.651	1'16.747/7
13	500-13	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	80	2:07'36.152	1'17.814/1
14	500-14	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	80	2:07'38.914	1'19.744/15
15	500-15	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	79	2:07'20.432	1'22.745/42
16	300-1	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	78	2:07'26.563	1'24.916/19
17	300-2	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	78	2:07'36.805	1'26.206/27
18	500-16	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	77	2:07'46.165	1'18.395/5
19	300-3	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	76	2:07'35.318	1'27.512/35
20	500-17	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	70kg	76	2:07'46.614	1'18.780/8
21	300-4	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	20kg	76	2:07'57.193	1'26.300/23
22	300-5	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	76	2:08'11.269	1'26.772/33
23	300-6	28	羽根 幸浩／山岸 大	MY&CタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	76	2:08'34.679	1'27.678/36
24	300-7	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	75	2:07'33.958	1'27.028/34
25	300-8	21	一ツ山 康／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	326S4	DL	--	75	2:07'52.628	1'28.086/37
26	300-9	911	平川 晃／芳賀 重光	PCJケルンテンBORO GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	75	2:07'59.968	1'30.253/41
27	300-10	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	75	2:06'43.164	1'29.148/39
28	300-11	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタル・MRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	75	2:06'43.172	1'26.675/30
29	300-12	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	10kg	74	2:07'16.762	1'26.102/20
30	300-13	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST-AUTOSTAFF-ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	74	2:06'14.305	1'29.208/40
31	300-14	17	松永まさひろ／滑川 健	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	73	2:07'53.065	1'28.583/38
32	300-15	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	50kg	72		1'25.294/22
33	300-16	24	福山 英朗／木下 みつひろ	Endlessタイサンアドバンgt3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	68		1'26.672/29
34	300-17	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	40kg	64	2:09'31.565	1'25.794/24
35	300-18	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	58		1'26.110/25
	300	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	10kg	46		1'25.269/21
	500	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	36		1'19.559/14
	300	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	30kg	34		1'25.955/25
	500	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	50kg	33		1'18.328/3
	300	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	1		1'26.769/32
	300	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	0		1'26.746/31
	300	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	0		1'25.330/23
ns	300	4	古谷 直広／吉田 泉	ZIPSPEED CORVETTE	シボレーコルベット（C4）	L98	DL	--	-	DNQ	1'35.695/-

●優勝スピード：141.582km/h　●最速ラップ：加藤 寛規（ホンダ）　1'20.177 166.324km/h 8周目
●ペナルティ：Car No.36…10秒ストップ、Car No.25…1分加算、Car No.39…30秒ストップ、Car No.8…10秒ストップ、Car No.55…10秒ストップ、Car No.26…1分加算、Car No.70…10秒ストップ、Car No.86…1分加算、Car No.31…1分加算、Car No.35…1分加算

'02オートバックス全日本GT選手権第4戦“TM TOUCH JAPAN GT CHAMPIONSHIP MALAYSIA”

●決勝日：6月23日／セパン　●主催：Sepang Circuit　●天候：晴れ　●観客：3万9000人　●5.543km×54周＝299.322km　●参加：39台／決勝出走：39台／完走：31台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	40kg	54	1:52'58.555	1'59.291/1
2	500-2	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	54	1:53'17.313	1'59.326/2
3	500-3	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	--	54	1:53'22.322	2'00.209/5
4	500-4	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	54	1:53'37.602	2'00.596/11
5	500-5	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	40kg	54	1:53'49.279	2'00.232/6
6	500-6	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	54	1:54'14.668	1'59.533/3
7	500-7	33	近藤 真彦／下田 隼成	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	54	1:55'01.381	2'01.617/15
8	500-8	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	20kg	53	1:53'07.028	2'01.119/14
9	500-9	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	53	1:53'13.647	2'00.510/10
10	500-10	16	伊藤 大輔／D.シュワガー	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	60kg	53	1:53'26.034	2'00.248/7
11	500-11	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	90kg	53	1:53'56.877	2'00.350/9
12	500-12	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	53	1:54'11.270	2'03.103/17
13	500-13	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	53	1:54'36.567	2'00.004/4
14	300-1	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	50	1:53'04.057	2'10.296/21
15	300-2	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	40kg	50	1:53'34.652	2'10.066/24
16	300-3	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	50	1:53'53.330	2'10.452/22
17	300-4	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	50	1:54'15.519	2'12.584/32
18	300-5	24	福山 英朗／木下 みつひろ	Endlessタイサンアドバンgt3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	10kg	50	1:54'18.024	2'11.995/29
19	300-6	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	30kg	50	1:54'18.247	2'10.214/20
20	300-7	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	20kg	50	1:54'27.907	2'10.831/23
21	300-8	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	20kg	50	1:54'39.158	2'11.303/25
22	300-9	55	山田 英二／木下 隆之	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	50	1:54'40.964	2'11.883/28
23	300-10	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUSe タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	50	1:55'05.960	2'12.784/33
24	300-11	28	羽根 幸浩／山岸 大	MY&CタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	49	1:53'07.038	2'13.038/34
25	300-12	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	49	1:53'51.608	2'12.428/31
26	300-13	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタルMRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	49	1:54'15.776	2'11.551/26
27	300-14	9	下島 洋介／竹中 正信	ARCいじけむしぽるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	49	1:54'23.712	2'13.732/35
28	300-15	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	10kg	48	1:55'04.828	2'15.863/37
29	300-16	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	47	1:54'42.887	2'11.598/27
30	300-17	61	宮川 やすお／勝間田 敦	R&D Sports ダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	44	1:53'23.371	2'14.975/36
31	300-18	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	SL6	YO	--	43	1:54'59.919	2'12.389/30
	500	12	星野 一義／田中 哲也	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	50		2'00.605/12
	500	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	RB26DETT	BS	--	39		2'00.254/8
	300	21	一ツ山 康／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	326S4	DL	--	39		2'15.869/39
	300	70	石橋 義三／P.バン・スクート	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	34		2'15.364/38
	500	25	山路 慎一／荒 聖治	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	--	21		2'00.869/13
	300	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	40kg	5		2'09.821/19
	500	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	4		2'05.547/18
dq	500	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	49		2'02.403/16

●優勝スピード：158.966km/h　●最速ラップ：R.ファーマン（ホンダ）　2'01.574 164.137km/h 3周目
●ペナルティ：Car No.77…1分加算

'02オートバックス全日本GT選手権第7戦"CP MINE GT"

●決勝日：10月27日／美祢　●主催：CP MINE／CPMC　●天候：曇　●観客：4万4800人　●3.330839km×76周＝253.14376km　●参加：44台／決勝出走：44台／完走：26台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	16	道上 龍／伊藤 大輔	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	76	1:49'23.691	1'22.227/3
2	500-2	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	20kg	76	1:49'40.623	1'22.589/10
3	500-3	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	40kg	76	1:50'46.388	1'22.081/2
4	500-4	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	76	1:50'55.232	1'22.476/9
5	500-5	25	荒 聖治／山路 慎一	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	76	1:50'55.361	1'22.936/17
6	500-6	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	70kg	76	1:50'55.892	1'21.980/1
7	500-7	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	76	1:50'58.554	1'22.909/16
8	500-8	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	75	1:49'56.726	1'22.380/7
9	500-9	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	90kg	75	1:50'15.449	1'22.856/15
10	500-10	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	75	1:50'25.454	1'22.230/4
11	500-11	33	近藤 真彦／下田 隼成	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	74	1:49'39.100	1'22.611/14
12	500-12	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	90kg	72	1:50'25.876	1'22.585/11
13	300-1	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	80kg	71	1:49'52.718	1'28.719/22
14	300-2	910	松田 秀士／A.ウィルコクス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	71	1:50'04.601	1'29.680/36
15	300-3	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	71	1:50'15.958	1'29.435/34
16	300-4	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	71	1:50'17.998	1'28.654/24
17	300-5	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	60kg	71	1:50'31.087	1'29.413/33
18	300-6	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	71	1:50'39.558	1'29.092/30
19	300-7	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	30kg	71	1:50'51.988	1'29.175/32
20	300-8	911	平川 晃／砂子塾長	BOROセンナリ910ポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	70	1:50'51.207	1'30.042/38
21	500-13	12	田中 哲也／B.トレルイエ	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	70	1:50'56.432	1'23.004/18
22	300-9	70	石橋 義三／袖山 誠一	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	68	1:50'00.869	1'32.594/44
23	300-10	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	67	1:50'47.959	1'30.650/40
24	300-11	51	尾本 直史／白井 剛	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	64	1:49'53.716	1'31.259/42
25	300-12	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	50kg	62		1'29.139/31
26	300-13	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	52		1'28.947/27
	300	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタルMRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	46		1'28.938/26
	500	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	50kg	40		1'22.621/12
	500	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	50kg	40		1'22.462/8
	300	360	西澤 誠剛／佐々木 孝太	ダンテール・フェラーリ	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	DL	--	38		1'30.269/39
	300	7	松本 晴彦／谷口 信輝	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	30kg	37		1'28.790/23
	300	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	--	28		1'28.605/21
	300	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	80kg	26		1'29.501/35
	300	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	22		1'30.879/41
	300	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	--	18		1'29.036/29
	300	24	福山 英朗／木下 みつひろ	EndlessタイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	40kg	16		1'26.851/25
	500	87	山西 康司／五十嵐 勇大	HKS CLK	メルセデスベンツCLK	M119	MI	--	7		1'26.285/20
	300	17	松永まさひろ／滑川 健	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	7		1'29.934/37
	500	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	6		1'22.783/13
	300	21	一ツ山 幹雄／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	326S4	DL	--	6		1'31.575/43
	500	37	黒澤 琢弥／P.モンティン	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	40kg	5		1'22.314/5
	300	28	羽根 幸浩／山岸 大	DIRECTIONタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	5		1'26.978/28
	500	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	4		1'24.575/19
	500	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	0		1'22.330/6

●優勝スピード：138.732km/h　●最速ラップ：伊藤 大輔（ホンダ）　1'23.186　144.147km/h
●ペナルティ：Car No.39…10秒ストップ、Car No.8…30秒ストップ、Car No.1…10秒ストップ、Car No.33…20秒ストップ、Car No.360…1分加算、Car No.7…20秒ストップ

'02オートバックス全日本GT選手権第8戦"SUZUKA GT 300km"

●決勝日：11月17日／鈴鹿　●主催：鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：晴れ　●観客：3万2000人　●5.821km×52周＝302.692km　●参加：47台／決勝出走：46台／完走：38台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	64	松田 次生／R.ファーマン	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	60kg	52	1:46'44.403	1'56.217/3
2	500-2	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	52	1:46'45.127	1'56.579/6
3	500-3	6	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	50kg	52	1:46'45.365	1'55.810/1
4	500-4	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	30kg	52	1:47'11.767	1'56.727/7
5	500-5	39	J.デュフォア／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	10kg	52	1:47'13.157	1'56.899/8
6	500-6	1	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	70kg	52	1:47'44.757	1'56.579/5
7	500-7	25	荒 聖治／山路 慎一	FK／マッシモADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	YO	20kg	52	1:48'16.996	1'57.218/10
8	500-8	23	影山 正美／E.コマス	カストロールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	--	52	1:48'25.888	1'57.335/12
9	500-9	36	土屋 武士／W.ガードナー	トクホン トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	70kg	52	1:48'39.569	1'57.374/13
10	500-10	16	道上 龍／伊藤 大輔	無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	100kg	51	1:47'19.043	1'57.071/9
11	500-11	30	岡田 秀樹／黒澤 治樹	綜警 McLaren	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	51	1:48'13.571	1'57.964/15
12	500-12	35	影山 正彦／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	--	51	1:48'14.246	1'57.965/16
13	500-13	33	近藤 真彦／下田 隼成	United UKYO SUPRA	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	BS	--	51	1:48'16.405	1'58.813/18
14	500-14	18	S.フィリップ／R.ライアン	TAKATA 童夢 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	70kg	49	1:46'47.407	1'58.000/2
15	500-15	87	山西 康司／五十嵐 勇大	HKS CLK	メルセデスベンツCLK	M119	MI	--	48	1:47'03.583	2'04.991/46
16	300-1	81	大八木 信行／青木 孝行	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	40kg	48	1:47'42.946	2'07.609/23
17	300-2	24	福山 英朗／木下 みつひろ	Endlessタイサンアドバンgt3r	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	48	1:47'55.796	2'08.806/31
18	300-3	7	松本 晴彦／木下 隆之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	20kg	48	1:47'59.402	2'08.399/27
19	300-4	31	新田 守男／高木 真一	ARTAアペックスMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	50kg	48	1:48'10.049	2'08.052/25
20	300-5	910	松田 秀士／A.ウィルコックス	910ロデオドライブアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	20kg	48	1:48'11.699	2'08.671/29
21	300-6	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	10kg	48	1:48'15.579	2'07.317/22
22	300-7	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&D ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	80kg	48	1:48'36.165	2'07.904/24
23	300-8	28	羽根 幸浩／山岸 大	DIRECTIONタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	48	1:48'46.620	2'08.658/33
24	300-9	2	高橋 一穂／渡辺 明	BOSSベルノ東海AR・NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	20kg	47	1:47'18.092	2'09.012/34
25	300-10	911	平川 晃／芳賀 重光	PCJナインテンBORO GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	47	1:47'40.906	2'10.389/39
26	300-11	17	松永まさひろ／藤田 孝博	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	47	1:48'27.774	2'09.658/37
27	300-12	19	田中 実／後藤 聡	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	40kg	47	1:48'32.443	2'08.579/28
28	300-13	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO CAR倶楽部マッハ号MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	20kg	47	1:48'57.800	2'07.206/21
29	500-16	37	黒澤 琢弥／野田 英樹	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	MI	20kg	46		1'56.390/4
30	300-14	51	尾本 直史／石川 朗	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	46	1:46'46.012	2'12.021/42
31	300-15	360	西澤 誠剛／佐々木 孝太	ダンテール・フェラーリ	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F131	DL	--	46	1:47'42.765	2'14.608/45
32	300-16	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	46	1:47'46.764	2'08.719/30
33	300-17	26	余郷 敦／西澤 和之	PLUS e タイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	46	1:47'58.798	2'08.833/32
34	300-18	9	竹中 正信／下島 洋介	ARCいじけむしぼるしぇ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	45	1:47'01.042	2'10.403/40
35	300-19	86	長島 正興／松田 晃司	プロジェクトμ・クリスタルMRS	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	10kg	44	1:53'54.606	2'10.061/38
36	300-20	70	石橋 義三／小宮 延雄	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	42	1:46'59.964	2'12.566/43
37	300-21	55	山田 英二／清水 剛	イクリプスタイサンADバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	41		2'03.184/26
38	500-17	12	田中 哲也／B.トレルイエ	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	10kg	36	1:48'26.263	1'57.472/14
	300	21	一ツ山 康／菊地 靖	ダンロップBMW M3GT	BMW M3（E46）	326S4	DL	--	28		2'11.094/41
	500	22	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DET	BS	50kg	27		1'57.320/11
	300	66	清水 哲也／塩野入 誼	ORC with REVOLUTION RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	DL	--	27		2'13.037/44
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	20kg	19		2'03.418/36
	300	3	山野 哲也／柳田 真孝	ユニシアジェックスシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	60kg	18		2'07.121/20
	500	76	服部 尚貴／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	30kg	17		1'58.580/17
	500	88	M.アピチェッラ／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DE068)	L532	DL	--	8		2'02.511/19
	300	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュンR&DダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	-		2'09.340/35
ns	300	4	古谷 直広／吉田 泉	ZIPSPEED CORVETTE	シボレーコルベット（C4）	L98	DL	--	-	DNQ	2'22.197/47

●優勝スピード：170.147km/h　●最速ラップ：R.ファーマン（ホンダ）　1'58.531　176.794km/h
●ペナルティ：Car No.23…10秒ストップ、Car No.21…10秒ストップ

2002シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	脇阪 寿一／飯田 章	1	16	20		4	10	10	14	75
2	松田 次生／R.ファーマン	22		1	22			7	22	74
3	竹内 浩典／立川 祐路	10	22		2	22	1	2	6	65
4	光貞 秀俊	2	8	16	8	3	16		10	63
5	伊藤 大輔	9	13	12	1		1	22	1	59
6	加藤 寛規	2		16	8	3	16		10	55
7	土屋 武士／W.ガードナー	3		3	16	8	7	13	2	52
8	本山 哲／M.クルム		4	4	10	16	1	16		51
9	S.フィリップ／R.ライアン	17			1	6	21		2	47
10	土屋 圭市／金石 勝智	4	10	2	7	2	3	3	15	46
11	黒澤 琢弥			8	13	13	4			38
11	P.モンティン			8	13	13	4			38
12	D.シュワガー	9	13	12	1					35
13	J.デュフォア／織戸 学	13					8	4	8	33
14	山路 慎一	6				12	2	8	4	32
14	荒 聖治	6				12	2	8	4	32
15	服部 尚貴／田嶋 栄一		5	6	3		13			27
16	道上 龍						1	22	1	24
17	影山 正美／E.コマス		6	10					3	19
18	金石 年弘		8							8
19	近藤 真彦			2	4					6
20	下田 隼成				4					4
21	田中 哲也			3				1		4
22	星野 一義			3						3
23	影山 正彦／脇阪 薫一		1			1		1		3
24	岡田 秀樹／黒澤 治樹		2							2
24	片山 右京			2						2
26	B.トレルイエ							1		1

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	新田 守男／高木 真一	22		1	16	10	8	8	10	75
2	柴原 眞介／密山 祥吾		22		1	2	22	22	4	73
3	山野 哲也／柳田 真孝	11		22	12	13	10		2	70
4	福山 英朗／木下 みつひろ	17			8	21	4		15	65
5	大八木 信行／青木 孝行	13		1	4	17			21	56
6	松田 秀士／A.ウィルコックス	3	10		10	6	3	15	8	55
7	西澤 和之	8	12	4	1	4	13	12		54
8	小林 且雄／谷川 達也	4	6	15		8	16	4		53
9	余郷 敦	8		4	1	4	13	12		42
10	松本 晴彦	6			22			1	12	41
11	木下 隆之		12	8	2				12	34
12	田中 実／後藤 聡		9	2	8		6	6		31
13	谷口 信輝	6			22			1		29
14	山田 英二	1		8	2	3	2	10		26
15	Guts城内／澤 圭太		16				1		7	24
16	高橋 一穂／渡辺 明	2	2	10	3	1		2	2	22
17	清水 剛	1				3	2	10		16
18	OSAMU／中川 隆正			12				1		13
19	山岸 大		4	6					3	13
20	羽根 幸浩			6					3	9
21	砂子塾長		4					3		7
22	菊地 靖		3	3						6
22	一ツ山 康		3	3						6
24	平川 晃			2				3	1	6
25	玉中 哲二／松井 保孝(三船 剛)		2				2		2	6
26	石橋 義三			1				2		3
26	芳賀 重光			2					1	3
28	橋本 元次／C.クワン					2				2
28	小宮 延雄							2		2
30	宮川 泰夫		1							1
30	黒澤 翼		1							1
30	P.バン・スクート			1						1
30	長島 正興／松田 晃司							1		1

●全日本GT選手権／チーム第1部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	MUGEN×DOME PROJECT	17	13	12	2	6	21	22	3	96
2	ESSO TOYOTA Team LeMans	1	16	20		4	10	10	14	75
3	NAKAJIMA RACING	22		1	22			7	22	74
4	TOYOTA TEAM CERUMO	10	22	2	4	22	1	2	6	69
5	TOYOTA TEAM TOM'S	3		10	17	13	7	13	2	65
6	TEAM KUNIMITSU with MOON CRAFT	2	8	16	8	3	16		10	63
7	NISMO		6	10	10	16	1	16	3	62
8	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	4	10	2	7	2	3	3	15	46
9	TOYOTA TEAM SARD	13					8	4	8	33
10	TSUCHIYA ENGINEERING	6				12	2	8	4	32
11	HITOTSUYAMA RACING		5	6	3		13			27
12	TEAM IMPUL			3				1		4
13	KRAFT		1			1		1		3
14	TEAM TAKE ONE		2							2

●全日本GT選手権／チーム第2部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	TEAM TAISAN ADVAN	17	12	4	8	21	13	12	15	102
2	R&D SPORT		22	12	1	2	22	22	4	85
3	ARTA with A'pex	22		1	16	10	8	8	10	75
4	ハセミ・モータースポーツ	11		22	12	13	10		2	70
5	910 RACING	3	10	2	10	6	3	15	8	57
6	TEAM DAISHIN	13		1	4	17			21	56
7	CUSCO RACING	4	6	15		8	16	4		53
8	RE雨宮レーシング	6			22			1	12	41
9	TEAM TAISAN Jr.	1	4	8	2	3	2	10	3	33
10	RACING PROJECT BANDOH		9	2	8		6	6		31
11	SHIGMATEC RACING TEAM		16				1		7	24
12	VERNO TOKAI DREAM 28	2	2	10	3	1		2	2	22
13	HITOTSUYAMA RACING		3	3						6
13	A&S RACING		2				2		2	6
15	TEAM GAIKOKUYA			1				2		3
16	AMPREX MOTORSPORTS					2				2
17	R&D SPORT.net		1							1
17	KRAFT							1		1

●全日本GT選手権／エンジンチューナー部門（GT500）

Pos.	Engine tuner	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	無限	20	12	15	20	6	20	20	20	133
2	トヨタテクノクラフト	12	20	20	15	20	10	12	12	121
3	オーテックジャパン		6	10	10	15	1	15	3	60
4	BMW Motorsport		3	6	3		12			24
5	東名エンジン			3						3

●全日本GT選手権／エンジンチューナー部門（GT300）

Pos.	Engine tuner	第1戦 4/14 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/26 菅生	第4戦 6/23 セパン	第5戦 7/28 富士	第6戦 9/15 もてぎ	第7戦 10/27 美祢	第8戦 11/17 鈴鹿	Total
1	戸田レーシング	12	20	10	4	15	20	20	20	121
2	MID WEST RACING	15	12	20	12	20	12	12	15	118
3	トヨタテクノクラフト	20	15		15	10	8	6	10	86
4	ナインテン		10	2	10	6	3	15	8	54
5	STI	4	6	15		8	15	4		52
6	RE雨宮	6			20				12	38
7	CDI	1		8	2	3	2	10		26
8	リコーエンジニア		3	3						6
9	アイテックモータースポーツ	3								3
10	尾川自動車		2							2
10	進エンジン					2				2

2002 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。予選1～3位と決勝ベストラップ1～3位のドライバーとチームに各1点（新設エンジンチューナー部門には該当せず）。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'03オートバックス全日本GT選手権第3戦"SUGO GT CHAMPIONSHIP"

●決勝日：5月25日／菅生　●主催：菅生／日本モーターレーシングセンター　●天候：曇　●観客：4万8000人　●3.704256km×81周＝300.044736km　●参加：45台／決勝出走：42台／完走：36台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	40kg	81	1:52'45.096	1'17.305/1
2	500-2	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	20kg	81	1:52'45.178	1'18.273/4
3	500-3	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	50kg	81	1:53'09.538	1'17.953/2
4	500-4	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	81	1:53'51.943	1'18.842/11
5	500-5	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	60kg	81	1:53'58.077	1'18.876/12
6	500-6	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	--	80	1:52'57.944	1'19.390/16
7	500-7	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	80	1:53'01.063	1'18.363/5
8	500-8	64	松田 次生／小暮 卓史	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	80	1:53'10.160	1'18.795/10
9	500-9	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	80	1:53'12.113	1'18.400/6
10	500-10	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	20kg	80	1:53'23.380	1'18.197/3
11	500-11	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	80	1:53'42.818	1'19.275/15
12	500-12	76	五十嵐 勇大／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	--	80	1:53'50.166	1'18.983/14
13	500-13	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENTトムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	--	80	1:53'52.499	1'18.752/8
14	500-14	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	30kg	79	1:53'45.723	1'18.931/13
15	500-15	62	柴原 眞介／密山 祥吾	VemacR&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	77	1:53'15.385	1'20.328/17
16	300-1	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	10kg	75	1:53'13.066	1'24.777/21
17	300-2	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1マッハ号GT320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	--	75	1:53'15.976	1'24.722/20
18	300-3	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	75	1:53'27.360	1'24.959/22
19	300-4	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン(SA9VGR)	SR20DET	BFG	10kg	75	1:53'44.781	1'25.002/23
20	300-5	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	75	1:53'56.037	1'25.313/24
21	300-6	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	75	1:54'01.781	1'25.480/25
22	300-7	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	74	1:52'48.421	1'26.107/30
23	300-8	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサン ADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	60kg	74	1:52'59.863	1'26.243/32
24	300-9	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	1:53'09.355	1'26.344/33
25	300-10	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	74	1:53'18.380	1'27.177/37
26	300-11	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	73	1:53'38.132	1'26.912/34
27	300-12	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	73	1:53'43.564	1'27.473/38
28	300-13	24	余郷 敦／浅井 亮博	Endlessタイサンアドバン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	35kg	73	1:53'43.861	1'26.053/29
29	300-14	21	一ツ山 康／松本 晴彦	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	--	72	1:53'01.742	1'28.262/40
30	300-15	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	72	1:54'06.748	1'27.775/39
31	300-16	70	石橋 義三／清水 剛	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	71	1:52'51.320	1'29.273/41
32	300-17	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	50kg	71	1:53'17.253	1'26.051/28
33	300-18	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	69		1'26.033/27
34	300-19	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECHダンロップGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	69	1:53'15.669	1'29.802/42
35	500-16	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	68		1'18.773/9
36	300-20	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	--	63	1:53'25.504	1'26.959/35
	300	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	45		1'25.703/26
	300	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	42		1'27.027/36
	300	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	42		1'26.180/31
	500	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	40kg	40		1'18.493/7
	300	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	10kg	36		1'24.689/19
	500	88	古谷 直広／WADA-Q	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	22		1'21.403/18
ns	300	10	OSAMU／倉嶋 新一	レイジュン・ダンロップGT-1	RGSミラージュGT1・シボレー	LS1	DL	--	-	DNQ	1'32.335/-

●優勝スピード： 159.667km/h　●最速ラップ：本山 哲（ニッサン）　1'19.792　167.126km/h　3周目

'03オートバックス全日本GT選手権第4戦"Malaysian JGTC in FUJI SPEEDWAY"

[第1レース]

●決勝日：7月13日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／SCCN
●天候：曇　●観客：4万1000人　●4.400km×20周＝88.000km
●参加：44台／決勝出走：43台／完走：43台

Pos	Class-Pos.	No.	Driver	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	12	井出 有治	20kg	20	31'22.121	1'25.034/7
2	500-2	39	D.シュワガー	10kg	20	31'29.079	1'25.158/9
3	500-3	23	本山 哲	90kg	20	31'29.527	1'25.156/8
4	500-4	22	影山 正美	40kg	20	31'30.300	1'24.999/6
5	500-5	62	柴原 眞介	--	20	31'30.716	1'27.574/16
6	500-6	38	竹内 浩典	30kg	20	31'38.525	1'24.324/1
7	500-7	36	E.コマス	50kg	20	31'39.136	1'24.464/2
8	500-8	88	WADA-Q	--	20	31'41.263	1'28.286/17
9	500-9	1	飯田 章	110kg	20	31'45.884	1'25.454/11
10	500-10	100	加藤 寛規	10kg	20	31'50.169	1'25.820/12
11	500-11	35	服部 尚貴	--	20	31'50.672	1'24.514/3
12	500-12	18	S.フィリップ	--	20	32'02.109	1'25.167/10
13	500-13	64	A.ロッテラー	--	20	32'02.459	1'26.066/13
14	500-14	16	伊藤 大輔	10kg	20	32'02.560	1'26.352/43
15	500-15	8	金石 勝智	--	20	32'18.423	1'26.439/14
16	500-16	25	J.デュフォア	10kg	20	32'37.743	1'24.971/5
17	500-17	76	田嶋 栄一	--	20	32'50.390	1'26.684/15
18	500-18	37	黒澤 琢弥	--	19	31'43.347	1'24.632/4
19	300-1	3	柳田 真孝	35kg	19	32'27.596	1'32.283/19
20	300-2	55	木下 隆之	--	19	32'29.907	1'32.712/23
21	300-3	81	植松 忠雄	--	18	31'55.422	1'33.556/30
22	300-4	11	松田 秀士	30kg	18	32'01.206	1'32.937/24
23	300-5	51	加藤 正将	--	18	32'08.076	1'33.645/32
24	300-6	71	澤 圭太	--	18	32'14.175	1'33.454/28
25	300-7	17	長島 正興	--	18	32'23.901	1'33.562/31
26	300-8	24	浅井 亮博	20kg	18	32'27.953	1'32.614/22
27	300-9	5	玉中 哲二	30kg	18	32'40.059	1'33.735/35
28	300-10	2	高橋 一穂	10kg	18	32'40.728	1'33.678/33
29	300-11	19	田中 実	--	18	32'53.249	1'32.099/18
30	300-12	7	大井 貴之	10kg	18	32'53.338	1'34.107/36
31	300-13	910	宮川 やすお	--	18	33'01.080	1'34.455/37
32	300-14	26	西澤 和之	65kg	17	31'23.382	1'32.405/20
33	300-15	43	新田 守男	20kg	17	31'28.558	1'33.176/25
34	300-16	70	清水 剛	--	17	31'35.547	1'35.510/41
35	300-17	77	小林 且雄	--	17	31'35.802	1'33.518/29
36	300-18	9	筒井 克彦	10kg	17	31'38.685	1'33.711/34
37	300-19	111	飯島 寛也	--	17	31'38.823	1'37.302/42
38	300-20	15	橋本 元次	--	17	31'42.278	1'35.473/40
39	300-21	69	位高 敬	--	17	31'47.708	1'33.251/26
40	300-22	34	西澤 誠剛	--	17	32'22.540	1'32.467/21
41	300-23	31	後藤 聡	60kg	17	32'24.200	1'33.421/27
42	300-24	10	水谷 竜也	--	15	32'04.007	1'35.367/39
43	300-25	911	砂子 塾長	--	15	32'48.226	1'34.497/38
ns	300-	21	一ツ山 康	--	-		1'36.987/44

●優勝スピード：130.539km/h　●最速ラップ：E.コマス（トヨタ）　1'27.701　180.614km/h　14周目
●ペナルティ：Car No.51…ドライブスルー、Car No.7…ドライブスルー

[第2レース]

●決勝日：7月13日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／SCCN
●天候：雨　●観客：4万1000人　●4.400km×30周＝132.000km
●参加：44台／決勝出走：43台／完走：34台

Pos	Class-Pos.	No.	Driver	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	12	B.トレルイエ	20kg	30	1:00'33.073	----/1
2	500-2	22	R.ライアン	40kg	30	1:00'34.419	----/4
3	500-3	38	立川 祐路	30kg	30	1:01'17.313	----/6
4	500-4	1	脇阪 寿一	110kg	30	1:01'25.913	----/9
5	500-5	18	道上 龍	--	30	1:01'26.373	----/12
6	500-6	39	織戸 学	10kg	30	1:01'35.702	----/2
7	500-7	23	M.クルム	90kg	30	1:01'38.299	----/3
8	500-8	36	土屋 武士	50kg	30	1:01'53.774	----/7
9	500-9	8	土屋 圭市	--	30	1:01'54.674	----/15
10	500-10	16	T.コロネル	10kg	30	1:02'05.600	----/14
11	500-11	25	荒 聖治	10kg	29	1:00'53.315	----/16
12	500-12	35	脇阪 薫一	--	29	1:01'00.433	----/11
13	500-13	64	松田 次生	--	29	1:01'01.780	----/13
14	300-1	11	田中 哲也	30kg	28	1:00'41.524	----/22
15	500-14	62	密山 祥吾	--	28	1:00'44.356	----/5
16	500-15	37	M.アピチェッラ	--	28	1:00'51.296	----/18
17	300-2	55	山田 英二	--	28	1:00'52.634	----/20
18	300-3	26	山路 慎一	65kg	28	1:00'53.777	----/32
19	300-4	34	松田 晃司	--	28	1:00'54.275	----/40
20	300-5	19	青木 孝行	--	28	1:01'07.674	----/29
21	300-6	31	佐々木 孝太	60kg	28	1:01'23.504	----/41
22	300-7	3	木下 みつひろ	35kg	28	1:01'26.793	----/19
23	300-8	43	高木 真一	20kg	28	1:01'33.146	----/33
24	300-9	15	C.クワン	--	28	1:01'54.563	----/38
25	300-10	81	星野 一樹	--	28	1:02'03.873	----/21
26	300-11	70	石橋 義三	--	28	1:02'04.019	----/34
27	300-12	24	余郷 敦	20kg	28	1:02'10.080	----/26
28	300-13	51	尾本 直史	--	27	1:00'37.196	----/23
29	300-14	910	平川 晃	--	27	1:01'31.645	----/31
30	300-15	111	芳賀 重光	--	27	1:02'02.962	----/37
31	300-16	17	松永まさひろ	--	26	1:00'34.295	----/25
32	300-17	911	高見沢 一吉	--	26	1:00'36.486	----/43
33	300-18	9	菅 一乗	10kg	26	1:00'44.254	----/36
34	300-19	69	山岸 大	--	26	1:01'00.624	----/39
	300	77	谷川 達也	--	20		----/35
	300	10	OSAMU	--	15		----/42
	300	2	渡辺 明	10kg	15		----/26
	500	88	山西 康司	--	1		----/8
	500	100	光貞 秀俊	10kg	1		----/10
	500	76	黒澤 治樹	--	1		----/17
	300	7	谷口 信輝	10kg	1		----/30
	300	71	Guts城内	--	0		----/24
	300	5	三船 剛	30kg	0		----/27
ns	300	21	松本 晴彦	--	-		----/-

●優勝スピード：176.729km/h　●最速ラップ：脇阪 薫一（トヨタ）　1'35.492　165.878km/h　29周目

'03オートバックス全日本GT選手権第1戦"GT選手権 in TI"

●決勝日：3月30日／TIサーキット英田　●主催：TIサーキット／AC　●天候：晴れ　●観客：5万5000人　●3.703km×82周＝303.646km　●参加：41台／決勝出走：41台／完走：36台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	–	82	2:05'08.439	1'25.372/4
2	500-2	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	–	82	2:05'12.722	1'24.670/1
3	500-3	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	–	82	2:05'37.797	1'25.673/5
4	500-4	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	–	82	2:05'48.801	1'25.342/3
5	500-5	64	松田 次生／小暮 卓史	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	–	82	2:06'17.387	1'26.508/9
6	500-6	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONEトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	–	82	2:06'20.130	1'26.102/7
7	500-7	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	–	82	2:06'20.945	1'26.562/10
8	500-8	22	R.ライアン／影山 正美	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	–	82	2:06'35.120	1'27.150/13
9	500-9	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3S-GTE	DL	–	81	2:05'32.512	1'27.098/12
10	500-10	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	–	81	2:05'58.661	1'25.713/6
11	500-11	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	–	81	2:06'14.029	1'27.269/14
12	500-12	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	–	80	2:04'26.256	1'25.841/11
13	500-13	76	五十嵐 勇大／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	–	80	2:06'24.548	1'27.407/16
14	300-1	24	余郷 敦／浅井 亮博	Endlessタイサンアドバン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	–	77	2:05'37.642	1'32.431/17
15	300-2	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	–	77	2:05'42.918	1'33.057/20
16	300-3	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	–	77	2:06'38.334	1'32.450/18
17	300-4	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	–	76	2:05'08.964	1'33.482/25
18	300-5	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	–	76	2:05'09.964	1'33.212/22
19	300-6	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	–	76	2:05'17.447	1'32.944/19
20	300-7	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシン ADVAN シルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	–	76	2:05'42.563	1'33.257/23
21	300-8	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	–	76	2:05'52.288	1'33.681/27
22	300-9	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1マッハ号GT320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	–	76	2:06'46.093	1'35.371/35
23	300-10	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	–	75	2:05'25.973	1'33.673/26
24	300-11	69	山岸 大／位高 敬	FK／Massimo外国屋ADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	–	75	2:05'42.308	1'34.395/31
25	300-12	51	尾本 直史／A.ウィルコックス	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	–	75	2:05'55.808	1'35.410/34
26	300-13	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	–	75	2:05'57.130	1'37.393/39
27	300-14	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	–	75	2:06'18.910	1'35.350/33
28	300-15	9	菅 一乗／筒井 克彦	MACHINE X MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	–	74	2:06'26.102	1'36.033/36
29	300-16	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	–	74	2:06'28.635	1'34.376/28
30	300-17	70	石橋 義三／清水 剛	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	DL	–	71	2:02'50.453	1'37.154/37
31	500-14	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	–	66	2:05'12.149	1'26.339/8
32	500-15	88	古谷 直広／和田 久	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	–	65	2:05'54.571	---------/38
33	300-18	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	–	64		1'34.391/29
34	300-19	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン(SA9VGR)	SR20DET	BFG	–	59		1'33.073/21
35	300-20	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	–	55		1'35.223/32
36	300-21	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	–	54		1'33.414/24
	500	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	–	54		1'27.344/15
	300	10	OSAMU／倉嶋 新一	レイジュン・ダンロップGT-1	RGSミラージュGT1・シボレー	LS1	DL	–	50		1'38.653/40
	300	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	–	41		1'34.670/30
	300	21	一ツ山 幹雄／滑川 健	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	–	6		1'38.879/41
	500	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	–	-		1'24.944/2

●優勝スピード：145.586km/h　●最速ラップ：本山 哲（ニッサン）　1'27.311　152.682km/h　3周目
●ペナルティ：Car No.18…ドライブスルー、Car No.8…ドライブスルー、Car No.76…10秒ストップ、Car No.71…ドライブスルー、Car No.77…ドライブスルー、Car No.70…ドライブスルー

'03オートバックス全日本GT選手権第2戦"ALL-JAPAN GT FUJI-500"

●決勝日：5月4日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ　●天候：晴れ　●観客：6万6000人　●4.400km×114周＝501.600km　●参加：45台／決勝出走：44台／完走：32台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	--	114	2:49'05.641	1'24.282/3
2	500-2	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	--	114	2:49'16.644	1'24.692/10
3	500-3	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	--	114	2:49'44.255	1'24.444/7
4	500-4	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	10kg	114	2:49'44.503	1'24.621/8
5	500-5	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	--	113	2:50'05.265	1'24.363/4
6	500-6	64	松田 次生／小暮 卓史	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	113	2:50'06.581	1'25.229/13
7	500-7	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	113	2:50'06.749	1'25.734/14
8	500-8	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENTトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	--	111	2:49'37.812	1'24.409/5
9	500-9	76	五十嵐 勇大／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	--	110	2:49'39.151	1'26.036/15
10	500-10	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONEトムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	--	107	2:49'17.166	1'24.255/2
11	500-11	62	柴原 眞介／密山 祥吾	Vemac R&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	106	2:50'29.567	1'28.436/17
12	300-1	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	105	2:49'28.304	1'31.685/21
13	300-2	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	10kg	105	2:49'36.892	1'31.662/20
14	300-3	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン(SA9VGR)	SR20DET	BFG	--	105	2:50'06.305	1'32.709/25
15	300-4	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	--	105	2:50'07.633	1'32.507/23
16	300-5	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	20kg	105	2:50'20.468	1'32.685/24
17	300-6	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	104	2:50'43.907	1'34.122/34
18	300-7	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	103	2:49'05.690	1'33.330/31
19	300-8	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	103	2:49'52.624	1'33.943/33
20	300-9	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1マッハ号GT320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	--	103	2:50'29.004	1'33.063/26
21	300-10	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX-7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	103	2:50'30.434	1'33.286/30
22	300-11	24	A.ウィルコクス／浅井 亮博	Endlessタイサンアドバン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	50kg	102		1'32.861/26
23	300-12	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	102	2:49'06.630	1'35.024/37
24	300-13	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	101	2:49'12.358	1'35.119/36
25	300-14	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	101	2:49'40.278	1'33.179/29
26	300-15	69	山岸 大／位高 敬	FK／Massimo 外国屋ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	100	2:49'30.745	1'33.748/32
27	300-16	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	96	2:49'16.193	1'34.764/36
28	300-17	911	高見沢 一吉／砂子塾長	高見沢バイタルポイントGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	96	2:49'36.814	1'35.708/40
29	300-18	70	石橋 義三／清水 剛	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	95	2:50'05.364	1'36.596/42
30	500-12	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	60kg	93	2:49'08.333	1'24.431/6
31	300-19	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	81		1'34.542/35
32	300-20	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECHダンロップGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	77		1'36.600/43
	500	25	J.デュフォア／野田 英樹	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	66		1'24.625/9
	300	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	--	61		1'31.355/19
	500	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	60		1'25.163/12
	500	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	60		1'24.895/11
	500	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	56		1'26.070/16
	500	88	古谷 直広／WADA-Q	ノマドディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	47		1'28.950/18
	300	21	一ツ山 康／滑川 健	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	--	39		1'36.423/41
	300	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	26		1'32.181/22
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	22		1'32.972/27
	300	61	勝間田 敦／岸 剛之	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	11		1'35.350/39
	300	10	OSAMU／倉嶋 新一	レイジュン・ダンロップGT-1	RGSミラージュGT1・シボレー	LS1	DL	--	3		1'37.966/44
dq	500	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	10kg	90		1'23.866/1
ns	300	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	-		1'40.536/ --

●優勝スピード：177.984km/h　●最速ラップ：B.トレルイエ（ニッサン）　1'25.367　185.552km/h　4周目
●ペナルティ：Car No.37…10秒ストップ、Car No.76…10秒ストップ、Car No.71…ドライブスルー、Car No.111…10秒ストップ、Car No.21…ドライブスルー、Car No.38…オレンジディスク旗無視のため失格

'03オートバックス全日本GT選手権第6戦“もてぎGTチャンピオン”

●決勝日：9月14日／もてぎ　●主催：ツインリンクもてぎ／MOSC　●天候：晴れ　●観客：4万5000人　●4.801379km×63周＝302.48687km　●参加：45台／決勝出走：43台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX-NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	63	1:58'35.192	1'47.392/3
2	500-2	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	40kg	63	1:58'40.813	1'47.277/1
3	500-3	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	63	1:59'11.380	1'48.355/14
4	500-4	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	90kg	63	1:59'11.775	1'47.490/5
5	500-5	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	63	1:59'12.234	1'48.153/12
6	500-6	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	50kg	63	1:59'16.753	1'47.520/6
7	500-7	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	20kg	63	1:59'37.380	1'47.923/10
8	500-8	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	63	1:59'53.656	1'48.433/16
9	500-9	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	80kg	63	2:00'12.962	1'47.476/4
10	500-10	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENT トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	30kg	63	2:00'17.291	1'47.822/9
11	500-11	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	110kg	62	1:58'01.252	1'47.584/7
12	500-12	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	10kg	59	1:51'44.535	1'48.001/11
13	300-1	71	片岡 龍也／澤 圭太	シグマDUNLOPセリカ	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	DL	20kg	59	1:59'20.794	1'56.557/20
14	300-2	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン（SA9VGR）	SR20DET	BFG	10kg	59	2:00'00.634	1'56.118/19
15	300-3	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	50kg	59	2:00'37.929	1'56.958/23
16	300-4	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	30kg	58	1:58'38.397	1'57.719/31
17	300-5	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	58	1:59'28.092	1'57.509/27
18	300-6	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	55kg	58	2:00'13.499	1'57.170/25
19	300-7	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	58	2:00'27.535	1'57.574/29
20	300-8	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	70kg	57		1'57.349/26
21	300-9	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	57	1:58'50.978	1'57.949/33
22	300-10	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	57	1:59'17.509	1'58.181/35
23	300-11	911	高見沢 一吉／砂子塾長	高見沢バイタルポイントGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	57	1:59'25.770	1'57.630/30
24	300-12	61	勝間田 敦／井原 慶子	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	57	1:59'34.923	1'58.734/36
25	300-13	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	57	1:59'46.743	2'00.380/41
26	500-13	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	50kg	56		1'47.292/2
27	300-14	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	56	1:58'41.797	1'57.747/32
28	300-15	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	55	1:58'56.093	1'59.185/39
29	300-16	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECH-GT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	55	1:59'31.144	2'02.913/43
30	300-17	70	石橋 義三／伊橋 勲	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	54	2:00'33.913	2'01.464/42
31	500-14	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	60kg	52	1:58'37.009	1'48.415/15
32	300-18	24	余郷 敦／浅井 亮博	EndlessタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	30kg	47		1'57.515/28
33	300-19	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・インターリンク・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	47	1:59'55.584	1'58.713/37
34	500-15	88	山西 康司／WADA-Q	ノマド ディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	44		1'52.430/18
	300	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	25kg	37		1'58.047/34
	300	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	60kg	36		1'56.824/22
	300	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1 マッハ号GT 320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	10kg	32		1'59.726/40
	500	64	松田 次生／A.ロッテラー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	31		1'47.792/8
	500	62	柴原 眞介／密山 祥吾	VemacR&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	31		1'49.901/17
	300	9	石川 朗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	26		1'58.224/36
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	22		1'56.718/21
	500	76	清水 剛／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR-BMW(19R GTR)	S70/2GTR	DL	--	11		1'48.228/13
	300	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	35kg	9		1'57.021/24

●優勝スピード：153.046km/h　●最速ラップ：竹内 浩典／立川 祐路（トヨタ）　1'49.613　157.691km/h　45周目
●ペナルティ：Car No.8…ドライブスルー

'03オートバックス全日本GT選手権第7戦“JAPAN GT in KYUSHU 300km”

●決勝日：10月26日／オートポリス　●主催：APC　●天候：晴れ　●観客：4万3900人　●4.674km×65周＝303.810km　●参加：38台／決勝出走：37台／完走：34台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	20kg	65	1:58'12.051	1'43.457/5
2	500-2	64	松田 次生／A.ロッテラー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	65	1:58'25.821	1'42.765/2
3	500-3	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	70kg	65	1:58'32.523	1'42.546/1
4	500-4	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	90kg	65	1:58'33.133	1'43.136/4
5	500-5	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	90kg	65	1:58'43.283	1'43.561/8
6	500-6	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	40kg	65	1:58'45.622	1'43.102/3
7	500-7	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	10kg	65	1:59'17.032	1'43.557/7
8	500-8	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	90kg	65	1:59'18.719	1'43.871/12
9	500-9	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	65	1:59'25.694	1'43.543/6
10	500-10	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX-NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	70kg	65	1:59'45.425	1'43.997/14
11	500-11	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	30kg	65	1:59'45.544	1'43.567/9
12	500-12	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	30kg	65	2:00'03.234	1'44.203/15
13	500-13	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENT トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	40kg	63	1:59'39.497	1'43.764/11
14	300-1	71	片岡 龍也／澤 圭太	シグマDUNLOPセリカ	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	DL	70kg	62	1:59'41.720	1'51.031/17
15	300-2	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	30kg	61		1'50.993/16
16	300-3	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサン アドバン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	45kg	61	1:59'38.780	1'52.803/23
17	300-4	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	60kg	61	1:59'41.289	1'52.523/22
18	300-5	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン（SA9VGR）	SR20DET	BFG	50kg	61	1:59'41.968	1'52.839/24
19	300-6	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1 マッハ号GT 320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	10kg	61	1:58'50.514	1'53.487/29
20	300-7	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	10kg	60	1:58'21.606	1'52.904/25
21	300-8	24	余郷 敦／浅井 亮博	EndlessタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	30kg	60	1:58'29.518	1'53.359/27
22	300-9	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	10kg	60	1:58'46.909	1'51.715/19
23	300-10	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	30kg	60	1:58'53.458	1'54.360/33
24	300-11	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	40kg	60	1:59'31.051	1'52.515/21
25	300-12	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	60	2:00'03.024	1'54.781/34
26	300-13	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・インターリンク・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	59	1:58'41.639	1'53.523/30
27	300-14	15	橋本 元次／山野 哲也	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	59	1:58'50.704	1'55.002/35
28	300-15	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	59	1:59'12.353	1'53.460/28
29	300-16	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	65kg	59	1:59'20.695	1'51.430/18
30	300-17	51	白井 剛／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	59	1:59'38.665	1'54.180/32
31	300-18	70	石橋 義三／伊橋 勲	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	57	1:59'28.105	1'57.543/37
32	300-19	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	56	1:59'14.527	1'53.232/26
33	300-20	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	47		1'52.439/20
34	300-21	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	47		1'53.922/31
	500	18	道上 龍／P.モンティン	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	40kg	33		1'43.622/10
	500	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	19		1'43.927/13
	500	88	山西 康司／WADA-Q	ノマド ディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	6		1'49.781/36

●優勝スピード：154.217km/h　●最速ラップ：B.トレルイエ（ニッサン）　1'44.069　161.685km/h　23周目
●ペナルティ：Car No.100…10秒ストップ、Car No.12…1分加算、Car No.37…ドライブスルー、Car No.18…10秒ストップ

'03オートバックス全日本GT選手権第4戦“Malaysian JGTC in FUJI SPEEDWAY”

[総合結果]

●決勝日：7月13日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ／SCCN　●天候：曇→雨　●観客：4万1000人　●4.400km×50周＝220.000km　●参加：44台／決勝出走：43台

Class-Pos.	No		Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	1st-Pos./Points	2nd-Pos./Points	Total Points
500-1	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	20kg	20+30	1/30	1/30	60
500-2	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	40kg	20+30	4/27	2/29	56
500-3	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	20+30	2/29	6/25	54
500-4	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	30kg	20+30	6/25	3/28	53
500-5	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	90kg	20+30	3/28	7/24	52
500-6	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	110kg	20+30	9/22	4/27	49
500-7	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	50kg	20+30	7/24	8/23	47
500-8	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	20+30	12/19	5/26	45
500-9	62	柴原 眞介／密山 祥吾	VemacR&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	20+28	5/26	14/17	43
500-10	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	--	20+29	11/20	12/19	39
500-11	8	土屋 圭市／金石 勝智	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	20+30	15/16	9/22	38
500-12	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	20+30	14/17	10/21	38
500-13	64	松田 次生／A.ロッテラー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	20+29	13/18	13/18	36
500-14	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	20+29	16/15	11/20	35
500-15	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENT トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	--	19+28	18/13	15/16	29
500-16	88	山西 康司／WADA-Q	ノマド ディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ（ZA90DW068）	L532	DL	--	20+1	8/23	R/0	23
500-17	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	20+1	10/21	R/0	21
500-18	76	黒澤 治樹／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW（19R GTR）	S70/2GTR	DL	--	20+1	17/14	R/0	14
300-1	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	--	19+28	2/29	2/29	58
300-2	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	30kg	18+28	4/27	1/30	57
300-3	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	35kg	19+28	1/30	7/24	54
300-4	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	18+28	3/28	10/21	49
300-5	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	--	18+28	11/20	5/26	46
300-6	26	山路 慎一／西澤 和之	プラスe タイサン ADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	65kg	17+28	14/17	3/28	45
300-7	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	18+27	5/26	13/18	44
300-8	24	余郷 敦／浅井 亮博	EndlessタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	20kg	18+28	8/23	12/19	42
300-9	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	18+28	7/24	16/15	39
300-10	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン（SA9VGR）	SR20DET	BFG	20kg	17+28	15/16	8/23	39
300-11	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	17+28	22/9	4/27	36
300-12	70	石橋 義三／清水 剛	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	17+28	16/15	11/20	35
300-13	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	18+27	13/18	14/17	35
300-14	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	60kg	17+28	23/8	6/25	33
300-15	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	17+28	20/11	9/22	33
300-16	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECHダンロップGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	17+27	19/12	15/16	28
300-17	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	17+26	18/13	18/13	26
300-18	71	Guts城内／澤 圭太	シグマMR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	DL	--	18+0	6/25	R/0	25
300-19	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1 マッハ号GT 320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	30kg	18+0	9/22	R/0	22
300-20	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	17+26	21/10	19/12	22
300-21	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカーインターリンクNSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	18+15	10/21	R/0	21
300-22	911	高見沢 一吉／砂子塾長	高見沢バイタルポイントGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	15+26	25/6	17/14	20
300-23	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	10kg	18+1	12/19	R/0	19
300-24	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	17+20	17/14	R/0	14
300-25	10	OSAMU／水谷 竜也	レイジュン・ダンロップGT-1	RGSミラージュGT1・シボレー	LS1	DL	--	15+15	24/7	R/0	7
300-ns	21	一ツ山 康／松本 晴彦	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	--	----	-/-	-/-	0

'03オートバックス全日本GT選手権第5戦“JAPAN SPECIAL GT CUP”

●決勝日：8月3日／富士　●主催：富士スピードウェイ／FISCOクラブ　●天候：曇　●観客：5万1000人　●4.400km×68周＝299.200km　●参加：46台／決勝出走：45台／完走：39台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	18	道上 龍／S.フィリップ	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	68	1:41'29.425	1'24.414/3
2	500-2	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	70kg	68	1:41'29.915	1'24.706/8
3	500-3	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	40kg	68	1:41'34.966	1'24.090/1
4	500-4	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	90kg	68	1:41'35.451	1'24.535/5
5	500-5	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	50kg	68	1:41'51.148	1'24.415/4
6	500-6	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENT トムス スープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	10kg	68	1:42'00.301	1'24.299/2
7	500-7	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	40kg	68	1:42'08.648	1'25.385/11
8	500-8	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX無限NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	68	1:42'13.894	1'25.393/12
9	500-9	64	松田 次生／A.ロッテラー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	68	1:42'16.582	1'25.534/13
10	500-10	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	10kg	68	1:42'25.461	1'24.560/6
11	500-11	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	70kg	68	1:42'32.781	1'24.997/9
12	500-12	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	68	1:42'42.582	1'26.039/17
13	500-13	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	68	1:42'53.316	1'25.628/14
14	500-14	76	黒澤 治樹／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR·BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	--	67	1:42'56.557	1'26.021/16
15	300-1	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	20kg	64	1:42'20.425	1'31.524/19
16	300-2	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	63	1:41'36.813	1'32.020/21
17	300-3	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	45kg	63	1:41'59.895	1'32.326/23
18	300-4	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサンアドバンGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	60kg	63	1:42'06.582	1'32.561/27
19	300-5	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	30kg	63	1:42'07.550	1'32.362/24
20	300-6	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン(SA9VGR)	SR20DET	BFG	10kg	63	1:42'08.016	1'32.512/26
21	300-7	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1 マッハ号GT 320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	15kg	63	1:42'06.905	1'32.708/30
22	300-8	51	尾本 直史／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	63	1:42'55.330	1'33.549/35
23	300-9	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカーインターリンクNSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	63	1:42'55.594	1'33.751/38
24	300-10	24	余郷 敦／浅井 亮博	EndlessタイサンADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	30kg	63	1:42'56.721	1'32.419/25
25	500-15	88	山西 康司／WADA-Q	ノマド ディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	62	1:41'54.020	1'28.276/18
26	300-11	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	62	1:42'13.302	1'34.051/39
27	300-12	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	62	1:42'21.979	1'32.284/22
28	300-13	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	62	1:42'35.631	1'33.316/33
29	300-14	10	OSAMU／古谷 直広	レイジュン・ダンロップGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	60	1:41'49.503	1'36.751/44
30	300-15	911	高見沢 一吉／砂子塾長	高見沢バイタルポイントGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	60	1:42'17.012	1'33.633/36
31	300-16	61	勝間田 敦／井原 慶子	R&Dスポーツダンロップ GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	60	1:42'39.056	1'34.705/41
32	300-17	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECHダンロップGT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	60	1:43'05.656	1'36.632/43
33	500-16	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	70kg	56	1:41'39.538	1'25.291/10
34	300-18	70	石橋 義三／和田 博	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	56	1:41'58.666	1'36.903/45
35	300-19	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	--	56	1:42'17.987	1'32.821/31
36	500-17	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	50		1'24.695/7
37	300-20	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	50kg	49		1'33.020/32
38	300-21	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	65kg	46		1'32.704/29
39	300-22	14	山野 哲也／T.ジャン・レイ	CASTLE IDEAL RX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	BFG	--	45		1'35.480/42
	300	71	Guts城内／澤 圭太	シグマDUNLOPセリカ	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	DL	--	43		1'31.746/20
	300	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	39		1'32.865/28
	300	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	YO	--	23		1'33.463/34
	300	15	橋本 元次／C.クワン	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	7		1'34.133/40
	300	7	谷口 信輝／大井 貴之	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	7		1'33.737/37
	500	62	柴原 眞介／密山 祥吾	VemacR&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	5		1'25.861/15
ns	300	21	一ツ山 康／松本 晴彦	ダンロップBMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	326S4	DL	--	-		1'35.857/46

●優勝スピード：176.884km/h　●最速ラップ：竹内 浩典（トヨタ）　1'26.598　182.914km/h　3周目
●ペナルティ：Car No.22…10秒ストップ、Car No.12…ドライブスルー

2003シリーズポイントランキング

●全日本GT選手権／ドライバー第1部門（GT500）

Pos.	Driver	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	本山 哲／M.クルム	17	10	14	8	16		8	13	86
2	脇阪 寿一／飯田 章	21		22	6	10	10	10	4	83
3	R.ライアン／影山 正美	3	21	8	15		1	7	10	65
4	B.トレルイエ／井出 有治		16		20		6	1	21	64
5	土屋 武士／E.コマス	6	3	15	6	8	17	3	3	61
6	D.シュワガー／織戸 学		13		13	4	4	21	2	57
7	道上 龍	12		4	3	21			15	55
7	S.フィリップ	12		4	3	21			15	55
9	竹内 浩典／立川 祐路	1	1	2	11	14	3	13	1	46
10	伊藤 大輔／T.コロネル	11		2		3	21	1		38
11	松田 次生	8	6	3		2		17		36
12	加藤 寛規／光貞 秀俊	4	4	1			8	2	8	27
13	J.デュフォア	2		10			12		2	26
13	荒 聖治	2		10			12		2	26
15	服部 尚貴／脇阪 薫一	2	8	6	2	1		4	1	24
16	A.ロッテラー					2		17		19
17	小暮 卓史	8	6	3						17
18	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ		3		1	8	2		1	15
19	土屋 圭市／金石 年弘						3		6	9
20	田嶋 栄一		2							2
20	五十嵐 勇大		2							2
20	柴原 眞介／密山 祥吾				2					2

●全日本GT選手権／ドライバー第2部門（GT300）

Pos.	Driver	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	木下 みつひろ／柳田 真孝	7	17		14		12	10	17	77
2	澤 圭太	10	4			2	22	22	12	72
2	山路 慎一／西澤 和之	16	22	3	7	10		12	2	72
4	青木 孝行／田中 実	3			10	22	4	2	22	63
5	佐々木 孝太／後藤 聡	13	8	22		12	6			61
5	星野 一樹／植松 忠雄	4	6	4	10	16	10	1	10	61
7	新田 守男／高木 真一		12	11	1	6	17	8		55
8	松田 秀士／田中 哲也		11	2	15			17	1	46
9	片岡 龍也						22	22		44
10	浅井 亮博	22			4	1		3	8	38
10	余郷 敦	22			4	1		3	8	38
12	山田 英二／木下 隆之				20	9		4	1	34
12	玉中 哲二／三船 剛	2	2	16		4		6	4	34
14	高橋 一穂／渡辺 明	9		8		2			3	22
15	谷口 信輝／大井 貴之		1	12					6	19
16	Guts城内	10	4			2				16
17	黒澤 治樹								12	12
18	尾本 直史				4	3	4			11
18	加藤 正将				4	3	4			11
20	小林 且雄／谷川 達也	1		6			1	2		10
21	西澤 誠剛／松田 晃司						8			8
22	平川 晃／宮川 やすお		3	1					1	5
23	松永 まさひろ／長島 正興				2		2			4
24	山岸 大／位高 敬			2			1			3
25	筒井 克彦		1							1
25	菅 一乗		1							1

●全日本GT選手権／チーム部門（GT500）

Pos.	Team	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	NISMO	17	21	14	15	16	1	9	13	106
2	ESSO TOYOTA Team LeMans	21		s 22	6	10	10	10	4	83
3	童夢レーシングチーム	12		4	3	21	21	1	15	77
4	TOYOTA TEAM TOM'S	6	5	15	6	10	17	3	4	66
5	TEAM IMPUL		16		20		6	1	21	64
6	TOYOTA TEAM SARD		13		13	4	4	21	2	57
7	TOYOTA TEAM CERUMO	1	1	2	11	14	3	13	1	46
8	Mobil 1 NAKAJIMA RACING	8	6	3		2		17		36
9	チーム国光 with MOON CRAFT	4	4	1			8	2	8	27
10	TEAM ADVAN・ツチヤ	2		10			12		2	26
11	KRAFT	2	8	6	2	1		4	1	24
12	無限	11		2						13
13	AUTOBACS RACING TEAM AGURI						3		6	9
14	HITOTSUYAMA RACING		2							2
14	アールアンドデースポーツ				2					2

●全日本GT選手権／チーム部門（GT300）

Pos.	Team	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	TEAM TAISAN ADVAN	16	22	3	21	11		12	3	88
2	ハセミモータースポーツ	7	17		14		12	10	17	77
3	シグマテックレーシングチーム	10	4			2	22	22	12	72
4	RACING PROJECT BANDOH	3			10	22	4	2	22	63
5	TEAM RECKLESS	13	8	22		12	6			61
5	TEAM DAISHIN	4	6	4	10	16	10	1	10	61
7	AUTOBACS RACING TEAM AGURI		12	11	1	6	17	8		55
8	Team GAINER		11	2	15			17	1	46
9	TEAM TAISAN Jr.	22			4	1		3	8	38
10	TEAM B-1	2	2	16		4		6	4	34
11	ベルノ東海ドリーム28	9		8		2			3	22
12	RE雨宮レーシング		1	12					6	19
13	AUTO STAFF RACING				4	3	4			11
14	CUSCO RACING	1		6			1	2		10
15	DENTAIRE PROJET RACING with apr						8			8
16	910 RACING		3	1					1	5
17	TOM'S SPIRIT				2		2			4
18	TEAM GAIKOKUYA			2			1			3
19	A&S RACING		1							1

●全日本GT選手権／エンジンチューナー部門（GT500）

Pos.	Engine tuner	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	トヨタテクノクラフト	20	12	20	12	12	15	20	4	115
2	オーテックジャパン	15	20	12	15	15		8	12	97
3	無限	12	6	4	3	20	20	15	15	95
4	東名エンジン		15		20		6		20	61
5	BMW Motorsport		2							2
5	シエラスポーツ				2					2

●全日本GT選手権／エンジンチューナー部門（GT300）

Pos.	Engine tuner	第1戦 3/30 TI英田	第2戦 5/4 富士	第3戦 5/25 菅生	第4戦 7/13 富士	第5戦 8/3 富士	第6戦 9/14 もてぎ	第7戦 10/26 オートポリス	第8戦 11/16 鈴鹿	Total
1	トヨタテクノクラフト	12	8	20	8	20	20	20	20	128
2	MID WEST RACING	20	20	4	20	15	10	12	10	111
3	戸田レーシング	8	10	15	15	4		15	4	71
4	NISMO	8	15		12		12	10	15	70
5	アスペック			10	1	6	15	8		40
6	RE雨宮自動車		1	12					6	19
7	STI	1		6				2		9

2003 Point System

各クラス1～10位の各車に20－15－12－10－8－6－4－3－2－1の各点。予選1～3位と決勝ベストラップ1～3位のドライバーとチームに各1点（エンジンチューナー部門には該当せず）。ドライバーズポイントが同点の場合は、JAFスポーツレギュレーションに照らし合わせて順位確定。レースが所定の周回数で行なわれなかった場合は規定により得点変更。

'03オートバックス全日本GT選手権第8戦"SUZUKA GT 300km"

●決勝日：11月16日／鈴鹿　●主催：KSCC／鈴鹿サーキットランド／SMSC　●天候：晴れ　●観客：3万4000人　●5.807km×52周＝301.964km　●参加：43台／決勝出走：43台／完走：37台

Pos.	Class-Pos.	No.	Driver	Car	Machine	Engine	Tyre	WH	Laps	Time	Qualify Time/Pos.
1	500-1	12	B.トレルイエ／井出 有治	カルソニックスカイライン	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	20kg	52	1:46'46.159	1'56.037/7
2	500-2	18	道上 龍／P.モンティン	TAKATA童夢NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	20kg	52	1:46'59.992	1'55.869/4
3	500-3	23	本山 哲／M.クルム	ザナヴィニスモGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	70kg	52	1:47'10.662	1'55.865/3
4	500-4	22	影山 正美／R.ライアン	モチュールピットワークGT-R	スカイラインGTR（BNR34）	VQ30DETT	BS	30kg	52	1:47'10.779	1'55.899/5
5	500-5	100	加藤 寛規／光貞 秀俊	RAYBRIG NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	10kg	52	1:47'21.245	1'56.242/9
6	500-6	8	土屋 圭市／金石 年弘	ARTA NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	--	52	1:47'33.021	1'56.379/11
7	500-7	1	脇阪 寿一／飯田 章	エッソウルトラフロースープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	90kg	52	1:47'37.031	1'55.989/6
8	500-8	36	土屋 武士／E.コマス	WOODONE トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	70kg	52	1:47'37.527	1'56.678/13
9	500-9	39	D.シュワガー／織戸 学	デンソーサードスープラGT	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	80kg	52	1:47'50.162	1'56.569/12
10	500-10	35	服部 尚貴／脇阪 薫一	プロジェクトμエスペリアスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	DL	10kg	52	1:47'50.596	1'56.882/15
11	500-11	16	伊藤 大輔／T.コロネル	G' ZOX-NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	50kg	52	1:47'58.536	1'56.246/10
12	500-12	64	松田 次生／A.ロッテラー	Mobil 1 NSX	ホンダNSX（LA-NA2）	C32B	BS	50kg	52	1:48'00.167	1'56.170/8
13	500-13	38	竹内 浩典／立川 祐路	auセルモスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	BS	100kg	52	1:48'06.504	1'55.737/2
14	500-14	37	黒澤 琢弥／M.アピチェッラ	ZENT トムススープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	MI	40kg	51	1:47'41.565	1'56.801/14
15	500-15	76	清水 剛／田嶋 栄一	イエローコーンマクラーレンGTR	マクラーレンF1 GTR・BMW(19R GTR)	S70／2GTR	DL	--	51	1:48'54.372	1'59.890/17
16	500-16	62	柴原 眞介／密山 祥吾	VemacR&Dダンロップ350R	ヴィーマックRD350R・ザイテック	ZV348	DL	--	50	1:47'51.912	1'59.130/16
17	300-1	19	青木 孝行／田中 実	ウェッズスポーツCELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	70kg	49	1:48'23.165	2'05.214/20
18	300-2	3	木下 みつひろ／柳田 真孝	ハセミスポーツ・エンドレス・Z	フェアレディZ（Z33）	VQ35DE	YO	80kg	49	1:48'45.337	2'04.879/19
19	300-3	71	澤 圭太／黒澤 治樹	シグマDUNLOPセリカ	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	DL	80kg	48	1:46'48.453	2'05.835/23
20	300-4	81	星野 一樹／植松 忠雄	ダイシンADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	15kg	48	1:47'39.559	2'07.805/33
21	300-5	24	余郷 敦／浅井 亮博	Endlessタイサン ADVAN GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	30kg	48	1:47'43.612	2'06.487/36
22	300-6	7	大井 貴之／松本 晴彦	雨宮マツモトキヨシアスパラRX7	マツダRX7（FD3S）	RE20B	YO	--	48	1:48'32.413	2'07.987/35
23	300-7	5	玉中 哲二／三船 剛	BANPRESTO B-1 マッハ号GT 320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	YO	10kg	48	1:48'40.790	2'07.530/31
24	300-8	2	高橋 一穂／渡辺 明	リニューカー・インターリンク・ベルノ東海NSX	ホンダNSX（GH-NA2）	C32B	YO	10kg	48	1:48'42.087	2'07.923/34
25	300-9	26	山路 慎一／西澤 和之	PLUS e タイサン アドバン GT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M99-77	YO	55kg	48	1:48'47.461	2'07.269/28
26	300-10	910	平川 晃／宮川 やすお	910 BOROアドバンポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	48	1:48'59.800	2'09.754/39
27	300-11	31	佐々木 孝太／後藤 聡	RECKLESS MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	30kg	48	1:49'01.840	2'07.292/29
28	300-12	11	松田 秀士／田中 哲也	JIM RodeoDriveアドバンF360	フェラーリ360モデナ（GF-F360）	F129B	YO	70kg	47	1:47'47.239	2'05.616/22
29	300-13	9	菅 一乗／筒井 克彦	正義の味方 覆面レーサーX MT	モスラーMT900R・シボレー	LS1	YO	10kg	47	1:47'57.719	2'06.728/25
30	300-14	51	白井 剛／加藤 正将	C-WEST・AUTOSTAFF・ADVANシルビア	シルビア（S15）	SR20DET	YO	--	46	1:47'24.463	2'07.615/32
31	300-15	70	石橋 義三／伊橋 勲	外車の外国屋ダンロップポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	DL	--	46	1:47'45.270	2'12.794/43
32	300-16	911	高見沢 一吉／砂子塾長	高見沢バイタルポイントGT3R	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	45	1:46'52.090	2'09.181/38
33	300-17	34	西澤 誠剛／松田 晃司	DENTAIRE MR-S	トヨタMR-S（ZZW30）	3S-GTE	BFG	--	45	1:47'34.612	2'06.756/26
34	300-18	69	山岸 大／位高 敬	FK/Massimo ADVANポルシェ	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	45	1:48'46.434	2'08.548/37
35	300-19	111	飯島 寛也／芳賀 重光	ARKTECH ADVAN GT3	ポルシェ911GT3R（996GT3R）	M96-77	YO	--	43	1:47'10.542	2'11.843/42
36	300-20	17	松永まさひろ／長島 正興	Kosei SPIRIT CELICA	セリカ（ZZT231）	3S-GTE	YO	--	41	1:46'57.707	2'07.007/27
37	300-21	43	新田 守男／高木 真一	ARTA Garaiya	ASLガライヤ・ニッサン(SA9VGR)	SR20DET	BFG	35kg	34		2'06.665/24
	500	25	荒 聖治／J.デュフォア	ADVANスープラ	スープラGT（JZA80）	3UZ-FE	YO	10kg	34		1'55.340/1
	300	63	OSAMU／中川 隆正	レイジュン・ダンロップ320R	ヴィーマックRD320R・ホンダ	C32B	DL	--	28		2'10.366/41
	300	77	小林 且雄／谷川 達也	クスコスバルADVANインプレッサ	インプレッサ（GDB）	EJ20	YO	10kg	24		2'07.335/30
	300	15	橋本 元次／山野 哲也	AMPREX BMW M3GT	BMW M3 GT（E46）	M52	BFG	--	21		2'09.771/40
	500	88	山西 康司／WADA-Q	ノマド ディアブロJGT-1	ランボルギーニディアブロ(ZA90DW068)	L532	DL	--	20		2'03.448/18
	300	55	山田 英二／木下 隆之	ECLIPSEタイサンADVANバイパー	バイパーGTS-R（C8）	356-T6	YO	10kg	9		2'05.647/21

●優勝スピード：169.691km/h　●最速ラップ：B.トレルイエ（ニッサン）　1'58.201　176.861km/h　2周目
●ペナルティ：Car No.62…ドライブスルー、Car No.17…ドライブスルー

1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003

GTアソシエイションからのメッセージ
MESSAGE from GT ASSOCIATION

1994年、参加台数18台からスタートした全日本GT選手権（JGTC）。10年を経て名実ともに日本のモータースポーツシーンの頂点に立ち、リードするシリーズにまで成長することができました。

私自身も94年よりGTに参戦し、42年のレースキャリアをこのシリーズで終えました。99年、雪のオートポリスでのオールスター戦。真っ白になったグランドスタンドで最後までレースを観戦していただいた観客の皆さんの情熱を今でも忘れません。そんな皆さんの情熱がGTをここまで盛り上げて下さったのだと思います。

観客の皆さんに楽しんでいただけるようなレース展開や、マレーシアでのレース開催等、常に前進していくことを忘れずにここまで邁進して参りました。私たちの世代に代わり、新しい時代のトップドライバーも次々と誕生しており、JGTCはこれからも躍進を遂げていくことと期待しています。

今後、更なる海外展開、ハイレベルでエキサイティングなGTカーレースの頂点を目指して進化を続けて参りますので、皆様からのより一層のご声援をこれからもよろしくお願い申し上げます。

最後にJGTCの10年間を、このようなかたちでクオリティの高い1冊として綴っていただけることに心より感謝いたします。

In 1994, All Japan GT Championship started with eighteen machines. JGTC has become the top series, and led the Japanese motor sport scene in the past 10 years.

I myself, had entered GT series since 1994, and finished my own forty-two year driver career at this series. I'll never forget the zest of many fans who stayed at the grand stand white with snow, and watched until the very end of the race in All Star Race at 1999 Autopolis. It reminds me that JGTC has been aroused by such the many fans' enthusiasms.

We've been proceeding with the aggressiveness such as producing an enjoyable race for the fans, going to overseas like Malaysia, and so on. Many of new top drivers come to GT series, and take over the ex- top drivers like me. Therefore, JGTC will keep up proceeding from now on.

We truly hope that many more people will recognize and support our activities, for making JGTC series more global, higher level, and exciting. Please give us a big boost.

And we heartily appreciate this opportunity, to be published such a high quality book which shows our histories, past 10 years of JGTC.

JGTC主催団体
GTアソシエイション（GT-A）
会長 高橋 国光



GT ASSOCIATION (GT-A)
Chairman
Kunimitsu Takahashi



CHIEF EDITOR 長野正和
EDITORIAL STAFF 北爪めぐみ／河野亜希子／滝川和臣／石橋勝也／平野隆治／源平 茜
CONTRIBUTERS 大串 信／古屋知幸／皆越和也／貝島由美子／秦 直之／川合央助
PHOTOGRAPHERS 岩田 泉／平田 勝／吉田研一／澤田優樹／森山俊一／吉見幸夫／小林直樹／上尾雅英／小滝宣夫／鈴木紳平／佐藤宏治（i-dea）／i-dea
ART DIRECTOR 後藤恵二
DESIGN STAFF 佐藤直樹／小林賢太／鍋代達也／浅川昌伸／高橋紗千／広瀬恵美／吉岡広樹／福毛七重
DTP STAFF 林 聖蔵
EDITORIAL PRODUCER 梅原康之
EDITORIAL DIRECTOR 久保圭介

AUTO SPORT特別編集
［全日本GT選手権1994−2003］——JGTC 10YEARS

平成16年4月11日発行
発行人・三好正己　編集人・久保圭介
発行所・株式会社イデア
〒142-8577 東京都品川区戸越5-4-3　TEL：03-5750-7174
発売元・株式会社三栄書房
〒169-8558 東京都新宿区北新宿4-8-16　TEL：03-3364-3812

SAN'EI MOOK
オートスポーツ特別編集「全日本GT選手権1994—2003」
平成16年4月11日発行　発行人・三好正己　編集人・久保圭介
発行所・株式会社イデア　〒142-8577 東京都品川区戸越5-4-3　TEL03-5750-7174
定価[本体2000円]+税

9784879047359
ISBN4-87904-735-X
C9476 ¥2000E
1929476020000
雑誌61683-25
Printed in Japan 大日本印刷株式会社